

端岩頸岩脈より成り、或は成層岩の浸蝕せられて一局部残存せるあり。山の東南麓百澤に國幣小社岩木山神社あり。延暦十五年の創建にして、歴代領主の尊崇厚し。蓋し山靈を祀れるなり。殿堂は壯麗にして、奥の日光の目あり。山麓に數所の温泉あり。常磐野に在る岳ノ湯及湯殿湯最も著る。又山の周圍には石器時代の遺跡多く、殊に北麓森田東麓十腹内を最も有名なりとす。

イワキヤマ (岩城山) 周防國熊毛郡東部の山。高一二五〇尺。山頂に岩神社あり。**イワキ** (岩切) 【宮城】陸前國宮城郡の村。大字。岩切は鐵道東北本線釜蓋線の分岐點にして、松島遊覽の人此所にて乗換ふるを常とす。東京上野驛より二二二哩一五鐘附近に名蹟多し。陸奥國府も此邊に在りしといふ。白三六六。

イワクニ (岩國) 【山口】周防國玖珂郡の町。吉川氏の舊城下にして、周防國東部の都會なり。中國街道に當り、鐵道山陽線の停車場あり。安藝の大竹停車場より三哩二三鐘。藤生停車場へ四哩四一鐘。市街は東西三〇町、南北二〇町。郡役所警察署區裁判所、中學校、郡立高等女學校、郵便局等あり。産物は綿、岩國縮布、粘等とす。市街の西北を流るゝを岩國川(一に錦川)といひ、錦帶橋及臥龍橋を架す。河北を横山村といひ、今岩國町に合す。吉川氏の城墟あり。錦帶橋は構造の奇巧と堅牢とを以て世に名高し。橋の長一五五間。

川の北岸に沿へる山村なり。大字。粟生に岩倉明神あり。有田川の中流砥柱に似たる大岩を祀る。河流此所に至り岸狭り、水激し、風光甚だ奇。有田川第一の勝景といふ。白三三六。●【徳島】阿波國美馬郡の村。吉野川の北岸にして、脇町の西に接す。北の山中を岩倉山といふ。大瀧寺あり。眞言宗にして、阪道一里餘。眺望殊絶なり。山中又城址あり。永祿年中源康俊此城に據る。東に鹽坂西に勢谷ありて要害の地なり。天正十年長曾我部元親其族掃部頭をして拔きて守らしめたり。白三三六。

イワクラ (石座) 【愛知】三河國南設楽郡に在りし村。明治三十九年東郷村に入る。新城町の北に當る。延喜式石座神社あり。此邊は天正三年長篠合戦の時織田勢の陣せし所とす。**イワクラゴエ** (岩倉越) 能登國鳳至郡時國(岩倉村)と珠洲郡眞浦(大谷村)との間に在る山道。岩倉山海に迫りて懸崖を成し、葦袴、廣木の隙あり。山腹に倚るを葦袴といふ。海風蕪を捲上るより此の稱あり。石徑極めて崎嶇たり。其山趾よりするを廣木といひ、上には懸崖墜ちんとし下には不測の深淵あり。而して徑路は僅に足を容るゝに過ぎず。其危険なること比すべきものなし。其間所々洞穴あり。狂瀉來るときは此に避け、其退くを待ちて行く。然れども近時大に道路を改修し又昔日の危険なし。**イワクラジ** (岩崎寺) 【富山】越中國中新

水面より最も高き所一三間、河中に石を疊み四個の橋脚を築き之に半月形の五小橋を架す。橋は榎を組み相懸らしめ、一柱を用ひず。橋の裏面恰も算盤の連珠に似たり。因て十露盤橋の稱あり。岩國川霖雨毎に氾濫し、橋を流し人畜を害すること多きを以て、延寶年中領主吉川廣嘉之を愛ひ、自ら工夫して架せしむといふ。橋臺は三重の敷石より成り、下段は六〇間、中段は三〇間、上段一五乃至二〇間、上流に向て鋭く、下流に向ひ方形を成す。五條連作一長條、錦帶高懸到紫雲、不見相如題去柱惟知織女度來橋、雌雄截雨虹霓接、斷續受風鳥鶴飄、怪人行搖未墜、青山相對水迢迢、錦帶橋、頼春水。縣社吉香神社は吉川元春經義友兼經基元長等を祀る。附屬地に梅林あり、景色よし。縣社白山比咩神社は菊理姫神等を祀る。二千年前の古社と稱す。岩國城址は岩國川の對岸横山村に在り。關ヶ原敗後毛利氏長防二國に引退の時吉川廣家に岩國六萬石を與ふ。陪臣に列すといへども徳川幕末殊に築城を許し、一諸侯と異ならず。明治に至り廢城となる。岩國縮布は寛延の頃より起り、綿絲にて織る。又室木の人某明和年中草綿の栽培を研究し、岩國綿是より起れり。牛紙は永祿年中波野村の人之を創むといふ。白三三三。

イワクニカワ (岩國川) 周防國の東部に在る川。一に錦川といふ。水都、郡部、鹿野村の山中。上流を大瀬川といふ。御庄、二鹿谷根笠小先ノ瀬、鹿野等の諸川を合せ、玖珂郡岩國町を經、今津門前の二派に分れ海に入る。流程二七里九町。山口縣内第一の長流にして、舟運の便多けれども、灌溉の利少し。岩國町と横山村との間に架せるを有名なる錦帶橋とす。**イワクニヤマ** (岩國山) 周防國玖珂郡岩國町の上の時つ山。萬葉集に、周防なる磐國山を越ん日は、たむけよくせよあらきそのみちと詠めるものなり。古來中國街道の要路にして、峻坂なり。大内弘世の嚴島詣にも出でたり。往古は楓樹多し。紅葉の如し。故に岩國川を錦川ともいひ、錦見里錦帶橋等皆紅葉に因みて名付しものなり。後世山を開きて畑となし、今は楓樹の影だになし。

イワクビ (岩首) 【新潟】佐渡國佐渡郡の村。白三三三。**イワクボ** (岩窪) 【山梨】甲斐國四山梨郡相川村の字。甲府市の東北に接す。此所に武田信玄の墓あり。又此地の圓光院は臨濟宗府中五山の一にして、信玄夫人三條氏の墓あり。此寺は小石和の成就院を永祿年中に移せるものといふ。永慶寺址は寶永年中柳澤吉保建立して、壽藏寺とし、莊嚴美麗を極め、建築費約三萬兩を費したりといふ。龍華山と號し、當時甲州八景の目を稱し、時龍華山秋月と題し、武者小路實隆の歌に、名にしおはば嶺なる秋の月やしる、其曉の花のひかりもといふ。

川郡立山村の大字。常願寺川の右岸にして、立山登山口とす。もと立山備現の供僧坊、岩崎寺のありし所にして、僧舎二十餘ありしが、今皆客舎となる。**イワクラシヨウシ** (岩倉城址) 【鳥取】伯耆國東伯耆郡小鴨村を見よ。**イワクラヤマ** (岩倉山) 山城國愛宕郡の南部に在る山。岩倉村に屬す。●美作國眞庭郡に在る山。伯耆國に跨る。高三八二八尺。●紀伊國四守郡下秋津村の名所。今其名寶滿寺に残る。石倉の小野ゆ秋津に立わたる。雲にしもあれや時をしまむ(萬葉集)。**イワユヤマ** (岩山) 岩手山城址) 【愛媛】伊豫國温泉郡味生村北齋院に在る城址。一に大空城といふ。南北朝の頃細川氏の將完章出羽入道居る。貞治二年河野通堯筑紫より歸國し、花見山に陣し、此城を攻めて陥る。完章父子自殺す。**イワサカ** (岩崎) 【島根】出雲國八束郡の村。延喜式磐坂神社(今、小坂明神)は伊弉册尊を祀る。千引岩の舊蹟なり。白三三三。

野村の山中。上流を大瀬川といふ。御庄、二鹿谷根笠小先ノ瀬、鹿野等の諸川を合せ、玖珂郡岩國町を經、今津門前の二派に分れ海に入る。流程二七里九町。山口縣内第一の長流にして、舟運の便多けれども、灌溉の利少し。岩國町と横山村との間に架せるを有名なる錦帶橋とす。**イワクニヤマ** (岩國山) 周防國玖珂郡岩國町の上の時つ山。萬葉集に、周防なる磐國山を越ん日は、たむけよくせよあらきそのみちと詠めるものなり。古來中國街道の要路にして、峻坂なり。大内弘世の嚴島詣にも出でたり。往古は楓樹多し。紅葉の如し。故に岩國川を錦川ともいひ、錦見里錦帶橋等皆紅葉に因みて名付しものなり。後世山を開きて畑となし、今は楓樹の影だになし。

イワクビ (岩首) 【新潟】佐渡國佐渡郡の村。白三三三。**イワクボ** (岩窪) 【山梨】甲斐國四山梨郡相川村の字。甲府市の東北に接す。此所に武田信玄の墓あり。又此地の圓光院は臨濟宗府中五山の一にして、信玄夫人三條氏の墓あり。此寺は小石和の成就院を永祿年中に移せるものといふ。永慶寺址は寶永年中柳澤吉保建立して、壽藏寺とし、莊嚴美麗を極め、建築費約三萬兩を費したりといふ。龍華山と號し、當時甲州八景の目を稱し、時龍華山秋月と題し、武者小路實隆の歌に、名にしおはば嶺なる秋の月やしる、其曉の花のひかりもといふ。

大なり。●【栃木】下野國安蘇郡三好村の大字。田沼町の北、野上川の谷に在り。文治以降佐野氏の一族此所に居り、岩崎氏を稱し傳へて天正十一年に至り、重久之の時佐野宗綱に従ひ、長尾氏と戦ひ、敗死し、城廢すといふ。●【愛知】尾張國東春日井郡に在りし村。明治三十九年味岡村に合す。丹羽郡界に接し、小牧町の北約三十町とす。一座の岩峯平原中に孤立し、小牧山と相對す。岩崎山と呼ぶ平地を抜くと九八二尺。山上奇岩大石多し。慶長十五年名古屋築城の時、多く此所より石材を採れりといふ。又天正十二年秀吉の命により、稻葉通朝此處の砦を守れりと傳ふ。●【愛知】尾張國愛知郡に在りし村。明治三十九年日進村に入る。天白川の水源地なる山地なり。戰國の頃丹羽氏の居りし城址あり。丹羽氏重繼田信雄に屬し、此城を守る。天正十二年小牧の戦に池田勝入、森長可の大軍急に三河を衝かんとし、遂に此城を襲ふ。兵重以下留守の二百四十餘人悉く戦死す。既にして家康尾して至り、長久手にて會戦し、池田、森の諸將敗死す。●【山梨】甲斐國東八代郡祝村の地名。木賊川を隔て、勝沼澤に對す。甲州葡萄酒の始生地にして、其發見は文治年中に在りと傳ふ。●【岐阜】美濃國山縣郡岩野田村の大字。永和中中無文禪師開基の靈松院と呼ぶ古刹あり。寺内には寶曆年中木曾の治水に資を引きて自殺したる内藤十左衛門(高木新兵衛)の

詠めり。享和九年柳澤氏失權、大和郡山へ移封の時破壊せらる。**イワクマ** (岩熊) 【千葉】上總國夷隅郡古澤村の大字。法華寺舊寺領二十五石。法興寺(二十八石)の二古刹あり。俗に法華寺の薬師は雨を祈れば靈驗ありと傳ふ。**イワクラ** (岩倉) 【京都】山城國愛宕郡の村。上賀茂村の東北松ヶ崎村の北に在り。もと石蔵に作り、俗に北岩倉と稱す。大雲寺は天台宗門派の一本山にして、圓融天皇の時日野文範創立、眞覺上人開基。天文五年細川國廣山本修理と此地に戦ひ、伽藍兵燹に罹る。寛永十年義尊大僧正再建。本尊は四尺八寸の十一面觀音にして、もと桓武天皇宮中に安置せられしものなりといふ。境内櫻樹多く、春時風景頗る佳なり。實相院はもと岩倉門跡と稱す。靜基權僧正、應司家より出で、此寺に座主たりし時より門跡に准ぜられ、爾後多くは五攝家より出家せし者此寺に住職たるを例とせり。白三三六。●【愛知】尾張國丹羽郡の町。名古屋の北三里。犬山街道の一市街にして、郵便局あり。岩倉城址は織田敏廣築き、其甥常信以來代々居住し、上四郡を領せしが、敏信の子伊勢守信安清須の織田氏と不和となり、終に永祿二年合戦に打負け、廢城となる。白三三六。●【石川】能登國鳳至郡に在りし村。明治四十二年野村に入る。野野川の岸にして、延喜式石倉比古神社及石倉寺あり。●【和歌山】紀伊國有田郡の村。有田

臣の墓あり。●【巖手】陸前國和賀郡の村。白三三三。●【青森】陸奥國四津輕郡の村。日本海に面す。大字。岩崎は能代街道の一小站にして、郵便局あり。白三三三。●【秋田】羽後國雄勝郡の町。陸羽街道横手、湯澤の間驛なり。佐竹の分家壹岐守二萬石、元祿十四年分立の陣屋ありし所とす。湯澤町より三二町城址は町の東北一町に在り。慶長年中まで小野寺氏の臣岩崎河内守之に居れりといふ。白三三三。**イワサキ** (岩崎) 【福島】磐城國石城郡の村。白三三三。**イワサキ** (岩崎) 【岩手】磐城國に在りし郡。大略夏井川の南一帯をいへり。面積二六方里。一平町小名濱町等を包有し、國內屈指の地なり。明治二十九年廢して、菊多、磐城二郡と合し、石城郡の新稱を建つ。磐前は古磐城郡の一部なり。中世岩城氏興りて所領を諸子に分つに及び、私に割きて、磐前、磐城二郡を置き、菊多、磐城を合して、磐城五郡と稱せり。東鑑に岩崎に作る。蓋し中世岩城氏の一族岩崎氏之に居りたるに因る。**イワサキ** (岩崎) 【岩手】加賀國能美郡に在る嶺。國造村大字鍋谷の南一里半の溪崖に在り。地質は石英粗面岩にして、鑛石は少量の黄鐵鑛を交ふる黄銅鑛に屬し、百分中二二・八〇の銅を含み、歩留り二割以上あり。明治三十四年の採鑛高八六九一貫、製鍊元高七八四三貫、銅の製出高七五六〇斤とす。

詠めり。享和九年柳澤氏失權、大和郡山へ移封の時破壊せらる。**イワクマ** (岩熊) 【千葉】上總國夷隅郡古澤村の大字。法華寺舊寺領二十五石。法興寺(二十八石)の二古刹あり。俗に法華寺の薬師は雨を祈れば靈驗ありと傳ふ。**イワクラ** (岩倉) 【京都】山城國愛宕郡の村。上賀茂村の東北松ヶ崎村の北に在り。もと石蔵に作り、俗に北岩倉と稱す。大雲寺は天台宗門派の一本山にして、圓融天皇の時日野文範創立、眞覺上人開基。天文五年細川國廣山本修理と此地に戦ひ、伽藍兵燹に罹る。寛永十年義尊大僧正再建。本尊は四尺八寸の十一面觀音にして、もと桓武天皇宮中に安置せられしものなりといふ。境内櫻樹多く、春時風景頗る佳なり。實相院はもと岩倉門跡と稱す。靜基權僧正、應司家より出で、此寺に座主たりし時より門跡に准ぜられ、爾後多くは五攝家より出家せし者此寺に住職たるを例とせり。白三三六。●【愛知】尾張國丹羽郡の町。名古屋の北三里。犬山街道の一市街にして、郵便局あり。岩倉城址は織田敏廣築き、其甥常信以來代々居住し、上四郡を領せしが、敏信の子伊勢守信安清須の織田氏と不和となり、終に永祿二年合戦に打負け、廢城となる。白三三六。●【石川】能登國鳳至郡に在りし村。明治四十二年野村に入る。野野川の岸にして、延喜式石倉比古神社及石倉寺あり。●【和歌山】紀伊國有田郡の村。有田

詠めり。享和九年柳澤氏失權、大和郡山へ移封の時破壊せらる。**イワクマ** (岩熊) 【千葉】上總國夷隅郡古澤村の大字。法華寺舊寺領二十五石。法興寺(二十八石)の二古刹あり。俗に法華寺の薬師は雨を祈れば靈驗ありと傳ふ。**イワクラ** (岩倉) 【京都】山城國愛宕郡の村。上賀茂村の東北松ヶ崎村の北に在り。もと石蔵に作り、俗に北岩倉と稱す。大雲寺は天台宗門派の一本山にして、圓融天皇の時日野文範創立、眞覺上人開基。天文五年細川國廣山本修理と此地に戦ひ、伽藍兵燹に罹る。寛永十年義尊大僧正再建。本尊は四尺八寸の十一面觀音にして、もと桓武天皇宮中に安置せられしものなりといふ。境内櫻樹多く、春時風景頗る佳なり。實相院はもと岩倉門跡と稱す。靜基權僧正、應司家より出で、此寺に座主たりし時より門跡に准ぜられ、爾後多くは五攝家より出家せし者此寺に住職たるを例とせり。白三三六。●【愛知】尾張國丹羽郡の町。名古屋の北三里。犬山街道の一市街にして、郵便局あり。岩倉城址は織田敏廣築き、其甥常信以來代々居住し、上四郡を領せしが、敏信の子伊勢守信安清須の織田氏と不和となり、終に永祿二年合戦に打負け、廢城となる。白三三六。●【石川】能登國鳳至郡に在りし村。明治四十二年野村に入る。野野川の岸にして、延喜式石倉比古神社及石倉寺あり。●【和歌山】紀伊國有田郡の村。有田

川の北岸に沿へる山村なり。大字。粟生に岩倉明神あり。有田川の中流砥柱に似たる大岩を祀る。河流此所に至り岸狭り、水激し、風光甚だ奇。有田川第一の勝景といふ。白三三六。●【徳島】阿波國美馬郡の村。吉野川の北岸にして、脇町の西に接す。北の山中を岩倉山といふ。大瀧寺あり。眞言宗にして、阪道一里餘。眺望殊絶なり。山中又城址あり。永祿年中源康俊此城に據る。東に鹽坂西に勢谷ありて要害の地なり。天正十年長曾我部元親其族掃部頭をして拔きて守らしめたり。白三三六。

川郡立山村の大字。常願寺川の右岸にして、立山登山口とす。もと立山備現の供僧坊、岩崎寺のありし所にして、僧舎二十餘ありしが、今皆客舎となる。**イワクラシヨウシ** (岩倉城址) 【鳥取】伯耆國東伯耆郡小鴨村を見よ。**イワクラヤマ** (岩倉山) 山城國愛宕郡の南部に在る山。岩倉村に屬す。●美作國眞庭郡に在る山。伯耆國に跨る。高三八二八尺。●紀伊國四守郡下秋津村の名所。今其名寶滿寺に残る。石倉の小野ゆ秋津に立わたる。雲にしもあれや時をしまむ(萬葉集)。**イワユヤマ** (岩山) 岩手山城址) 【愛媛】伊豫國温泉郡味生村北齋院に在る城址。一に大空城といふ。南北朝の頃細川氏の將完章出羽入道居る。貞治二年河野通堯筑紫より歸國し、花見山に陣し、此城を攻めて陥る。完章父子自殺す。**イワサカ** (岩崎) 【島根】出雲國八束郡の村。延喜式磐坂神社(今、小坂明神)は伊弉册尊を祀る。千引岩の舊蹟なり。白三三三。

野村の山中。上流を大瀬川といふ。御庄、二鹿谷根笠小先ノ瀬、鹿野等の諸川を合せ、玖珂郡岩國町を經、今津門前の二派に分れ海に入る。流程二七里九町。山口縣内第一の長流にして、舟運の便多けれども、灌溉の利少し。岩國町と横山村との間に架せるを有名なる錦帶橋とす。**イワクニヤマ** (岩國山) 周防國玖珂郡岩國町の上の時つ山。萬葉集に、周防なる磐國山を越ん日は、たむけよくせよあらきそのみちと詠めるものなり。古來中國街道の要路にして、峻坂なり。大内弘世の嚴島詣にも出でたり。往古は楓樹多し。紅葉の如し。故に岩國川を錦川ともいひ、錦見里錦帶橋等皆紅葉に因みて名付しものなり。後世山を開きて畑となし、今は楓樹の影だになし。

詠めり。享和九年柳澤氏失權、大和郡山へ移封の時破壊せらる。**イワクマ** (岩熊) 【千葉】上總國夷隅郡古澤村の大字。法華寺舊寺領二十五石。法興寺(二十八石)の二古刹あり。俗に法華寺の薬師は雨を祈れば靈驗ありと傳ふ。**イワクラ** (岩倉) 【京都】山城國愛宕郡の村。上賀茂村の東北松ヶ崎村の北に在り。もと石蔵に作り、俗に北岩倉と稱す。大雲寺は天台宗門派の一本山にして、圓融天皇の時日野文範創立、眞覺上人開基。天文五年細川國廣山本修理と此地に戦ひ、伽藍兵燹に罹る。寛永十年義尊大僧正再建。本尊は四尺八寸の十一面觀音にして、もと桓武天皇宮中に安置せられしものなりといふ。境内櫻樹多く、春時風景頗る佳なり。實相院はもと岩倉門跡と稱す。靜基權僧正、應司家より出で、此寺に座主たりし時より門跡に准ぜられ、爾後多くは五攝家より出家せし者此寺に住職たるを例とせり。白三三六。●【愛知】尾張國丹羽郡の町。名古屋の北三里。犬山街道の一市街にして、郵便局あり。岩倉城址は織田敏廣築き、其甥常信以來代々居住し、上四郡を領せしが、敏信の子伊勢守信安清須の織田氏と不和となり、終に永祿二年合戦に打負け、廢城となる。白三三六。●【石川】能登國鳳至郡に在りし村。明治四十二年野村に入る。野野川の岸にして、延喜式石倉比古神社及石倉寺あり。●【和歌山】紀伊國有田郡の村。有田

垣にして耕地あり。山岳には磯岳八内岳、稻嶺あり。河川には堀川あり。驛路は雷電峠を経て内相穂等を経て余市郡に至る。郡のアイヌ語イワナイ、硫黄ある所の義なり。物産は農産物米、粟、大豆、小豆、菜豆、玉蜀黍、蕎麥、燕麥、菜種、馬鈴薯、蘿蔔、胡蘿蔔等。漁獲物二三萬圓主なるものは鱈、肥料に製し輸出す。工業物は酒、醬油、味噌、清涼飲料等あり。

イワナイタケ(岩内嶽) 【北海】後志國岩内郡に在る硫黄山。一に硫黄嶽ともいふ。三峰あり。西なるをチセツブリ、東南なるをニセコツブリと呼ぶ。中央は海拔三三六六尺。硫黄採掘は専らニセコツブリにて行はる。

イワナイタンザン(岩内炭山) 【北海】後志國岩内郡岩内町の北方三里に在る炭山。茅沼川の支流に在り。河口より嶺山に至る三二町の間鐵路を敷き運搬に便す。礦區二産出高一七九二噸(前年三三三三)。

イワナイヤマ(岩内山) 【北海】日高國沙流郡に在る山。高三二〇八尺。

イワナガ(岩永) 【山口】長門國美祿郡の村。厚狭郡の吉部村と相接せる山村なり。大内義隆、陶の亂に山口より逃れて此所に至り、領主國部隆景の助を得て、千戸岬より舟にて落ち行きしが、逆風に遇ひて果さず。大寧寺に入り自殺す。六百三三。

イワナシケン(磐梨郡) 【岡山】備前國に在りし郡。四境、東は和氣郡、西北二方は舊赤坂郡、南は上道郡、佐伯北佐伯本

佐伯上石生、豊田、小野田、可哀、大田吉岡、物理、湯瀬の二一村ありしが、明治三十三年廢郡、赤坂郡と合して赤磐郡となる。磐梨は又石先石成に作り、古事記大津日子命を吉備之石先別之祖と註し、其裔和氣氏大に著はれ、其領地を磐梨縣と呼べり。此縣は後赤坂郡となり、後又赤坂色久二郡を割きて藤原郡、後和氣郡を置き、延暦七年藤原郡の西部を割きて此郡を置けり。和名抄は和氣石生那磨、唐名物部物理の七郷を載す。但し三代實錄には六郷と記し、且つ物部の地なきを以て見れば、物理と誤つて重複せるものゝ如し。

イワナシ(石生) 【岡山】備前國赤磐郡の村。六百七〇。

イワナミ(岩波) 【静岡】駿河國駿東郡深真村の大字。佐野停車場の北に隣る。此所に風穴と呼ぶ洞穴あり。深さ知るべからず。又岩波の北なる駒門より須山に向て長三里に及ぶ大洞穴ありと傳ふ。蓋し太古噴火の際に生ぜし溶岩洞なりとす。

イワナメ(岩滑) 【静岡】遠江國小笠郡の村。六百五九。

イワヌマ(岩沼) 【宮城】陸前國名取郡の町。陸羽街道と陸前濱街道と會し、鐵道東北本線と常磐線と連絡する要地にして、阿武隈川の北岸に在り。郵便局、警察分署等あり。東京上野驛より二〇六哩二二鎮仙臺へ約一里。武前神社は町の中央に在り。小野原の建立と傳へ、船荷を祭

る。俗に奥羽船荷の頭領にして、如何なる狐憑も此社前を過れば、立るに慮ゆと稱し、信者甚だ多し。古來社前に馬市を開き、今に變らず。社の北約一町に二本松(又は武隈松と呼ぶ名松あり。又數町にして鼻輪松あり。武隈松は古來多く歌に詠まる。六百五九) 【千葉】上總國長生郡八種村の大字。武總鐵道線千葉一ノ宮間の車驛あり。

イワネ(巖根) 【千葉】上總國君津郡の村。六百七〇。

イワネ(岩根) 【滋賀】近江國甲賀郡の村。野洲川に臨む。其北嶺は三上山の嶺に於て岩根山と呼び、近江國和歌名所なり。善水寺は岩根山に在り。傳教大師比叡山建立の時、旱天にして木材の運輸に苦しむ。雨を祈りて靈現ありしかば、此所に寺を建て、藥師佛を安置すといふ。本堂は今保護建造物となる。六百五五。天仁元年大嘗會、匡房の歌に「石根山やま藍にすれる小忠衣たもとゆたかに立ぞうれしき」。

【福島】岩代國安達郡の村。六百九六。

イワネ(石根) 【愛媛】伊豫國周桑郡の村。六百七〇。

イワノ(伊波野) 【島根】出雲國簸川郡の村。六百五九。

イワノ(岩野) 【熊本】肥後國鹿本郡の村。筑後國に接せる山間の僻邑にして、熊本久留米間の國道此所に掛る。其驛路を粟瀨といふ。郵便局あり。山鹿町より三里。六百五九。 【熊本】肥後國球磨郡水上村

の大字。球磨川の源なり日向國米良に出づる要路にして、郵便局あり。

イワノウスコエ 【樺太】洞山の舊稱。

イワノタ(岩野田) 【岐阜】美濃國山縣郡の村。六百五九。

イワノハラ(岩ノ原) 【越後】國中頸城郡高土村大字北方に屬する原野。川上善兵衛經營の廣大なる葡萄園あり。面積二十餘町歩に互り、三百五十餘種の葡萄を有す。明治三十四年中葡萄酒醸造高六百石、價一萬三千圓に上れり。

イワノヤ(岩野谷) 【群馬】上野國碓氷郡の村。六百五九。

イワハシ(岩橋) 【愛知】尾張國丹羽郡に在りし村。明治三十九年犬山町に合す。

イワハナ(岩鼻) 【群馬】上野國群馬郡の村。大字岩鼻は中山道新町倉賀野二驛の間宿なり。烏川の北岸に沿ふ。鐵道信越線倉賀野驛より約一九町。火藥製造所あり。六百五九。 【信濃國】埴科小縣の郡界に在る地名。坂城驛の南一里とす。千曲川此所に至り、兩岸翠り岩壁高く聳へて將に倒れんとし、道路僅に通ず。頗る風景に富み、夏の螢の紅葉皆觀るべしといふ。岩鼻や、にも一人月の友、芭蕉。

イワビツジョウシ(岩櫃城址) 【群馬】上野國吾妻郡原町或は郡原に在りといふ城址。建年中吾妻助亮城きて之に據る。戰國の頃上杉氏の持城なりしが、後武田氏之を取る。甲斐の岩殿、駿河の久能と號稱せられ、信玄三要害の一なり。

イワブチ(岩瀨) 【東京】武藏國北豐島郡の町。荒川の南岸にして、王子より鳩ヶ谷岩槻に至る街道に當る。對岸は北足立郡川口町とす。赤羽停車場此所に在り。六百五九。 【静岡】駿河國庵原郡富士川町の大字。富士川西岸に居る。河口より湖ること一里半。甲州縣澤より下る舟筏を此所に繋ぎ、且つ鐵道東海道線の停車場を置くを以て貨物輸送し、繁昌の地なり。警察分署、郵便局等あり。大宮町へ三里。延へ一里。

イワフネ(岩船) 【新潟】越後國岩船郡の町。羽前街道の一驛にして、海邊に在り。桃川口に在り。村上町の西南一里半。郵便局あり。大化四年磐船を設けたる地にして、其址は今の明神山ならんといふ。當時蝦夷との界にして、重要な防禦なりしが、和銅元年出羽櫓を設くるに及び廢す。縣社石船神社あり。宇摩志麻理命を祭る。俗に命天石船に乗りて天降り給ふと言傳ふ。其草創は大化四年といふ。六百五九。 【千葉】上總國夷隅郡浪花村の大字。外洋に面し、有名なる漁場なり。殊に石決明は古來の名産にして、延喜式の東鯨魚は即ち此附近の産といふ。 【茨城】常陸國東茨城郡の村。六百三三。

イワフネ(岩舟) 【栃木】下野國下都賀郡の停車場小山驛より一二哩。二鎮驛の背後なる岩船山といふ。満山岩壁亂立し、古松鬱蒼として眺望甚だ佳なり。石材を出す。山上に子育地藏の堂あり。 【栃

木】下野國下都賀郡の村。六百五九。

イワフネ(岩船) 【大阪】河内國北河内郡交野郡の村。山中に巨岩怪石多し。就中私市の南二〇町に天磐船といふものあり。高三四尺。長五〇間許。天ノ川其下を走り宛然舟を泛ぶるが如し。村民住吉神社と稱し、毎年六月慶前に祭典を行ふ。又其傍に四個の佛像を刻せる小巖あり。俗に岩彫佛といふ。船返瀧あり。獅子窟寺は私市の東一〇町の山中に在り。普賢山と號す。聖武天皇の時行基勅を奉じて創立し、龜山天皇不豫の時臨幸御祈禱の事あり。平徳に付き伽藍再興あり。寺宇は其後廢壞せるを、寛永年中光影律師重興す。龜山後龜山二帝の分骨塔あり。本堂背後の洞窟を獅子窟といひ、其前に燈籠堂あり。其他觀音巖、雲石、大黒石、爰掛石、摩訶子等の奇石あり。土御門皇子靜仁法親王獅子窟に參籠ありし時僧正教範、よもすから分つる路の露より、おほむおくにそ袖はぬれると詠みければ、親王返し、立かへる山路もふかき白露の、おくる袖はぬれまきりける。六百三三。

イワフネケン(岩船郡) 【新潟】越後國十

五郡の一。國の北隅に在り。四境、東は羽前國、西は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政郡、南は北蒲原郡、西は日本海、行政

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

イワフネ(岩舟) 【岩船山】 出雲國能義郡に在る山。赤屋村に屬し、伯耆國西伯日野二郡に跨る。大己貴命の古事なる長江山

し子勝長幼なり甲將秋山晴近爲て景任の豪婦を娶り勝長を執へて甲州に送り自ら此城に據る。既にして織田信忠之を...

イワムラシヨウシ(岩村城址)

紀伊國有田郡宮原村大字道村に在る城址。一に岩室城といふ。湯淺氏の築造に係る。...

イワムラタ(岩村田)

久郡の町中仙道の一驛にして甲州若神子道の交會する所なり。小田井驛より一里三町。...

出で子孫郡内に繁衍して國の名族たりしが。天文年中武田氏に降る。元祿年中内藤正勝の邑となり封一萬五千石其陣屋を置きしが。...

イワムラ(岩室)

【新潟】越後國西蒲原郡の村。彌生郡より一里餘。矢川の畔なり。鹽類性礦泉あり。...

イワモト(岩本)

【靜岡】駿河國富士郡岩松村の大字。富士川の東岸に沿ひ。海口より五里の丘下に居る。...

山口村の大字。手取川を隔て、越前町と對す。白山七社の一なる岩本宮のありし所なり。...

イワモトガワ(岩本川)

【岩手】岩手縣岩手郡の東北部に在る川。一に蒲生川といふ。水源蒲生村の蒲生谷。...

イワヤ(岩屋)

【京都】丹後國與謝郡の村。白二瓦。【兵庫】淡路國津名郡の町。北端にして、...

の際切崩せる所多しといふ。石窟中に小祠あり。土人は石桶尊といふ。一説に伊非諾尊の隠れませる幽宮なりといふ。...

イワヤカワ(岩屋川)

【新潟】越後國東蒲原郡三川村の字。會津街道の一村落とす。有名なる平等寺あり。...

イワヤゴエ(岩屋越)

河内國南河内郡山田村より大和國當麻寺に出る山路。との間に在り山脈相連る。...

イワヤサキ(岩屋崎) 筑前國遠賀郡山鹿村の東北約一里に在る崎。山鹿崎又妙見崎といふ。...

イワヤタキ(岩屋滝) 山城國愛宕郡に在る飛龍滝の別稱。大和國宇陀郡曾爾村大字長野に在る滝。...

夫五二人。女五五人。採礦高五八。〇二五七貫。製鍊元高五七。六八一三貫。製銅一。二一〇五七斤。...

【鳥取】伯耆國日野郡の村。出雲國能登郡に接せる山村にして、印賀宿といふ小驛あり。...

ウエカ

ウエカタ(上方) 【沖繩】琉球國中頭郡の稱、島尻郡を下方といふに對す。
ウエキ(植木) 【神奈川】相模國鎌倉郡玉繩村の大字、北條綱成創建の禪刹龍寶寺あり。此地新井君美の所領なりしかば、室鳩巢撰文に係る白石の碑あり。
【埼玉】武蔵國入間郡の村、合三三九。
【群馬】上野國佐波(舊佐位)郡蓮村の地名。今上下に分れ、共に其大字なり。下植木の天増寺は稻垣氏、伊勢崎領主たりし頃の香華院にして、其廟あり。
【福岡】筑前國鞍手郡の町、明治三十三年町制を施す。遠賀川の西岸に沿ひ、鐵道九州線の車驛あり。木屋瀬町より西方に通ずる宿驛なり。筑前國續風土記云、町のうしろなる處に借優のすむ町あり、家數三十軒程あり、是空也上人を祖として、専ら九品念佛をのみ修行せり、今は歌舞伎備を以て其業とす。又町の西に南北五町、東西四町許の大池あり、池中蓮葉實多しと。郵便局あり。
【熊本】肥後國鹿本郡の町、郡中山鹿町に亞都都會にして、高原の中央に位し、四通八達の衝に當り、且つ近年停車場を設けしより、商業盛なり。熊本を距る北二里三四町、郵便局あり、此は明治十年の役激戦ありし所なり。二月二十二日乃木少佐率大隊を率て、此地に入る。賊兵日暮掩襲、官軍潰散、木屋瀬に退く、三月二十日官軍田原坂の堅壘を拔きたる勢に乗じ、直に此地を突く、賊狼狽して走る、官軍の先鋒勢に乘じ、向坂に連

ウエキ

みしが賊の返闘に會ひ、其背後を中斷せられ、苦戦して植木の軍に合す。此戦死傷甚だ多し。此より四月十五日まで官軍此地に持して輕動せず。合三九三。
ウエキタンザン(植木炭山) 筑前國粕屋郡須惠村に在る炭山。博多灣鐵道須惠驛驛區の四端に在りて運搬便なり。明治四十一年、鐵道二六、七六八〇坪、使用鐵道二一八八、女一〇〇人、産額五、四二四七佛噸價格二〇萬一千圓(本邦産業一斑)。
ウエキイ(植木) 【樺太】舊稱ウエキイマカ。
ウエコタン(上古丹) 【北海】後志國久遠郡久遠村の大字、其南岬を小岬と呼び、久遠灣の西角をなす。アイヌ語ウエコタン、岬の義にて、泊舟の地なきをいふ。
ウエシマ(上島) 【熊本】肥後國上益城郡に在りし村、明治三十八年大島村に入る。緑川と御船川との合する所なり。慶長の頃までは年々水害ありて、附近は悉く荒地なりしが、加藤清正水利を考へ、大塚山の下を横に深く穿ちて水勢を誘ひ、塘堤を築く。此より近村水く水災を免る。
ウエシヨシヤ 【樺太】留多加山の舊稱。
ウエヌギ(上杉) 【京都】丹波國何鹿郡東八田村の大字、足利氏宗の室上杉氏の出たる地なり。藤原重房宗親親王に從ひ鎌倉に赴き、此地を領す。因て上杉と稱し、子孫足利氏の外戚なり。
【新潟】越後國

ウエタ

中頭郡の村、近世山五十公郷と呼びし地なり。古の五公郷の一部にして、今大字所山田の五十公山に五十公神社あり、式内の古社にして、里五十君二十七村山五十君八十三村の鎮守たり。合三三三。
ウエタ(下田) 【兵庫】淡路國三原郡神代村の大字、陰鷲羽山の麓にして、もと社家村と稱す。上田寺の廢址あり。
【新潟】越後國南魚沼郡の村、明治三十九年南旭長崎旭の三村及三和村の一部を合せて新設、合三三六。
【長野】信濃國小縣郡の町、長野市松本市と鼎立し、國內第三の都會なり。北國街道の要衝に居り、蠶絲業盛にして、上田縮上田袖等の産あり。鐵道直江津線の車驛を置き、交通至便、商業甚だ盛なり。郡役所警察署區裁判所中學校、蠶業學校高等女學校、郵便局等あり。長野市を距る一〇里五町(鐵道の便あり)。松本市を距る二里一五町(保福寺峠を經る馬を通ず)。松本に通ずる線路、千曲川に架せる大橋を上田橋といふ。結構壯麗なり。上田城址は市街の西南千曲川の岸に在り、眞田昌幸の築ける所にして、伊勢崎城といへり。關ヶ原役昌幸之に據り、將軍徳川秀忠の西上を遮り、拒戦三日、遂に城を棄つ。此役昌幸の子信幸東軍に從ひ功あり。上沼田より移封九萬石を賜はる。元和八年松代に移り、仙石兵部少輔忠政之に代り、寛永三年政明の時但馬國出石へ轉じ、出石城主松平伊賀守忠國之に代り、封六万石子孫相承して明治

ウエタ

維新に至る城址は今公園となり藩祖を祀れる松平神社あり(尼ヶ淵城は之と異なるといふ)。合三三六。
【山形】羽後國飽海郡の村、合三三六。
【岡山】美作國眞庭郡に在りし村、明治三十七年津田村に入る。
【岡山】備前國御津郡に在りし村、明治三十七年岡城村に入る。
ウエタ(植田) 【愛知】尾張國愛知郡に在りし村、明治三十九年天白村に入る。
【愛知】三河國渥美郡に在りし村、明治三十九年高師村に入る。
【福島】磐城國石城郡鮫川村の大字、陸前濱街道の一小站にして、鐵道常磐線の停車場とす。東京上野驛より一八九哩一六鎮、附近より石炭木材木炭を出す。郵便局あり。植田八幡は俗に五里八幡と呼び、源賴義の祀る所と傳ふ。
【秋田】羽後國平鹿郡の村、合三三九。
ウエタガヤ(植田谷) 【埼玉】武蔵國北足立郡の舊領名、二十餘村を總べたり。和名抄植田郷の遺稱なりといふ。今植木村と改む。足立神社は式内の古社なりと傳ふ。
ウエタシヨウ(上田城址) 【新潟】越後國南魚沼郡「坂戸」を見よ。
【長野】信濃國小縣郡「上田」町を見よ。
ウエツキ(植木) 【岡山】美作國勝田郡の村、合三三八。
ウエツキ(植木) 【奈良】大和國生駒郡郡山町の字、植木八幡宮、植木寺址等あり。古歌に詠せる名所なり。
ウエダ(上手) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の

ウエノ

村、界の西南麓、藤川の畔に在り、延喜式宇波刀神社あり。上手に蓋し此より出づ。合三三九。
ウエト(上月) 【石川】能登國珠洲郡の村、合三三九。
ウエナシ(上成) 【茨城】下總國結城郡江川村の大字。
ウエノ(上野) 【東京】武蔵國「東京市」を見よ。
【新潟】越後國中魚沼郡の村、合三三九。
【群馬】上野國多野郡の村、合三三七。
【千葉】上總國夷隅郡の村、合三三七。
【茨城】常陸國眞壁郡の村、合三三九。
【三重】伊賀國阿山郡の町、伊賀第一の都邑にして、藤堂氏分城を置きし地なり。伊勢の津を距る二里、名張町を距る四里六町、服部川、柘植川、長田川の合流する所にして、國內最も廣き田野を占む。阿山郡役所區裁判所警察署中學校郵便局、淡水養殖場、鐵道關西線の車驛等あり。全國貨物の大半は此所に集散す。物産には、名物には蒟蒻田樂、長崎菓子等あり。上野城址は天正年中北畠氏の臣瀧川雄利經營し、文祿年中高井定次封せらるるに及び、修築して居城とす。伊賀侍従と呼ばる。慶長十三年封八萬石を奪はれ、同年藤堂高虎安濃津、上野二城を賜はる。藤堂氏は津に居り、此所には城代を置き、以て京畿に備へたり。白鳳城と號す。明治の初廢墟となり、明治十九年舊天守臺の地を修めて公園とす。芭蕉翁故郷塚は愛染院境内に在り。芭蕉は松尾宗房

ウエノ

と稱し、上野城代藤堂良忠に仕へしが、二十三歳の時退身して、連歌俳諧を學び、五十一歳にして大阪に没す。門人遺髪を送りて、此所に埋むといふ。縣社上野天神は菅原道真を祀る。町の鎮守なり。十月二十五日大祭とし、股賑を極む。念佛寺は俗に大和寺と呼び、郡内第一の大刹なり。高井定次大和國高井庄より移せる所といふ。上行寺は藤堂高虎紀州粉川山に創建せるを、移封の時移せるものとす。藤堂家の廟あり。廣壽寺は元和元年渡邊了(通稱勘兵衛、藤堂家著名の士)の創建といふ。鍵屋辻は市街の西端とす。寛永十一年渡邊數馬其仇河合又五郎を此地に要撃す。劍客荒木又右衛門數馬を援け、河合の黨二十餘人を殲して、響を報ぜし所なり。世に伊賀越仇討と稱す。合三三三。
【三重】伊勢國河藝郡の村、伊勢街道の一驛にして、伊勢海に瀕す。白子驛より一里三町、津市へ二里一六町、郵便局あり。上野城址は長野野の分部氏世々に居る。天正年中織田信包長野氏を嗣ぎて此に居るに及び、分部氏は中山栗真村に徙る。信包安濃津に築くに及び、分部政壽復た之に居り、一萬石を食む。關ヶ原役東軍に與ひし功あり。元和九年近江國大溝に移り、城廢す。合三三六。
【愛知】尾張國知多郡の村、明治三十九年名和荒尾富木島三村を合して新設、合三三六。
【愛知】三河國碧海郡に在りし村、明治三十九年上郷村に入る。知立の東二里、郵便

ウエノ

局あり。戦國の頃は此所に城ありて、松平信定其子清定之に據り、酒井忠尚亦之に加はり、屢岡崎の徳川氏に抗せり。
【静岡】駿河國富士郡の村、合三三六。
【山梨】甲斐國四八代郡の村、市川大門町の東に隣る。武田氏の一族一條氏の營址あり。又此地の御崎神社は市川地方の大社なるを以て、市川明神と呼び、近世社領四十一石あり。天正十年徳川家康嘗て此所に陣場を置きしより、御陣場御宮と呼ぶ。今式内表門神社に擬定す。又藥王寺あり。明暦年中長純法親王八ノ宮配流の時、此所に寓居ありしといふ。合三三九。
【宮崎】日向國四日杵郡の村、合三三九。
ウエノ(植野) 【千葉】上總國夷隅郡上野村の地名、郡の南偏に在り。天富命の穀麻を植ふし所と傳へ、後上下に分れ、下植野は今單に植野と呼ぶ。共に上野村の大字たり。
【栃木】下野國安蘇郡の村、郡の南端、渡良瀬川の岸に沿ひ、面積約千五百町歩平坦にして、耕地多けれども、足尾鐵毒の害を受くること少からずといふ。植野城址は大字植野に在り。貞享元年堀田備後守正高の築造にして、後元祿十一年近江國堅田に移封、文政九年正高六世の孫攝津守正敦の時復歸、一萬六千石を領し、世襲して明治維新に至る。佐野藩と稱せり。東光寺は康元年中大圓禪師中興承應年中領主土井大炊頭利重復興、本尊藥師佛寺内十二庵交々其住持となる。俱利伽羅寺は俗に尼除日輪大師といふ。

ウエノ

儀を安置す。境内樹多、絲垂櫻殊に名あり。合三三三。
【岐阜】美濃國山縣郡千疋村の大字、蓮華寺と呼ぶ古刹あり。寛文年中石川正光再興す。源賴政の首を葬むると傳へ、林常春の撰文に係る碑を建て、其事を録す。
【高知】土佐國長岡郡久禮田村の大字、徳島北街道の一驛にして、郵便局あり。高知を距る三里半。
ウエノ(イケ) 【上野池】 備後國比婆郡庄原町に在る備後三池の一。周圍一里。
ウエノ(コウエン) 【上野公園】 【東京】武蔵國「東京市」を見よ。
ウエノ(タノ) 【上田温泉】 【大分】豊後國遠見郡石垣村に在る温泉、單純硫磺泉にして、梅毒皮膚病等に効ありといふ。
ウエノ(ハラ) 【上野原】 【山梨】甲斐國北部留郡の町、甲州街道の一山驛にして、都留川の岸に沿ひ、甲斐に於ける最東の市街なり。町を距る三〇町に鐵道中央東線の上下野原驛あり。八王子驛より一四哩、東京飯田町驛より四哩、警察分署郵便局等あり。又毎月一六の日、甲斐絹市場を開き、取引盛なり。物産は甲斐絹槍笠等とす。又附近に石炭試掘地あり。此地に郡内の舊族加藤氏の城址あり。鎌倉殿より古郡庄を賜へる加藤兵衛尉の裔孫ならんといふ。天正年中まで相續せり。合三三八。
ウエノ(ハラ) 【上野原】 美濃國郡上郡の北偏、大日岳の東南なる廣野、廣表二里餘。水利不便、今尙開拓に就かず。
ウエノ(ヒロコウチ) 【上野廣小路】 【東京】

式標葉一社は是なりといふ、白毛...

ウケナ

伊豫國上浮穴郡の...

ウケナクン

伊豫國に在りし郡後、上下二郡に分れた...

ウケヤマ

阿波國海部郡に在る山...

ウケミナト

大隅國大島の西に在る港...

對し一錨地を作る。其東南は海水深く...

ウゴノクニ

羽後國に在る國北は陸奥國東は陸中...

ウケナ

伊豫國に在りし郡後、上下二郡に分れた...

ウケヤマ

阿波國海部郡に在る山...

ウケミナト

大隅國大島の西に在る港...

紀層は栗駒岳駒ヶ岳の間に、真蓋山脈と...

ウケナ

伊豫國に在りし郡後、上下二郡に分れた...

ウケヤマ

阿波國海部郡に在る山...

ウケミナト

大隅國大島の西に在る港...

河にして、雄勝平鹿仙北河邊南秋田の...

ウケナ

伊豫國に在りし郡後、上下二郡に分れた...

ウケヤマ

阿波國海部郡に在る山...

ウケミナト

大隅國大島の西に在る港...

海岸 南より記せば、酒田より島山下...

雷は十月下旬に始まり、翌年四月下旬に...

鮭鱒魚類 鮭鱒魚類は金魚等とす。殊...

交通 道路は杉峠を越えて羽前國より...

と呼び、神武天皇の時宇沙都比古を以て國造に任ず。但し當時の宇沙國は上毛下毛の二郡をも併稱せるもの如し。後八幡大神靈現を示し、即ち第二の宗廟宇佐神宮起る。和名抄酒井、向野、封戸、宇島、葛原、高家、廣山、垣田、深見、野麻の二〇郷を載す。中世大友氏の有となり、徳川氏の時は中津、島原の二藩、小笠原加賀守幕府等の分割する所たりき。細川家より引渡の高七萬五千八百九十九石餘と記す。

ウサミ(宇佐美) 【静岡】伊豆國田方郡の村。東南海に臨み、伊東の北一里に在り。中世工藤氏の庶流宇佐美氏の居りし所なり。延徳年中宇佐美定興北條早雲と戦ひて討死し、宇佐美氏亡ぶ。合三三。

ウサヤマ(宇佐山) 近江國滋賀郡に在る團丘。滋賀村大字錦織に屬す。源賴義字佐八幡を勧請せるより宇佐山の名あり。山上に城址あり。方二町許、櫓臺の跡存す。元龜元年織田信長將軍足利義昭に暇を乞ひ、岐阜に歸らんとし、此地に城を築き、森三左衛門可成をして之を守らしむ。淺井長政、朝倉義景來り攻む。可成出で、拒ぎ之に死す。其臣武藤、肥田等能く拒ぎしが、支へずして陷るといふ。此地今陸軍射場たり。

ウシイ(雲林院) 【京都】山城國愛宕郡大宮村の宇。大徳寺の南、舟岡の東に在り。淳和天皇の離宮あり。天長九年行幸ありしが、後捨て、寺となし、村上天皇再興あり。備正通略之に別當たり。堂塔林あり。

ウシクヒリ(牛糞) 【茨城】常陸國筑波郡吉沼村の大字。又牛糞に作る。

ウシクボ(牛久保) 【愛知】三河國寶飯郡の町。豊川町と相接せる一市街にして、鐵道豐川線の車驛あり。戰國の頃は牧野氏の居りし所なり。永祿年中成定に至り、徳川家康に從ひ、其子康成あり、子孫諸侯に列す。又此地は山本勘助晴幸の居りし所といふ。其宅址耕地となりしを近年碑を建て、之を表はす。合五五五。

ウシクボオンセン(牛久保温泉) 【長野】信濃國上高井郡山田村に在る温泉。白根火山の西麓なる山谷に出づ。鹽類泉にして、温度二二度一四〇度。本湯瀧ノ湯、金比羅湯、河原湯の諸泉あり。源泉は松川の北岸、湯平山麓に在り。泉を架して浴場に導く。其間約一八町。土地は海抜二五七尺。小布施須坂中野の三市街へ各三里。上野國草津温泉へ六里。

ウシゴメ(牛込) 【東京】武藏國東京市の一區。東京市を見よ。

ウシサワ(牛瀧) 【福島】岩代國河沼郡の舊地名。大略今の坂下町の南より西に互り、村四十を總べたり。今の塔寺、船杉金上、柳津、倉戸、飯谷の諸村に當る。

ウシベツガワ(下川) 【北海】石狩國上川郡に在る川。水源、アンマラマツ左岸山脈、旭川町に至り、石狩川に入る。流程一四里一八町。

ウシシマ(牛島) 【秋田】羽後國河邊郡の

泉共に壯麗を極めたりといふ。後醍醐天皇の時既に荒廢を極め、勅して其地を大徳寺に入る。其堂屋の鬼瓦は世に名高し。紫式部、小野篁等あり。●【三重】伊勢國安濃郡の村。安濃川の支流に在り。中世長野氏の族、雲林院氏居り、出羽より兵部まで十一世相傳す。永祿十一年長野信包の爲に逐はれ、城遂に廢す。合二五五。

ウシオ(湖) 【兵庫】淡路國津名郡の村。洲本の河口にして、川を隔て、南洲本町に對す。古は炬口といひ、近世は鹽屋村といへり。洲本往還の濱街道にして、眺望甚だ佳なり。炬口城址は西北の山上に在り。大永の頃安宅三郎三郎入道一説に安宅監物又は安宅甚太郎居住すといふ。天正年中亡ぶ。合三三。

ウシオ(牛尾) 【静岡】遠江國橋原郡五和村の大字。牛尾山の山脚に鹽井あるに因り、湖村と呼びしが、今牛尾に作るといふ。

ウシオ(海潮) 【島根】出雲國大原郡の村。八束能義二郡に接せる山村にして、中世牛尾庄といへり。素戔鳴尊の舊蹟須我山の西南麓とす。牛尾温泉は大字中湯石に在り。鹽類泉にして、無色透明。反應は阿兒加里性にして、温度華氏八二度。徳麻實新神經痛皮膚病等によし。海潮川に沿ひて浴場を設け、石を疊みて湯槽を割す。地僻なるを以て、浴客一年千五百人を出でずといふ。合三三。

ウシオエ(湖) 【高知】土佐國土佐郡の村。高知市の南郊にして、鏡川を以て相隔

町。秋田市の南に接續し、郡役所、警察署、測候所、農事試験場、河邊製絲會社等あり。郡より出づる米及蠶繭工は、此地を經て輸出せらるるを以て米商多し。合三三。

ウシシマ(牛島) 周防國熊毛郡室積村の東南三里に在る島。室積村に屬す。東西二五町南北二町。峯高七合。合三三。

ウシシルシマ(宇志知島) 【北海】千島群島の一。一ウセシリ。計吐夷島の北なる二個の小嶼なり。干出せる礁脈により接續す。水路誌云、宇志知島は計吐夷島の北東約十四里に在り。南北二島より成る。北島の北端は高約八十呎にして、夫より南岸に向ひ、漸次に高まり、南角附近に至り、三四百呎に達す。南島は稍大にして、其西側に高一三六〇呎の一活火山あり。該島の北角上に舊村落あり、南北二島を連絡する礁脈の兩側に於て、北島よりは南島に近き所に鑛地を得べしと。

ウシタ(牛田) 【廣島】安藝國安藝郡の村。廣島市の東北郊なり。法華宗日通寺はもと阿彌陀寺と稱し、賀茂郡國近村に在りしを、元祿五年領主淺野光晟の室自昌院の願により移せるものといふ。合三三。

ウシタキサン(牛瀧山) 和泉國泉北郡に在る山。葛城山脈の一高峰にして、北は横尾七越の諸嶺に連り、大津川の水源なり。山麓村大字大津より一五町にして山頂に達す。山中飛泉多し。最も觀るべきを一ノ瀧二丈二ノ瀧一丈三ノ瀧四丈とす。三ノ瀧の潭心に石あり。牛の水の中より跳するに似たり。瀧名之に因る。山腹に大威徳寺あり。瀧山風樹多し。秋季來遊する者多し。小車もつひにといふ。合三三。

ウシツ(宇津) 【石川】宇津津を見よ。

ウシツ(牛津) 【佐賀】肥前國小城郡の町。長崎街道に當り、又唐津地方より有明海城に出づる要路に當る。郵便局、鐵道車驛あり。佐賀市の西六哩。合三三。

ウシツ(島田) 【臺灣】臺中彰化二市街の中路に當る一市街。大肚溪の北岸に在り。中部地方産米の集散地とす。臺灣縱貫鐵道の停車場あり。基隆より一二三哩。四八鎮湖日にも作る。

ウシツガワ(牛津川) 肥前國に在る川。多久川を見よ。

ウシトラタケ(長懸) 山城國愛宕郡に在る比叡山の別稱。

り跳するに似たり。瀧名之に因る。山腹に大威徳寺あり。瀧山風樹多し。秋季來遊する者多し。小車もつひにといふ。合三三。

ウシカワ(牛川) 【愛知】三河國八名郡に在りし村。明治三十九年下川村に入る。

ウシキ(卯敷) 【島根】隱岐國周吉郡に在りし村。明治三十七年布施村に合す。

ウシキシヨウ(牛岐城址) 【徳島】阿波國那賀郡富岡町を見よ。

ウシク(牛久) 【千葉】上總國市原郡明治

ウシナ(宇奈) 【廣島】安藝國廣島市の一部。廣島海の海驛なり。廣島市は海濱に接すれども、淺灘四州其前面に散布し、小舟にあらざれば市中に近くこと能はざるを以て、船舶の繫泊一に此地に依る。明治十七年大に土功を起し、淺水を埋め、江灣を利用し、鑛地を作る。延長二九二五間得る所の地六二萬坪。二十二年十一月成る。其費四〇萬圓。後更に三〇萬圓を費し、給水道を造り、百般の設備全く成る。二十七八年及三十七八年の大役海陸出師の準備は實に是なりとす。町の西南に接して宇品島あり。周圍二六町。島上觀音堂あり。其南端に海水浴場あり。

ウシナキゴエ(牛鳴越) 筑後國八女郡より浮羽郡に跨る山路。

ウシネ(牛根) 【鹿児島】大隅國肝屬郡の村。鹿兒島海に臨み、櫻島と相對す。郵便局あり。牛根城址は、一に入船城址といふ。天險の要害なり。層崖の頃牛根道綱之に在り。後池袋、小川、本多諸氏の領となり。天文の末肝付氏之を有し、安樂備前を置き、之を守らしめしが、天正元年島津義久の陥る所となる。宇喜多秀家關ヶ原役に敗れ、遁れて島津氏に頼る。島津氏之を牛根に置く。藩居二年、慶長八年駿府の命により、之を八丈島に送る。合三三。

村の大字。養老川の東岸に在る一市街にして、郵便局あり。舞鶴町へ約二里。城址あり。城主北條氏に反き、三谷信憲の攻むる所となる。山室將傳記に載す。

ウシク(牛久沼) 常陸國稻敷郡の西南隅に在る沼。鐵道常磐線又は陸前濱街道佐貫驛又は牛久沼の邊より西に見ゆ。周圍六里二町。斜に東南に延長す。烟波渺茫、風光佳なり。葦葉、マメ等を産す。餘水は鹽川に入りて、利根川に注ぐ。

ウシク(牛首) 【石川】加賀國能美郡白

村の大字。養老川の東岸に在る一市街にして、郵便局あり。舞鶴町へ約二里。城址あり。城主北條氏に反き、三谷信憲の攻むる所となる。山室將傳記に載す。

久沼の東なる臺地に在り。大字牛久は陸前濱街道の一小驛なり。鐵道常磐線の停車場より三三哩。七八鐘、牛久城、小田氏の支城にして、岡見正初めて築き居り、牛久氏を稱す。天正年中彈正小田氏の先鋒となり、太田三樂と戦ひ敗死し、牛久氏亡ぶ。徳川氏の時由良信濃守貞長に賜はり、慶長六年山口但馬守重政封せられ、一萬石を領し、後五千石加増。十八年除封。寛永五年重政の三子弘隆、四子重經に舊封を分與せられ、弘隆一萬石を以て此所に居り、傳へて明治維新に至る。合三三。

ウシク(牛尾) 【鹿児島】薩摩國伊佐郡の舊院郷の如し。名、今、大日山、野羽月の三村に當る。後世其名を忌んで牛山郷と改む。中世牛屎氏の所領にして、後藤利氏に併せらる。牛屎院の名は夙に建久園田鎮に見ゆ。

ウシク(牛久沼) 常陸國稻敷郡の西南隅に在る沼。鐵道常磐線又は陸前濱街道佐貫驛又は牛久沼の邊より西に見ゆ。周圍六里二町。斜に東南に延長す。烟波渺茫、風光佳なり。葦葉、マメ等を産す。餘水は鹽川に入りて、利根川に注ぐ。

ウシク(牛首) 【石川】加賀國能美郡白

村の大字。養老川の東岸に在る一市街にして、郵便局あり。舞鶴町へ約二里。城址あり。城主北條氏に反き、三谷信憲の攻むる所となる。山室將傳記に載す。

久沼の東なる臺地に在り。大字牛久は陸前濱街道の一小驛なり。鐵道常磐線の停車場より三三哩。七八鐘、牛久城、小田氏の支城にして、岡見正初めて築き居り、牛久氏を稱す。天正年中彈正小田氏の先鋒となり、太田三樂と戦ひ敗死し、牛久氏亡ぶ。徳川氏の時由良信濃守貞長に賜はり、慶長六年山口但馬守重政封せられ、一萬石を領し、後五千石加増。十八年除封。寛永五年重政の三子弘隆、四子重經に舊封を分與せられ、弘隆一萬石を以て此所に居り、傳へて明治維新に至る。合三三。

ウシク(牛尾) 【鹿児島】薩摩國伊佐郡の舊院郷の如し。名、今、大日山、野羽月の三村に當る。後世其名を忌んで牛山郷と改む。中世牛屎氏の所領にして、後藤利氏に併せらる。牛屎院の名は夙に建久園田鎮に見ゆ。

ウシノ

院と稱す。本尊は手親音天智天皇の御作といふ。山中に御經岩鏡子瀧仙人洞。白糸瀧、蛇ヶ淵、天狗杉等の名勝あり。堂後山嶺に上れば、琵琶湖の眺望絶佳なり。

ウシノシマ(牛島) 【徳島】阿波國麻植郡の村。鐵道徳島線の停車場あり。白三ツ、ウシノセガワ(牛背川) 土佐國幡多郡に在る川。水源、橋上村山中。宿毛町の東を経て海に入る。

ウシノ(セト)牛瀬戸 【備後國岩子島と向島との間の水道。深三尋乃至七尋。甚だ狭くして小舟を通ずるのみ。ウシノ(タ)牛ノ谷 【越前國坂井郡に在る谷。坪江村に屬す。北陸本道此所を經由し、加賀に入る。鐵道金澤線より此所に來り、陸道を通して加賀の大野寺驛に走る。

ウシノ

南風を屏障す。熊本を距る四〇里二九町。郵便局あり。此地の鹽は國內第一にして、鰯の産額亦多し。合五七五。

ウシノ(牛) 【千葉】上總國君津(舊望陀郡)の舊郷名。中古金田莊に屬せり。今中郷村の大字に其名存す。【宮城】磐城國互理郡達隈村の大字。千葉系團云、武石胤盛の子、七郎胤祐奥州牛袋邑に在り、牛袋氏を稱すと。此地なるべし。

ウシノ(牛) 【茨城】常陸國行方郡香澄村の大字。霞浦の吐口に臨める一小市街なり。霞浦は渡航の難き海なれば、和船は多く此所に滞留して順風を待つ。故に船舶の出入多し。東に接して潮來あり。ウシノ(牛) 【石川】能登國珠洲郡に在りし村。明治四十二年實立村に入る。

ウシノ

と困難なりといふ。輸入は明治四十一年總計九九萬圓、米、麥、生魚を主とし、輸出は一八萬圓、材木、米、石油等を主とす。牛窓の名義詳ならず。但し萬葉集に「牛窓の浪のしほさる島」とあり、よせてし君にあはすかもあらん」とあれば、由來久し將軍足利義昭織田氏に逐はれ、西國に走るとき、思ひきや船路の旅は牛窓の月の夜汐に袖ぬるいとほしと詠めり。往時は虫明と共に、備前海上の一要驛なりしが、近年著しく衰微せり。合四七三。

ウシノ(牛) 【備前國邑久郡牛窓港と前島との間の水路。ウシノ(牛) 【岐阜】美濃國郡上郡の村。合三六五。

ウシノ(牛) 【山形】陸奥國伊佐郡に在る羽月川の一。ウシノ(牛) 【香海】東港の南東一渚。外口は南坪庄の西邊を繞りて海に通ず。湖内水深一呎乃至二呎。其外口に沙堆あり。低湖には竹筏の外、小舟も通ぜず。此湖は養魚池にして、多く草魚、鮎に似て鱒魚なり。及、鯉、牡蠣、鰻を養ふ。ウシノ(牛) 【樺太】鶴城の舊稱。【北海】後志國歌志郡に在りし村。今歌志村に入る。壽都灣の南東隅にして、壽都を距る二里。壽都歌志郡の首邑なり。警察分署あり。ウシノ(牛) 【潮路山】 【樺太】鶴城山の舊稱。

ウシノ

ウシノ(牛) 【樺太】名好支廳鶴城出張所管内の村落。西海岸に在り。東南に火山岩より成る鶴城山あり。西北に向て鶴城灣を擁す。此灣は西海岸中最も廣く、沿岸平地多く、海は鯨の放卵に適す。唯灣口正西に面し、西南より西北に至る風を遮ること能はず。鶴城出張所及郵便局あり。舊稱ウシノ。

ウシノ(牛) 【青森】陸奥國東津輕郡の村。大字後湯は松前街道の一小站にして郵便局あり。合三三三。

ウシノ(牛) 【高知】土佐國幡多郡の村。合三三三。

ウシノ

ウシノ(牛) 【後月灣】 阿波國那賀郡の東に在る灣。嶺岬間に斗出して之を擁し、灣内許多の小島散在し、沿岸に答島、橋浦等の漁業地あり。橋浦村を見よ。

ウシノ(牛) 【樺太】名好支廳鶴城出張所管内に在る休火山。西海岸來知志湖の北に聳ゆ。山脚海に没する所。鶴城岬を作り、其陰に鶴城灣を成す。

ウシノ(牛) 【後山】 播磨國粟那郡美作國英田郡に跨る山。山上に役小角の祠あり。陰曆四月八日より九月九日まで賽人絶えず。ウシノ(牛) 【茨城】常陸國新治郡の村。合二七五。

管内の漁場。其南方に同名の岬あり。舊名ウツス。岬は一にナイカイといひ、一にウツス(有珠) 【北海】膽振國有珠郡伊達村の大字。有珠灣の北岸。有珠嶽の南麓に在り。往時會所のありし地なり。明治三十年伊達村及壯冠村に分屬す。壯冠へ一里一〇町。別へ二里一〇町。村に白山善光寺あり。道場院と稱し、文化元年創立。横似の等。函館厚岸の國泰寺と共に、北海道三名寺の一なり。本尊は白座三尊の彌陀如來にして、俗に白如來と呼ばれ、貞典上人の作といふ。徳川時代年々米百石、二人口、金四十八兩を給せり。

ウツス(有珠郡) 【北海】膽振國八郡の一。四境、西北に壯冠郡、東南に白老郡、室蘭三郡、西に僅に噴火灣に面す。廣九里三町。表二里二町。面積四四方里餘。室蘭支廳の所管にして、伊達壯冠の二村あり。戸數三〇九六。地勢、北部概ね山岳にして平地少きも、中央長流川の沿岸には肥沃の谷地多く、其下流伊達村西紋麓の如きは土地頗る膏腴にして有名なる伊達氏の農場は其附近二三里の間に亘る。山岳には有名なる火山有珠嶽、幌別岳あり。河流に長流川あり。驛路は東海岸街道壯冠より來り、室蘭に至る。有珠はアイヌ語ウツシヨロ、灣内の義なり。生業は農を主とし、大豆三萬五千石、馬鈴薯一二三萬貫の如きは頗る多量に産す。殊に亞麻(八八萬貫)は北海道第一の多額なり。其他米、麥、小豆、粟、一豆、粟、黍、玉蜀黍、燕

麥、蕎麥、各種甘藷、蘿蔔、胡蘿蔔、牛蒡、藍等あり。牧場は伊達村宇賀金業に三所あり。水産物九千圓、鰯、鮭を主とし、工業品は製鹽、酒、醬油あり。ウツス(白井) 【新潟】越後國中蒲原郡の村。合三三三。【群馬】上野國碓氷郡の町。横川宿を主としたる中山道の一市街にして、横川停車場のある所なり。碓氷嶺の下のなるを以て、近年町名とす。合三三三。

【千葉】下總國印旛郡の町。印旛沼の南岸に在り。東京より佐倉成田に至る街道に當り、船橋町(東葛飾郡)より五里一七町。佐倉町へ一里を隔つ。合三三三。白井城址は白井町の西北山上に在り。今台町往來の地を大名宿と呼び、圓應寺の南沼に臨む所を中城と呼ぶ。當時の遺構なり。此城は千葉常胤の三男常康(白井氏を稱す)の築く所といふ。五世祐胤早死し、其子行胤(竹若丸)尙幼なるに、乗じ祐胤の弟胤氏奪ふて之に據る。行胤、後興胤、鎌倉に走り、足利尊氏に從て功あり。遂に之を復す。其裔胤胤の時、文明十一年太田道灌兵一萬を以て來り攻め、抜く能はず。道灌の弟圖書戰死す。胤胤の裔、久胤の時、原胤貞の爲に奪はれ、出で、結城晴朝に頼る。永祿七年上杉輝虎來り攻む。原胤繁軍兵を以て克く之を守り、輝虎引き還る。天正十八年豊臣氏諸將を遣はし之を攻む。城主胤胤出で降る。十九年酒井左衛門尉家次之に封じらる。封三万石。慶長九年上野國高崎に移り、城廢す。文祿

年中城火災に罹る。其址今地味を出すと云ふ。圓應寺は臨濟禪の一古刹にして、佛眞禪師開基。白井行胤の幼時難を鎌倉に避くるや、建長寺の佛國佛眞二僧の撫育を受く。行胤志を得るに及び、此寺を建て、佛眞を迎へて開山とすといふ。舊寺領二十石。境内風景よく、八景の目あり。白井城址の東南一町の田間に、小石祠あり。土俗オタク様と呼び、咳嗽を患ふ者多く養す。オタクは行胤の乳母なり。行胤をして逃れしめしが、己は咳嗽の爲、追兵の知る所となり害に遭ふといふ。宗徳寺は曹洞禪の古刹にして、應永年中原胤高の創建。聖山志賢和尚開基。原胤榮の墓あり。寺内の清泉は徳川家康此附近狩獵の時、喫茶の料に充てしものと傳ふ。光勝寺は時宗にして、白井常祐遊行二代眞行の爲に建てしものと傳ふ。小野篁作といふ。關原王の像あり。【千葉】上總國夷隅郡中古の郷名。天喜の頃白井定行知行し、子孫相傳へ、定澄の時里見氏に滅ぼさる。といふ。今長者町大字井澤に其城址あり。【千葉】下總國印旛郡印旛沼の南一帯の庄名。中古は郡名と呼ばれし事、壬生官務家文書等に凡、今の白井町及千代田志津阿蘇の諸村に當る。

ウツス(有珠郡) 【北海】膽振國八郡の一。四境、西北に壯冠郡、東南に白老郡、室蘭三郡、西に僅に噴火灣に面す。廣九里三町。表二里二町。面積四四方里餘。室蘭支廳の所管にして、伊達壯冠の二村あり。戸數三〇九六。地勢、北部概ね山岳にして平地少きも、中央長流川の沿岸には肥沃の谷地多く、其下流伊達村西紋麓の如きは土地頗る膏腴にして有名なる伊達氏の農場は其附近二三里の間に亘る。山岳には有名なる火山有珠嶽、幌別岳あり。河流に長流川あり。驛路は東海岸街道壯冠より來り、室蘭に至る。有珠はアイヌ語ウツシヨロ、灣内の義なり。生業は農を主とし、大豆三萬五千石、馬鈴薯一二三萬貫の如きは頗る多量に産す。殊に亞麻(八八萬貫)は北海道第一の多額なり。其他米、麥、小豆、粟、一豆、粟、黍、玉蜀黍、燕

ウツス(有珠郡) 【北海】膽振國八郡の一。四境、西北に壯冠郡、東南に白老郡、室蘭三郡、西に僅に噴火灣に面す。廣九里三町。表二里二町。面積四四方里餘。室蘭支廳の所管にして、伊達壯冠の二村あり。戸數三〇九六。地勢、北部概ね山岳にして平地少きも、中央長流川の沿岸には肥沃の谷地多く、其下流伊達村西紋麓の如きは土地頗る膏腴にして有名なる伊達氏の農場は其附近二三里の間に亘る。山岳には有名なる火山有珠嶽、幌別岳あり。河流に長流川あり。驛路は東海岸街道壯冠より來り、室蘭に至る。有珠はアイヌ語ウツシヨロ、灣内の義なり。生業は農を主とし、大豆三萬五千石、馬鈴薯一二三萬貫の如きは頗る多量に産す。殊に亞麻(八八萬貫)は北海道第一の多額なり。其他米、麥、小豆、粟、一豆、粟、黍、玉蜀黍、燕

ウツス(有珠郡) 【北海】膽振國八郡の一。四境、西北に壯冠郡、東南に白老郡、室蘭三郡、西に僅に噴火灣に面す。廣九里三町。表二里二町。面積四四方里餘。室蘭支廳の所管にして、伊達壯冠の二村あり。戸數三〇九六。地勢、北部概ね山岳にして平地少きも、中央長流川の沿岸には肥沃の谷地多く、其下流伊達村西紋麓の如きは土地頗る膏腴にして有名なる伊達氏の農場は其附近二三里の間に亘る。山岳には有名なる火山有珠嶽、幌別岳あり。河流に長流川あり。驛路は東海岸街道壯冠より來り、室蘭に至る。有珠はアイヌ語ウツシヨロ、灣内の義なり。生業は農を主とし、大豆三萬五千石、馬鈴薯一二三萬貫の如きは頗る多量に産す。殊に亞麻(八八萬貫)は北海道第一の多額なり。其他米、麥、小豆、粟、一豆、粟、黍、玉蜀黍、燕

ウスイ

は人の知る所なり。本郡は縣下屈指の養蠶地にして...

ウスイトウケ(確水峠) 信濃國北佐久郡及上野國確水郡に跨る峻嶺...

ウスキ

北部に在る灣平戸町の西に當る東に彎入すること二里水深二八尋至八尋泥底にしてよく諸風を屏障し好鰯地を成す...

ウスキ(白杵) 【大分】豊後國北海部郡の町白杵灣頭の一市街にして東西二十餘町南北約一里白杵川町の北方を限り海に入る...

ウスギ

此所に置きしことあり。城内今公園となる中央に藩祖稲葉一徹を祭れる稲葉神社あり...

ウスギカワ(白杵川) 豊後國大野郡に在る川。水源川登村北海部郡白杵町に至り海に入る...

ウスク

東北に向ふを以て北東風に暴露す灣頭に白杵町灣内に津久見島あり。

ウスクリ(白作) 【千葉】下總國香取郡本大須賀村の大字一に白架に作る。ウスシリ(白尻) 【北海】渡島國米部郡の村尾札部村の西に接し太平洋に面して...

ウスタ

に在る有名なる活火山。有珠郡野付村に跨り北は洞爺湖南は噴火灣に面し東は斷層谷なる長流川に隈られ西はボロモイ山の裾野に接す...

ウスタ

本に新山なる意の語を以てするに依り知らる。谷文晁寫生日本名山圖會に小有珠嶽の圖のみありて大有珠嶽を缺けり...

ウスタ

三年七月十五日の噴火は非常にして土人五人死し海上陸地に墜し震動は遠く津輕庄内に及べり...

ウスタ

ウスタ(有珠灣) 【北海】膽振國有珠郡に在る灣。灣口南西に面し東西五町南北四町灣の北岸に有珠村あり...

ウチキ

ウチキダ(内城田) 【三重】伊勢國度會郡の村。合三三。

ウチグチ(海路口) 【熊本】肥後國飽託郡の村。合二二。

ウチノクン(宇智郡) 【奈良】大和國十郡の一。四境。北は南葛城郡。東南二面は吉野郡。西は河内國南河内郡。紀伊國伊都郡。廣三三六町。袤三里一八町。面積五方里二四行政上。五條町及牧野。北宇智。宇智。大阿。太南阿。太野。南宇智。阪合部。八村に分ち。郡役所を五條町に置く。合二二。合三三。地勢。本郡は國の一方に僻在し。四方山岳高峻にして。北に金剛山あり。吉野川郡中を貫流して。紀伊國に入り。丹生川吉野郡より北流して之に注ぐ。其沿岸の地僅に平野なり。鐵道は南葛城郡御所町より來り。五條を停車場とし。吉野川に沿ふて和歌山に赴く。本郡は地僻にして平地少きを以て物産多からず。農産物は米(三萬圓)・麥・蒟蒻玉・西瓜・麻・林産物は一萬圓。工業物は織物酒あり。此地も吉野の河尻といへり。古事記に神武天皇此地に至り。魚を取る者を誰何せるに。國神にして名を贊持之子と謂ふと答へたり。これ此阿陀之鶴養の祖也と記す。阿陀は即ち宇智の舊稱ならんといふ。今郡内に阿太村あり。

ウチノクン(宇治郡) 【京都】山城國八郡の一。四境。東は近江國滋賀郡。西は京都市及紀伊郡。南は履喜久。世二郡。北は京都市。東部の山脈。面積五方里。九行政上。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチク

山科。醍醐。笠取。宇治の四村に分ち。郡役所を醍醐村に置く。合三三。合二二。合三三。地勢。西境に東山。深草山の脈。東北近江境に長等。遠坂音羽笠取。岩間の諸嶺あり。三方山を限り。南の一方に宇治川あり。全郡山嶺起伏し。平地に乏し。河流は山科川。志津川あり。國內最も僻境に在りて。人口稀少なり。道路は京都より近江國大津に通ずる東國街道。山科村を過ぎ。鐵道も之に隨ひ。大谷。山科の二驛あり。山科より伏見(紀伊郡)に通ずる間道は醍醐村を過ぎ。又伏見より大和國奈良に通ずるものは宇治村を過ぎ。其鐵道には木幡驛あり。本郡は國內屈指の産茶地にして。産額一三萬圓に上る。茄子は愛宕郡に次ぎ多額を産す。其他米。二萬石。林産物四萬圓とす。又竹。梅。實。石。材。砥。石。香。魚。等。あれども産額多からず。

ウチノクン(宇治郡) 【京都】山城國八郡の一。四境。東は近江國滋賀郡。西は京都市及紀伊郡。南は履喜久。世二郡。北は京都市。東部の山脈。面積五方里。九行政上。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチコ

漁舟の遊泊する所なり。双島は宇治島の南西に在り。共に高二七尺。サミ島は宇治島の南西二裡に在り。南北長二裡。高一八五尺にして。其北端に一小嶼あり。此等諸島は漁舟の來泊し。漁人草舎を建つるも。漁期を過ぐれば悉く退去す。

ウチゴウ(有智郡) 【京都】山城國履喜郡の村。古の有智郡にして。八幡町の西南に當る。大字。内里に内神社あり。延喜式内の古社なり。合三三。

ウチゴウ(有智郡) 【京都】山城國履喜郡の村。古の有智郡にして。八幡町の西南に當る。大字。内里に内神社あり。延喜式内の古社なり。合三三。

ウチゴウ(有智郡) 【京都】山城國履喜郡の村。古の有智郡にして。八幡町の西南に當る。大字。内里に内神社あり。延喜式内の古社なり。合三三。

ウチノ

野城を築きて之に移り。子孫在城せしが。天正十五年一揆に與みして滅ぶ。

ウチノコシ(打越) 【新潟】越後國西蒲原郡に在りし村。明治三十四年。道上村に入る。ウチサキヤマ(内崎山) 紀伊國有田郡田殿村大字井口に在る山。明惠上人高辨の古蹟とす。

ウチノコシ(打越) 【新潟】越後國西蒲原郡に在りし村。明治三十四年。道上村に入る。ウチサキヤマ(内崎山) 紀伊國有田郡田殿村大字井口に在る山。明惠上人高辨の古蹟とす。

ウチノコシ(打越) 【新潟】越後國西蒲原郡に在りし村。明治三十四年。道上村に入る。ウチサキヤマ(内崎山) 紀伊國有田郡田殿村大字井口に在る山。明惠上人高辨の古蹟とす。

ウチタワラ(宇治田原) 【京都】山城國履喜郡の村。古の田原郷の一部なり。宇治郡に續けるを以て。土俗宇治田原といひ。田原村と區別す。禪定寺は普陀落山と號す。大字。禪定寺に在り。正暦元年。藤原忠實の創建。南都大寺に屬せり。中世荒廢せるを。月舟和尚再興し。曹洞宗となれり。寺城山に依り。南面し。後に高峰あり。本堂は圓通閣と號し。十一面觀音を安置す。又本堂の東に地藏堂あり。猿丸。大夫。禪定寺の東北六町の山上に在り。猿丸。大夫。禪樓の舊蹟にして。奥山に紅葉踏分けの歌は此地にての吟なりといふ。信四郎は湯屋谷と奥山との中間。觀音堂の前。路右に在り。昔少納言信西出雲前司光安の爲に擄となり。京都に赴く途此地にて死し。其遺骸を葬りたる所なり。合三三。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチデノハマ(打出濱) 【富山】越中國舊新川郡に在りし地名。岩瀬森の東北一里餘に當り。岩瀬といひ。其港は戸數三千ありて繁賑なりしが。海濱の爲に退轉し。其舊地は已に數里外の海底なりといふ。

ウチノ

り、全部の物産は多く此地を経て長濱町に送る。郵便局あり。此邊多く糠蝦及紙を出す。有名なる産物とす。白三三。

ウチハ

町、三津灣の西に開ける一灣頭に在り。其港灣は東に開き、柳瀬戸に通じ、柏島馬島芝島等其口に横はり、灣内全く泥灘を成す。郵便局あり。白三三。

ウチマ

ウチマコウサン(内馬嶺山) 出雲國八東郡出雲郡村に在る銅山探鑛七、三〇六九貫製銅四一五五〇斤(前)製三。

ウチヤ

らす村より少しく川を下れば愛本の奇勝あり。白三三。●【福岡】筑前國筑紫郡太宰府町の大字。古は有智山に作る。龍山の山中に在り。船水は南流して筑後川に入る。内山館址は少貳氏の館址なり。源頼朝武藤小次郎を太宰少貳に任ぜしより、子孫此所に居り、少貳を氏とす。建武三年菊池武俊三城渡にて少貳頼尙を破り、其父貞經入道妙善を宇智山館に圍む。貞經等百餘人悉く戦死す。少貳政實に至り永正年中筑前水城にて戦死す。少貳武亡ぶ。有智山寺址は、龍門山の條に收む。

ウチヤ

津市へ一〇里一〇町鳥羽町へ三二里八町。豊受大神宮は外宮と稱し山田町の南端に在り。豊受大神を祀り、瓊々杵尊天兒屋根命天太玉命を配祀す。雄略天皇二十二年の創建にして、皇大神宮に後る。四百八十二年、多賀宮、土宮、月讀宮、風宮を四所ノ宮と呼び其他攝社十六、末社八座あり。境内は八十一町の廣さに互る。重なる建物は、神庫九丈殿、五丈殿、遙拜所第四御門、第三御門、蕃垣御門、玉串御門、瑞垣御門、東寶殿、西寶殿、正殿、嘉御門、外幣殿、御饗殿、内宮遙拜所、長館等とす。皇大神宮は内宮と稱し外宮と相距る約一里。宇治町の南端五十鈴川の上流に在り。天照皇大神を祭り、天手力男命萬豐秋津師姫を合祀す。崇神天皇の時までは宮中に奉祀せられしが、天皇其神威を瀆がさんことを恐れ、大和の笠縫里に移し給ひ垂仁天皇の時神護に依り、社を此地に移し、倭姫命奉齋し給ふ。境内荒祭宮、月讀宮、伊佐奈岐宮、伊佐奈美宮、瀧原宮、伊雜宮等の別宮、攝社二十五座末社十六座あり。重なる建物は、一殿、申貴殿、酒殿、忌火屋敷、板垣御門、玉垣御門、四丈殿、玉串御門、正殿、東寶殿、西寶殿、外幣殿等とす。農業者は外宮神苑の前に在り、豊受大神宮の神徳に因み明治二十四年建設す。館内五部に分れ、更に二十四類に別つ。附屬工藝館あり。林崎文庫は山田岡本町に在り、慶安元年の創建。今宮崎文庫と改稱し神宮司廳の所轄に屬す。藏

ウツ

書數二〇五八四冊。光院址はもと尼寺にして近世権門の女を乞ひて寺主とす。戦國の時神宮の遷宮を行ふ能はざりし時、此寺の勸進により之を勸行せし事あり。今神宮祭主の官舎となる。菩提山は本地垂迹の教により、起れる神宮の佛寺ありたり。聖武天皇の頃より起るといふ。芭蕉の句に、神垣や思もかけず涅槃像。寂照寺は宇治中の町に在り。安永年中僧月仙來住す。月仙丹青の妙を極め其名甚だ高し。明治十四年火を失し、堂宇遺蹟皆焼失す。光明寺址は岩淵町に在り。聖武天皇天平十四年の開創。寛文中再興。後荒廢す。寺内に後白河院塔、北畠顯家塔、結城宗廣塔及僧月波の墓あり。

ウツ

ウツウラ(湯浦) 【愛媛】伊豫國越智郡の村。白三三。

ウツ

ウツツ(内津) 【愛知】尾張國東春日井郡に在りし村。明治三十九年神坂村と合し坂下村となる。美濃國に接する山間の小邑なれども、下街道名古屋より美濃多治見に通ず。の要路に當り、商業行はる。郵便局あり。縣社内、神社あり。建船種命を祀る。日本武尊尾張に還向の時命馳河海にて薙せし事を此地にて聞き給ひ、現なる哉と嘆ぜられしに因みしと言傳ふ。地名も亦此より出でしなり。中古之を妙見宮と混ぜり。村の北端を内津山と呼ぶ。山頂に内内神社の奥ノ院あり。大石を鑿ちて石燈とす。其だ險なり。山の北東は美濃國可兒郡池田村にして、此所には霧降る日多く、此山には常に風吹きて快晴なり。俗に池田の朝霧内津の夕嵐といふ。

ウツノミヤシ(宇都宮市)【栃木】下野國の市。當國第一の都會にして、河内郡の中...

秀行十八萬石、慶長六年會津へ移封、八年まで大河内金兵衛城代、慶長八年奥平...

一向寺、時宗宇都宮氏の菩提所、興禪寺(臨濟宗)外和尙再興、慈光寺(淨土宗)宇都宮成綱開創...

ウツサ(内房)【靜岡】駿河國庵原郡の村。郡の東北隅にして、富士川の岸に居...

島は十六善神影向の地なりと稱す、按ずるに海濱を取て露うらふりに乾せば、打振ひ海苔といふて、だみ聲にウツツル...

所にして京都第一の古蹟とす、當寺安置の佛像著名のもの甚だ多し、藥師堂の觀音は推古天皇十一年百濟國より獻納せ...

ウツモチ(打戻)【神奈川】相模國高座郡御所見村の大字、式内宇都母知神社あり...

ウツエチ(内越)【秋田】羽後國由利郡北内越村の大字、由利十二黨の一人打越左近の居館址あり...

ウツベ(内部)【三重】伊勢國三重郡の村、白三云々...

ウツミ(内海)【愛知】尾張國知多郡の町、知多半島の西南海岸に在る一市街にして、船舶の伊勢志摩に往來するもの多...

ウツラ(鶺鴒)【北海】渡島國檜山郡厚澤郡村の大字、上磯郡に通ずる山道(鶺鴒)の麓なり...

ウツサ(宇都邑)【滋賀】近江國蒲生郡の村、八幡町の東に接し、縣立商業學校あり、又鐵道東海道線の八幡驛此所に在り...

ウツマ(太秦)【京都】山城國葛野郡の村、應神、仁徳二帝の頃、韓國通王秦百二十七縣の遺民を率ゐて歸化し、諸方に...

ウツメ(雲水峯)【磐城】田村、石川二郡の界に在る山、正平年中北畠顯信、顯家...

ウツメ(雲水峯)【磐城】田村、石川二郡の界に在る山、正平年中北畠顯信、顯家...

ウツメ(雲水峯)【磐城】田村、石川二郡の界に在る山、正平年中北畠顯信、顯家...

ウト(免紙) 【大阪】和泉國舊日根郡の舊地名。今泉南郡東島取村の地なり。

ウト(有度) 【静岡】駿河國安倍郡の村。白七。

ウト(編戸) 【宮崎】日向國南那珂郡の村。油津の北三里なる海村にして、日向灘に面し、其海岸は奇岩併立、波濤之に激し、奇觀を呈す。二柱石、御船石、扇石、夫婦石等あり。近傍は上古の陵墓遺蹟各所に散在す。官幣大社、神宮は鶴鶴草葦不合尊を祀る。社は鶴鶴草といふ巖窟中に在り。尊の降誕ありし地と言傳ふ。窟は東西二十一間、南北十六間、社より三、四町登れば絶巖に古陵あり。尊の吾平山陵なりといふ。白三。

ウト(ウナウラ) 【香知島七浦】 【新潟】佐渡國佐渡郡鹿伏より北戸地までの舊稱。今の相川町、金泉村の地をいふ。鹿伏に善知鳥明神の祠あり。

ウト(ガワ) 【荒砥川】 和泉國男里川の古名。

ウト(ガワ) 【出生森】 陸前國仙臺市の西に時つ丘高九九〇尺に過ぎざれども完全なる圓錐形を成し、山側の傾斜頗る急にして三五度一四〇度を示す。是れ蓋し一の火山岩頭にして、第三紀凝灰岩中に噴出し、其後周囲の岩石浸蝕作用の爲に除かれ、此のみ残れるものなり。其岩石は板狀節理あり、綠色若くは褐色なる變朽富士岩なり。一に太白山に作る。

ウト(ガワ) 【編戸川】 【山形】 羽後國飽海郡の村。酒田町の東南に接す。舊稱を飽

海といふ。即ち和名抄飽海郷の地にして、郡家のありし所なり。白三五。

ウト(有度) 【静岡】 駿河國に在りし郡。大略静岡以東三保崎の邊より高草山に至る海濱の地を占めたり。和名抄は字止と註し、内屋直壁、他田新居、託美、菅美、倉星の七郷に分てども、其地今探知すべからざるもの多し。明治二十九年廢して安倍郡に合す。

ウト(ウナウラ) 【熊本】 肥後國十二郡の一。國の中央より西に斗出せる半島地なり。四境東は飽託、下益城、二郡北は島原、南は八代海、西端大矢野島、天草郡と相對する所。三角海峽を成し、以て兩海を連絡す。東西六里、南北三里二三町、面積九方里、行政上、宇土、三角の二町及花園、藤原、川網津、網田、浦大嶽、松合、不知火、戸馳(戸馳は島地なり)の一〇村に分ち、郡役所を三角町に置く。長久保、八口、三、地勢地形狹隘、自岩山、田代山、大岳等中央に連互して、半島の脊梁を成し、地勢自ら二に分る。島原海に面する所を北浦といひ、八代海に面する地を南浦と呼ぶ。陸路は南浦を通じ、鐵道は北浦より半島を横斷し、南浦の際崎に至る。是より三角浦に延長し、相合せんとする計畫あり。三角は縣下第一の要港にして、今特別輸出港たり。有名なる不知火は本郡よりも亦望むを得べし。不知火村、高良の地を最もよとす。産業の主なるものは農

多額なり。海邊の民は漁業に従事す。主要物産は農産米六萬石、麥三萬石、大豆、小豆、粟、蘿蔔、糖、柑、橘、類、繭、水産五萬圓(エナを主とす)。工業は網田の陶器、あれど産額多からず。宇土の名は初めて三代實錄に見ゆ。和名抄は藤原、櫻井、林、原、大宅の四郷を載す。但し後世郡城亂れ、東部今の松崎町、當尾村、は下益城郡に入り、西部天草郡波多郷の一部は却て本郡に入る。今の三角町、戸馳島はなり。

ウト(ウナウラ) 【熊本】 肥後日向二國の境に斗出する岬名護屋岬と對して海を擁す。

ウト(有度) 【大阪】 播磨國三島郡五領村の大字。上牧の南約一〇町に在り。東は淀川に臨み、西に池塘あり。此堤上に生ずる芦は、製紙の舌に可なりとて、昔より名高し。●(三重) 紀伊國南牟婁郡の村。無音川(熊野川)の河口に在る小邑にして、新宮町と相對す。吉野地方より流下する木材の貯場なり。郵便局あり。白三五。

ウト(ウナウラ) 【北海】 日高國樺皮郡樺皮町の大字。浦河郡界に接す。

ウナ(ウナウラ) 【長崎】 對馬國上縣郡に在りし村。明治四十一年仁田村に入る。

ウナ(ウナウラ) 【雲梯】 大和國高市郡に在りし村。高市村の雲梯に在りしとも、高市村の高市森に同じとも、鴨公村の鴨公森と同じともいひ、諸説定まらず。

ウナ(ウナウラ) 【宇奈別】 【北海】 北見國知床半島の基點、根室國目梨郡界に時つ山海抜四六二〇尺。

ウナ(宇納間) 【宮崎】 日向國東臼杵郡北郷村の大字。門川の支流に沿ひ、宇納間嶺を以て西郷村の田代と相隣す。郵便局あり。明治十年の役官軍田代より此地に出で、延岡地方に進撃せり。

ウナ(宇波) 【富山】 越中國水見郡の村。和名抄の宇波郷の遺稱にして、能登國に近き海村なり。郵便局あり。此邊セメントの原料を出す。原石を焼き、粉末にしたるまゝにて直に川へ流し、白三五。

ウナ(烏沼) 【岐阜】 美濃國稻葉郡の村。各務野の東端、木曾川の北岸にして、尾張國丹羽郡犬山町と相對す。中山道の一要驛なり。岐阜を距る東四里二九町、郵便局あり。鶴沼は古ウラマと呼び、渡津なり。藤川記に、「東路にうるまの清水名をかへば、しらじなびにたつ市人」とあるは是にして、又藤原仲文集に、「行かよひ定め難きは旅人の、心うるまの渡なりけり」と詠めるも、此所なりといふ。承久三年官軍の一隊、此所を渡る。古刹大安寺は應永十八年、榮堂和尚開基。寺西に麻糍

池あり。俗に此池と尾張國中島郡赤池と地下にて其水相通ふといふ。白四七。

ウネ(有年) 【兵庫】 播磨國赤穂郡の村。千草川に跨り、中國街道の驛次にして、坂越、赤穂の通路に當り、街道は直に西有年梨ヶ原を経て、船坂峠に懸り、人家は多く此山中に在り。有年停車場は河の東に在り。線路は大に北に迂回し、山ノ里より梨ヶ原に出づ。郵便局あり。此地は赤松範資の三男直頼の領にして、直頼は有年を氏とし、又本郷氏といへり。六道山邊照院、址あり。白三五。

ウネ(有年川) 播磨國千種川の一名。

ウネ(ウナウラ) 【那根倉嶺山】 陸前國和賀郡湯田村字元屋敷に在る嶺山。黒澤尻驛及横手町を距る各二里。明治四十二年、使用鐵夫八八人、女工三六人、採礦高二八、五五、一二、製品荒銅一二、五六、八二斤、價格三萬六千圓(本邦礦業一症)。

ウネ(ウナウラ) 【奈良】 大和國高市郡白樺村の大字。畝傍山四近の總名なり。畝火、雲飛字、神祇にも作る。官幣大社、權原神社あり。明治二十三年創立。神武天皇及皇后、緩踏躰五十餘姫を祀る。本社は舊皇居の内侍所、拜殿は神嘉殿を賜はりしものとす。地は神武天皇の皇居權原宮の址にして、現今境内に千鳥池、御階等の名存す。又畝傍山に神武天皇の御陵あり。一町を距て、懿德天皇の御陵あり。

ウネ(ウナウラ) 【大和國高市郡白樺村の中央に隆起する山。香久山、耳成山と

平野の間に聳立し、相距る各一里。此を大和の三山といふ。此山雲母安山岩より成り、層狀を呈す。土俗慈明寺山といふ。山上畝傍社あり。神功皇后を祀る。其宮寺を慈明寺といふ。西麓に社の舊址あり。今御旅所といふ。毎年攝津住吉神社より神官を派遣し、祭儀の後此山の土を取る舊例あり。畝傍山北麓は神八井耳命、緩踏天皇の皇兄の墓なり。大字山本に屬す。今御陵山といふ。陵邊の小祠を岩井耳といふ。或は緩踏天皇陵に擬す。畝傍山東北麓は神武天皇の御陵なり。本陵は後世其所を失ひ、元祿の頃神武田の字に據り、古家を搜り、前王廟、陸記大和志等首唱して帝陵とす。官途に之を神武陵と定め、明治十年車駕行幸、陵前に拜告せらる。

ウネ(ウナウラ) 【愛知】 三河國碧海郡に在りし村。明治三十九年上郷村に入る。

ウネ(ウナウラ) 【群馬】 上野國佐波郡の村。白三五。●(三重) 伊勢國三重郡内部村の大字。和名抄采女郷の遺稱。城址あり。元久より永祿まで後藤實基の子孫居る。

ウネ(ウナウラ) 【備後國御調郡に在る山。一に畝山に作る。世羅郡に跨る。山頂まで二五町。山頂を鴉が丸と呼ぶ。樹木なく、伯耆出雲の地を望むべし。

ウネ(宇野) 【奈良】 大和國宇智郡宇智村の大字。保元物語に見えたる宇野七郎親治の居りし所なり。●(三重) 伊勢國員辨郡笠田村の大字。戰國の頃宇野部氏の居りし所といふ。●(鳥取) 伯耆國東伯

飯岡、山田、松岸の四郷を置き、鏡子縣に終る。産業は農を主とし、海濱の民は漁業に従事す。工業品は鏡子の醬油一六四萬圓を第一とす。鏡子縮布は近年産額多からず。農産物は米六萬石、麥三萬石、大豆、落花生、甘藷(一四萬圓)、蘿蔔、茄子、菜種、(二二萬圓)あり。林産物は用材五千圓、薪炭材二萬圓、漁獲物五〇萬圓、鰻、鱈、鮫、鯛、鱒を主とし、水産製造物は鰻節、鰻、鰻、鮓を主とし、工業は織物、鐘計あり。海上は古事記に菟上に作る。上古は一國を成し、國造を置きし事、國造本紀、應神天皇の條に見ゆ。但し上總國にも海上國あれば、下字を冠して、彼と區別したり。和名抄は宇奈加美と註し、大倉城上麻、布方、經部、神代、編玉、小野、石田、石井、桶川、横根、三前、三宅、船木の一五郷を載す。其大郡たりしこと想ふべし。後世石井、横根、三前、三宅、船木五郷の外、悉く香取郡に入る。●(千葉) 上總國に在りし郡。何時の頃よりか市原郡に入る。境域詳ならず。されども、概ね養老川を二郡の界とし、海上は川の南一帯を占めたるもの、如し。和名抄宇奈加美と註し、佐三、稻庭、大野、山田、倉橋、福長、鳴穴、鳥穴の誤なるべし。馬野の八郷を載す。海邊なれば早く開けしものなるべし。

ウナ(ウナウラ) 【薩摩國指宿郡山川村に在る池。周圍三五町。其傍に熱湯及湯瀧あり。開閉岳の噴火作用に因て生じたるものにして、池は舊噴火口なりといふ。

ウナキ

官幣中社梅宮神社は大字西梅津に在り。嵯峨皇后橘氏の勳請に係り、其祖神四座(酒解神大若子神小若子神酒解子神)を祀る。酒造家の信仰厚し。又皇后本社に祈りて仁明天皇を産み給へるを以て、今も妊婦は當社の土砂を佩びて平産を祈るもの多し。合三三。

ウメツ(梅津) 【新潟】佐渡國佐渡郡加茂村の大字。夷町の北に接す。舊保名にして中古津谷氏の邑といふ。又一説に欽明紀に載する齋慎人の侵掠せし萬武は即ち是にして、梅津は萬武津の訛なりといふ。此地に苦梅とて、花は淡紅にして、青苦幹を包み、落花の後苦中より又花を開く異種あり。順徳天皇の御手植と言傳ふ。ウメド(梅戸) 【三重】伊勢國員辨郡井村の大字。天正年中梅戸高實の居りし城址あり。梅戸は伊勢軍記に記せる梅津氏の事なるべしといふ。

ウメドイ(梅戸井) 【三重】伊勢國員辨郡の村。合三三。ウメバヤシ(梅林) 【熊本】肥後國玉名郡の村。合三三。ウメハラ(梅原) 【埼玉】武蔵國兒玉郡金屋村の字。兒玉町に接したる地にして、古墳多し。古來百塚と稱し、今尙四十餘を存す。其多くは丸塚なれども、瓢形のものも二箇ありといふ。一に埋原に作る。●【群馬】上野國邑樂郡梅島村の大字。上野志云、元應の頃梅原九郎次郎時信といふも佐賀氏なり。其田山日記に見ゆ。

ウメハラ(梅原) 【埼玉】武蔵國兒玉郡金屋村の字。兒玉町に接したる地にして、古墳多し。古來百塚と稱し、今尙四十餘を存す。其多くは丸塚なれども、瓢形のものも二箇ありといふ。一に埋原に作る。●【群馬】上野國邑樂郡梅島村の大字。上野志云、元應の頃梅原九郎次郎時信といふも佐賀氏なり。其田山日記に見ゆ。

ウヤナ(宇野) 【熊本】肥後國八代郡の村。球磨川の河口に近し。もと相良氏の船津にして、球磨山中木材の集散地といふ。元和中加藤正方の夢島城地震の爲に崩壊せしかば、新に今の八代城を築き、其村を相良氏の球磨山中に需む。相良氏之を請ひ、代償として此地を其藩の船津に借用し、遂に假屋を設けといふ。合三三。ウヤマ(宇山) 【大阪】河内國北河内郡牧野村の大字。延暦二十一年阪上田村麻呂の蝦夷二酋を斬りし植山は此地ならんといふ。

ウヤムヤノセキアト(有也無也關址) 陸前羽前二國境なる關址。笹谷峠に在りといふ。和歌の名所なり。無也觀音堂は陸前の方に、有也觀音は羽前の方に在り。一説には羽後國由利飽海の郡界、三崎峠に在りといふ。

ウヤウヤ(宇野) 【北海】日高國靜内郡の村。もとウララと云ひ、霧の義なり。一説、連續の義にして、古蝦夷の家連續せしより名くといふ。ウララ川あり。合三三。ウラ(浦) 【兵庫】淡路國津名郡の村。もと此邊松帆浦の續きにて、松帆浦村といへるを、後世略して浦村と稱するならんといふ。合三三。●【新潟】越後國三島郡に在りし村。明治三十四年來迎寺村に入る。●【熊本】肥後國天草郡の村。合三三。ウライシガワ(浦石川) 【北海】北見國に

ウヤムヤノセキアト(有也無也關址) 陸前羽前二國境なる關址。笹谷峠に在りといふ。和歌の名所なり。無也觀音堂は陸前の方に、有也觀音は羽前の方に在り。一説には羽後國由利飽海の郡界、三崎峠に在りといふ。

ウラウ(浦) 【北海】石狩國樺戸郡の村。月形村の北に接し、地勢西に高く、東に低く、卑濕の地に於て、沼澤多し。徳島團體高知團體等の農場あり。アイヌ語ウラナイ(笹川の義なり)。合三三。ウラエ(浦江) 【大阪】攝津國西成郡葛洲村の大字。村の中央にして、大阪梅田停車場の西八町に在り。享祿四年細川常植此所に陣し、播州勢の援を得て、細川晴元を堺浦に攻め、大敗せり。又元龜元年織田氏三好黨を討つ時、將軍足利義昭を此所に奉ぜり。中島城と稱す。

ウラガ(浦賀) 【神奈川】相模國三浦郡の町。横須賀軍港の南一里三二町。觀音岬千代ヶ岬の間なる一灣に臨む。徳川幕府の頃此地に番所を置き、江戸海出入の船舶を監査し、當時頗る繁盛なり。警察分署、郵便局等あり。近年造船工場を起し、船渠を設けたり。合三三。浦賀港は口幅約一里半水深四尋乃至六尋、港内狭少なれども、吃水九呎以下の最良泊地なり。此港は奥所更に狭少にして、其岸邊に港市あり。港口の南角を平根山といひ、此所に舊形の常夜燈臺あり、破損すれども、今尙存す。港の東側なる斷崖を明神崎といひ、其東に鳥ヶ岬あり。此所より東北觀音岬に至る海岸は、地勢起伏し、其砂濱

ウラウ(浦) 【北海】石狩國樺戸郡の村。月形村の北に接し、地勢西に高く、東に低く、卑濕の地に於て、沼澤多し。徳島團體高知團體等の農場あり。アイヌ語ウラナイ(笹川の義なり)。合三三。ウラエ(浦江) 【大阪】攝津國西成郡葛洲村の大字。村の中央にして、大阪梅田停車場の西八町に在り。享祿四年細川常植此所に陣し、播州勢の援を得て、細川晴元を堺浦に攻め、大敗せり。又元龜元年織田氏三好黨を討つ時、將軍足利義昭を此所に奉ぜり。中島城と稱す。

ウラカ(浦加) 【高知】土佐國南河内郡の村。高知市の咽喉に當り、國中第一の要港なり。龍頭岬香川郡より東に出で、種崎長岡郡より西に出で、海口を擁し、海水北に入る。三浦左右より東に孕、西の兩岬出で、狭口を成し、更に其北の方一渾許の鹹湖を作る。之を吸江といふ。江狀に似て中央窄小なり。浦戸灣

ウラカ(浦加) 【高知】土佐國南河内郡の村。高知市の咽喉に當り、國中第一の要港なり。龍頭岬香川郡より東に出で、種崎長岡郡より西に出で、海口を擁し、海水北に入る。三浦左右より東に孕、西の兩岬出で、狭口を成し、更に其北の方一渾許の鹹湖を作る。之を吸江といふ。江狀に似て中央窄小なり。浦戸灣

ウラカ(浦加) 【高知】土佐國南河内郡の村。高知市の咽喉に當り、國中第一の要港なり。龍頭岬香川郡より東に出で、種崎長岡郡より西に出で、海口を擁し、海水北に入る。三浦左右より東に孕、西の兩岬出で、狭口を成し、更に其北の方一渾許の鹹湖を作る。之を吸江といふ。江狀に似て中央窄小なり。浦戸灣

ウラカミ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカミ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカミ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカミ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカミ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウラカ(浦上) 【長崎】肥前國西彼杵郡の舊地名。長崎市の北郊とす。今西浦上村浦上山里村となる。浦上瀧村は今長崎市に入る。古來耶穌教に著名の地にして、徳川幕府の禁令嚴峻なるにも拘らず、密に之を奉ずる者あり。相傳へて明治二年に至りて無端發覺し、大獄を起せし事あり。又此地に聖山とて、一小丘中に十字架の立てるあり。形狀耶穌の刑死せるセントヘルに似たりとて此名あり。往時基督教徒二十四人の磔殺せられし、此後

ウワンノハラ (上野原) 越後國北蒲原郡に在る原。保田驛の東北より大室村に至る方一里許の高原なり。樹木叢生し、林中に陶器瓦を製する家多しといふ。

ウワフネ (上船) 【長野】信濃國上伊那郡赤穂村の字。天文軍記に波部に作り、土俗單にワフネと呼ぶものあり。駒ヶ嶽の東南なる原野にして、牛馬の牧場あり。

ウワフネ (上船) 【鳥取】因幡國岩美郡の村。郡の東南隅にして、但馬國に接し、袋川の一支源なる山谷を占む。合七六。

ウワンガンジ (雲岩寺) 【栃木】下野國那須郡須賀川村の大字。臨濟宗雲岩寺は廣く八溝山の麓を占め、古は堂宇宏壯、衆徒千人を容れ、寺領二萬石あり。筑前の聖福寺越前の永平寺、紀伊の興福寺と並稱して、本朝の四道場と仰がれしが、天正十八年豊臣氏關東を平定せるとき、焼夷せらる。妙徳禪師之を再興し、徳川家光に至り寺領百五十石を給し、法燈連稱今日に及べり。寺内に佛國師の墓あり。

ウングツトウケ (雲月峠) 山城國葛野郡の北に在る峠。

ウンセンガミネ (雲山峯) 和泉紀伊の境に在る山。一に雨ノ森といふ。葛城山脈の最高峯にして、舟人の目標となる。

ウンゼンタケ (温泉岳) 肥前國南高來郡(島原半島)に踞る活火山。阿蘇噴火脈の西端に位し、前山三五〇〇尺、普賢岳四八〇〇尺、妙見山(四五〇〇尺)、矢岳(三七〇〇尺)、高岩(一八〇〇尺)、青雲山(三

一七〇尺)等の高嶺横立して、鋸齒狀を成す。其中央には南北約七町、東西約三町の凹池(海拔六八〇尺)ありて、大地獄小地獄の二所に温泉及硫黄噴出。大地獄には噴口二十あり。小地獄は唯一つあるのみ。而して吾妻、普賢、妙見の諸山は舊噴火口の外輪にして、吾妻山の南なる田地、普賢岳の西麓なる長者屋敷等の平地は、舊噴出口の内部なる凹地の遺蹟なるが如し。諸山を構成せる岩石は、我邦内地に稀なる一種特異の角閃安山岩にして、白石、長石、黒色角閃岩或は黒雲母の巨晶を以て斑點せられ、灰色黝色或は赤褐色を呈し、花崗岩の如き外觀を有す。大地獄小地獄に在るものは角閃石及雲母等の基性物分解し、白色にして孔隙を有する珪質岩に變じ、周囲のもの全く其質を異にす。此山の劇烈なる噴出は寛政四年正月十八日に在り。普賢岳噴動泥土を噴出し、二月四日より三會村の内穴道谷崩壊して煙を吐き、次で二月二十九日鮮窪の地、噴煙を始め、鳴動次第に強く、夜間峯頭に火焔を望むに至りしが、三月朔日より地震漸く強く、四月朔日島原に近き前岳崩潰し、海水漲りて市街を襲ひ、城下人家悉く流失し、死人一萬五千、牛馬の斃死五百頭といふ。其災後後地方に及び、死者五千人に及び、地勢亦一變し、海上に百餘の島嶼を現出し、相擁して今島原灣を成す。温泉は西の山腹約二千一百尺の所に在り。延暦湯、明治湯の二區

四源あり、硫黄泉にして無色透明。温度一五〇度乃至二〇〇度皆差あり。其南に金華湯あり、諸泉疥癬金創等に効ありといふ。近年洋館の設けありて、外人の來遊する者漸く多し。又近年噴火孔及破裂に因りて成りし山頭の裂罅に、蠶種を貯蔵するものあり。之を蠶種貯蔵の風穴蔵といふ。氣温寒冷、四時凍氷ありて貯蔵に適す。温泉岳の南面中腹に、前年綿羊を放牧せしことありしが、死滅せしもの多きを以て、其羊を放棄せしに、其生存せるものより漸次繁殖し、今野生の綿羊あり。

ウンチヨウ (荻堂) 【沖繩】「荻堂」を見よ。

ウンテン (運天) 【沖繩】琉球國國頭郡今歸仁村の大字。舊番所の所在地なり。其港は琉球第一の良港にして、那覇、場天、阿護、舟浮と合せて琉球五港と稱せらる。然れども那覇及首里に隔絶せるを以て、船舶の出入多からず。水路誌云、港は謝名灣の西北約八里に在り、港門の右に運天嶼あり、左に古宇利島あり、港内南東に屋我地島あり、以て入港水道をなす。港内水深十五、六尋乃至四尋にして、能く四方の風を防ぐと雖も、最狭所は幅漸く一鏈に過ぎず、小船は四五隻に入るに足るべし、井及泉あり、清水多量にして、且つ運搬に便なり。其他島の家畜あれども得難し。運天の稱は源為朝が此地に至るとき、洋上風風に遇ひ、運を天に任せ、此所に漂着せるより出でたといふ。如何にや。此地良港を控ふるを以て、嘗て首里城

を名護に移し、屋加川より二里餘の運河を開き、此港を利用するの議起りしことありといふ。港邊の一丘に二塚あり、琉球國志略は之を山北王の墓とし、土人は百按司の墓と呼ぶと記す。

ウンドウ (雲洞) 【新潟】越後國南魚沼郡三和村の大字。名刺金城山雲洞あり。此寺は越後四大寺の一にして、規模宏壯、俗に養老年中藤原房前が先妣追福の爲め草創せるものといへど、應永年中上杉憲實の創立なりといふ。説信に近し。永享元年曹洞宗第一世顯慈開基。上杉氏代々の菩提所なり。憲實一時此寺に遊れ、雲洞菴長棟と號せり。什寶中に鼠足机といふあり。在時此寺に一大怪風、樓を崩し、老翁之と戦ひて遂に殺す。其四足を机の足となすと傳ふ。

ウンナ (恩納) 【沖繩】「恩納」を見よ。

ウンノ (海野) 信濃國小縣郡上田町附近の稱。千曲川の左右に跨る平地なり。俗に海野平といふ。海野は和名抄童女那の轉訛にして、往々字野に訛るものあり。天文十六年長尾景虎十八歳武田晴信(二十七歳)初めて此地に合戦あり。

ウンノクチ (海口) 【長野】信濃國南佐久郡南牧村の大字。千曲川の上流に沿ひ、甲州若御子路の山驛なり。警察分署郵便局あり。海とは松原湖の謂にして、海の尻といへる地に對して、甲州より入口に當れば、此地名起れるならんといふ。天文五年平賀源心と甲州勢との古戦場なり。

ウンベ (海邊) 【北海】日高國樺皮郡樺皮村の字。アイヌ名フンベ。古の運別夷部、運別金山の地なりといふ。

ウンベンジャマ (雲邊寺山) 阿波國三好郡佐馬地村の北嶺。讃岐國に跨り、高三六〇〇尺。山中に眞言宗雲邊寺あり。延暦八年弘法大師開基といふ。十一面觀音を安置し、有名なる四國の靈場なり。山上は遠望甚だ佳なり。天正五年長曾我部元親の大西を取るや、白地に城を築き、雲邊寺に至り、四州を眺め、驚歎の心禁する能はず。寺僧に問ふて曰く、我輩讚を徇へんと欲す如何僧曰く、侯矣爲れぞを以て多を制せんとする。侯は土州の主なり、何ぞ四國に遠ぶべけんやと元親釋ばす。

ウンリン (雲林) 【臺灣】斗六街の舊稱。初清の光緒十二年雲林縣を立つるや、沙連堡林圯埔の土名雲林坪の地に城壁を築き、雲林坪の名に因みて雲林城と呼べり。然るに毎年濁水、清水の二溪氾濫し、交通屢絶するを以て、十九年更に南方四清里の斗六に縣城を移し、尙舊稱を襲用して雲林城といへり。我領に歸するの後、改めて斗六街とす。故に雲林なる稱は今の林地埔街及斗六街兩地に當る。

は二見浦とす。内宮攝社の一なる江神社あり。又大江寺とて觀音の靈地あり。

エアイガワ (江合川) 陸前國に在る川。水源玉造郡荒雄岳の東麓其北を繞りて西麓に出で、此より東南流して鬼首嶋子等の諸温泉場を過ぎ、岩手山町に出づ。此間は兩岸概ね第三紀層の丘陵地にして、流速、荒雄川と呼べる。岩手山町邊よりは第四紀層の平原を灌漑し、古川町の北を經、小牛田、涌谷を過ぎて和瀨川に至り、北上川に合す。流程二〇里。古名を玉造川と呼び、和歌の名所なり。

エイ江 (江) 【兵庫】淡路國津名郡の村。郡の西に接せる小灣を江井浦といふ。港灣北に開き、江井崎之を擁し、帆船の碇泊に適す。此海濱は漁利甚だ多く、殊に鮪壺を以て鮪を捕ふること盛なり。往時は鮮須賀侯邸を置きしことあり。又天文年中柳澤氏の籠りし城址あり。合五五。

エイ嶺 (嶺) 【鹿児島】薩摩國指宿郡の村。郡の西南なる海村にして、開聞崎の西北陰とす。山川驛の西北四里三〇町。郵便局あり。菜種、黃楊樹及馬を産す。馬は下方馬と呼び、著名なり。嶺城址は大字郡に在り。野首又獅子城と呼ぶ。初川邊氏の一族、嶺姓氏居り、後島津久豊居城す。國人南殿と呼ぶ。久豊日向に移るに及び、嶺姓氏の一族を置き、後肝付氏の庶流あり。天正以來島津氏の直領となる。合三、五、七。

エイガシマ (江井島) 【兵庫】播磨國明石郡大久保村の大字。海岸稍突出して岬狀

を成す。古の船瀬の築島なり。此地もとて海島にして、僧行基の築く所なりといふ。明石の當津より西一里半。

エイケン (嶺姓郡) 【鹿児島】薩摩國に在りし郡。今の指宿郡の西南部なり。和名抄は嶺姓開闢の二郷を載す。新町村制定の際、嶺姓の一村となり。明治二十九年指宿郡に合す。

エイコウリ (永康里) 【臺灣】臺南府の東方より東北に亘る一區。蘭人鄭氏の時代より風土開拓せられ、鄭氏の時里とし、清の光緒十四年上中里下里の二に分つ。

エイシヨウ (永昌) 【長崎】肥前國北高來郡北諫早村の字。長崎大村街道の一驛。諫早町の西に接す。大村町三里一四町。

エイセイリ (永晴里) 【臺灣】恒春廳管下の一區。宜化里の東方に連り、北西に老佛山(二二〇尺)聳ゆ。初番人蚊率社の居りし所。清の雍正年中粵人之を開く。

エイタイバシ (永代橋) 【東京】武藏國「東京市」を見よ。

エイチ (永治) 【千葉】下總國印旛郡の村。合五。

エイネイリ (永寧里) 【臺灣】臺南廳管下の一區。新昌里の南方より二層行溪の北岸に至る海岸に沿ふ。蘭人鄭氏の時より既に開拓せられ、鄭氏の時立てり。清朝之を襲げり。

エイホ (英保) 【岡山】備前國和氣郡の村。三石驛の西北に當り、鐵道山陽線の吉永停車場あり。合三三。

エイホウリ (永豐里) 【臺灣】臺南廳管下の一區。歸仁北里の南に連り、鄭氏の時立てり。里とす。然れども悉く開拓せられしは清の雍正以來の事といふ。

エイメイ (永明) 【長野】信濃國諏訪郡の村。合五三。

エイワ (永和) 【愛知】尾張國海東郡の村。明治三十九年大井神島田千秋三村を合して新置。合五五。

エウチ (江内) 【鹿児島】薩摩國出水郡下出水村の大字。米津の西二里。黒瀬川に接せる海村なり。島津氏の祖惟宗忠久以降五世の居りし本陣城址あり。六世氏久に至り、鹿兒島東福寺城に移り、其支族和泉氏を此所に置けり。

エエンエ (恩) 【北海】十勝國河野郡に在る山。一にアエエン山といふ。高四一〇二尺。

エガ (蕙我) 【大阪】河内國中河内郡の村。合五二。

エガガワ (衛我川) 【大阪】河内國に在る川。南河内郡道明寺村邊にて大和川又は石川を稱す。承和八年志紀郡孝女衣縫氏女橋を築せる事、續日本後紀に見ゆ。

エガシラ (江頭) 【滋賀】近江國野洲郡北里村の大字。守山驛の北二里。琵琶湖畔の大邑にして、蒲生郡八幡町と守山驛との間に在り。郵便局あり。

エガノイチ (眞我市) 【大阪】河内國南河内郡道明寺村大字國府の舊稱。雄略天皇の時、藤田根命あり、贖罪の貨物を此地

エ

に露せる事日本書紀に見ゆ。
エカノナガノキタノミササキ 蕨我長野北陸。【大阪】河内國南河内郡道明寺村大字國府に在る。尤恭天皇御陵なり。
エカノナガノミササキ (蕨我長野) 【大阪】河内國南河内郡藤井寺村大字岡に在る。仲哀天皇御陵なり。
エカノモフシオカノミササキ (蕨我葦原) 【大阪】河内國南河内郡古市村大字響田の北に在る。應神天皇御陵なり。
エカマノセト柄鎌道門 安藝國豊田郡須波村と大佐木小佐木二島との間の水路暗礁多くして、舟行危険なり。
エガミ(江上) 【長崎】肥前東彼杵郡の村。白元五。
エカリ(江刈) 【巖手】陸中九戸郡の村。白元七。
エカルマシマ(越前島) 【北海】千島列島の一。占守郡に屬す。水路誌云、捨子古丹島の北西約四哩に在り、東西の長約四哩、幅二哩半、其間の海峡は絶て危険なし、島頂は其西側に偏在せる死火山(高三三九呎)にして、島内所々に温泉あり、此島には一隱岐なく、安全に近づき得べく、南東岸近傍水深十尋乃至十五尋、硬底の所に錨地を得べし、住民なし。
エガワ(江川) 【兵庫】播磨國佐用郡の村。白元六。
●英城 下總國結城郡の村。白元六。
●静岡 伊豆國田方郡藤山村大字中村の舊稱も、漢流の名より出づ。中世江川氏代々住せし所に、徳川幕末

に至り、江川氏出で、代官となる英龍最も名あり、嘉永六年英龍幕府に建議し、製所を造りしが、功成らずして卒し、子英敏安政六年再修し、終に大小銃砲數百門を造る。明治維新に至り、廢毀せられしが、今尙反射爐の瓦塔を鳴瀧入の地に殘す。塔は煉瓦造にして、高五丈八尺、基方一丈八尺あり。
●福岡 筑前國遠賀郡に在りし村。明治四十一年島嶼村に入る。
エガワ(江川) 筑前國洞海の水の山鹿浦にて外海に通ずる水道の稱。又加茂田川といふ。長八〇町、幅四五間より十數間。
エガワ(得川) 筑後國寶滿川の一名。
エガワサキ(江川崎) 【高知】土佐國幡多郡の村。白元六。
エギラ(江吉良) 【岐阜】美濃國羽島郡の村。竹々鼻町と連接し、市街の狀を成す。白元七。
エグサ(江草) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の村。白元六。
エグチ(江口) 【大阪】攝津國西成郡中島村の大字。神崎川の淀川本流より分る、所に在り、昔は西海の船京師に赴く時、此所より川船に乗替へしを以て、繁華にして遊女あり、今は農家僅に在りて、耕作の地なり。天文六年三好政長十川一存と此地に戦ひ敗死す。又元龜元年本願寺光佐此所を扼して、織田信長の上京を拒げり。
●新潟 越後國中蒲原郡に在りし村。明治三十四年大江山村に入る。
エグチ(江口) 攝津國に在る神崎

川の一名。
エカマノイチ(江隈ノ市) 【廣島】備後國菅品郡新市村を見よ。
エケウレウセグル(ヤマ) 【北海】膽振國有珠嶽のアイヌ名。輕石を切り出す神の義なり。噴火飛石の義より出づ。
エケサン(會下山) 攝津國神戸市湊川の西なる高陵。今陸道を穿て湊川を通ず。
エケサン(惠下山) 安藝國安佐佐伯二郡の境に在る山。檜杉の良材に富む。廣島縣下第一の森林なり。
エサキ(江崎) 【山口】長門國阿武郡田萬崎村の大字。山陰道の驛路にして、佛坂を除ゆれば石見國なり。郵便局あり。高山岬の東にして、一港を擁す。港口北に向ひ、幅一哩半、水深三四尋、港内狭隘なれど、よく四方の風を拒ぎ、小艦の泊地に適す。
エサキ(江崎) 淡路國松尾ノ岬の西南に連れる海崖燈臺あり。播磨灘より明石海峡に入る航路を標識す。燈高海上二五八呎、三等不動白色にして、晴天光達一七哩、位置は北緯三四度三分、東經一三四度五九分。
エサシ(江差) 【北海】渡島國檜山郡の町。北海道四海岸の都會にして、もと江指館指にも作れり。海面に突出して砂岬を成し、其鼻を津花岬といひ、市街其岸に沿ひ、東西七町、南北二五町。市街二七、檜山支廳警察郵便局區裁判所、稅務署等あり。又、神社、大宮の社あり。此地昔は松前ニ津の一に數へられ、今も渡島

西北岸及後志南部沿岸の物資集散地にして、商業活潑、北海道第三に位。殊に晩春、鯉漁の季節に至れば、労働者各地より群集し、賑賑を極む。明治元年、徳川幕府の脱兵開陽艦に曳じ、來りて此地を攻む。一夜風雨大に起り、開陽艦遂に破碎せり。港は西南に向ひ、東西二〇町、南北一三町。水深七尋、前に島を控へ、船舶之に沿ふて碇泊す。但し西風烈しき時は安全ならず。島に燈臺あり、不動白色にして、晴天光達九哩。管外輸出八〇萬圓、鯉大、肥料を主とす。輸入一八萬圓、米、雜物、肥料を主とす。船舶の出入は各一萬噸、一萬石に上る。福山溪へ四〇哩、函館へ八一哩、熊石港へ一八哩、小樽港へ一五〇哩。又陸路は、函館へ鶴越一九里、本古内越二二里、辰野九六、白元七。
〔文籍〕 江差川竹駒吉野書。
エサシ(枝幸) 【北海】北見國枝幸郡の村。枝幸山の東麓に在り、宗谷岬を距る東南二五里。警察分署、郵便局、漁業組合等あり。港は北海道北海岸屈指のものにして、附近に鯉の好漁場、砂金の産地を控へ、一年間輸出入品の價格九二萬圓に上る。又郡中の頓別、禮文、歌登へは通船を以て貨物を運送す。水路誌云、枝幸岬地は、近太古の北四四哩に在り、紋別と地勢相似し、僅に東方に斗出せる一角ありて、其傍に村落あり、此角は岩壁に圍繞せられ、此角以内は距離三哩の間、水深三尋より淺し、小船は角の南側距離一哩、水深二尋の所

に碇泊し得べし、流水は北乃至南東の諸風にて來り、南及西の風位を以て去る。其襲來は、大略一月二十四日頃にして、退去は三月十二日頃とす。又流水を見る期間は、最大六十九日、最小十八日にして、平均四十八日とす。白元五。
エサシカ(江刺家) 【巖手】陸中九戸郡の村。白元六。
エサシ(江刺) 【北海】北見國八郡の一。四境、東南は紋別郡、西南は天鹽國中川、天鹽二郡、西北は宗谷郡、北東は海廣一四里二五町、表一七里一五町、面積一七方里餘。宗谷支廳の所管にして、唯枝幸の一村あり。戸數三九七七。地勢、天鹽國境は山岳高峻なれど、北部頓別地方及頓別川の沿岸は概ね平坦なり。山岳には、頓別、ヒネシ、シラツツ、シラツツ、河川に頓別川、頓別川あり。驛路は海岸に沿ふて一線あり。枝幸港より紋別に至る二三里餘の海岸は、概ね沙濱にして、稀に斷崖を成す。近年頓別、頓別二川の間に砂金の産出多きを發見せるを以て、一時は採掘者の入込むこと夥しかりき。本郡は北に向つて傾斜し、氣候寒冷、交通不便なるを以て、未だ廣く開拓せられず。人口稀少、物産少し、農作物は馬鈴薯(一萬一千圓)を主とし、價格一千圓以上のものは、僅に裸麥、玉蜀黍、蕎麥、燕麥、菜種の數種に過ぎず。但し水産物は七萬圓あり、鯉、鮭を主なる漁獲物とす。砂金は宗谷郡と合して八二四匁を得たり。

エサシ(江刺郡) 【巖手】陸中十二郡の一。四境、東は上閉伊郡及陸前國氣仙郡、南は東磐井郡、西は膽澤郡、北は和賀郡、東西五里三四町、南北二里八町、面積二七方里八三町。行政上、岩谷堂町及愛宕羽田黒石田原、藤里、伊手、米里、玉里、梁川、廣瀬、福岡の一二村に分ち、郡役所を岩谷堂町に置く。戸數三九七七。地勢、本郡は北上山脈の西側北上川の東岸にして、郡内多くは山岳丘陵起伏し、平地は北上川沿岸に在るのみ。道路は、盛街、廣瀬、岩谷堂より來り、岩谷堂伊手を經て陸前國氣仙郡に通ず。生業の主なるものは農業にして、果實の産亦少からず、牧畜は、牛、馬、羊、大、大豆、粟、馬鈴薯、蘿蔔、芋、蘋果、蕎麥あり。畜産には牛、馬あり。林産物七萬圓、産物は、鐵(五萬圓)、工産物は、蠶絲あり。江刺の名は初めて承和八年紀に見ゆ。後往々江差郡に作るものあり。和名抄衣佐志と註し、大井、信農、由斐、橋井の四郡を載す。徳川時代は仙臺領たりき。
エサマン(ベツガワ) 【北海】日高國様似川のアイヌ名。蝦夷の義なり。
エサン(惠山) 【北海】渡島國の東南隅に在る火山。高二〇四〇尺、或一、九二〇尺。其脈延びて惠山岬となる。惠山はアイヌ語エシヤニ、高山の義なり。山の西腹に噴火口二あり、山下に温泉湧出するもの二所あり、孰れも酸性硫黄泉にして、皮膚病に効ありといふ。然れども僻地なれば、

完全なる浴場なし。水路誌云、惠山岬の直後に聳ゆる火山は、山嶺時々淡雲を帯び、其北面より絶えず蒸氣を噴出す。故に濃霧四塞して、岬角山峯俱に隱る。も、遠隔の地に達する硫黄の臭氣によりて、船位を了知することあり。山嶺の外側は、黒の岩塊を以て蔽はれ、西側には硫黄の斑點ありて、遠望するときは宛も白雪の如し。惠山の西北約一哩半に圓頂山あり、開口山といひ、高一八六〇呎。形惠山に類すれども、全面草包を呈するを以て、容易に識別し得べし。
エサンサキ(惠山岬) 【北海】渡島國の最東端なる一角。岬頭に噴火山(惠山)あるを以て名高し。海岸にトド岩、磯岩等の奇巖亂出。岬北は元根法華村にして、其東方に燈臺あり、燈は二等回轉白色。晴天光達一七哩。水路誌云、惠山岬は陸路なる高角の東端にして、津輕海峡東口の北角をなす。其背後に幾多の顯著なる圓頂山あり。此岬は高八七四呎の險崖なり。此岬の最東端に接して、一露岩と二千出岩ありといへども、陸路にして他に暗岩あるを認めず。岬の北角は崖地にして、其上に燈臺あり、是より北方の沿岸は岩礁沿布して危険なり。
エシマ(輪島) 淡路國津名郡松尾ノ岬の南東一哩半に在る島。高九間半、周圍四〇間。東北の方に東西一二間、南北約二〇間の平地あり。頂上に寶印、塔一基を安置す。崖は赤黄黒色をなし、浪に洗はれた

る所種々の畫文を作り、老松之に生じ、風景繪の如し。崖下に無數の岩礁散布し、金色を帯び、種々の名あり。古來輪島ノ磯、輪島ノ浦等稱し、多く詞藻に入る。さよ千鳥ふける浦に音信て、輪島か磯に月傾きぬ(千載集、藤原宗基)。明石瀉輪島をかけた見渡せば、霞の上も沖つ白浪(續古今集、俊成)。松に雪白きを後の輪島哉(嵯須賀至鎮、岩屋町の石屋神、社に伊非諾尊の古蹟なれば、輪島は即ち胞島にて、古の所謂暇取島なるべしとの説あり。但し仁徳天皇の御製に入れる、游能基、志摩は由良の西南なる沼島なるべしといふ。
エシマ(江島) 出雲國八東郡三子村に屬する小島。中海の東北に在り、周圍二一町、人口約四〇〇。伯耆國夜濱の岸を距る約二町、大根島を距る東北五町、地味肥沃なり。古名を蟻島といふ。
エシマ(トウ) 家島群島 播磨國飾磨郡に屬する群島。室津の南に在り。今家島村といふ。白元五。明治九年以前は、掛東郡に屬せり。其大なるものを、家島、男鹿島、坊勢島、西島とし、屬島二十餘あり。明石海峡の西、小豆島の東北十數哩の間に散在す。其風景陸前島の松島に似たるを以て、小舟を以て遊遊するものあり。之を島巡りと稱す。春夏の候最も佳なり。魚類、鮮且廉なり。家島八景は、宮浦夜泊、白鬚、洞窟、浦古城、天満、雪樹、赤坂、清水、櫻谷、霞景、榎崎、觀月、防勢、曉鐘なり。又天神

置きて、越後に屬せしめしが、五年に至り更に羽國を置き、田川以北を其管内とし、是に於て越後の境界初めて定まる。和名抄當時頭城魚沼三島古志蒲原沼垂、磐船の七郡あり。中世三島を刈羽と改め、古志の西部を分ちて山東と稱し、沼垂を廢して蒲原に合せ、磐船を瀬波と改めしが、寛文中諸國の地名を正せしとき、山東を三島とし、三島の舊地と誤りたるなり。瀬波を岩船に復す。明治十三年頭城を東西中に魚沼を南北中に、蒲原を東西南北中に分ちしを以て、今十五郡あり。越後は中古城氏の有たり。城氏は平維茂の裔なり。建仁年中長茂に至り誅せられ、佐々木盛綱軍功あるを以て、其子信實に國內を賜ふ。建武中興新田義親守國に任ぜられしが、延元年中足利尊氏上杉朝房を以て守護とす。足利基氏關東管領たるに及び、執事上杉憲朝を以て朝房に代ふ。憲朝、孫房方に傳へ、春日山に治せしが、五世房能に至り、家宰長尾景景の爲に試せらる。爲景、房方の孫定實を迎へ、陽謀して主とし、終に全國を略す。天文十一年爲景越中に戦死し、子晴景立ちしが、弟輝虎と闘きて敗死し、諸將終に輝虎を推して主とし、春日山に治す。既にして上杉憲政來奔し、約して父子となる。輝虎因て上杉氏を冒す。輝虎武勇絶倫能登佐渡全國越中、上野、出羽、信濃各二郡を略せしが、天正六年卒し、義子景勝は輝虎の弟、國內に繼ぎ、藩主とす。

他國の地を失ふ。景勝遂に景虎を殺し自立す。慶長二年豊臣秀吉之を會津に移し、堀秀治を春日山に、瀧口秀勝を新發田に、村上義明を本莊に封ず。後堀氏國除せられ、松平忠輝之に代り、高田に治す。元和二年罪を得封を奪はれ、酒井家次に高田を賜はる。後松平、稻葉、戸田、松平諸氏を経て、寛保の初榊原政永の領となる。本莊もまた數主を代へ、明治維新の際高田(榊原氏、一五萬石)長岡(牧野氏、七萬石)與板井伊氏(二萬石)村松(堀氏、三萬石)糸魚川(松平氏、一萬石)黒川(柳澤氏、一萬石)三日市(柳澤氏、一萬石)椎谷(堀氏、一萬石)峰岡(牧野氏、一萬石)新發田(瀧口氏、十萬石)村上(内藤氏、五萬石)の一藩あり。其他新潟、水原は幕府直轄地、白川松平領、鹽野は上杉(米澤)領、東蒲原全部は若松會津領にして、國內小領地約計せしが、明治に至り越後北中に新潟縣を、南中に柏崎縣を置きしが、後新潟縣に合す。又東蒲原郡の福島縣所管より新潟管内に入りしは明治十九年の事とす。

市及足羽、吉田、坂井、大野、今立、南條、丹生、敦賀の八郡に分ち、全國福井縣の所管とす。其先六郡(八五、四、三、二、一、〇)とす。國內を大別して、九頭龍川流域と敦賀との二となすを得べし。其境界を木ノ芽峠とし、前者を嶺北、後者を嶺南と稱す。敦賀は地勢全く他の諸郡と異なり、地學者の所謂瀨戸内海地溝帯に屬す。其他は高山、峻嶺擧出して、東南北の三面を圍繞し、四方海岸亦一帯の群山屏立して、僅に西北隅に一の平地を開き、諸川皆此に會合し、一大河を成し、海に入る。

脈連互す。鬼ヶ岳若嶺ヶ岳、野ヶ城山、越知山、國見岳(二一〇五尺)、鷹巢山(二〇八九尺)となり、九頭龍川の河口に至る。國の中央には東南山脈の冠ヶ岳より起り、部子山、一乘山、白樺山、飯ヶ岳、吉野岳となり、大野郡を東に分つものと、權現山より起り、田倉坂、日野岳、清水谷嶺、文珠山となり、日野川の西に控ゆるものと、二帯の連山あり。此中央を流るゝものを足羽川とし、是を總稱して中央山脈と呼ぶ。敦賀は三境、山岳圍繞し、北に木ノ芽岳、西に野坂嶺あり。野坂の餘脈は若嶺を界し、岩倉山、榮螺岳となり、敦賀灣の西側に盡く。此海岸高嶺の生成に就いて地學者の説に云、此は日本海陥没の際、日本の北岸隆起を受け、之に懸懸湖より延びて日野川地溝を経て、遠く加賀に達する地溝帯ありて、双方より壓力を受け著しき高隆地を生成せるものなり。隨て地層に龜裂を生じ、火山の成立を促し、國見、鷹巢の兩休火山を起し、安島嶼及雄島に芝武岩の露出を見るに至れるならん。

河津、舟津を通じ、殊に瀧川の利甚大にして、福井附近には廣大なる沖積層の沃地を作り、國內第一の生産地を成す。其河口に坂井港あり、敦賀は全く水系を異にし、一の室ノ川あれども、細流にして、流程五里に過ぎず。其河口に敦賀港あり。

農業 農業を主とし、工業之に亞ぐ。礦業は主に大野郡に行はれ、海濱には漁業に従事するもの少からず。農業は主に足羽、坂井等九頭龍川の下流地に行はれ、米穀の如きは、敦賀より京阪地方に輸送するもの少からず。其他坂井郡、南條郡、南條、今立郡の蚊嶺、福井市及諸郡の生絲(殊に大野郡勝山を第一とし、今立之に亞ぐ)、福井の奉書綿、南條郡の紗及絹、墨流染丸岡の絹、坂井の棉織、丹生郡の石田綿、今立郡の奉書紙、南條郡の烏ノ子紙、坂井の大高紙、大野郡の銅器、坂井郡金津の鉄鑪、南條郡武生附近の鐵及鐵器、坂井の陶器、福井の油團、丹生郡の菅笠及間席、片山の漆器等皆名あり。織物總計二〇〇〇萬圓、其他醸造物一五〇萬圓、瓦打物、石灰、傘、蠟燭、蠶絲工等あり。水産は管生油より良質の海菜を産し、福井にて製造す。越前雲丹と稱し、古來著名なり。其他敦賀の鱈、白昆布、海鼠、鰯あり。又鱈は鹽藏し、米國へ輸出すること多し。

漁獲物五五萬圓、水産製造物二〇萬圓あり。林産、大野郡を第一とし、杉松の用材を出す。礦業は大野郡を主とし、銀は穴馬郷の面谷、中天井の諸坑、銅は坂井郡竹田嶺より出づ。其他大野郡の青鉛、足羽郡淨教寺山の砒石、富谷山の青石、大野丹生敦賀諸郡の石灰、又大野郡打波村に寒水石あり。産額、金一九五三匁、銀二七三八三匁、銅四五、七四二匁、其他鉛、亞鉛等總計二〇萬圓に上る。

向ひ三國町に達する三國街道(五里二〇町)東に向へる勝山街道(七里三三町)南に走れる大野街道(八里二一町)三國町より丸岡町に通ずる丸岡街道(九里二〇町)等あり。又大野郡の山谷より美濃に出づる山路は、東に檜木嶺、油坂嶺、南に荷坂嶺、道法師嶺あり。鐵道は近江國柳ヶ瀬驛より來り、正田敦賀、杉津、今莊、鯖波、武生、鯖江、大土呂、福井、森田、新莊、金津、細呂木の三驛を置き、加賀國大聖寺に向ふ。延長六二、三六、三六、敦賀、福井間は明治二十九年七月、福井以北は三十年九月以後の開通とす。

人、女九八八〇八藥學專門學校(富山)中
 學校三(富山、高岡、魚津)師範學校一(富
 山)高等女學校二(富山、高岡)工藝學校一
 (射水郡下關村)農學校一(福野町)農業學
 校一(八尾町)商船學校一(新湊町)市立商
 業學校二(富山、高岡)町立實業學校石動
 町(圖書館一(下新川郡立))

行政及財政 租稅負擔額、國稅三三五萬
 圓、内地租一八三萬圓、所得稅三一萬圓、
 營業稅二六萬圓、酒造稅七九萬圓、縣稅一
 四一萬圓、市費一八萬圓(三八年)、町村
 費一〇二萬圓(同)、縣債七八萬圓、市債三
 〇萬圓、町債三萬圓、縣吏七四二人、郡
 吏一八八人、市町吏四六五四人、郡吏二
 〇〇人、富山(市)六五七七、高岡(市)三三三三、
 射水(市)一七二二、新川郡(郡)一〇〇七、
 上新川郡(郡)一〇〇七、中新川郡(郡)一〇〇七、
 橋町(町)一〇〇七、下新川郡(郡)一〇〇七、
 郡(郡)一〇〇七、生地町(町)一〇〇七、婦
 野(町)一〇〇七、八尾町(町)一〇〇七、射水郡小杉
 町(町)一〇〇七、新湊町(町)一〇〇七、伏木町(町)一〇〇七、
 見取町(町)一〇〇七、東礪波郡(郡)一〇〇七、
 八(西礪波郡)一〇〇七、福光町(町)一〇〇七、
名所舊蹟、社寺 俱利伽羅峠(西礪波郡)
 富山城址(富山)、高岡公園(高岡)、梅檀
 野(東礪波郡)、五箇山中(同郡)、三島野(射
 水郡)、山田温泉(射水郡)、山田村(立山)、中
 川郡(黒部川)峽谷(新川郡)、愛本橋(同郡)
 愛本村(射水神社)國幣中社(高岡市)、氣多
 神社(射水郡伏木町)、櫛田神社(射水郡)
 同郡櫛田村、雄山神社(射水郡)、中新川郡立
 山(富山)、射水郡(富山)、瑞龍寺(射水)

洞宗(高岡市)瑞泉寺(真宗大谷派)東礪波
 郡(射水郡)善徳寺(真宗大谷派)同郡城端
 町(射水郡)真宗本派(射水郡伏木町)光嚴
 寺(射水郡)富山(市)大法寺(日蓮宗)同市、
 立山寺(洞宗)中新川郡(目録)

交通 國中山川多く、道路粗悪なりし
 が、近年改修を加へ、交通稍自由なるに至
 り、但し東南は高山、深谷重疊し、肩輿
 すら通せざる所少からず、道路の主なる
 ものを北陸街道とし、加賀國より來り、石
 動、福岡、高岡、大門、小杉、富山、新庄、東水
 橋、滑川、魚津、三日市、入善、泊を経て越後
 國に入る。但し三日市、泊間に黒部川あり、
 歴代濫して往來を杜絶することある
 を以て、三日市より東南に向ひ、其上流愛
 本橋を経て、泊にて水道に合する別路あり、
 之を下街道といひ、其間浦山、舟見の
 二驛あり、富山より神通川に沿ひ、飛騨
 に出づる山路は、飛騨街道と稱し、大久
 保、大澤野、細入の三驛あり、又東礪波
 里より、四方、新湊を経て氷見町に達するもの、
 高岡より、出町、福野、福光を経て加
 賀國界に達する街道あり、是等街道は皆
 車馬を通じ、國內の主線たり、鐵道は二線
 あり、一は北陸本線にして、加賀國津幡驛
 より來り、石動、福岡、高岡、小杉、奥羽、富
 山、東礪波、水橋、滑川、魚津、三日市、生地、
 入善の諸驛を経て泊に至る、延長五、六哩
 五、將來越後の直江津に通せん、一
 は中越鐵道にして、國の西部を縦通す。
 伏木、新湊、高岡、出町、油田、出町、高橋、福

野、福光、城端間を連絡し、延長三、三哩六
 町、所謂瀧波平野貨物の集散を掌る、水路
 は伏木を埠頭とし、東礪波、魚津の諸港
 を経て越後の直江津に定期航通する汽
 船ありて、兩地陸路の不便を補ひ、又北海
 道との航通ありて、貨物の交易行はる。

沿革 越中は和名抄古之乃三知乃奈加
 と註し、古の高志の域内たり、上古は伊弉
 諾國造を置きしことあり、伊弉諾は今の
 射水なれども、當時は廣く各郡に互りし
 稱なるが如し、天武天皇の時初めて越中
 國を置き、瀧波、射水、婦野、新川、頸城古
 志、三島、魚沼の八郡あり、文武天皇大寶
 二年(西暦七〇二年)を劃きて、越後國に屬
 せしめ、聖武天皇天平十二年(西暦七四〇年)
 能登、鳳至、珠洲、四郡を越中國に併せ、孝
 謙天皇天平寶字元年(西暦七五九年)を分
 立して能登國を置きて、因て國內四郡なり。
 明治十一年(西暦一八八〇年)新川郡を分ちて、
 射水郡を劃きて、東、西二郡とし、射水
 郡を劃きて、氷見郡を、上新川郡を分ちて
 中新川郡を置く。是に於て國內八郡とな
 る。別に高岡、富山は獨立して、市制を施
 じ、在任五年、其詞議の萬葉集に傳はるも
 の甚だ多し、北條氏の時名越時守、守護た
 りしが、元弘三年(西暦一一三三年)時守、
 建武中興中院定清國司に任じ、翌年時
 有の子時、時守を討つに及び、朝廷、時守
 常をして之を討つに及び、其功を賞して
 守護を賜ふ、足利氏、時守を討つに及び、
 守護を賜ふ、足利氏、時守を討つに及び、

之に應ずるを以て、定清、伐て之に死す、既
 にして直常、反し、足利氏に屬し、正平五年
 復た吉野に歸す。是に於て、足利氏、其族高
 經を守護とし、子義將、嗣ぎ、直常を討て、之
 を破る。天授六年(西暦一三五六年)將軍、足利義満、富山基國
 に本國を賜ふ、傳へて、政長に至る。明應二
 年(西暦一四九二年)政長、同族義豐と戦ひ、敗死し、上杉顯定
 其弟房能をして、國事を兼攝せしむ。永正
 三年(西暦一五〇二年)房能、其臣長尾景景に試せられ、七年
 顯定、景景を伐ちて、却て、敗死し、國の豪族
 椎名神保、鈴木、諸氏各地に割據して、爲
 景と争ふ。天文七年(西暦一五三七年)爲景、來侵し、松倉瀧
 山、増山の諸城、皆其有となる。十一年、爲景
 神保、其臣、江波三河等の誘殺する所とな
 り、神保、純富山城に據り、新川、婦野、瀧
 波の諸郡を合せ、椎名、石黒、諸氏を降し、
 勢漸く盛なり。永祿六年(西暦一五九三年)爲景、子輝成、
 仇を圖り、來り、犯し、真衡、三河を殺す。元
 龜二年(西暦一六〇三年)松倉城を陥れ、椎名氏を滅し、神保
 氏、張を富山城に攻めて、之を走らし、國內
 大半、輝成の有となる。六年、輝成、卒するに
 及び、國の豪族、皆離反し、款を織田信長に
 通す。信長、佐々成政に全國を賜ひ、富山に
 治せしむ。十三年、豐臣秀吉、成政を降し、
 瀧波、射水、婦野の三郡を收めて、之を前田
 利長に與へ、十五年、成政を肥後、に徙し、新
 川郡を利長の父利家に加賜す。慶長、の初
 利長、從て、富山に治し、尋で、父の封を繼ぎ、
 加賀に徙るに及び、本國を兼領す。寛永
 十七年(西暦一七四〇年)其族利次に十萬石を分與し、富山
 に置き、其支藩とし、世襲して、明治維新に

至る、明治四年(西暦一八七一年)新川縣を置き、縣廳
 を魚津に置き、射水は七尾縣に屬せしむ、
 後之を合し、九年(西暦一八七六年)石川縣に合はし、十六年
 更に富山縣を置き、全國を管轄せしめ、以
 て今日に至る。

文籍 越中遊覽誌一六冊、越登賀三
 州志、寫本三七冊(富田景周)、高岡誌
 射水誌、水見誌(和中文次郎、明書)、越
 中史料五冊、一枚富山縣編(西澤三)

エツラ(江面) 【埼玉】武藏國南埼玉郡の
 村(白雲寺)

エツリコ(江釣子) 【慶手】陸中國和賀郡
 の村(白雲寺)

エド(江戸) 【東京】武藏國東京市の舊稱。
 「東京市」を見よ。

エドカワ(江戸川) 武藏下總二國の境を
 流る、川、利根川の支流にして、下總國關
 宿に於て水と分れ、權現堂川の水を承
 け、南流し、流山市川行徳等の諸村に沿
 ひ、東京灣に入る。流程約一三里、川廣く、
 水深くして、舟楫常、總野、上の諸州に往
 來し、運輸の利甚だ大なり。此川は、太井川
 の河道に就き、寛永年中、修浚せる所にし
 て、當時尙之を利根川と呼び、江戸川の稱
 は、寛文年中、關宿城主板倉氏が、逆川を修
 め、赤堀川の水を引き、常陸の利根川より
 舟楫を通ぜし以來の稱なりといふ。太井
 川は、渡真瀨川の下流なりしが、改修以來
 利根の水傾注せしより、太井の稱亡び、一
 時は専ら利根川と稱せり。

エドサキ(江戸崎) 【茨城】常陸國稻敷郡

信太郎の町、置ヶ浦の一支、古渡入りに沿
 へる、一市街にして、運漕の便あり。郡役
 所、警察署、共立農學校、郵便局等あり。水
 戸市を距る一七里二町、龍ヶ崎町より
 六里二町、主浦町より六里二町、江戸
 崎、城址は城山の地に在り。中世、世岐氏信
 太庄の地頭となり、此所に居り、景秀の時
 此城を修め、子孫世襲して、天正末年に至
 る、天正十八年、佐竹氏に屬し、慶長七年、
 川氏松平信一を置き、後廢墟とす。不動院
 は、天台宗の巨刹にして、文明二年、土岐治
 英建立といふ、舊寺領百五十石、白雲寺。

エドジョウ(江戸城) 【東京】武藏國東京
 市なる宮城と其外郭の舊稱、康正二年上
 杉扇谷持朝其老臣太田持資(道灌)をし
 て築かしたるものにして、當時は規模
 狭小、僅に今の大手門より平河門に至る
 間に互り、後の西丸、今、皇居の在る地は
 當時山王今、日枝神社の祠ありて、徳川
 氏入城の頃は、尙庶人の遊覽所たりしと
 いふ、靜勝軒記云、城は子城中城外城の
 三に分ち、石を以て塙となし、壘の高十餘
 丈、懸崖壁立して、其周圍數十町に及ぶ石
 門二十五門、毎に大木を以て飛橋を懸け、
 城門裡には左右に連れる石礎あり、依て
 以て中城に達す、居所を靜勝軒と名け、別
 に含雪樓を設けて、富士の白雪を望む所
 とす、泊船房あり、以て、蒼海の渺茫たるを
 望み、香月亭あり、以て、小苑の梅花を看る
 と、持資此所に居ること三十年、文明十八
 年、其主上杉定正の爲に害せらる。定正、其

將我輩後守をして、江戸城を守らしめ、
 後定正の義子朝真、其子朝興、相繼いで、城
 主たりしが、大永四年、北條氏綱の兵來り
 攻め、朝興、之を高麗原(今の高輪)に拒ぎ
 て、克たず、城終に北條氏の有となる。上杉
 氏の有たること三十九年、北條氏遠山富
 永の諸將を置いて、之を守らしめしが、天
 正十八年、北條氏小田原に亡び、江戸城代
 河村秀重、遠山直景出で、降る。北條氏の
 有たること六十七年、徳川家康東遷する
 に及び、之を居城と定め、同年八月朔日
 入城す。當時城の附近には、沼澤多く、溜
 池、長延寺谷池、小石川末池、不忍池等散
 在し、就中、不忍池は廣くして、下谷、淺草
 なる、堀池、千束池に連り、又、日比谷門邊
 り、東南及濱町以南は、皆海にして、村落、此
 間に散在し、荒蕪を極めたりといふ、文祿
 元年、今の宮城の地に、新城を築き、二年、外
 堀田門より、牛藏門、田安門に至る間の壘
 濠を築く、慶長五年、關ヶ原の役後、諸侯の
 來住するもの多く、商賈亦從て來集し、土
 地漸く隘隘を感じしを以て、慶長八年
 神田山今の駿河臺を削り、今の濱町、八
 丁堀、銀座等を築く。九年、池田、加藤、福島
 の諸侯に課し、大に城を修め、日比谷門よ
 り、吳服橋門に至る外郭を築く、慶長十一
 年、秀忠新殿に移り居る。十二年、伊達、上杉
 蒲生、最上等東北の諸侯に課し、天守臺
 を築く、寛永十三年、江戸城、曲輪を築き、
 幸橋、虎之門、赤坂、噴邊、四谷、牛込、小石
 川、筋違、淺草橋の諸門を造る。此に於て

江戸城の經營初めて大成す。明暦二年、江
 戸大火、城亦焼く、乃ち大に市區を改め、
 諸侯の邸宅、寺院等を多く、郭外に移し、城
 亦漸く成る。今の松樹を礎上に植みしは
 此時に在りといふ(天守臺は此時廢す)。
 徳川幕府大政奉還後、明治元年十月、車駕
 江戸城に入り、江戸城を改めて、東京城と
 稱す。同年十二月、一度、京都に遷幸あり、翌
 年三月、車駕再び、東京に入り、遂に帝都と
 定めらる。六年五月、皇城火を失し、滿城燒
 失す。乃ち、赤坂の離宮に移り給ひ、二十二
 年、今の皇宮成り、此に移り給ふ。

エドマシ(江戸橋) 【東京】武藏國、東京
 市を見よ。

エドマリ(江戸) 【山口】周防國佐波郡牟
 禮村の大字、三田尻港の對岸なる半島狀
 の地なり。元輔周防に下りけるとき、江
 泊に我來るとは知らざればや、今まで君が
 見にごさるらん(仲文集、元輔)。

エドモ(輪船) 【北海】膽振國室蘭郡に在
 りし村、明治三十三年、室蘭町に合す。輪船
 半島の頭部なる丘に在り。

エドモ(惠曇) 【鳥根】出雲國八束郡の村。
 佐陀川の河口にして、古の惠曇郷の地な
 り。惠曇の名は、磐坂日子命(素戔鳴尊)の
 子、巡行して此地に至り、形畫の如しと
 宣ひしに起り、後、惠曇に作り、神龜三年、惠
 曇と改めしといふ。往古、惠曇池あり、風土
 記は、周圍六里と記す。後、世埋没し、今、田野
 となる。今の佐陀川口なるべし(白雲寺)。

エドモハントウ(輪船半島) 【北海】膽振

谷に達する車道を開き、之を熊坂と稱し、十三年に至りて之を本道とせり。農産物は米(九萬石)・麥(一萬石)・大豆・粟・黍・甘藷・蘿蔔・葉煙草・茶(五萬圓)・繭等なり。林産物一〇萬圓、水産物は鱒・鯉・鱈等第一とし、九谷の陶磁器五萬圓、山中の漆器一八萬圓、其他陶磁器・製菓あり。江沼は弘仁十四年越前より加賀を分置せる時の二郡の一にして、當時能美郡の地をも含めり。同年江沼の五郷二郡を割きて能美を置く、和名抄長江郡家山背三枝、額田背波、忌波、竹原八田の九郷を載す。但し其名多くは亡び、近世は四ノ庄・北濱山中谷・海邊能美境・那谷谷四十・九谷・奥山谷の八郷に分れたり。本郡は戦國の一宗徒の跋扈跳梁せし地にして、今も眞宗の寺院甚だ多く郡内五十八寺の内四十四寺は眞宗なり。

【文籍】江沼詩(和田次郎)・加賀國江沼郡名所案内記(深町房吉)・エネイ(江井)【福島】磐城國相馬郡大瀧村の大字。
 【廣島】安藝國高田郡の村合三三六。
 【可受】(可受)日向國東臼杵郡の北部に在る山北川、視子川其左右を流る。延岡の直北二里、高二一〇尺。山嶽秀偉、奇岩怪石峙ち、景色よし。明治十年の役賊軍の擄りて激戦せし所なり。征西戦記云、八月十七日午前四時三十分一撃の英式喇叭、一發の小銃と共に、忽然牙聲(可愛嶽の絶頂)の上に響く、俄にして喊聲四起、賊兵集、刀銃共に進み、一は第二旅團の營を斫り、一は左右守線の側背を撃つ、其勢風雨の如し、事不意に出づ、我軍狼狽、左右守線爲に截断せられ、牙聲は護衛兵若干、唯參謀將校下士數輩のみ、兩少將(三好野津)自ら起て、之を奮勵し、銃槍格闘三たび之を卻く、然れども衆寡敵する能はず、三好少將は迂路左翼暗線、銃槍隊に投じ、野津少將は岡本中佐と共に僅に身を以て火之谷に避くるを得

在りて遷徙たり、舊稱ナグーベ。【神奈川】相模國足柄下郡の村、熱海街道に當り、海面より數百尺の高に在り。相模灘の眺望頗る佳し、熱海輕便鐵道の車驛あり。天正十八年豊臣秀吉小田原攻の時諸將と此所に遊蕩し慰勞せりと傳ふ、八百公。【静岡】駿河國駿東郡静浦村の大字。北に鷺栗山を負ひ、西は獅子濱に通ず。内浦の一澳にして、淡島と大久保山と南北相對して港門を成し、西に面す。其幅六連半、港内水深きに過ぎ、其港といふを得ず。淡島と陸地との間は幅一連半、水道を成せども、常に漁網を張るを以て舟を通せずといふ。此地は徳川幕府の時網罟を設けしめし所にして、寛永三年將軍上洛の時、沼津及此附近の者活網を獻ぜしに、大に賞せられ、爾來駿豆兩州に於て獲る所の鯛魚を養集して、不漁缺乏の用に供せしめしといふ。又沼津藩主水野氏は此所に番所を置き、海稅を徵收せりと傳ふ、郵便局あり。
 【オオオンセン】(榮之尾温泉)【鹿児島】大隅國始良郡、牧園村を見よ。
 【エノカミ】(江上)【福岡】筑後國三浦郡の村合三三三。
 【エノガワ】(可愛川)安藝國に在る吉田川の舊名、素戔嗚尊の降臨せし鏡川上は是なりといふ説あり。書紀通説は可愛川は今の三次川なりと記す。下流は江川なり。江川をともエノカワと訓めるにや。
 【エノキカンボ】(神神房)【千葉】上總國長

生衛長柄郡朝丘村の大字。
 【エノキツ】(根津)【福岡】筑後國三浦郡、大川町を見よ。
 【エノキド】(根月)【埼玉】武藏國北足立郡吹上村の大字、荒川の東岸に在りて、大里郡吉見村に對す。和名抄の男妾郡根津郷を以て之に擬するものあり。【愛知】尾張國知多郡に在りし村、明治三十九年鬼崎村に入る。
 【エノキトウゲ】(根崎)越後國古志、北魚沼二郡の界に在る山道。三國街道の要衝にして、長岡の屏障なり。妙見驛に近きを以て妙見山ともいふ。戊辰の役東軍の死守せし所にして、官軍遂に拔き難きを知り、下流より長岡を襲ひて之を取るに及び、守兵終に槲尾の山中に退く。此役長州隊長時間養直戦死す。後山縣有朋碑を建て其蹟末を録す。
 【エノキマエ】(根前)【愛知】三河國碧海郡に在りし村、明治三十九年明治村に入る。
 【エノクチ】(江ノ口)【高知】土佐國土佐郡の町、高知市の北郊にして、水力電氣事務所あり。合三三三。
 【エノクマ】(根隈)【大分】豊後國大分郡に在りし村、明治四十年大分町に合す。
 【エノシマ】(江島)【長崎】肥前國西彼杵郡の村、江島を見よ。
 【エノシマ】(江ノ島)【石川】加賀國能美郡に在りし村、明治四十年根上村に入る。
 【エノシマ】(江島)肥前國西彼杵郡瀬戸村の海上、四里大立島燈臺の西に在る島

周圍三里、今江島村といふ、島の中央山脊は、其北端に向ひ隆起して二座の尖山を成す、其高峯は海拔四六五尺あり。島の東北海上に七兵衛嶋、南々に南瀨、其南東に一ツ瀨嶋あり。合三〇七。
 【エノシマ】(江ノ島)相模國鎌倉郡の南海に在る孤島、川口村に屬す。同村大字片瀬より一條の砂路を通じ、干潮の時歩して至るべし。周圍約二〇町、高二四二尺。全岸概ね岩崖にして、若上老樹鬱茂す。山嶺に三祠あり、遠津ノ宮、中津ノ宮、奥津ノ宮といひ、總稱して江之島神社といふ。宗像三女神を祀るといへど、初は僧文覺此島に來り、佛法大辨財天を勧請せるものにて、殿島竹生島と併せて日本の三辨天といひ、後本地垂蹟の談起り、神佛混淆し、寺を金龜山・願寺といひしが、明治維新後改めて神社とす。島の北端に華表あり、夫より石燈迂回して島の南端に至る。賽路の兩側には客舍酒樓櫛比す。海上の風景秀麗明媚なるを以て來遊する者甚だ多し。遠津宮の背後に古碑あり、僧眞真が宋より持來りし石と傳ふ、奥津宮を西に下り、崖に沿ふて左折すれば龍穴に至る。洞口に棧道を架して人の渡るに供ふ。所謂窟辨天にして、洞口より行くこと四十一間にして左右に分る。左窟は二十九間中に皇太神及素戔嗚尊を祀る。右窟は長二十四間、中に江之島三神を祀る。以前は是を胎藏界金剛界と呼び、兩部の大日如來を安置せり。島の南端に兒ヶ瀨あり、

鶴を岡相承院の稚兒白菊の沈みし所といふ。社邊には貝細工を販く店多く、赤螺の蜜焼を賣く店あり。共に島の名物とす。鎌倉雪ノ下を距る二里、一町藤澤停車場を距る一里、鎌倉及藤澤より電氣鐵道の便あり。

【文籍】江島大草紙、二冊(釋因靜寶曆九)陸國國早崎水道の東に在る島、牡鹿郡女川村に屬す。東西五町半、南北三町半、周圍二四町。仙臺藩政の頃は罪人流寓の地たりき。此附近に連列せる二股島、平島、足島、笠島等を總稱して江ノ島列島と呼ぶ。合約二〇〇。
 【エノタケ】(可愛嶽)日向國東臼杵郡の北部に在る山北川、視子川其左右を流る。延岡の直北二里、高二一〇尺。山嶽秀偉、奇岩怪石峙ち、景色よし。明治十年の役賊軍の擄りて激戦せし所なり。征西戦記云、八月十七日午前四時三十分一撃の英式喇叭、一發の小銃と共に、忽然牙聲(可愛嶽の絶頂)の上に響く、俄にして喊聲四起、賊兵集、刀銃共に進み、一は第二旅團の營を斫り、一は左右守線の側背を撃つ、其勢風雨の如し、事不意に出づ、我軍狼狽、左右守線爲に截断せられ、牙聲は護衛兵若干、唯參謀將校下士數輩のみ、兩少將(三好野津)自ら起て、之を奮勵し、銃槍格闘三たび之を卻く、然れども衆寡敵する能はず、三好少將は迂路左翼暗線、銃槍隊に投じ、野津少將は岡本中佐と共に僅に身を以て火之谷に避くるを得

たり、東麓なる字倭野に古陵墓あり、瓊々杵尊の可愛山陵なりと稱す。明治二十八年御陵遷葬傳説地に列せらる。
 【エノツ】(江津)【京都】山城國綴喜郡三山木村の字、大字宮津の内なり。古事記の在名津に即ち此地なるべしといふ。
 【エノハラ】(根原)【京都】丹波國天田郡上豊富村の大字、舊庄名にして、長治元年平親盛の開ける所なりといふ。此より水上郡芦田佐治へ越す峠あり。
 【エノミヤノナト】(塚宮ノ址)【廣島】安藝國安藝郡、府中村を見よ。
 【エノモト】(根木)【大阪】攝津國東成郡の村、合三三九。【栃木】下野國下都賀郡水代村の大字、結城佐野間の一小站なり。文治年中小山判官宗長此所に築城し、小山の支城とし、小山高朝以下六代之に居り、後結城氏の陥る所となる。徳川氏の初本多大隅守此所に封ぜられしが、幾くもなくして横死し、寛永年中廢城となる。大中寺、聖天院と呼ぶ古刹あり。
 【エバ】(江波)【廣島】安藝國廣島市の大字。大田川の本流、本川の日に當る。もと一孤島にして、漁民此所にて魚餌を採りしを以て餌場と名けしといふ。次第に土砂の埋塞する所となり、今は全く陸地と變じ、大に新田を開きたり。又近世此地を以て廣島の港泊となせしかど、海底年々淺灘となり、今は僅に小舟の往來あるのみ。
 【エバイトシマ】(一島)【北海】撿子古丹島の舊稱。

【エハラ】(江原)【兵庫】但馬國城崎郡日高村の大字、豐岡街道の驛路にして、郵便局あり。府中と相距る二十餘町。【徳島】阿波國美馬郡の村、郡の東北隅にして、東は三ツ頭山西は大瀧山、北は讃岐國境の連山(勇江山、岩倉山等)の間なる一山谷を占め、拜原、曾江、赤谷、落合、國木野冬畑百々、金川古屋敷御所野清水曾江山の諸部落あり。淡水集りて拜原川となり、吉野川に入る。讃州長尾に出づる徑路は此谿谷に沿ふて通す。曾江山は讃岐國に接せる僻邑なれど、郵便局あり。合三三三。
 【エハラ】(根原)【岡山】備中國後月郡の村、明治廿三年東江原神社二村の合稱、合三三三。
 【愛媛】伊豫國温泉郡の村、合三三三。
 【エハラ】(根原)【宮崎】日向國南那珂郡の村、南郷川の支流にして、鯛取山を以て福島川の谷と相隣つ。志布志地方より肥田に出づる山徑此所に懸る。戦國の頃伊東島津兩氏の争ひし要害なりとす。郵便局あり。根原神社はもと嶋戸神宮を勧請せるものにて、社字安壯なり。合三三三。
 【エハラカワ】(江原川)備中國に在る小田川上流の稱。
 【エハラダケ】(根原郡)【東京】武藏國二十郡の一。四境、北は東京市及豊多摩郡、西は北多摩郡、南は多摩川を以て、橋樹郡に接し、東は品川灣、東西二里八町、南北三里三町、面積六方里六七、行政上、品川、大森、羽田、大井、大崎の五町及平塚、目黒、神奈川、世田谷、駒澤、池上、馬込、新井、矢口

浦田、六郷、調布、玉川、松澤の一四村に分ち、郡役所を品川町に置く。合三三三。合三三三。地勢、本郡は東京の南門にして、水陸の要衝に當る。郡の西北は丘陵起伏し、東京の三田、白金臺に至り、地質は第四紀古層なり。東南は第四紀新層沖積層より成り、平坦にして、海に至る。田圃開け、人口稠密、産物多し。道路は海に沿ふて東海道及鐵道東海道線を通じ、品川大森浦田に停車場を置く。又品川より鐵道を分ち、東北鐵道に連絡す。山ノ手線といひ、大井、目黒等に車驛あり。又京濱電車線あり。物産は目黒の筍、六郷の梨、桃、大森の海苔、夢野細工は殊に著名なりとす。農産物は米(五萬石)・麥(七萬七千石)・大豆・粟・黍・甘藷・馬鈴薯・蘿蔔・牛蒡・葱・芋(七萬五千圓)・桃(二一萬圓)・梨(二二萬圓)・蜜蝋、水産物は魚類、介類、海苔、五九萬圓にして、工産物は煉瓦とす。在るは和名抄江波良と註し、蒲田、田本、蒲田、在原、志御田、木田、櫻田の八郷及驛家を載す。後世多摩郡の勢多郷本郡に入り、木田郷は豊島郡に入り、御田、櫻田郷は全く江戸に歸し、芝麻布の地となる。
 【エビ】(海老)【愛知】三河國南設樂郡の町、風來寺山の西北麓にして、瀧川、豊川の一支源の谷なる一山驛なり。長篠地方より信州下伊那に出づる山徑此所を通ず。郵便局あり。大海停車場より三里、合三三三。
 【エビ】(江尾)【鳥取】伯耆國日野郡の村、出雲街道の驛次にして、江尾川の日野川に

會流する所に在り、郵便局あり、港口驛より二里、二町、根雨驛へ一里、三町、江尾一に江美に作る城址あり、元禄年間蜂塚右衛門尉の居城なり、蜂塚尼子氏に背き毛利氏に屬し、復た尼子氏に歸せしかば、永祿七年毛利氏の將杉原盛重の爲に攻められ、自殺し城亦廢す、白三三三

エヒエ (海老江) 【新潟】越後國岩船郡に在りし村、明治三十四年金屋村に入る。

エヒガワ (江尾川) 伯耆國日野郡に在る川、日野川の支流なり、流程二里一八町。

エヒケ (蛇毛) 【樺太】敷香支廳多來加灣沿岸の地名、舊稱エヒケナイボ。

エヒコサン (英彦山) 「英彦山」を見よ。

エヒサカ (海老坂) 「呼坂」を見よ。

エヒサカトウケ (海老坂峠) 丹波國船井郡北方郡界に在る峠、千坂越の路に當る。

エヒサワ (海老澤) 【茨城】常陸國鹿島郡沼前村の大字、沼沼の西南隅に瀕せる一小市街なり、郵便局あり、中世海老澤氏之に住せりと傳へ、其館址二所に存す。

エヒサワ (海老澤) 磐城國相馬郡益多嶺の東一里に在る汀浦、海水響入して浦を成す、一に耳井浦と呼び、景色よし、此地に稻荷社あり、漁夫の信仰深し。

エビシカワ (樺太) 樺太須川の舊稱。

エビシマ (塞比島) 【北海】北海道釧路留萌線の一驛、石狩國雨龍郡北龍村に在り、深川驛より二哩九、留萌驛へ一八哩一六、鎮附近より木材を出す。

エビス (新瀉) 佐渡國津川町を見よ。

エビス (塞比島) 【北海】石狩雨龍郡雨龍村塞比島に在る鐵道留萌線の一驛。

エビスカシタ (我ヶ下) 【山口】周防國熊毛郡麻郷村の字、平生澤口の小澳に臨む。

エビスガワ (塞比須川) 【樺太】眞岡支廳久春内出張所管内の川、舊稱エビシ川。

エビスヤマ (塞比山) (夷山城址) 【徳島】阿波國名東郡八萬村大字下八萬に在る城址、一に橋城ともいふ、戦國頃細川氏の被官藤原佐吉兵衛此所に據り、百貫を領せしが、和泉久米田に戦死す、其臣庄野和泉守孤子右京を逐ひて之を奪ふ、天正年中長曾我部元親之を陥れ、弟親康をして之を守らしめしといふ。

エビスワン (夷灣) 佐渡國東岸に在る一大灣、灣口北東に面し、其南角を姫崎とす、北角を馬首崎とす、灣入約六哩、弦の長約八哩、灣首に夷町(今、兩津町)あり、海岸より約一里、水深一、二尋乃至一六尋の所を錨地とす、南東より南及西を経て北西に至る風を保障す。

エビセ (海老瀬) 【群島】上野國邑樂郡の村、白三三三。

エビナ (海老名) 【神奈川】相模國高座郡の村、相模川を隔て、愛甲郡厚木町と相對す、康平年中源頼義の將海老名親季、源平戰爭中の海老名季定、能季等皆此地の人といふ、白三三三。

エビメケン (愛媛縣) 「伊豫國」を見よ。

エヒヤ (蛇谷) 【北海】渡島國茅郡森村の大字、東海岸道に沿ふ、アイヌ名エヒヤコマン。

エヒラタケ (飯岳) 信濃國北安曇郡越後國四頭郡に跨る山、所謂飛騨山系の高峰にして、海拔六九四〇尺、其西に蓮華山連る、土俗イヒラ岳と呼ぶ。

エブクロウ (江袋灣) 肥前國平戸島の西北部に在る灣、海香灣の南隣なる一支部にして、三鐘半乃至七鐘の幅を以て、南方に灣入し、灣内至る所泊舟に適し、灣の四周は陸地を以て充分に圍繞せらる。

エフミ (江文) 【京都】山城國愛宕郡大原村の字、薬王坂の下をいふ、江文神社あり、一小社なれども、内裏三十番神の一にして、世に名高し、倉稻魂命を祀る。

エベ (江部) 【樺太】眞岡支廳泊居出張所管内の地名、舊稱エベケレン。

エベツ (江部) 【北海】石狩國空知郡瀧川村の字、村の北偏にして、鐵道停車場あり、空知太へ五哩、妹背牛へ五哩、アイヌ名ユウベオツ、水名なり。

エベクナイボ (樺太) 蛇毛の舊稱。

エベケレン (樺太) 江部の舊稱。

エベツ (江部) 【北海】石狩國札幌郡の村、江別川(即ち夕張川)の石狩川に合する所に在り、札幌を距る東北五里半、上川街道の要路にして、北は對雁を経て増毛街道に連り、南は廣島を経て室蘭街道に接續し、水路は石狩町に小汽船の往復あり、且つ鐵道停車場の設ありて、運輸交通の便

極めて好く、地味豊沃にして、農産に富めり、又木材集散高の巨額なるは、石狩國中第一と稱す。此地明治九年、幌内炭山道の開通せるより、十一年、農手縣より、電田兵十、男女五十六人を移し、初めて村名を付したるに起り、其後移民次第に増加せり、江別川に架せる鐵橋は、本道第一と稱せらる、白三三三。

エベツガワ (江別川) 【北海】石狩國に在る川、石狩川の支流にして、夕張千歳島松三川の合流なり、石狩國空知札幌郡界を北流し、江別村に至り、石狩川に入る。

エボシ (烏帽子山) 羽後國仙北郡陸中郡手郡に跨る消火山、駒ヶ嶽火山の東北に位し、海拔四二五六尺、西方より之を望む時は、山形乳頭に似たるを以て乳頭山と稱す、甚だしく侵蝕を受け、噴火口の如き僅に西の一部を存するのみ、又火口丘上には噴火口と覺しき一小湖あり、山は主として暗灰色の輝輝富士岩より成る。●周防國熊毛玖珂二郡に跨る山、高二三八五尺。●周防國瀨郡鹿野村に在る山、高二三二九尺。

エボシシマ (烏帽子島) 筑前國に屬する島、支那灘の一孤島にして、燈臺嶺の西一、二哩、小島島の南に當り、豊岐國に近し、北緯三三度四一分、東經一二九度五八分、燈臺あり、第二等不動白色、晴天光達二〇哩、馬關長崎間常航路を指導す。

エボシタケ (烏帽子岳) 越後國西頸郡に在る山、櫻山の西北、糸魚川の南に見ゆ

る群衆にして、烏帽子阿彌陀尊を、面輪ヶ岳等の數峰あり、高二九〇尺乃至五二八〇尺もと一體の火山なりしが、侵蝕の爲め分離せるものといふ。●越後國北蒲原東蒲原二郡に跨る山。

エホシヤマ (烏帽子山) 伊豆國賀茂郡に在る山、岩科村の西海濱に屹立し、一に御嶽又は淺間山といひ、急峻にして登り難し、直立五三三八尺、舟人の好望標なり、海中奇岩あり、千貫門と名く。●阿波國美馬郡に在る山、高五七六〇尺。

エホ (江間) 【静岡】伊豆國田方郡の村、四は山を隔て、駿河の静浦村に接し、東は狩野川を以て、葦山村と隣る。北條義時時居りし所にして、世義時を江馬殿と呼べり、北條寺に義時夫妻の墓あり、白三三三。

エホ (江見) 【千葉】安房國安房郡の村、舊朝夷郡の北端にして、郵便局あり、白三三三。

エホ (岡山) 美作國英田郡の村、山陰街道(播磨の佐用より津山に通ず)に當り、其驛を江見(川崎)といふ、郵便局あり、南北朝の頃江見氏此所に居る。其城址は、大字に在り、白三三三。●佐賀】肥前國三養基郡三川村の字、筑後川に沿ひ、郵便局あり、明治七年佐賀の亂に熊本鎮臺の兵久留米より河を渡り此地に至る、暴徒之を要撃し、永田中尉以下十二人戦死す。

エミ (江見川) 美作國英田郡に在る吉野川上流の稱。

エムカイ (江迎) 【長崎】肥前國北松浦郡の村、平戸海峡の東側なる一小灣頭に在

り、平戸、長時間の一小灣にして、郵便局あり、白三三三。

エムカイガワ (江迎川) 肥前國北松浦郡に在る川、水源、吉井村、江迎村に至り、平戸海峡に入る、流程三里二九町。

エヨミ (江興味) 【岡山】備前國御津郡の村、白三三三。

エラ (江原) 【廣島】備後國豊後郡の村、白三三三。

エラフシマ (永真部島) 「口之永真部島」(沖之永真部島) 奥之永真部島を見よ。

エラマチ (江真町) 【北海】渡島國松前郡の村、郡の最西端なる一名邑にして、元祿郷帳にも其名見えたり、惠良松にも作る。江差へ一、二里、小灣に枕む、港は東西一町半、南北五町、深二、六尺、灣口南西に向ひ小錨地を成す、濱邊には低岩散在す、白三三三。

エリモサキ (櫻葉岬) 【北海】日高國幌泉郡に在る岬、北海道有名の岬角にして、本名をオンネエンルンといふ、老大岬の義なり、幌泉村の南約四里に斗出ず、北海道の脊梁なる日高山脈の太平洋に盡くる所なり、岬頭に一大岩山あり、岩上一小社あり、北に銅路國、雄阿寒、岳西に夕張、染張の諸峰を望み、東南一帯渺茫たる大海を眺眺甚だ雄大な岬、岬頭より一里の間は暗礁出沒して、舟行最も危険なるを以て、船舶は岬頭より三里の沖を廻航す、燈臺あり、此所より小越を経て、百人濱に至る二里の間は、砂濱にして眺望よく、

租帶、島嶼、海嶺の名産地なり、水路誌云、櫻葉岬は北緯四一度五分、東經一四三度一六分にして、多岩の斷崖、高約二一〇呎にして、内地の高山脈より伸出せる巖地の南端なり、該岬端より南東七鐘半の間、礁脈擴張し、礁上數箇の露岩あり、距岬二鐘に在る顯著の尖雙頂岩は、マツカ岩といひ、高七、二呎、四鐘に在るをカマ岩といひ、高三、九呎、岬の附近には一も好上陸所なし、風向により、東側の小越村前側の油崎の濱邊は、積著舟し得べし、(中略)燈臺を岬上に設置す、第一等回轉白色にして、三十秒毎に一光輝を發す、燈臺は高潮面上二三三呎、晴天光達二十一哩、燈臺には霧笛あり、冥濛なる天候には、毎一分二七秒間吹鳴す、濃霧最も多き六七八の三箇月は、咫尺を辨せざる日多く、根室と共に北州中濃霧の最も多き所なりとす、櫻葉岬より銅路に至る約八十哩間の海岸は、約北東に走り、其間一の港灣なし、偏西風の時和船は、櫻葉岬の稍北東に碇泊す。

エリウ (江見) 【愛媛】伊豫國温泉郡難波村に在る城址、望月六郎左衛門の居りし所なり、後河野十八將の一人、得居半右衛門之を守るといふ、細川頼之豫州を徇ふる時、河野通頼の子通麩、温泉城に在りて之を支ふることを能はず、退いて高繩城に據り、更に此城に退却せしが、終に之を支ふる能はず、淺海浦より出船し、國を離れ本據を失ふ。

エンガ (庵我) 【京都】丹波國天田郡の村、和知川の東北岸にして、福知山町の對岸なり、庵我神社あり、俗に聖大明神といふ、天福日命を祀る、もと大字菅巻に在りしを、今の中村に移せりと、白三三三。

エンカイサン (圓海山) 武藏國久良岐郡に在る山、日下村大字峰村に屬す、海拔四九五尺、眼界甚だ廣きを以て、十國見の稱あり、山西は相模國鎌倉郡本郷村とす。

エンガンサン (煙巖山) 三河國に在る風來寺山の一名。

エンキョウ (猿橋) 【山梨】甲斐國北都留郡大原村の大字、甲州街道の一要驛なり、上野原驛より四里二三町、郡役所、警察署、郵便局等あり、毎月三、七の日甲斐絹の市を開く、取引頗る盛大にして、郡中最も繁華の地なり、俗に此地一大磐石の上、に在るを以て、家屋の建築に礎石を用ふる、ことなしといふ、市街の東に桂川あり、有名なる猿橋を架す、土人は橋をサルハシと呼び、驛をエンキョウと呼び、之を別つ、鐵道中央東線の車驛あり、八王子より二三哩半、甲府まで約三〇哩、猿橋は日本三奇橋の一と稱す、兩岸の絶壁より巨材を累ね橋下に柱を用ひず、構造甚だ奇なるを以て世に著る、御伴の數云、猿橋は長十七間、幅二間の板橋なり、削り立てたるが如き巖の上にわたせり、橋の上より水際まで十二三間、水際より水底までまた十二三間なりといへり、橋の上より見下せば、岸の尖ばかりより生出たる木

ども、あまそりそりたちて、いと晴う
茂りたる中より、一筋の瀧つせ響きもさ
やに轟き落つるが、これも五六丈もあら
ん、岸より少し降りて橋の裏をみる所あ
り、此所より仰ぎ見るに雁の並び行くら
んやうに、つき／＼にさし出して橋のけ
たを受けて、其上に板を伏せたり、其巧な
る事目を驚かせり。

エンキヨウジコウセン(圓行寺鐘泉)【高
知】王佐國土佐郡、初月村を見よ。
エンゴジ(圓護寺)【鳥取】因幡國岩美郡
中ノ郷村の大字、濱坂の東にして、往古佛
徳山圓護寺といへる大刹の址なりとい
ふ、此寺何時の頃よりか廢頓し、今僅に觀
音堂を遺す。八頭郡長砂村大日堂の大日
如来は、もと此寺の本尊なりといふ。
エンサ(圓座)【香川】讃岐國香川郡の村、
合三島。

エンサワ(圓澤)【千葉】上總國夷隅郡古
澤村の大字。
エンサン(龜山)【臺灣】桃園地方より三
角湧地方に入る路に在る山。鶯谷山と相
對せる山にして、山頂の巨岩飛鷹の翼を
張る狀ありとて名く。
エンサン(龜山) 甲斐國東山梨郡七里村
大字上於曾に屬する一小丘、平地に屹立
す、又シホノヤマと呼び、松樹繁茂し、一
勝地なり、古は鹽を産せりといふ。此地又
指出ノ磯と併稱せられたる甲斐の名所
にして、古今集に、「龜の山さしての磯に
すむ千鳥、君が御代をは八千代とぞな
りといふ。」とあり。

くしなど誅み、古來其名著はる。山下鐘泉
湧出す、鹽類泉にして、痔疾痛癢効ありと
て浴客少からず。鐵道中央東線鹽山驛
あり、初鹿野驛より六哩餘、石和驛まで約
七哩、鹽山の西麓に向嶽寺あり、臨濟宗法
燈派の本山にして、武田信成草創、拔隊禪
師開基、國內第一の巨刹なりしが、火災に
罹り、復た舊觀なし。境内勝景に富む、此
より二五町を隔て、燈外菴あり、赤松圓
心の願乙野自ら其美觀を燒毀し、拔隊の
戒を受け尼となり、行ひ澄せし所といふ。
エンジウジ(圓宗寺)【岡山】美作國吉田
郡大野村の大字、近年まで西四條郡役所
を置きり。

エンシウナダ(遠州灘) 遠江國の南海の
稱、大崎志摩の峯崎大王崎より伊豆の石
廊崎、神子元島に至る間をいふ、俗に七十
五里といひ、常に山の如き洪浪あり、且つ
海岸に一の泊地なきを以て、古來舟子の
恐るゝ所なり、此海冬季は四強風多く、伊
真湖水道附近にては俗に尾張出しと呼
ぶ、夏季は南風或は南東風の暴に至る、
とあり、又颶風と呼び、南風と北風と相聞
ふことあり、最も危険なりといふ。
エンジウ(圓城)【岡山】備前國御津郡
の村、明治三十七年上田宮津二村を合せ
る新稱なり、美作國に接する山村にして、
其主邑圓城に、郵便局あり、日蓮宗、圓城寺
は、元正天皇靈龜元年の創建と、正法寺
と號し、木宮山に在りしを今の地に移せ
りといふ、合三島。

エンジウジ(圓城寺)【岐阜】美濃國羽
島郡下羽栗村の大字、笠松町の東に當り、
鐵道東海道線此所にて木曾川を横斷し、
鐵橋を架す。
エンジウジカガタ(圓上寺海) 越後國三
島郡の北隅に在る潟湖、寺泊町の東一里
に在り、方半里程ありしが、近年排水し、
面積頗る縮小す、餘水島崎川に入る、此地
方にて名高き大津掘割工事も、此池を
通ずる計畫なりしが、完成せずして止み
たり、池中に船草菜を産す。

エンシウジトウゲ(圓城寺峠) 丹後國
熊野郡但馬國出石郡に跨る峠、京街道に
出づる險路なり。
エンスイコウ(鹽水坑)【臺灣】臺南廳管
内外新化南里草山莊の地、鹹泉水ある、
り此名出づ、鹽水を噴出す所二所あり、
一は山の中腹に在り、噴出口は圓形、徑一
尺五寸、一日一回、高く柱狀を成して噴出
し、後靜止す。一は其西に當り、河床に鹽
水井に瓦斯を絶へず噴出す所あり、噴
出口六個、皆小にして、楕圓形を成す。
エンスイコウガイ(鹽水港街)【臺灣】嘉
義廳管内の市街、臺南郡の一要地にし
て、鹽水港に屬し、鹽水溪に瀕す、臺北
より七九里五町、臺南より一〇里一二町、
清國政府の時巡警署を設け、鹽水港訊守
備兵を置きし所にして、居民多く農商
を業とし、富豪多し、嘉義支廳警察署郵
便局公學校等あり、往時は四方海岸深く
穿入して、此邊まで船輪を通せしもの、

如く、鹽水港の名は海水の入來れるより
起れるなりといふ、清の雍正九年島内賀
易所となり、翌年佳里興巡檢を此所に移
せり、(註)合三島(鹽山)。

エンスイコウホウ(鹽水港堡)【臺灣】嘉
義廳所管下の地名、八獎、念水兩溪の間に
介在す、清の雍正十二年立て、堡とす、鹽
水港を主腦とするを以て堡名とす。
エンダ(圓田)【宮城】磐城國刈田郡の村、
大字、圓田は宮村より柴田郡に出づる間
の一小站なり、仙臺領の時秋保氏の采邑
なりき、古壘址二あり、一は初、河邊高綱
後小原善閑の居城、一は近世砂金又七郎
の居る所と傳ふ、合三島。

エンチシヤマ(遠知志山)【樺太】大泊支
廳管内能登呂中島南部中央の山、舊稱ウ
インヤス山。
エンチヨウワン(圓頂灣)【臺灣】澎湖島
南西海岸に在る錨地水深六尋内外なり、
灣頭は低狹なる頸地を成し、馬公港と界
し、高潮の時海風あれば海水に洗はる、西
洋人はドーム灣と呼ぶ、此より臺灣の安
平まで海底電線あり。
エンジマサキ(樺太)【樺太】對馬岬の舊
名エンルムカの轉訛。
エント(圓度)【樺太】名好支廳鶴城出張
所管内の地名、舊稱エンドクシナイイ。
エンドウ(遠藤)【神奈川】相模國足柄上

郡中井村の大字、五所八幡社あり、土俗此
地及北田、田中、久所、藤澤、中分形を總稱
して五所ノ宮又六名と呼ぶことあり。
エンドモサキ(樺太)【樺太】繪鞆岬の一
名。
エントク(延徳)【長野】信濃國下高井郡
の村、合三島。
エンドクシナイイ(樺太)【樺太】圓度の舊稱。
エンベツ(遠別)【北海】天鹽國天鹽郡の
村、遠別川に在り、明治十一年創開す。
苦前より天鹽に通ずる西海岸道に當る。
合三島。
エンベツガワ(遠別川)【北海】天鹽國天
鹽郡に在る川、水源、苦前郡境、天鹽郡の
南部を北流して遠別村に至り、日本海に
注ぐ、流程約二〇里、水路誌云、遠別川は
天鹽川口の南方約十哩の所に於て海
に入る、其上流一渾の所まで小舟を通ず
べし、河口より上、約五渾まで、水深三呎
乃至六呎、此河口は融雪出水の後、流勢稍
強、小舟の出入容易なるも、七月下旬以後
は水流甚だ、緩沙堆の變移により、河口風
折して出入し難きに至る、然れども大雨
出水の後、又出入し易き事あり、該河口
の上流約五渾に人家二百餘戸あり、皆農
業に従事す、永田氏地名解云、ウイェベ
ツは相話する川の義なり、天鹽山中の土
人海濱に出來りて、此所の土人と相話す
るを樂とす、因て名く、和人ウエンベツと
稱するは誤なりと。

訓都大山崎村の大字、古葛原庄と稱せし
地なるべしといふ、葛原親王の墓あり、
圓明寺は賢王山と號し、開基創建共に詳
ならず、往時は壯麗の精舎たりしが、建
武、應仁の兵亂を経て、甚だ荒廢せり、俗
に山の藥師といふ、又境内に一條實經の
墓あり、小倉神社は延喜式内の大社なり
し、現時は郷社にして、近傍數村の産土
神なり、大山祇神を祀る。
エンムホウ(燕霧堡)【臺灣】臺中廳管内
の堡、東界に燕霧山あるを以て堡名とす、
清の康熙六十年立て、堡とし、乾隆年間
上下二堡に分つ、此邊水利に當り、水田開
け、米産地として知らる、下堡の南に員林
街あり、中部臺灣南方の米の集散地なり、
エンヤ(鹽冶)【島根】出雲國鹽川郡の村、
今市町の南に接す、古の鹽冶郷の地にし
て、中世佐々木氏の一族此所に居り、鹽冶
を氏とす、其祖を頼泰といひ、高貞に至て
滅ぶ、合三島。
エンリ(苑里)【臺灣】苑里を見よ。
エンルムカ(樺太)【樺太】對馬岬の舊稱。
エンルムサキ(樺太)【北海】鹽振國有珠
郡に在る岬、水路誌云、エソクツキ岬の東
南東、一渾三離に在る、諸石角なり、高一
〇四呎、有珠嶽の山嘴にして、崎頂は耕地
なり、此崎とエソクツキ岬との間は沙濱
にして、内方は平地をなし、長流川此平
の稍東界を貫流して海に注ぐ。
エンルンコマナイ(樺太)【樺太】塩津の舊稱。
エンルンボロナイ(樺太)【樺太】崎川の舊稱。

オアカンタケ(雄阿寒岳)【北海】阿寒
岳を見よ。
オアマ(小沢)【熊本】肥後國玉名郡の村、
飽託郡に接し、有明海に臨む、北東南三
方は三ノ岳、熊野岳の連山を以て圍まれ、
北方僅に徑路を通ず、郵便局あり、海濱に
鹽類温泉湧出す、因て湯ノ浦とも呼ぶ、温
度攝氏九六度、浴舎數あり、合三島。
オアミ(天網)【長野】信濃國北安曇郡北
小谷村の字、越後國境に接し、所謂小谷谷
の北口なり、姫川に架せるを大綱橋と云
ふ、明治三十六年の架設なり。
オアイ(尾井)【大阪】和泉國泉北郡信太村
の大字、舊府の址にて、式内舊府神社あり。
オアイ(生尾)【千葉】下總國匝瑳郡匝瑳
村の大字、もと老尾に作る、式内老尾神社
あり、境内、東外洋を望み、眺望絶佳、曾我
物語に在る鬼王道三郎の墓は、山桑、觀音
堂に在り、鬼王は生尾の轉なりといふ。
オアイ(追貝)【群馬】上野國利根郡東
村の大字、片品川の岸、會津街道に當る。
郵便局あり、此地に猪ノ鼻流とて、國內第
一の大瀧あり。
オイガシマ(及ヶ島)【新潟】越後國四浦原
郡島上村の大字、信濃川、四川の間に在
り、此地に源義經奥州下向の時、策を下し
て休息せしといふ、巨石あり。

オイガタキ(老瀧) 山城國畿後郡宇治田
原村大字、奥山田に在る瀧。
オイカツシヤマ(多飯辻山) 備後國比婆
郡小奴可村に在る山。
オイカマナイヌマ(生鎌内沼)【北海】十
勝國十勝郡大津村に屬する海岸湖、生鎌
内川、中川、郡界より來り注ぐ。
オイカミ(老神)【群馬】上野國利根郡東
村の大字、片品川の岸に沿ふ、一に老上に
も作る、温泉あり、硫黄泉にして、温度攝
氏四十五度、沼田町を距る四里餘。
オイカミ(老上)【滋賀】近江國栗太郡の
村、合三島。
オイカワ(及川)【神奈川】相模國愛甲郡
の村、合三島。
オイカワ(老川)【千葉】上總國夷隅郡の
村、合三島。
オイカワ(及川)【福島】岩代國河沼郡の
村、及川はもと河沼郡の舊組名にして、二
四村を總べしが、今は及川、勝常の二村と
なる、又及川村の大字にも呼ぶ、戦國の頃
著名の臣栗村下總之に居りしといふ、郵
便局あり、合三島。
オイゴスゲ(生子菅)【茨城】下總國猿島
郡の村、合三島。
オイコミ(老古美)【北海】後志國岩内郡
岩内町の大字、明治十二年加賀國より移
住せる者の開く所なり。
オイシ(生石)【岡山】備中國吉備郡の村、
合三島。
オイシガミネ(生石峯) 紀伊國有田郡、那

賀三郡の境に在る山、長峯山脈の一峯なり、那賀郡小川村中田より登ること三三町とす。山頂に笠石あり、周囲五〇間着黒にして白紋あり、頗る奇観なり。

オイシサキ(生石岬) 淡路國東南端の岬、角津名郡由良町の南數町に在り、紀伊國友ヶ島と相對して、由良海峽を成す。岬背の山を佐比山といふ。天日槍の裔孫の占居したる地にして、生石神社其古蹟を傳ふ。生石神社は新羅王子天日槍を祀る。神體は出石の刀子(日槍)が持來れる靈寶の二なり。又御石權現社あり、阿波の細川屋形より大館有光を堺へ遣はし、兵器を調べしめしに、此地にて海賊船に會ひ、舟中の人悉く討死す。後其靈を祀るといふ。

オイスナ(笈砂) 【新潟】越後國四浦原郡に在りし村、明治三十四年島上村に入る。

オイセ(笈瀬) 【愛知】尾張國愛知郡に在りし村、明治三十七年愛知町となる。

オイツ(老蘇) 【滋賀】近江國蒲生郡の村、中山道之に懸る。武佐驛の東なり。延喜式、奥石神社あり、其森を老蘇森と呼び、和歌の名所なり。白雲峯、忘れにし人をぞ更にあふみなる、おいその森に思ひ出でゐる、六帖。

オイタ(大分) 【大分】を見よ。

オイタ(老田) 【富山】越中國射水郡の村、白雲峯。

オイタマクン(置賜郡) 【山形】奥羽に在りし古郡名、天武天皇の時創置せられ、初めは陸奥國に屬し、和銅五年出羽國を置

くに及び之に隸す。和名抄は於伊太美と註し、置賜廣瀬、屋代、赤井、宮城、長井、餘戸の七郷を載す。曆仁年中大江廣元の弟時廣に本郡を賜はり、子孫相承して、長井氏を稱し、因て郡名をも長井といへり。文祿年中舊に復す。近世分て長井北條の二莊、屋代小國、中津川、山上、梨郷、中郷、谷地、荒砥の八郷とし、徳川氏の初より上杉氏の領地たり。今羽前國に屬し、明治十三年分て東西南置賜の三郡とす。

オイタラ(天平) 【秋田】羽後國南秋田郡の村、白雲峯。

オイツ(老津) 【愛知】三河國瀨美郡の村、豊橋町の西南三里、西に瀨美灣の一支なる小江灣を抱く、灣中堆洲多し、歌枕名寄の老津島童部浦なりといへど、一説之を近江國なりとす。白雲峯。

オイツカミシマ(御五神島) 伊豫國北宇和郡日振島の屬島、一に五上島といふ、島に五神社の祠あり。古神功皇后征韓の歸路暴風に遇ひ、此島に漂着せしに、五箇の靈火現はれ御船を導きしより、火振島及御五神島の名ありとす。

オイツモ(小出雲) 【新潟】越後國中頸城郡新井町の大字、古書に大出雲又は老津に作る。天正六年上杉家督争の時、武田勝頼三郎景虎の加勢として、此地に出陣し、小田原勢の來るを待つ、景虎大に驚き、勝頼主従に賄賂し、且つ勝頼の妹を娶らんことを約す。勝頼乃ち引還る。

オイツルヤマ(笈山) 加賀國石川郡の東

南に在る山、飛騨越中二國の分界に跨る。海拔六〇二六尺、妙法山の北に連り、火山岩より成る。白山山麓の餘脈とす。

オイデ(生田) 【宮城】陸前國名取郡の村、白雲峯。

オイト(老門) 【北海】千島國樺提島嶺別郡の村、老門往々乙井に詠る。オイトはアイヌ語の義なり。水路誌云、老門灣はアルトル崎と其北方アンパシラレ鼻との間に灣入せる狭長灣にして、兩岸岩崖削立し、小舟は其内に在りて、能く各方の風を避け得べし、合六。

オイスガワ(狼河原) 【宮城】陸前國登米郡米川村の大字、陸中國に接せる一溪谷の一小站なり。東磐井郡及本吉郡への街道に當る。郵便局あり。封内風土記云、産物煙草、紫染、茜染、忍冬酒、不老酒、味淋酒、古鹽、三あり。一は米谷修理、一は千田甲運、一は龜掛川藤右衛門の居りし所なりとす。

オイツカ(老ノ岡) 山城國乙訓郡に在る大枝山の一名。

オイツタキ(老瀧) 山城國相樂郡東和東村大字園村に在る瀧高三丈。

オイバラ(生原) 【群馬】上野國群馬郡上郷村の大字、善龍寺は武田氏臣内藤修理の建つる所といふ、善寺領二十五石。

オイベツ(生懸) 【北海】膽振國勇拂郡の村、白雲峯。

オイマツ(老松) 【廣手】陸中國西磐井郡の村、白雲峯。

オイミ(生實) 【千葉】下總國千葉郡生實濱野村の地名、南北に分れ、共に其大字たり。蘇我町の東に接す。もと小弓又は御弓に作る。小弓城址あり。應永年中千葉氏の族原胤隆之を築きしが、胤榮に至り白井に徙る。大永年中足利義明父政氏と譜はす。里見、武田の二氏之を迎へ、此所に置き、御弓御所と呼べり。義明後國府に戦死し、館廢す。天正年中四郷家貞此所に封ぜられ、後森川氏之に代る。封一萬石傳へて、明治維新に至る。大慶寺は淨土宗の巨刹にして、道譽上人開基、關東十八壇林の一なり。

オイミハマ(生實濱野) 【千葉】下總國千葉郡の村、合三三。

オイラセカワ(奥入瀧川) 陸奥國上北郡に在る川、一に相坂川と呼ぶ。水瀧、陸中國界なる十和田湖、八甲田山の東南麓なる諸溪流を合せ、第三紀層地を東流し、三本木野の南を流れ、百石に至り太平洋に注ぐ。流程一六里。其下流兩岸には狭小なる第四紀層の平地あり。

オイラセカワ(追良瀧川) 陸奥國西津輕郡に在る川、水瀧、泊岳連山の北陸、西北走して日本海に入る。流程一六里。

オイリ(追入) 【兵庫】丹波國多紀郡大山村の大字、篠山、柏原間の一驛なり。昔時は福住古市と合せて郡の三驛と稱せり。

金山城 山の上、岩石の間に平石積はり、自ら一大石橋狀を成す。天正の頃明智光秀此所に壘を築き、其將朽木矢島等を

置きて之を守らしめ、馬井城主赤井直政の八上を援ぐる路を絶ちたり。

オイリ(小秋) 【愛知】尾張國栗原郡草井村の大字、名古屋の北西六里とす。此地の八幡社、寛永十一年の棟札に小入村とある事、尾張志に見ゆ。

オイワケ(追分) 【樺太】豊原支廳豊原出張所管内の村落にして、植民區劃地、豊原の西方一町、真岡街道に當る。鈴谷川邊に於ける平地にして、農耕に適す。番名アリヤニエー。●【北海】膽振國勇拂郡安平村に在る鐵道車驛、室蘭線此所にて夕張線を分つ。若見澤驛まで二四哩、夕張驛まで二七哩、早來驛より七哩半、此地に骸炭製造所あり、一年一萬噸を製すといふ。

●【東京】武藏國「東京市」を見よ。

●【三重】伊勢國三重郡日永村の字、東海道より參宮街道の分る、所にして、郵便局あり。神宮まで一六里、四日市へ一里半。

●【滋賀】近江國大津市に屬する地名、山城國宇治郡山科村の東北に當り、國道此所にて分れ、一は京都に、一は伏見に向ふ。故に此名あり。近代此地を以て山城近江の國界とす。●【長野】信濃國北佐久郡西長倉村の大字、北國街道と中山道との分岐する所にして、賑はしき驛舎なりしが、鐵道開通以來大に衰へたり。俗曲の追分節といふは、此驛の馬追唄に出づといふ。淺間の登山口あり。山頂まで三里餘。●【秋田】羽後國南秋田郡金石村の字、陸羽街道より大久保及男鹿への分

岐點なり。古名を種ノ枝道と呼ぶ。鐵道陸羽四線の停車場あり。土崎驛より三哩五、六鎮、秋田驛より八哩八鎮。

オイワケハラ(追分原) 信濃國北佐久郡西長倉村に屬する荒原、淺間山の麓なり。面積六〇八町、輝石安山岩より成り、土性は壤質、礫土なり。水利なし。

オウ(大) 【長崎】肥前國東彼杵郡の村、大村町の西郊なり。合三三三。●【茨城】常陸國眞壁郡の村、合三三三。●【愛知】三河國寶飯郡に在りし村、明治三十九年下地町に合す。●【長野】信濃國北安曇郡の町、仁科三湖の餘水高瀬川に入る所。に居り、越後系魚川街道の要衝とす。郡役所警察署郵便局中學校等あり。製絲業甚だ盛なり。松本へ八里、糸魚川へ二〇里。又越中中山まで二里、其間に針之木峠あり。此地舊稱を仁科といひ、中世名族仁科氏の居りし所なり。此家は平維茂の裔なりといふ。壽永年中仁科次郎盛宗(一に盛家、木曾義仲に從ひ、備中に戦ひ、承久役に次郎四郎といふ)盛遠あり。後鳥羽院西面に仕へ、勇名あり。永祿年中盛政に至り、武田氏の爲に滅亡。信玄其子五郎信盛をして仁科氏を冒さしめたり。信盛後高遠城に移る。合七七。

●【鳥取】因幡國八頭郡の村、用瀬驛の北に接し、智頭川に沿ふ。大字、應祥に、大安興寺あり。眞言宗にして、大化年中法道仙人草創といふ。元明天皇、醫王山大安興寺の號を賜はる。本尊は行基作樂師如來。

●【熊本】肥後國球磨郡の村、合三三三。●【鹿児島】薩摩國薩摩郡の村、大隅國に接せる山村にして、郵便局あり。鹿兒島を距る一〇里、一八町中世澁谷其重の居りし城址あり。合三三三。

オウ(多) 【奈良】大和國磯城郡十市郡の村、古の飯當郷の一部なり。式内の古社多神、社あり。綏靖天皇の皇孫神八井耳命を祀る。意保臣の祖神なり。大字、秦莊に秦樂寺あり。堂宇小なれど、中古の遺蹟なり。●【兵庫】播磨國赤穂郡の村、室津港の西北一里、相生灣に臨む。合三三三。

オウアイラ(大給良) 【鹿児島】大隅國肝屬郡の村、鹿屋村の南に隣り、郵便局あり。此地は大給良氏の居りし所にして、其城址あり。大給良氏は福庭氏より出で、横山、大目、濱田と同族たり。後肝付氏の爲に合せらる。合三三三。

オウアガリシマ(大東島) 琉球國沖繩本島の東方約一九五哩に在る島、南大、北大東、沖大東の三島より成る。南北大東島は明治十八年、沖大東は三十三年、沖繩縣の所管となる。今島尻郡に屬す。

オウアサ(大朝) 【廣島】安藝國山縣郡の村、新庄川の水源地にして、石見國濱田に出づる要路なり。廣島より一三三里、郵便局あり。大字、大塚の溪中に沙鐵を出す。山縣鐵の本場にして、古來有名なり。合三三三。

オウアサヤマ(大麻山) 阿波國板野郡の東北に在る山、内海に臨み、高峻にて、樹

木鬱たり。北灘瀧川、徳養、堀江、飯東の諸邑山麓を繞る。南麓に大麻比古神社あり。

オウアシ(大蘆) 【埼玉】武藏國北足立郡吹上村の大字、大天八公社あり。何神なるや詳ならず。附近の諸村にも同名の祠多し。●【福島】岩代國大沼郡の村、野尻川の奥なる深山中に在り。南會津郡の界なる舟ヶ鼻山といふ、之を除ゆれば、檜澤川の谷に出づべし。合三三三。●【島根】出雲國八束郡の村、合三三三。

オウアソウ(大麻生) 【埼玉】武藏國大里郡の村、熊谷町の西に當り、荒川に臨む。上武鐵道熊谷より秩父に至るの停車場あり。熊谷驛より三哩三〇鎮。合三三三。

オウアダ(大阿太) 【奈良】大和國宇智郡の村、合三三三。

オウアニガワ(大阿仁川) 羽後國北秋田郡に在る川、一に阿仁川といふ。水源、森吉火山及國見嶺東側、北流して阿仁銅山地方を過ぎ、浦田村に至り、平原に出で、西北轉し、小阿仁川を合せ、麻生村に至り、米代川(能代川)に入る。流程一五里。

オウアミ(大網) 【千葉】上總國山武郡の町、銚子街道の一市街にして、郡の南偏に在り。房總鐵道東金大原二線の分る、所なり。銚子街道本納、東金二驛の間とす。維新の時、米津氏の封地なりき。郵便局あり。本納より一里、一九町、東金へ一里、一六町、大網神社は、大日靈命外八座を祀り、近郷の鎮守なり。昔は大神宮、八幡春日三神を祭り、一時は八幡神社とも呼べり。

本國寺は町の西南に在り。法華宗の檀林にして、昔は善興寺と呼び、眞言宗なりき。文明年中領主酒井氏領内の寺院を悉く改宗せしめしとき法華となる。堂宇壯麗。昔は學寮を設け、僧徒千餘人修學し、宮谷檀林と呼べり。八三三三。●【千葉】安房國安房郡館野村の大字。館山町の東とす。浄土宗の巨刹大慶院あり。靈巖松風和尚開基。強賊源平なる者和尚の教化により懺悔し寺中に死すといふ。其墓存す。

オウアミヤマ(大綱山) 下野國安蘇郡大伏町大字富士の東北に在る山。其頂に平地あり。空濤之を繞る。上古豐城入彦命の裔奈良別君(當國國造)より其遺裔大綱臣に至るまで世々居城せし所と傳ふ。

オウアライ(大洗) 常陸國東茨城郡磯濱町の海濱の稱。海水浴場のある所なり。前は海背は丘にして、岬角海中に斗出すること三町餘。青松其上に茂り、風景佳く、鬼洗淨琴彈瀧、烏帽子岩、建瀧八景大洗神社等の勝あり。夏時避暑客多し。水戸市を距る三里二五町。那珂河川の濠より汽船にて三五町。磯濱町をも見よ。

オウアラサワ(大荒瀧山) 陸中國和賀郡湯田村に在る嶺山。大荒瀧川此所に發し、北流して和賀川に入る。流に沿ひ下ること二里。平和街道に出で、之より五里黒澤尻停車場に達す。此山の發見詳ならず。往昔稼行盛大なりし跡尙存す。明治四十一年、使用續大六〇人、女工一五人、採掘高七七、八九五五製製品

銅一二、五〇〇四斤、價格三萬五千圓。

オウアラシ(大嵐) 【山梨】甲斐國南部留郡の村。明治三十二年鳴澤村大字大嵐を割きて新設。合三三。

オウアワサン(大葉山) 【徳島】阿波國名西郡帖喰川上流の總稱。神領村、上山村、鬼露野村、阿野村等あり。西は焼山寺山、南は高根山東は建治山、北は二ノ丸山に連り、山岳圍繞す。

オウイ(大井) 【東京】武藏國荏原郡の町。舊郷名にして、延喜式の古郷名を存し、品川町の南に當る。一時南品川宿に合せられ、後獨立して村となりしが、明治四十一年町となる。立合川此所に至り海に入る。其川尻は稍突出隆起す。之を大井鼻といふ。此邊を大井濱川町と稱し、徳川幕府の時餘々刑場のありし所とす。光福寺は了海上人(親鸞六老僧の二開基)有名な古刹なり。江戸砂子には西福寺に誤まる。合三三〇。●【京都】丹波國南桑田郡の村。龜岡町の北にして、保津川に沿ふ。延喜式、大井神社あり。合三三六。●【神奈川】相模國足柄上郡の舊庄名。今、上下西の三部に分れ、共に曾我村の大字なり。昔時其地廣く、中村にも及べり。西大井に眞福寺あり。古義眞言宗にして、永保元年源義家曾比村に建てしを、至徳三年移せるなりといふ。古文書及至徳年中のもの、と傳ふる大般若經を藏す。●【埼玉】武藏國入間郡の村。大字大井は川越街道の小驛とす。郵便局あり。大和田町より一

里半、川越へ二里。道與准後の廻國雜記に「河越といふ所に至り大井が原といへる所にて、打わたす大井川原のみなかに、山やあらしの名をやどすらん」とあるも此所なりといふ。合三三八。●【三重】伊勢國一志郡の村。合三三三。●【愛知】尾張國海東郡に在りし村。明治三十九年永和村に入る。●【愛知】尾張國知多郡に在りし村。明治三十九年師崎町に合す。●【静岡】遠江國周智郡山香村の大字。奥之山川の天龍川に合する所に在り。青崩山道(信州街道)の一小驛とす。●【山梨】甲斐國中巨摩郡の村。合三三九。●【岐阜】美濃國惠那郡の町。中山道の一驛にして、岩村街道、下街道の分岐する所とす。岐阜を距る一八里七町中津町を距る二里二四町。警察分署、郵便局あり。大井驛は延喜式に出で古來有名なり。町の東に福津神平墓あり。神平は武田の臣にして、放鷹の名手といふ。町の南に長國寺あり。神平の遺物西行の位牌等あり。合三三三。●【岡山】備中國小田郡の村。合三三三。●【山口】長門國阿武郡の村。萩市街の北東に當れる海村にして、大井川一名紫福川此所に海に入る。合三三三。●【愛媛】伊豫國越智郡の村。合三三三。

オウイ(大井) 【神奈川】相模國津久井郡の村。桂川に沿へる一村にして、徳川幕府の時此所に番所を置き、材木薪炭類を運送する船隻より徴せり。是を五分一

運上取立番所と呼べり。合三三三。●【埼玉】武藏國北埼玉郡の村。合三三三。●【福井】越前國三浦郡の村。合三三三。

オウイカワ(大堰川) 山城・丹波二國を流る。川一に大井川に作る。水源、北桑田郡河原村。上流を保津川といふ。北桑田郡南桑田の三郡を風曲して山城國に入り、葛野郡嵯峨松尾の邊に至り大堰川の稱あり。清瀧川を合せ、嵐山の麓を繞りて東南流し、桂川の稱あり。乙訓郡の東南境に沿ひ、西南流し、紀伊郡下鳥羽村に至り加茂川を合せ、久世郡淀町に至り宇治川と合し、下流淀川となる。別名を四川古名を葛野川といふ。大堰川の名は秦氏の祖大堰を設けて水利を興したるに因るといふ。今丹波より薪炭を輸出する一に此川に依る。

オウイカワ(大井川) 駿河遠江の境に在る大川。水源、甲斐信濃の間なる白嶽赤石二山脈の間、上流を田代川といふ。關ノ澤川守又川、山山川、大代川等を合せ、南走して駿河灣に入る。流程約三二里。川幅廣き所七九六間。下流舟楫を通ずること約一六里。其下流は古來變遷多し。古は横岡と牛尾山との間を流れ、今の金谷驛、河原町を経て東南島田驛の南を流れ、遠江國小杉と駿河國一色との間を流れ、田尻濱に至り海に入りたり。天正年中よりは牛尾山と駿河國相賀との間を流れ、又何れの時にか其下流大井川より一筋は西南

に流れ、上吉田小山の邊を経て川崎に至り海に入り、他の一筋は寛永十年の頃色尾より下川尻飯淵の間を流れて海に入り、是今の河筋なり。夫より後東西に大堤を築き、小杉一色間の一流と川崎に至りし一流とは絶へたり。されど小杉一色間に細流を存せしかば、近年まで之を以て遠瀧の國境とし、本流と此流との間を向橋原と稱し、遠江の管下に置きしが、明治十二年之を駿河國志太郡の管内に移す。今の靜濱相川吉水、大洲の四村はなり。是より大井の幹川を以て、復た兩國の境界と成す。此川は海道一の要害として徳川氏架橋渡船を禁ぜしかば、往來の人は必ず人足(川越と稱す)を僱ひ、或は蓮葉に騎り、又は人の背肩に負はれて渡せり。其人足は兩岸なる島田、金谷の二驛に於て、無慮七百名ありたり。兩驛に川會所ありて之を支配し、大水の時はいく渡渉を許さず。之を河留といへり。故に出水ある毎に東西兩驛の客舎悉く旅客を以て埋充し、驛二宿も後に戻りて、水の退くを待たざるを得ざりき。而して其川留、川明は島田なる駿府代官所出張陣屋井に江戸道中奉行に報じ、頗る其事を慎重になしたり。明治維新後從前の禁解り、渡船を置き、明治十五年架橋成り、二十二年鐵道橋梁を架す。●備中國に在る足守川の一。●長門國阿武郡に在る川。一に紫福川といふ。水源、福賀村、西南流して平原に至り西北折し、大井村に至り

日本海に入る。流程七里半。

オウイケン(大飯郡) 【福井】若狹國三郡の一。四境、西は丹後國加佐郡、西南は丹波國何鹿郡、南より東は遠敷郡、北は海、東西約六里、南北約三里。面積約八方里。行政上、高濱青柳、内浦、佐分利、和木、本郷加斗、大島の八村に分ち、郡役所を高濱村に置く。●合三三三。●【徳島】本郡は國の西偏にして、地形險隘、土壤亦瘠薄なり。郡境は山岳連互し、地勢北に低下すれども、幅員狭くして大河なく、唯佐分利の一豁流あるのみ。海岸は出入多く、押通崎及和田山の大半島出で、高濱、内海の二大海を擁す。山岳の著名なるは青葉山及飯盛山とす。道路は丹後街道小濱より來り、海岸に沿ふて丹後に入る。産物多からず。産業の主なるものは農にして、海邊の民は漁業に従事す。農産物は米、四千石、麥、二萬石、外食用農産物三萬七千圓、桐實、桑葉、大麻等の特用農産物三萬五千圓、其他繭、木材、薪炭材、流産物三萬圓、蠶絲、礦産物等とす。大飯は天長二年遠敷郡より分置せられたるものなり。和名抄は於保伊太と訓じ(太は比の誤なるべし)。大飯佐分木津、阿遠、遠を桑に誤るものあり。四郷を載す。戰國の頃若州西方と呼べる地なり。

オウイケ(大池) 【静岡】遠江國小笠郡の村。掛川町の西に接す。中世大池庄と呼び、鎌倉北條一門の邑なりし。合三三三。

オウイケ(大池) 備前國赤磐郡高陽村字

●【福井】越前國坂井郡の村。合三三三。●【福井】越前國浮羽郡の村。豊後國に近く、千歳川に沿ふ。此地に大石、長野の二堰あり。千歳の水を堰きて浮羽郡及三井郡東部の灌漑に供す。元來舊生業、竹野、山本

●【福井】越前國坂井郡の村。合三三三。●【福井】越前國浮羽郡の村。豊後國に近く、千歳川に沿ふ。此地に大石、長野の二堰あり。千歳の水を堰きて浮羽郡及三井郡東部の灌漑に供す。元來舊生業、竹野、山本

●【福井】越前國坂井郡の村。合三三三。●【福井】越前國浮羽郡の村。豊後國に近く、千歳川に沿ふ。此地に大石、長野の二堰あり。千歳の水を堰きて浮羽郡及三井郡東部の灌漑に供す。元來舊生業、竹野、山本

●【福井】越前國坂井郡の村。合三三三。●【福井】越前國浮羽郡の村。豊後國に近く、千歳川に沿ふ。此地に大石、長野の二堰あり。千歳の水を堰きて浮羽郡及三井郡東部の灌漑に供す。元來舊生業、竹野、山本

●【福井】越前國坂井郡の村。合三三三。●【福井】越前國浮羽郡の村。豊後國に近く、千歳川に沿ふ。此地に大石、長野の二堰あり。千歳の水を堰きて浮羽郡及三井郡東部の灌漑に供す。元來舊生業、竹野、山本

●【福井】越前國坂井郡の村。合三三三。●【福井】越前國浮羽郡の村。豊後國に近く、千歳川に沿ふ。此地に大石、長野の二堰あり。千歳の水を堰きて浮羽郡及三井郡東部の灌漑に供す。元來舊生業、竹野、山本

軍陣を尾張河の九渡口に張るとある渡口の一なり。天明年中木曾川の水路一變し、渡津は今波に移れるなり。

オウイヒガシ(大井東) 【岡山】美作國久米郡の村。合三三。

オウイリ(大入) 【愛知】三河國北設楽郡岡村の字。一水信濃國境より來り、此所にて振草川と合し、遠江に入り天龍川に注ぐ。大入川といふ。俗に花山法皇諸國行脚の時暫く留り給ひし所にし、もと王入と記せしを、傳りて文字を改めしと傳ふれども信じ難し。

オウイワ(大岩) 【茨城】常陸國那珂郡八里村の大字。下野國那珂郡に接せる山村なり。山中に人の坐せるに似たる巨岩あるより此名起る。中世大岩氏あり。【靜岡】駿河國安倍郡安東村の大字。靜岡市の北郊とす。應濟寺及福田寺の二名あり。應濟寺は禪宗にして、清見寺及靜岡の寶壽寺と共に駿河の三刹と呼ばれ、天文中今川義元(一)に氏輝、創建、本光國師開基なりしが、天正中兵變に罹り、徳川氏再興して寺領百石を付せり。寺内に今川氏輝義元及中村一氏の墓あり。又書院の一隅に家康幼時今川氏に質たりし時、讀書せし室といふものあり。福田寺は時宗にして、相州遊行寺に譲り、慶長年中家康の旨を承けて、後藤光次之を建つといふ。公此寺に臨み、京都の圓山に似たりとて、松高き丸山寺の流れの井、いくとせ澄る秋の夜の月と詠みりといふ。境内

に流井あり。其水清冽、傍に流井寺、流井園等あり。【富山】越中國中新川郡の村上市町の南二里。一大岩山あるより村名起る。此山の中腹に日石寺と呼ぶ眞言宗の古刹あり、僧行基の開創と稱し、本尊の不動明王は堂後の岩壁に刻したるものにて、長凡一丈八尺、其下に狛迦羅制吒伽二童子の像を刻す。眼病に靈現ありとて、賽者甚だ多し。境内は立川寺と共に郡内の絶勝と稱せられ、殊に避暑に適すといふ。合三三。

オウイワヤマ(大岩山) 下野國足利郡三重村に在る山。其山下を大岩と呼ぶ。山中に最勝寺あり。其地沙門は長一丈八分圓浮檀金の像にして、日本三體信實、鞍馬、大岩の一なりといふ。【三河】國渥美郡二川宿(大川町)の北方に在る山。岩石多く中に龜岩といふは、高八丈、幅十餘丈。岩上に正觀世音の像あり。長一丈三尺之を、岩屋觀音といふ。覽富士記に「君が代は數もしられぬ、われ石の、皆大岩の山となるまで」。岩代國南津野郡荒海村に屬する山。檜澤川其麓を流る。天正年中長沼盛秀河原田盛次と戦ひし時、盛次の旗河原田大膳此所に據て防戦し、終に戦死せり。黒澤新田の地に其墓あり。

の六縣に分つ。東は太平洋、西は日本海、南は山岳を以て北陸關東に接し、北は津輕海峽を隔て、北海道に對す。面積四三八六方里、即ち本州島の三分一弱に當り、人口五三九萬、即ち一方里一二三〇人弱に當る。山脈三條、殆ど子午線の方向に走りて、此地方の骨格を成し、殊に其中央なる脊梁山脈は此地方の樞軸となりて陸羽の境界を成す。地質は第三紀層を基礎とし、那須火山脈に屬する數多の火山其間に隆起す。脊梁山脈の東には、主として始原層より成れる阿武隈山脈、古生層及中世層より成れる北上山脈、南北に横はり、西方には主として第三紀層より成れる越後山脈及出羽丘陵南北に連り、島海火山脈の諸火山之に沿ふて噴出するあり。脊梁山脈と東部山脈との間には阿武隈北上の二大川あり。西部山脈との間には最上御物の二巨流あり。皆瀧漕舟楫の便を具へ、其沿岸は肥沃の平原を成し、人口多く、物産に富む。鐵道主線は東側、阿武隈北上の流域を経て青森に至り、西側には常磐線及岩越線あり。岩越線は近く全通して北越地方との交通を易からしむべし。但し海岸線の長きにも拘らず、唯一の陸奥灣を除きては、太平洋岸、日本海岸共に良港に乏しく、運輸の便充分ならず、加ふるに地僻遠氣候寒冷なるを以て、住民少く、人文の發達、常に他に後るゝを免れず。生業は農畜牧畜を主と

オウウチ(大内) 【京都】丹波國加佐郡に在りし村。郡の東北隅にして、東は若狹國大飯郡に接し、北は若狹國、西南は舞鶴灣に面し、博奕成生の二峠あり。今東、西の二村に分る。【長崎】對馬國上縣郡に在りし村。明治四十一年豊崎村に入る。【新潟】越後國南蒲原郡に在りし村。明治三十四年長澤村に入る。【福島】磐城國石城郡の村。合三三。【青森】陸奥國中津輕郡の村。大浦城址あり。津輕十二世盛信の築造に係り、爲信まで四代の居城なり。文祿元年堀越に移る。合三三。【佐賀】肥前國藤津郡の村。合三三。【鹿兒島】薩摩國川邊郡西加世田村の大字。小湊の東北なる商業地なり。【大分】大分縣(大浦) 【島根】石見國隠岐郡、五十猛、村の一名。

し、福島縣の蟹縣、宮城縣の米、殿手縣の馬、秋田縣の山林、礦物の如く、特に世に著るものあり。都會の主なるものを仙臺若松、福島盛岡、弘前、青森、山形、米澤、秋田とす。而も人口十萬以上のものなし。奥羽の地は奈良朝までは蝦夷の跳梁跋扈せし所にし、其征服せられしは、桓武嵯峨兩朝の時に在り。爾後夷民漸く同化せられ、無事なりしが、中世に至り、前に安倍氏後に藤原氏あり、富強にして王命を奉ぜず。終に前九年、後三年の役あり。戰國の頃は群雄割據して相争ひ、其難なるものに伊達葛西、蘆名、南部最上の諸氏あり。徳川時代大諸侯に仙臺(伊達氏)、會津松平氏、南部南部氏、弘前(津輕氏)、米澤上杉氏、秋田(佐竹氏)の諸氏あり。明治維新の際、會津盟主となり、奥羽諸侯(津輕、佐竹兩氏を除く)と聯合して官軍に抗せしが、幾くもなくして平定す。

オウウチ(大内) 【京都】山城國葛野郡の村。東寺停車場あり。大字八條に六孫王神社あり。源經基を祀る。元祿年間の再建に係り、寶永の初盛なる祭祀を起す。舊時は大通寺の境内に在りたり。例祭は十月十一日なり。西寺は東寺に對しての稱呼にして、中世西方寺と號せり。弘仁年中嵯峨天皇勅して西嶋屋敷を守教僧部に賜はり寺とせし靈地なれども、後世荒廢して大抵田畝となり、僅に一小庵を存するのみなりしが、近年有志者佛堂を再建し、西寺と復稱す。境内に守教の塚あり

合三三。【栃木】下野國芳賀郡の村。合三三。【折木】下野國那珂郡の村。合三三。【靜岡】駿河國庵原郡高部村の大字。此地の龍泉寺に、堀原景時等主従の墓あり。正治二年堀原主従三十三人相州一ノ宮館を退去し、上洛せんとて此地に懸りしに、在國の武士蜂起して之を遮りしかば、景時孤ヶ崎より取て返り戦けるが、景時の子息四人忽に害せられしかば、景時走りて大内の島坂山に籠る。吉香、庵原、三澤、飯田の諸士來り攻め、景時、景季以下皆自殺す。即ち三十三人の首を梟示し、鎌倉へ注進すといふ。【宮城】磐城國伊具郡の村。大澤嶺を踰れば相馬郡に出づ。大字大内に戰國の頃相馬長門守義胤の據りて伊達氏と戦ひし墓址あり。合三三。【鳥取】因幡國八頭郡の村。合三三。【島根】石見國那賀郡の村。山口町の東郊にして、大内氏の祖琳聖百濟王の居りし所といふ。其墓、福壽寺の山下に在り。但し古の大内は今の小鱈村をも含めりといふ。村に農學校及農事試験場あり。興隆寺は大字御堀氷上に在り。天台宗に屬し、大内正恒の創建と言傳ふ。大内氏の盛時には山口五大寺の隨一にして、當時の古文書等を多く藏す。毎年四月九月の十三日妙見會を執行し、賽者群集す。此妙見は大内氏五世茂村、鷲頭山より勸請せしものにして、大内氏の祖琳聖王子守護の爲に飛行せりと傳へ、大内氏

の尊極めて厚く、祭禮當日には童舞あり、歩射あり、盛大を極めしといふ。乘福寺は大内十五世重弘、弘七世弘世の菩提所なり。寛文中焼失せるを以て、塔頭正壽院を改めて乘福寺とすといふ。鏡空和尚開基南明山と號す。合三三。【高知】土佐國高岡郡川内村の字。鎮泉湧出、温度低きを以て火力を加へて浴用に供す。泉質は單純泉、無色透明、温氣帶下、機瘡、金瘡等に効ありといふ。然れども地僻なるを以て浴客多からず。宇佐町より二里一〇町須崎町より七里五町吾川郡伊野町より二五町腕車を通す。

オウウチ(大内) 【新潟】越後國古志郡に在りし村。明治三十四年長岡町に合す。オウウチオカ(大内丘) 大和國高市郡に在りし丘陵。今白根村五條野の地なり。オウウチクン(大内郡) 【香川】讃岐國に在りし郡。國の東端を占めたり。四境北は海、東及南は阿波國、西は舊美作郡、相生、小海、引田、松原、白鳥、三本松、譽水、福榮、丹生の九村ありしが、明治三十二年美作郡と合して大川郡となる。大内は和名抄於布知と訓じ、引田、白鳥、譽水、野の四郷を載す。西讃府志に、大内は大市なるべしといふ。全讃史に、此郡孝靈天皇の皇女、諸居の地なれば、其宮居を土人大内といひしより出たりと説く。全讃史又云、大内郡四郷三十四村、古高一萬石、打出高三千百九十石、新開高千六百三十三石餘。

オウエ(大江) 【北海】後志國余市郡の村。余市川の右岸に沿ひ、余市山通の通路なり。本村は明治十三年毛利公爵其士族を移して開拓せる所にして、三十五年仁木山道の二村を合せ、今、村役場を仁木に置

オウカ

と連る。堅上、堅下の二村ありしが、明治二十九年廢郡中河内郡の一部となる。此郡初め片鹽と號し、古は巨麻、鳥取、鳥坂、津積大里、實美の六郷あり。一時は堅上、堅下の二郡を建てしが、養老四年併せて一郡となれり。

オウカチ(大勝) 【鹿兒島】大隅國大島郡名瀬村の字、大勝郡領あり。

オウカツタ(大田) 【磐城】磐城國刈田郡に在る山、白石町の北方八軒に在る休火山にして、第三紀層の丘陵に孤立し、主に瘦石富士岩より成り、高二九七〇尺、頂上に火口あり、火口壁は青崖二六五八尺、大森(二九〇尺)高尾等の諸峯に分れ、其火口湖は板橋澤と呼ばれ、宮村に於て白石川に入る。

オウカド(大門) 【茨城】常陸國久慈郡磐田村の地名、今上下に分れ、共に其大字たり。佐竹氏の舊城址あり、其家臣助川氏世々此所に居るといへり。村の東に國見山あり、眺望絶佳なり。

オウカド(大角) 【讃岐】國小豆島に在る崎、島の東南端に斗出、地蔵尊と相對して、一大灣を抱く、昔羽牛島其灣中に斗出し、内外の二港に分つ。外灣は坂手港にして内灣は草加部港なり。

オウカノ(大個野) 【群馬】上野國邑樂郡の村、白土。

オウカバシ(大蒲新田) 【愛知】尾張國西春日井郡加意村の大字、もとは大蒲沼とて、大山川の湖澤なりしが、近世開

オウカ

鑿して水田となれり。

オウカマダ(大鎌田) 【山梨】甲斐國中巨摩郡の村、白土。

オウカミ(大神) 【東京】武藏國北多摩郡の村、白土。

オウカミヤマ(大神山) 【伯耆】國に在る大山の一名。

オウカムリ(大冠) 【大阪】攝津國三島郡島上郡の村、高槻町の南、淀川に沿へる低地にして舊郷名なり。其河内國枚方町と對する一水郷を大塚といふ、白土。

オウカメ(大龜) 【宮城】陸前國黒川郡富谷村の大字、鹿島、天足別社は郡の惣領守にして、延喜式内の古社なり。一説志戸田の柴社こそ是なりといふ。

オウカメダ(大龜谷) 【京都】山城國紀伊郡深草村の大字、村の東南を占む、北は深草山にして、南は伏見山なり。

オウカモ(大賀茂) 【静岡】伊豆國賀茂郡朝日村の大字、下田の西なる山村とす。南豆第一の眞言道場曹洞院あり、弘法大師の古蹟と傳ふ。

オウカマ(大孝) 【鳥取】因幡國岩美郡の村、但馬に接する山村にして、袋川の水源なり、北に一嶺を越れば舊岩井郡蒲生村即ち山陰道に出づ。菅野神社は茅上船二村の鎮守なり、三代實録に見ゆる古社とす、白土。

オウカヤ(大茅川) 【因幡】國に在る袋川の一名。

オウカワ(大川) 【北海】道島國龜田郡七

オウカ

飯村の字、近年中島城山の諸村と合せ、大中山と呼び、七飯村の大字なり。七重郡の南東とす。

オウカミ(大鎌田) 【山梨】甲斐國中巨摩郡の村、白土。

オウカミ(大神) 【東京】武藏國北多摩郡の村、白土。

オウカミヤマ(大神山) 【伯耆】國に在る大山の一名。

オウカムリ(大冠) 【大阪】攝津國三島郡島上郡の村、高槻町の南、淀川に沿へる低地にして舊郷名なり。其河内國枚方町と對する一水郷を大塚といふ、白土。

オウカメ(大龜) 【宮城】陸前國黒川郡富谷村の大字、鹿島、天足別社は郡の惣領守にして、延喜式内の古社なり。一説志戸田の柴社こそ是なりといふ。

オウカメダ(大龜谷) 【京都】山城國紀伊郡深草村の大字、村の東南を占む、北は深草山にして、南は伏見山なり。

オウカモ(大賀茂) 【静岡】伊豆國賀茂郡朝日村の大字、下田の西なる山村とす。南豆第一の眞言道場曹洞院あり、弘法大師の古蹟と傳ふ。

オウカマ(大孝) 【鳥取】因幡國岩美郡の村、但馬に接する山村にして、袋川の水

オウカ

といふ。今に海上安全を祈る者多し。

オウカミ(大鎌田) 【山梨】甲斐國中巨摩郡の村、白土。

オウカミ(大神) 【東京】武藏國北多摩郡の村、白土。

オウカミヤマ(大神山) 【伯耆】國に在る大山の一名。

オウカムリ(大冠) 【大阪】攝津國三島郡島上郡の村、高槻町の南、淀川に沿へる低地にして舊郷名なり。其河内國枚方町と對する一水郷を大塚といふ、白土。

オウカメ(大龜) 【宮城】陸前國黒川郡富谷村の大字、鹿島、天足別社は郡の惣領守にして、延喜式内の古社なり。一説志戸田の柴社こそ是なりといふ。

オウカメダ(大龜谷) 【京都】山城國紀伊郡深草村の大字、村の東南を占む、北は深草山にして、南は伏見山なり。

オウカモ(大賀茂) 【静岡】伊豆國賀茂郡朝日村の大字、下田の西なる山村とす。南豆第一の眞言道場曹洞院あり、弘法大師の古蹟と傳ふ。

オウカマ(大孝) 【鳥取】因幡國岩美郡の村、但馬に接する山村にして、袋川の水

オウカ

に至り海に入る。流程四里二町、琉球第一の長流と稱せらる。

オウカワウチ(大川内) 【鹿兒島】薩摩國出水郡の村、白土。

オウカワ(大川) 【香川】讃岐國七郡の一、四境、東の一部及南は阿波國板野、阿波美馬三郡、西は木田郡、東北一帯播磨灘、東西八里三五町、南北七里三〇町、面積二一方里三〇行政上、三本松志度津田の三町及相生、小海引田、松原、白鳥、水、福榮、丹生松尾、富田、五名山、神前石田、造田、長尾、奥山、鴨部、鴨部下庄、小田、鶴羽の二〇村に分ち、郡役所を長尾村に置く、面積五九四、〇三三、地勢本郡は國の東端に位し、東より南は山峰連續して阿波の國境を成し、北方沿岸の地は稍平衍にして、國道此に懸る、山岳は阿波國界に大山、笠塚山、矢野山あり、其脈郡の中部に延び、中尾山、五名山、虎丸山等となる。河流は鴨部川を稍大なりとし、其他津田川、田川、湊川あり、海岸は屈曲多く、西北端に馬ノ齒、大串、小串の三岬斗出して、一の半島地を成す、鴨部鴨部下庄、小田の三村に在り、小串岬陰に海水深く鑿入する志度浦といふ、海上は島嶼多く、暗礁又所々に散在す、道路は二線あり、一は阿波街道といひ、高松より來り、長尾を経て引田、大阪越に懸りて、阿波の徳島に通ず、一は志度街道と稱し、志度町、津田町を経て丹生村に至り、阿波街道に合す。其他阿波の七條、吉田、

日開谷、曾江山に至る山徑あり、神社は白鳥、大水主、寺院は與田、志度、長尾、大津、芝等あり、古城址は虎丸、晝寝等とす。本郡は農産物に富み、殊に砂糖(三四萬圓)は國內第一に居る。農産物米、一萬石、麥六萬石、大豆、蠶豆、菜種、甘藷、葡萄、芋、桑葉、果實、蘭等、林産物二八萬圓、水産物、漁獲物二一萬圓、鹽四萬圓、製造品、醬油、酒、機械製粉、瓦、綿織物、疊、蔴、蔴油類あり。大川は明治三十二年大内寒川の二郡を合したる新稱なり。

オウカワ(大川) 【河内】攝津國河内郡の村、河邊郡大物浦と西成郡大和田との間なり、大阪木津川口をも大川尻と稱すれども、同名異所なり、或は之に對して西河尻ともいへりといふ。平安朝の初より西海の要津たりしが、南北朝の頃より衰替して、尼ヶ崎等之に代る。

オウカワ(大川) 【高知】土佐國幡多郡の村、白土。

オウカワ(大川) 【大隅】國肝屬郡佐多村に在る湖、高二丈、頗る壯觀なり。

オウカワ(大川) 【新潟】越後國岩船郡の村、羽前の國境に接し、其交界を鼠關とす、大川の兩岸に沿ひ、鮭漁の盛なるとす、白土。

オウカワ(大川) 【三重】伊勢國飯南郡の村、坂内村の水源地にして、俗に深山谷と呼ぶ、國司北畠氏の一族、顯雅、基を置きし所とす、後織田氏來襲すと聞き、北畠具教入道不智此所に據りて、織田勢を

拒みたり、郵便局あり、白土。

オウカワ(大川) 【佐賀】肥前國西松浦郡の村、伊萬里町の東南に在る山村にして、有田町と一嶺を隔て、同じく陶磁器の産地なり、白土。

オウカワ(大川) 【肥前】國西松浦郡に在る青嶺岳の一名。

オウカワ(大川) 【秋田】羽後國仙北郡の村、白土。

オウカワ(大川) 【佐賀】肥前國西松浦郡大川村の大字、郵便局あり、松浦川の一支源、桃ノ川に沿ふ。天文年間、鶴田因幡守の據りし城址あり。

オウカワ(大川) 【嚴手】陸前國九戸郡の村、白土。

オウカワ(大川) 【京都】山城國相樂郡の村、木津川に跨る、鐵道停車場あり、國津神社あり、白土。

オウカワ(大川) 【埼玉】武藏國秩父郡の村、元來大河原は舊郷名にして、所謂秩父に屬し、櫻川の源頭なり。今分ちて大河原村、櫻川村とす。比企郡小川町より大河原村の御堂まで、一里半、櫻川村の皆谷まで更に一里、内秩父との分界嶺を新田嶺と呼ぶ、白土。

オウカワ(大川) 【長野】信濃國下伊那郡大鹿村の大字、赤石山の西北麓にして、山路險絶、牛馬を通ぜず。馬を飼ふには仔馬を負ひ來りて、長せしむとす、言へり、溪流は集りて、小流川となり、北流して、折折して天龍川に入る。南北朝の時、醍醐天皇第三皇子宗良親王、越中より移り給ひ、興國年間より天授六

年に至りしが、國內の宮方多くは昔きしかば、一度吉野に歸り給ひ、後重て、遠州へ下向ありて、井伊谷にて薨じ給ふ。信濃宮と稱す。親王の李花集に、「大河原といふ深山に籠て、年月をのみ送待しに、さらによつと待つべき期もなければ、香坂高宗などが朝夕霜雪をばらふ忠節も、其あとかたなからんことさへ、かたはらいたく思ひつけられて、いはて思ふ谷の心もくろしきは、身を埋れ木とす、こすなりけり。」 【宮城】陸前國栗田郡の町、陸羽街道の一驛にして、鐵道東北本線の車驛あり。仙臺市へ約二〇哩、白石川に臨み、郡の南に偏在すれども、郡の北部に通ずる谷口に在るを以て、郡役所、警察署、區裁判所、郵便局等あり、白土。

オウカワ(大川) 【新潟】越後國中蒲原郡の村、白土。

オウカワ(大川) 【東京】武藏國南葛飾郡の村、白土。

オウカワ(大川) 【滋賀】近江國滋賀郡の村、比叡山横川嶺の北麓なる山村なり。是より山城國愛宕郡大原に出づる山路を仰木越といふ。其間二里半、字平尾の地に多田滿仲の舊址を傳ふ。滿仲老後、攝津多田より移り居るといへり、白土。

オウカワ(大川) 【福岡】筑後國三井郡の村、白土。

オウカワ(大川) 【山口】長門國厚狹郡の村、白土。

オウカ

奥山、鴨部下庄、小田、鶴羽の二〇村に分ち、郡役所を長尾村に置く、面積五九四、〇三三、地勢本郡は國の東端に位し、東より南は山峰連續して阿波の國境を成し、北方沿岸の地は稍平衍にして、國道此に懸る、山岳は阿波國界に大山、笠塚山、矢野山あり、其脈郡の中部に延び、中尾山、五名山、虎丸山等となる。河流は鴨部川を稍大なりとし、其他津田川、田川、湊川あり、海岸は屈曲多く、西北端に馬ノ齒、大串、小串の三岬斗出して、一の半島地を成す、鴨部鴨部下庄、小田の三村に在り、小串岬陰に海水深く鑿入する志度浦といふ、海上は島嶼多く、暗礁又所々に散在す、道路は二線あり、一は阿波街道といひ、高松より來り、長尾を経て引田、大阪越に懸りて、阿波の徳島に通ず、一は志度街道と稱し、志度町、津田町を経て丹生村に至り、阿波街道に合す。其他阿波の七條、吉田、

日開谷、曾江山に至る山徑あり、神社は白鳥、大水主、寺院は與田、志度、長尾、大津、芝等あり、古城址は虎丸、晝寝等とす。本郡は農産物に富み、殊に砂糖(三四萬圓)は國內第一に居る。農産物米、一萬石、麥六萬石、大豆、蠶豆、菜種、甘藷、葡萄、芋、桑葉、果實、蘭等、林産物二八萬圓、水産物、漁獲物二一萬圓、鹽四萬圓、製造品、醬油、酒、機械製粉、瓦、綿織物、疊、蔴、蔴油類あり。大川は明治三十二年大内寒川の二郡を合したる新稱なり。

オウカワ(大川) 【河内】攝津國河内郡の村、河邊郡大物浦と西成郡大和田との間なり、大阪木津川口をも大川尻と稱すれども、同名異所なり、或は之に對して西河尻ともいへりといふ。平安朝の初より西海の要津たりしが、南北朝の頃より衰替して、尼ヶ崎等之に代る。

オウカワ(大川) 【高知】土佐國幡多郡の村、白土。

オウカワ(大川) 【大隅】國肝屬郡佐多村に在る湖、高二丈、頗る壯觀なり。

オウカ

といふ。今に海上安全を祈る者多し。

オウカミ(大鎌田) 【山梨】甲斐國中巨摩郡の村、白土。

オウカミ(大神) 【東京】武藏國北多摩郡の村、白土。

オウカミヤマ(大神山) 【伯耆】國に在る大山の一名。

オウカムリ(大冠) 【大阪】攝津國三島郡島上郡の村、高槻町の南、淀川に沿へる低地にして舊郷名なり。其河内國枚方町と對する一水郷を大塚といふ、白土。

オウカ

といふ。今に海上安全を祈る者多し。

オウカミ(大鎌田) 【山梨】甲斐國中巨摩郡の村、白土。

オウカミ(大神) 【東京】武藏國北多摩郡の村、白土。

オウカミヤマ(大神山) 【伯耆】國に在る大山の一名。

オウカムリ(大冠) 【大阪】攝津國三島郡島上郡の村、高槻町の南、淀川に沿へる低地にして舊郷名なり。其河内國枚方町と對する一水郷を大塚といふ、白土。

伊達郡の村合三三三。【山形】羽前國北村山郡の村合三三三。【宮城】越中國上新川郡の村合六四四。オウクボ(大窪)【神奈川】相模國足柄下郡の村合三三三。【新潟】越後國刈羽郡大洲村の大字。柏崎町に連接す。古來鰯物を以て聞ゆ。

オウクボツジ(コウザン)【大久保辻】大和國吉野郡白銀村に在る銅山。オウクマ(連隈)【宮城】磐城國互理郡の村合三三三。【福島】磐城國田村郡の村合三三三。オウクマ(大隈)【福岡】筑前國嘉穂郡の町。豊前國香春。猪國より秋月。久留米に通ずる驛路に當り。郵便局及鐵道九州線の大隈停車場あり。白井驛より一哩五一鎮。大隈城址は大字中庭に在り。秋月種實の父宗全の隠居城なりしが、天正十五年豊臣秀吉九州征伐の時、豊前岩石城の陥りしを聞き、士卒城を捨て、古所山に退きしかば、秀吉其地に陣を移せり。黒田長政入國の後、之を改築し、家臣後藤基次を置く。基次運電の後、之を毀つ。合三三三。オウクマ(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウクマ(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウクマ(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウクマ(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウクマ(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウクマ(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウクマ(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウクマ(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウクマ(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウクマ(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウクマ(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウクマ(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウクマ(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

の村合三三三。【栃木】下野國河内郡豐岡村の大字。鬼怒川、大谷川の間に在り。宇部宮より八里一八町。郵便局あり。【岐阜】美濃國山縣郡の村郡の中央に在り。山嶽圍繞し、東の一方僅に開けたり。村の北方に大桑城址あり。承久の亂に逸見又太郎惟長軍功により、大桑郷を賜はり、之に居る。明應年中土岐頼朝の二子定頼修築して居城とす。土岐頼純逆臣長井政利(齋藤道三)の爲に逐はれ、後恢復を圖りて大桑城に據りしが、病歿す。頼純の弟頼義家督を承け、河手城に在りしが、後此城に移り居る。天文十一年齋藤氏の爲めに攻られ出奔し、後講和歸城せしが、十六年終に攻落され、土岐氏滅ぶ。合三三三。【長野】信濃國西筑摩郡の村合三三三。オウクワ(鹿野)【群馬】上野國吾妻郡長野原町の大字。市街を距る一里餘。淺間火山の北なる嶺野に在る。一小部落なり。其附近を六里ヶ原といふ。オウクン(意字郡)【島根】出雲國、意字郡を見よ。オウケ(多氣)【愛知】尾張國西春日井郡に在りし村。明治三十九年北里村に入る。オウケシマ(大毛島) 阿波國板野郡に屬する島。南北長約六〇町。鳴門海峡の西側に位し、洲嘴を以て西、高島と連り、内ノ海を擁す。高島と合併して鳴門村といふ。三石、土佐泊の二部落あり。三石は内ノ海に面し、土佐泊は小鳴門水道を距て、撫養町に對す。島中顯著の二峯あり。大毛

山といひしと、扇山に作る。全島砂岩層より成り。北々東より南々西に長く、大毛山以南は小峯を連れて撫養の瀬戸に終る。島の北東角を孫崎といふ。飛鳥塚島の二嶼其南に在り。オウケシマ(天下島) 伊豫國越智郡の海上に在る島。大島の西南端に横はり、岡村島と相對して、天下瀬戸の南口を成す。周圍一里三〇町。岡村島と合して、關前村を成す。島に燈臺あり。北緯三四度一分一四秒。東經一三二度五五分。五分秒に位し、第五等回轉白色晴天光達一六哩。オウケ(大胡)【群馬】上野國勢多郡の町。明治三十九年町制を施し、前橋桐生間の一市街にして、警察署、郵便局等あり。前橋を距る東二里一九町。大胡城址あり。足利太夫成行の長子成家此所に居り、初大胡氏を稱し、子孫相續して、天正年中常陸介高繁に至り、小田原北條氏に屬し、天正十八年より牧野右馬丞忠成の居城となり、後前橋の屬城となる。合三三三。オウク(淡河)【兵庫】播磨國美祿郡の村。攝津國有馬郡に接し、志染谷の上流なり。國境に帝釋山あり。攝津丹生谷の此地の谿水と合し、三木川に入る。郵便局あり。

眞言宗の古刹石峯寺は村の北嶺に在り。又城址あり。延元四年赤松島津の諸氏之に據り、官軍と戦ひ、又天正年中三木の一族淡河定範之に據り、織田氏を拒ぎ、六年陥る。合三三三。オウク(鹿野)【和歌山】紀伊國伊都郡の村合三三三。オウク(往郷)【長野】信濃國下高井郡の村合三三三。オウク(大江)【富山】越中國射水郡の村合三三三。オウク(大河内)【静岡】駿河國安倍郡の村。安倍川の水源地なり。安倍川此邊にて大河内川といふ。大字渡村に郵便局あり。合三三三。【山梨】甲斐國四八代郡の村合三三三。オウク(大窪)【大隈】和泉國泉北郡向井村に在る鐵道車驛。オウク(大河内)【紀伊】國北牟婁郡に在る川。水源大蓋原山の支峰大河内山。東南流して、船津村を過ぎ、白石湖の水を合せ、銚子川と合して引本浦に注ぐ。駿河國に在る安倍川上流の稱。オウク(大河津)【新潟】越後國三島郡の村。信濃川の左岸なる堤防に寄り、圓上寺湖の東に當る。明治三年信濃川の水を此地より圓上寺湖に導き、寺泊に放ち、以て諸郡洪水の害を除かんと計り、工事に着手せしに、時政に不平の徒人民を煽動し、言を此謀免除に藉り、暴動を行ひ、工事に中止せらる。是を大河津掘割

と稱し、今に其址を存す。合三七九。オウク(大隈)【埼玉】武藏國北埼玉郡の村。合三三三。【福島】磐城國田村郡の村合三三三。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。オウク(大隈)【大隈】伊豫國温泉郡「三内」村を見よ。

境内花樹を栽え、公園の如し、英住吉神社は九條に在り、郷社にして、底筒男中筒男、表筒男神功皇后を祀る。香西哲雲九條島開拓の時勳請す。當時英多かりし故に、英住吉と號すといふ。福島天神は上福島中福島下福島三所に在り。此中、上中の二社は明治四十二年の大火に焼失せり。何れも菅公を祀る。毎年七月十五日天満天神祭の時、神輿供奉の船此所より出るを例とす。往昔の餘流、神事の遺風なりといふ。北野天神は綱敷天神とも稱し、北野北野堂山町に在り。菅原道真筑紫へ左遷の時、福島に舟を繋ぎ、此地に來り、綱敷を敷き、座して風景を觀、難波の梅を愛せりといふ。當社創建の年歴久し、地を北野と呼ぶは、京都北野の名に因めるなりといふ。露天神は曾根崎蛸橋の北に在り。曾根崎天神又お初天神と稱す。菅原道真を祀る。菅公筑紫左遷の時太融寺へ詣でんとて、此地を過ぎしに、道の邊露深かりければ、「露と散る涙に袖は朽ちにけり、都のこゝを思ひいづれば」と詠めり。因て露天神の名あり。夕日神、明宮は西天満に在り。天照大神を祀る。源融の勳請にして、文治年間源義經、梶原景時逆權の争論に、義經當社に願書を納めし事あり。後、醍醐天皇勅願所とし、行幸あり。當時は堂々たる大社たりしが、足利尊氏の兵亂に燒失し、今は舊觀を存せず。府社、天満神社は北區天満大工町に在り。菅原道真を祀り、攝社に、延喜命、廣

田彦、手力雄命、野見宿禰等を鎮す。境内廣く、社殿壯麗なり。境内に神苑を設け、龜ノ池、藤棚等あり。又露店、觀世物寄席、劇場等あり。賽者の多きこと、府下第一といふ。七月二十五日は天神祭と稱し、神輿を舟に載せて大川を下り、松島の旅所に渡御す。此時川中所々篝火を燒き、迎送の舟川中に充ち、兩岸の人家は宴を振り、大阪第一の賑といふ。此を餘流の神事と稱す。櫻ノ宮は中野町に在り。天照大神を祀る。もとほ境内及淀川堤上に櫻樹多く、觀櫻の名所たりしが、明治十八年の洪水に堤上の櫻樹多く枯れ、復た前日の觀なし。佛團、御津寺は南區三ツ寺町に在り。古義眞言宗にして、大福院と號す。本尊は十一面觀音にて、僧行基の作と稱す。往時は境内に周圍五尋半の大樟樹ありしが、燒失せりといふ。自安寺は千日前の東に在り。妙見を安置す。午の日參詣者多し。竹林寺は千日前の南に在り。大師堂あり。毎月二十一日殊に群集す。法善寺は竹林寺の北隣なり。境内金毘羅社あり。毎月十日甚だ賑はし。寄席、飲食店等多し。三勝半七の墓あり。油懸、地蔵は安堂寺町一丁目に在り。祈願する者油を洒ぐが故に、此名あり。此像日本紀に見えたる安曇寺の石像なりと攝津誌に記す。難波御堂は東區久太郎町に在り。京都東本願寺の抱所にして、裏御堂又南御堂といふ。本願寺十二代教上人、文祿年中道修町に建てしを慶長年中今の地に移す。規模壯大、西北

の土堤には映山紅、山躑躅を多く植ゑ、花時美麗なり。背後に石壘を開けて門を作る。俗に穴門といふ。津村御堂は東區本町五丁目より備後町五丁目に亙る。京都西本願寺の抱所にして、表御堂又北御堂といふ。准如上人の再建にして、宏壯難波御堂に等し。往時朝鮮來聘の時、此所に止宿するを例とせり。御堂の南に二尊堂あり。觀音、蓮如上人の二影を安置す。堂の東に轉輪藏あり、一切經を藏む。「四風に何ぞ自力の扇つれ」(宗因)船場御堂は平野町通中橋筋の南西角に在り。京都佛光寺の抱所なり。ドンドロ大師は眞田山の西に在り。毎月二十一日大師巡りの賽者群集す。野中觀音は東高津野中に在り。遍明院と號す。本尊は行基作十一面觀音にして、平景清の守本尊なりといふ。持明院は生玉島居の西に在り。古義眞言宗なり。境内金毘羅祠あり。毎月十日參詣者多し。隆尊寺は中寺町に在り。境内絲樓の古木多し。其前なる菩提寺の境内にも絲樓あり。月江寺は南區谷町九丁目に在り。淨土宗の尼寺なり。永祿十年の草創。惠光尼中興。本尊は惠心僧都作の阿彌陀佛なり。寺内櫻樹、藤棚あり。又初秋は虫聲多し。俗に虫谷といふ。寺内に三味線塚あり。鳳林寺は南區生魂前町に在り。曹洞宗なり。天正十六年の草創。聖德太子作の觀世音を安置す。什寶に千珠、滿珠の二顆あり。四天王寺は大坂第一の名刹にして、梅田停車場より、里手、難波、淺野町兩

停車場より共に十餘町を距る。もと八宗兼學なりしが、今、天台宗なり。聖德太子創建。荒陵山難波寺と稱す。歴朝の崇敬深く、數度の改修あり。近くは天正四年燒失。豐臣秀吉再興。元和年中燒失。徳川氏再興。享和元年雷火に罹り、金堂、大塔以下悉く燒失。文化九年大阪白銀町紙屑商淡路屋太郎左衛門發願再建す。即ち今の建物なり。此地海陸の要害、兵家必争の點に當るを以て、屢戰亂の災に罹れり。然れども太子所遺の靈物七星劍一口、手印本願緣起一卷、扇面法華經一帖等猶存す。南大門は正面に在り。然れども西大門は大坂南北の要路に當るを以て、通常參詣人は西大門より出入す。仁王門は南大門より入れば直に之に達す。左右に金剛夜叉高各十五尺の像を安す。五重塔は高二十四間半、基礎は三間五尺四方なり。每層雲水の彫物あり。乗木に象頭を刻み、釋迦及八祖の畫像并四天王の木像を安置す。金堂は五重塔の北に在り。廻廊の中央に位す。二重屋根にして、内を内外陣に分つ。内陣は四壁を金色に塗り、天井に草花を畫く。外陣は十六天着色の像を畫く。本尊は八尺七寸の如意輪觀音にして、四天王及婆羅門の像并に舍利塔あり。講堂は金堂の北に在り。九尺五寸の阿彌陀佛を安置し、左右に觀音、勢至、四天王及三千佛の小像を安す。廻廊は講堂の左右より起り、南仁王門に連り、五重塔及金堂を圍み、方形を成す。長一五〇間四尺、太子

殿は廻廊外の東南に在り。聖德太子の像を安置す。今の殿舎は明治十一年の新築に係る。石ノ舞臺は講堂方丈間の蓮池の上に在り。昔三大法會の時、讀經をなし、又舞樂を奏せし所なり。今毎年四月十五日聖德會を此所に行ふ。石ノ鳥居は寺の西側に在り。發心門といふ。高四間半、石柱周圍一間五尺餘。銅造の額を掲ぐ。小野道風筆といふ。五分寺は天王寺の東方に在り。禪宗黃檗派にして、天徳山と號す。明僧南源和尚再興。聖武天皇の護持佛たりし正觀音を本尊とす。本堂の東に聖武天皇の御塔あり。超福寺は四天王寺南門に在り。聖德太子土塔を築きて、經典を藏められ、後世寺となし。南岡山土塔寺と號せり。二十八世眞觀法印本願寺覺如上人に歸依し、淨土眞宗となる。其後蓮如上人一時此寺に寓せるを以て、土塔御坊と稱す。聖德太子作阿彌陀佛を本尊とす。寺内に竹本義太夫の墓あり。庚申堂は四天王寺南大門の南に在り。日本最初の庚申といふ。書面金剛、梵天帝釋、藥師如來如意輪觀音等を安置す。庚申の日は賽者甚だ多し。大寶元年僧部毫範の感得せし靈場と稱す。一心寺は南區邊阪上ノ町に在り。淨土宗眞西派に屬し、文治元年圓光大師(法然)開基。二十五箇所舊蹟の一なり。舊天王寺の別所にして、上人の庵室たりき。後大に衰頽せしが、慶長年間下總佐倉清光寺の存峯上人、本譽大師の古跡を尋ねて、茲に來り、一千日禁足、晝夜不眠の念佛

を修して、再興すといふ。大坂を役して徳川家康營所を此所に建て、亂後大坂城の殿材を給し、寺宇を重修せしむ。家康書する所の坂松山の額あり。前門は大坂玉造口黒門を移したるものといふ。又夏役に戦死せる本多忠朝主従十人の墓あり。新清水寺は一心寺の北四町に在り。懸崖舞臺の制一に京都清水寺に擬せり。懸崖を開いて堂宇を建て、南西北三方に石燈を設く。本尊は聖德太子作十一面千手觀音。もと京都清水寺に在りしを寛永十七年移せるものといふ。本堂の前に舞臺あり。西向して大阪全市を一望し、眺望快器なり。其南紅葉阪を降れば、飛泉あり。音羽瀧といふ。此邊亭館の設多し。勝覺院は新清水寺の北西に在り。四天王寺の別所に於て、聖德太子此道場に於て、講經の講讀あり。故に名とす。愛染明王を安置し、毎年六月一日開帳す。愛染詣とて、賽者群をなす。又多寶塔あり。二層塔にして、大日如來を安置す。此地戦國の頃、勝覺あり。或は天王寺城と呼ぶ。織田氏本願寺と戦へる時之を築けり。遊行寺は勝覺院の西に在り。佛智山極樂寺と號す。時宗の祖一遍上人天王寺參籠の寓舎なり。遊行五十一世賦存上人之を求めて、藥師堂再營あり。遊行一派の道場となる。本堂の側に芭蕉翁の像を置き、堂前に翁の碑あり。碑銘は香月牛山の撰なり。大乗坊は日本橋三丁目に在り。毘沙門天を安置す。俗に長町の毘沙門といひ、信者甚だ多し。瑞龍

寺は難波北新川の西に在り。觀眼和尙の再興なるを以て、俗に觀眼寺といふ。禪宗黃蘗派に屬し、本堂に藥師佛十二尊將を安じ、天王堂には彌勒佛を置く。境内約二千坪。禪堂、禪室、講堂、佛堂等あり。木華鐵眼、寶洲高泉諸和尚筆の額を掲ぐ。和光寺は西區堀江下通に在り。天台宗にして、蓮池山と號し、俗に阿彌陀池といふ。本尊は長一尺五寸、金銅の阿彌陀佛にして、淨蓮上人の鑄造といふ。池中に寶塔あり。塔中阿彌陀三尊を安置し、日夜常燈を點じ、其火消ゆることあれば之を信州善光寺に求むるの古例ありといふ。是れ往時物部守屋が三尊を棄てたる難波の堀江の地なりといふ。を以てなり。廣教寺は西區薩摩堀東の町に在り。俗にガシヤウ寺と呼ぶ。祝松山と號し、西本願寺連枝住職となるを例とす。本願寺三代覺如上人の季子善宗上人開基。庭園頗る風致あり。古樹に富む。九鳥院は九條町に在り。禪宗黃蘗派に屬し、龍溪禪師此地に閑居せしに、寛文十年海嘯の爲に寂す。翌年後水尾天皇勅して、此院を建立あり。又安治川口の水燈會も此時に始まれり。竹林寺は西區梅本町に在り。香西哲雲本願寺上人開基。寛永年中草創。庭内に哲雲遺愛の梅あり。香ノ梅といふ。本尊は惠心僧都作の阿彌陀如來なり。圓滿寺は北區野田玉田町に在り。天文元年佐々木定頼日蓮宗僧徒と共に、本願寺十代證如上人を山科に攻め、逼るゝを追ふて、此所に來りし

此地の門徒身命を抛ち、防戦し、遂に敵を追拂ふ。此寺に即ち其舊蹟なり。境内に石碑を建て、其折戦死せし二十一名の靈を祀ふ。妙徳寺は北區上福島三丁目に在り。禪宗黃蘗派にして、龍王山と號し、俗に五百羅漢寺と稱す。正徳年中南源和尚の遺立に係る。境内右に浦江ノ森、左に福島の人家を望み、眺望よく、殊に菜花の候最も美麗なり。寺は明治四十二年の大火に類焼し、五百羅漢の像亦悉く燒失せり。源光寺は南濱町に在り。淨土宗にして、天平勝寶年間の草創。後大原の眞忍上人融通念佛宗を弘通し、再興して一派の本山とす。本尊は阿彌陀如來の畫像なり。境内詠歌堂、守勝手祠等あり。國分寺は市外西成郡豐崎村字南長柄に在り。眞言律宗にして、正國山金剛院といふ。攝津國分寺にして、行基菩薩開基。荒蕪の後には快圓比丘中興して、律院となる(東成郡にも國分寺あり、何れか一は國分尼寺の址ならんといふ)。本尊は聖德太子作の阿彌陀佛。別に不動尊地藏尊を安す。不動尊は弘法大師の作にして、高野山より移せしものといふ。太融寺は北野に在り。古義眞言宗にして、もと桂木寺と號し、弘仁年間弘法大師の開基なり。承和年間源融仁海上人に命じて、大に之に修め、今の名に改む。本堂は南面して、床高く、屋根峻しく、堂内千手觀音を安置し、別に毘沙門地藏尊を置く。境内又大師堂、西國巡禮三十三所觀音堂あり。本門の左に藤棚あり。花時

来觀者多し。寺内に淀君の墓あり。寒山寺は太融寺の西南に在り。禪宗にして、枯蘇名刹の額を掲ぐ。吳の姑蘇寒山寺を撰せしものといふ。有名なる釣鐘あり。大長寺は網島に在り。浄土宗なり。境内鯉塚及小春、治兵衛の比翼塚あり。

橋梁 心齋橋は南區長堀川に架す。明治六年鐵橋に改む。長二〇間四分幅三間五分橋下支柱なく、半月形の鐵桁を以て之を支ふ。橋の北詰に電信分局あり。此橋の南北一條の街を心齋橋筋といひ、往時は書林頗る多かりしといふ。今も商店櫛比す。百貨悉く備はり、市内第一股賑の地なり。此邊吳服店多し。四ッ橋は長堀川と西横堀川と交叉して十字形を成す所に炭屋吉野屋上繋下繋の四橋を架す。形井字の如く、四ッ橋といひ、古來有名なり。吉野屋橋の南畔に煙管店あり。源藏振と稱し、此地の名物とす。涼しきに四ッ橋を四つ渡りけり(來山)佐野屋橋は心齋橋と四ッ橋との間に架す。橋の南北に通するを佐野屋橋筋と稱し、古者商多し。或橋は今宮戎社へ參詣の道に當り、道頓堀川に架る。南は難波新地、北は島之内、心齋橋筋にして、飲食店多し。日本橋は戎橋の東に在り、往時は橋畔に高札場あり。西二町許に千日前あり、刑者を晒せし地なり。橋の北詰、東西に旅舎多し。淀屋橋は土佐堀川に架す。豪商淀屋巨菴の架せしものにして、初は北詰なる巨菴店前に在りしを移せりといふ。淀屋は二世辰五

郎に至り、騎香の爲滅べり。高麗橋は東横堀川に架す。府の里程元標地に於て、往時は橋畔に高札場あり、刑者を晒せり。明治三年九月鐵橋に改む。長三九間六分幅三間五分。大阪にて最古の鐵橋なり。西詰兩角屋敷の屋上に今尙城樓形のものあり。櫓屋敷と稱す。天神橋は大阪第一の長橋にして、淀川に架す。元は木橋にして、長一二二間三尺ありしが、明治十八年の洪水に流失せるを以て、鐵橋に改む。長一三二間一分幅六間。此橋筋北を天神橋筋、南を松屋町筋といふ。雜貨店多し、近在の仕入場なり。天滿橋は大阪第二の長橋にして、天神橋の東に架す。元は木橋にして、長一五五間五尺あり。明治十八年流失せるを以て、鐵橋を架し、二十二年成る。長一二〇間、幅六間、橋上眺望佳なり。新町橋は西横堀川に架す。東は順慶町、西は新町遊廓なるを以て、往來絶えず。古來演劇等に仕組まれ有名なり。千代時橋は木津川沿岸一丁目二丁目間より北堀江へ架す。往日は橋の中央を過ぎ通船帆柱を倒さずして通行し得る如くせり。今は通常の制に改む。安治川橋は北安治川河岸より外國人居留地に架す。往時依客五人男、伊達角左衛門なる士と橋上に闘ひ、之を殺し、終に刑に處せられたる事ありて名高し。此橋も中央部旋回して通船帆柱を立てたるを以て、通するを得しが、今は通常の橋となれり。難波橋は東區北濱より北區鶴上町に架する鐵橋に

して、中央に中之島あり。南は土佐堀川、北は堂島川とす。橋も南北に分れ、長合せて一三三間七分、幅四間四分。天滿、天神二橋と共に三大橋と稱す。夏季は橋下に納涼船集り賑ひ、京都四條橋に譲らず。京橋は天滿橋の東、舊大和川と猫間川と會流して淀川に注ぐ所に架す。もと大阪城京橋口の御用橋なり。

名地舊蹟 道頓堀は南區道頓堀川の南十餘町の總稱なれども、主に戎橋、日本橋間をいふ。市中最も熱鬧の地に於て、南側は五座の劇場、北は芝居茶屋、飲食店あり。其南に即ち千日前なり。堀は徳川氏の初安井道頓なる者の開鑿といふ。千日前は太左衛門橋の南通にして、往時は千日寺あり。墓塚累累、其前に刑場ありて寂寥の荒地なりしが、今は興行物寄席等並列し、喧嘩を極む。南に五階眺望閣、新金毘羅社、東に自安寺、北に竹林寺、法善寺あり。芭蕉翁終焉地は南久太郎町御堂筋に在り。花屋敷と稱す。新行旅して奈良より來り、元祿七年十月十二日此所に歿す。其八日の吟に、「旅に病て夢は枯野をかける。御堂筋は南久寶寺町邊より瓦町に至るの間。三月五月の前、難人形を南ふ。因て俗に難屋町といふ。築地は今橋の西詰にして、東南は東横堀川に臨み、北は淀川に面し、風景に富める地なり。水に臨める家は皆席賣業なり。今橋の西には鴻池銀行、北濱通には株式取引所、日本銀行支店等諸會社あり。高等旅店多し。八軒家

爲め設立せるものにして、製産品參考室、商品室に分ち、外國品内國品圖書、工業試驗部等に區別して陳列す。梅田は今停車場のある所なり。もと舊曾根崎村の田野にして、虫聲に名あり。阪神鐵道の敷設以來繁華となれり。凌雲閣は北野の北部に在り。明治二十一年の築造にして、高二十三間九階に分ち、第一層は廣さ百坪あり。登臨する者多し。中之島公園地は淀屋橋筋より東、難波橋に至るの間なり。東は淀川、南は土佐堀川、北は堂島川、西は安治川に圍まれ島形を成す。河畔には垂柳あり。園内には梅櫻を栽え、池には噴水泉を設け、風致あり。豐國神社、大阪ホテル、公會堂、圖書館あり。土佐堀河岸には茶店あり。網島は淀川の東岸にして、造幣局に對し、風雅の地に於て、別荘多し。此地に古來有名なる割烹店、附字あり。又鐵道關西線支線の停車場あり。源八渡は中野町より天滿へ渡る渡津なり。古來其名高し。源八を渡りて梅の主かなと蘇村、四岸は樋ノ口とて、堤上に老櫻多し。大阪博物館は本町橋東詰に在り。もと西町奉行所の跡にして、明治七年開設。正面に美術館あり。新築の西洋館にして、床板は各種の木材を接合し、天井は四天王寺法隆寺等の古畫を模寫す。館内古書、古器物、佛像等を陳列して、參考品とし、別に數棟の陳列館あり。價標を附して、雜貨を繋ぐ其出口に動物園、園の東方樹間に錦織堂あり。

は天神橋南詰より東、京橋三丁目の地なり。昔八軒の旅舎ありしより此名あり。古來伏見に通ふ三十石船發着の地にして、其名高し。今は川蒸氣船之に代る。旅舎、飲食店等多く、郵便貯金管理局衛生試驗所等あり。古の大津岸大江浦は此邊なりといふ。釣鐘町は維新前には有名なる地子、錢免除報恩の釣鐘あり、其傍に遠見櫓あり。今鐘は博物館内に在り。石町は古の國府のありし地なり。天野屋、利兵衛跡は内淡路町通南角屋敷に在り。利兵衛の知る所なり。玉造、岡は大阪城内の郷名にして、今東區に編入さる。上古四天王寺建立の時伽藍の瓦を造り初めしより此名あり。二軒茶屋は玉造の東、街端に在り。左右兩側に茶店あるを以て此名あり。奈良街道に當り、伊勢參宮大和巡り、大峰詣等送迎の場所なれば、大に賑はひしが、汽車開通以來寂れたり。圓珠菴は僧契沖の遺跡にして、東高津御堂町に在り。庭中に墓碑あり。又遺愛の梅樹あり。桃山は東區小橋町の南に在り。桃多し。花時鐘香す。産湯清水は東區小橋に在り。大小橋命の産湯の水といふ。清冷の名水あり。其丘を法藏山といふ。狐穴多きを以て、土俗狐谷といふ。丘上に稻荷祠あり。割烹店あり。寺町の稱は小橋寺町、上寺町、生玉寺町、中寺町、下寺町等廣く東部より東南部に亘り、寺院多し。又、順興寺に中井繁華、竹山、櫻軒の三箇、井原西町等の墓

【文籍】 漢書畫一量延寶六、 難波鐵五册、 無軒道治、 延寶八、 大阪市統計書、 大阪市全國大阪市役所調査、 大阪市内(日本電報通信社調査) 【大阪】 河内國南河内郡山田村に在る陵墓、 今上野山といふ。一に鸞陵といふ、孝德天皇の御陵なり。 オウサカトウゲ(大阪時) 飛騨國古城郡國府村大字八日町と、上室村大字荒原との間なる峻坂、舊越中街道とす。山上に茶店あり、笹休場といふ。眺望佳なり。 オウサカトウ(大阪府) 三府の一畿内の中部に在り。四境、東は奈良縣、南は和歌山縣、東北は京都府、西北は兵庫縣、西南の一面は海。東經一三五度七分、一三五度二七分、北緯三四度一六分、一三五度二八分、東西二〇里、南北二里八町、面積一八八方里〇三。行政上、大阪府及西成、東成、三島、豐能以上攝津國、南河内、中河内、北河内(以上河内國)、堺市及泉南、泉北(以上和泉國)の二市九郡に分ち、府廳を大阪市に置く。戶數三六六、七三三、二五、六。 【地勢】 地形、北より南に殆ど弦月形を成し、北、東南の三方は山岳時、西は大坂河を擁す。山脈は北方丹波の境より來り、攝津の北部を圍み、淀川に至りて中斷し、更に南岸より起り、河内の北及東を擁し、支脈二派に分れ、一は河内に通り、一は河内和泉の界を成す。而して本派は南に赴き、紀伊の國境を成し、四端海に盡

法寺に近松門左衛門の墓あり。西門は今西照館といふ。生玉より南三町に在り。庭園頗る佳なり。昔時の西照菴は有名の料亭なりしといふ。天王寺公園は明治六年四天王寺の境内を公園地としたるものなり。大小の堂屋各所に散在し、花卉樹木其間を點綴し、四季の觀盡さず。茶店、酒樓あり。相阪清水は、茶臼山の北一心寺門前に在り。四天王寺七井の井にして、水質清冽、最も茶に宜しといふ。堀井清水は安井天神の北に在り。是亦七井の一なり。合邦辻は相阪清水の西の辻なり。圓覺堂あり。石像の圓覺を安す。昔此地に天王寺の學校あり。即ち學校辻を説りしといふ。西濱町は木津の西に在り。もと渡邊村といひて、穢多の多く住みし所なり。今木町は攝津紡績會社の西南對岸にて、もと今木新田といへり。關ヶ原の役島津義弘船底に潜みて遁れし地なり。之を助けし扇屋五郎兵衛の子孫此地に在り。維新前は薩船の木津川に入るを管し、課錢を以て所得とせり。博勢淵は長堀川高橋邊に其舊址あり。大阪冬陣に薄田兼相の屯せし所なり。此邊木津川に沿ひたる地を總べて博勢と稱し、長期以て北を上博勢、南を下博勢といふ。此邊荷受間屋、船具商多し。堀江市ノ側は北堀江字和島橋筋に在り。もと毎朝青物市立ちしが、今は廢す。堀江川の兩岸は土佐日向熊野よりせる炭間屋多し。南堀江の橋邊には道具商多し。西長堀には材

木間屋多し。瀬戸物は新町橋西詰より北をいふ。陶磁器商多きを以て此名あり。親南通一丁目に陶器神社あり。毎年七月二十日例祭あり。此日町内陶磁器にて種種の作物をなし、縦覽せしむるの例あり。新町町は京町堀阿波堀間西は永代濱までをいふ。鹽魚、乾魚、鹽辛、鹽節を販ぐ店櫛比す。永代濱は海部堀の堀留にて、干鰯藏を以て滿り、雜魚、揚は京町堀、堀戸堀間の東岸にして、毎朝鮮魚の市立ち、甚だ賑はし。松ヶ島は尻無河の木津川より分るゝ所に於て、蛭子松と稱する老松あり。其傍に蛭子祠あり。往時は此地に渡船ありき。此南を松島遊廓とす。河口は大阪の要津にして二あり。一を安治川といひ、大川筋、土佐堀、堀川の下流なり。一を木津川といふ。長堀道頓堀及四方諸流の會する所なり。諸州の廻船皆此所に集り、此所より小舟を以て貨物を陸揚げす。櫻島は天保山に對する安治川口北岸をいふ。近年遊園地を設け、梅櫻を栽え、海濱には海水浴場あり。富島町はもと大佛島と呼ばれり。真享の初南都東大寺大佛殿再建の勳進として、僧公慶此地に在りしを以て此名あり。川口波止場は瀬戸内海九州、四國通の汽船發着の地にして、商船會社、船舶司檢所、税關、汽船問屋、回漕店等あり。頗る股賑なり。川口町は外國人の居留地なり。街衢整正、道路清潔にして、戸數一〇五、商品陳列は田箕橋北詰の角に在り。明治二十三年貿易擴張の

爲め設立せるものにして、製産品參考室、商品室に分ち、外國品内國品圖書、工業試驗部等に區別して陳列す。梅田は今停車場のある所なり。もと舊曾根崎村の田野にして、虫聲に名あり。阪神鐵道の敷設以來繁華となれり。凌雲閣は北野の北部に在り。明治二十一年の築造にして、高二十三間九階に分ち、第一層は廣さ百坪あり。登臨する者多し。中之島公園地は淀屋橋筋より東、難波橋に至るの間なり。東は淀川、南は土佐堀川、北は堂島川、西は安治川に圍まれ島形を成す。河畔には垂柳あり。園内には梅櫻を栽え、池には噴水泉を設け、風致あり。豐國神社、大阪ホテル、公會堂、圖書館あり。土佐堀河岸には茶店あり。網島は淀川の東岸にして、造幣局に對し、風雅の地に於て、別荘多し。此地に古來有名なる割烹店、附字あり。又鐵道關西線支線の停車場あり。源八渡は中野町より天滿へ渡る渡津なり。古來其名高し。源八を渡りて梅の主かなと蘇村、四岸は樋ノ口とて、堤上に老櫻多し。大阪博物館は本町橋東詰に在り。もと西町奉行所の跡にして、明治七年開設。正面に美術館あり。新築の西洋館にして、床板は各種の木材を接合し、天井は四天王寺法隆寺等の古畫を模寫す。館内古書、古器物、佛像等を陳列して、參考品とし、別に數棟の陳列館あり。價標を附して、雜貨を繋ぐ其出口に動物園、園の東方樹間に錦織堂あり。

【文籍】 漢書畫一量延寶六、 難波鐵五册、 無軒道治、 延寶八、 大阪市統計書、 大阪市全國大阪市役所調査、 大阪市内(日本電報通信社調査) 【大阪】 河内國南河内郡山田村に在る陵墓、 今上野山といふ。一に鸞陵といふ、孝德天皇の御陵なり。 オウサカトウゲ(大阪時) 飛騨國古城郡國府村大字八日町と、上室村大字荒原との間なる峻坂、舊越中街道とす。山上に茶店あり、笹休場といふ。眺望佳なり。 オウサカトウ(大阪府) 三府の一畿内の中部に在り。四境、東は奈良縣、南は和歌山縣、東北は京都府、西北は兵庫縣、西南の一面は海。東經一三五度七分、一三五度二七分、北緯三四度一六分、一三五度二八分、東西二〇里、南北二里八町、面積一八八方里〇三。行政上、大阪府及西成、東成、三島、豐能以上攝津國、南河内、中河内、北河内(以上河内國)、堺市及泉南、泉北(以上和泉國)の二市九郡に分ち、府廳を大阪市に置く。戶數三六六、七三三、二五、六。 【地勢】 地形、北より南に殆ど弦月形を成し、北、東南の三方は山岳時、西は大坂河を擁す。山脈は北方丹波の境より來り、攝津の北部を圍み、淀川に至りて中斷し、更に南岸より起り、河内の北及東を擁し、支脈二派に分れ、一は河内に通り、一は河内和泉の界を成す。而して本派は南に赴き、紀伊の國境を成し、四端海に盡

オウサ

オウサ

オウサ

オウサ

郡に在りし村。明治三十九年高師村に合す。●(石川)能登國珠洲郡に在りし村。明治四十年西海村に入る。●(岡山)美作國勝田郡の村。合三三。●(和歌山)紀伊國海草郡の村。合三三。●(高知)土佐國香川郡の村。合三三。●(鹿児島)大隅國嶺南郡の村。志布志の西二里二八町なる海村にして、鹿屋より志布志に出づる街道此所に懸り、郵便局あり。大字假宿に胡麻城址あり。延文年間輪井頼仲、頼房、頼隆の陥る所となる。合三三。

オウサキ(大前)【栃木】下野國下都賀郡赤麻村の大字。天正年中北條氏直此所に陣し、佐竹氏と對戦せし事あり。三本松と呼ぶ古松大前神社といふ古社あり。

オウサキ(大崎) 伊豫國東四郡和郡に在る岬郡境より突出し、北宇和郡の大池崎と對して宇和島灣を擁す。水路諸島、大崎は佐田岬の東方十八里に在りて、八幡濱宇和島の約中間に位し、岬上は樹木繁生す。岬端より三三餘の所に三岩あり。三層嶺といふ、其最高岩は高十八呎。

オウサキカミシマ(大崎上島) 安藝國豊田郡の南四海上約二里に在る島。周圍一里三一町。東野西野大崎南、大崎中野の四村あり。島の南に神ノ峯高く峙ち、東北に東野村あり。島の首邑にして、郵便局あり。合三三。

オウサキコ(大崎湖) 遠江國に在る湖。猪鼻湖を以て見よ。

オウサキシマ 大佐木島。安藝國豊田郡の村。合三三。

須波村の東に在る島。三原海峽を隔つ。周圍一里三三町餘。北は須波村に屬し、南は鷺浦村と稱す。鷺浦村は舊稱向田野浦田野浦の對岸なればなり。

オウサキシモシマ(大崎下島) 安藝國豊田郡に屬する島。一に大長島といひ、昔は御手洗島と稱せり。大崎上島の南海上一里、周圍五里一八町。御手洗町及豐濱、久友、大長の三村あり。豐島、鷺島、尾久比島等之に屬す。島の東端伊豫の岡村島に對する所に御手洗港あり。真鍮地にして、郵便局あり。又大長村に桃林あり。花時の風景極めて佳なり。合三三。

オウサキシヨウシ(大崎城址) 【鳥取】因幡國氣高郡。寶木村を見よ。

オウサキナカノ(大崎中野) 【廣島】安藝國豊田郡の村。合三三。

オウサキナカノ(大崎中野) 【廣島】安藝國豊田郡の村。合三三。

オウサキワン(大崎灣) 紀伊國海草郡の西南偏に灣入せる海。北角を荒岬といふ。藤白山嶺の餘脈とす。南角を觀音岬といふ。高四〇〇尺。浦ノ初島に對す。海の北岸に大崎村あり。大崎の神の小濱はせはげとも、百船人も過くとはいはなくに(萬葉集)千早ふる神の小濱に船とめて、大崎見れば月のまやけさ(歌枕)寄寄原光俊。此邊一帶の谷を加茂谷といへば、神は加茂と同義ならんといふ。

オウサク(大作) 【千葉】上總國市原郡津村の大字。

オウサクラ(大佐倉) 【千葉】下總國印旛郡内郷村の大字。佐倉町の北に接し、印旛沼に臨む。佐倉城主堀田侯の木内宗吾を祀れる口ノ宮神社あり。勝風寺は享祿元年千葉介勝胤の草創せる古刹にして、數代の石碑を存し、其遺器及古文書を藏す。寶珠院は所謂佐倉五寺の一にして、もと口ノ宮神社の別當を兼ねたり。永徳年間建立と傳ふ。兩寺共に今衰ふ。

オウササ(大笹) 【群馬】上野國吾妻郡嬬野村の大字。淺間火山の北麓。吾妻川奥ノ谷に在り。長野街道に當り、一小站を成す。往時は此所に關所を置きたり。郵便局あり。之より二里にして、信州大日向に越ゆる鳥居峠あり。

オウササコウザン(大笹山) 備中國吉備郡池田村に在る嶺。山、銀銅を出す。一年採掘高四、五〇〇貫。製鍊高、銀三八七四匁、銅一、八五九斤。製鐵三。

オウサササン(大座山) 周防國熊毛郡半島地の尖端に峙つ山。室津津の東北に在り。高一七〇六尺。山、玄武武より成る。山下は松樹繁茂し、所々清水湧出するを龍池と稱し、土俗大に畏敬す。

オウササシ(相差) 【三重】志摩國志摩郡長岡村の大字。海岸なり。古來同村の大字。國崎と共に神宮に龜を進獻するの例あり。其流鏝を伊勢蟹と呼べり。

オウサソウ(大養生) 【福島】岩代國信夫郡の村。合三三。

オウサト(大里) 【茨城】常陸國久慈郡久村の村。合三三。

米村の大字。太田町の西に當る。享和二年水戸家都奉行の治所を此所に置く。其配下を大里組といへり。●(三重)伊勢國河藝郡の村。合三三。●(愛知)尾張國中島郡の村。明治三十九年島田・奥田・日下部・市田・四家の五村を合せたる新稱。合三三。

●(静岡)駿河國安倍郡の村。合三三。●(長野)信濃國北佐久郡の村。合三三。●(福島)岩代國岩瀬郡大屋村の大字。戰國の頃、矢野伊豆守及二階堂右兵衛介の居りし城址あり。城は天正年中伊達氏の爲に陥る。式内武隈神社あり。

●(沖繩)琉球國島尻郡の村。土名ウフサト。中頭郡に接し、東北面して、與那原灣に開く。もと島添大里間切と稱し、今の高峰村の前身なる島尻大里間切と區別したり。古堅稻嶺仲間嶺井高平上與那原板長數大里大城、與那原の一〇字より成る。大里郡間二里一九町。合三三。

●(沖繩)琉球國島尻郡高嶺村の字。もと島尻大里間切と呼び、今の大里村なる島添大里間切と區別したり。尙氏の國內を統一する以前、山南王の居りし所に於て、其城址今尙存す。正和年中承察大里按司となり、中央政府の廢職に乘じ、自立して山南王と稱し、沖繩島の南部を領せしが傳ふる。こと三百年にして、尙巴志の爲に滅ぼさる。

オウサト(大郷) 近江國東淺井郡の村。合三三。●(山形)羽前國東村山郡の村。合三三。●(鳥取)因幡國氣高郡の村。合三三。

オウサ

オウサ

オウサ

オウサ

村。湖山の南岸に接し、山陰道に當る。大字。福井に式内天德日命神社。大字。大畑に式内天日名命神社あり。合三三。

オウサト(遠郷) 【鳥取】因幡國八頭郡に在りし村。明治三十八年丹比村に入る。

オウサト(大砂土) 【埼玉】武藏國北足立郡の村。合三三。

オウサトクン(大里郡) 【埼玉】武藏國二郡の一。四境東は北埼玉北足立二郡、南は比企郡、西は秩父、兒玉二郡、北は利根川を以て上野國邑樂新田二郡に界す。面積二〇方里一六。行政上、熊谷深谷寄居の三町及佐谷田久下大藤生御正吉見市田大幡肥塚吉岡楊井男沼太田明戸幡羅別府三尻玉井奈良長井奈妻沼瀬藤吉大寄新會中瀬八基榛澤木郷岡部用土櫻澤花園武川藤澤男家小原本島鉢形折原の三九村に分ち、郡役所を熊谷町に置く。慶應三三六、合三三。宅地勢、郡の西南秩父比企二郡に接する所は秩父山地の餘波を承り、岡陵起伏し、一帶に第四紀古層より成る高地なり。河流は荒川秩父の峽谷より出で、此高地を東に貫流し、其沖積地は終に利根川の沖積地と連り、肥沃の耕地を作る。但し稍卑濕にして、往々水害を被る。道路は中山道の稍東北部を通じ、熊谷深谷の二驛あり。鐵道亦此に沿ふて走り、同所に車驛を置く。別に鐵道の熊谷より別れて秩父の峽口に達するものあり。上武線といひ、石原大藤生田中小前田寄居に車驛を

置く。中世鎌倉より上州への往還は、郡の西端高地を通じたるを以て、上杉北條の二氏、鉢形に城寨を構へ、秩父及上州を控制し、附近は屢戰場となれり。生業は農業を主とし、工之に亞ぎ、農産物六五四萬圓、畜産物八萬圓、林産物七萬圓、水産物一萬圓、工業物四六二萬圓なり。物産の主要なるものは米(八萬石)麥(二〇萬石)大豆小豆粟、甘藷馬鈴薯蘿蔔葱茄子胡瓜、葉菜、菜種、桑葉、柿、栗、胡桃、一六七萬圓、蠶絲(二一八萬圓)、織物四〇萬圓、足袋、練瓦、瓦酒、米粉等とす。今の大里郡は明治二十九年幡羅、榛澤、男家、大里四郡を合せたるものなり。舊大里郡は荒川の左右に跨り、面積三方里九七の狭地なり。其上古に在ては荒川遙に北を流れ、此河流を以て埼玉、幡羅二郡の境とせしもの、如し、後世此川南に遷り、從て大に地形の變替あり。和名抄は於保佐止と註し、郡家楊井市田餘戸の四郷を載す。

オウサヤマ(大佐山) 備中國阿賀郡千屋菅生熊谷三村に跨る山。高三〇二六尺。山勢雄偉、美作、伯耆の地より望見すべし。山頂の南に一池あり。周圍四、五町。盛夏と雖も潤るゝことなし。山頂の後面に往時は地獄孔といへる洞穴ありしが、今は埋没して、僅に其形蹟を存す。●安藝國山縣郡石見國那賀郡に跨る山。

オウサヤマ(大麻山) 讃岐國仲多度三豐二郡の界に在る山。南に象頭山を起し、北に筆山、天壽山、彌谷山に連り、諸嶺中の

秀峰なり。延喜式等に記せる、大麻神社、此所に在り。

オウサワ(大澤) 【神奈川】豊原支廳豊原出張所管内の村落。大泊、豊原街道に當り、鈴谷川の左岸に沿ふ。大泊より七里三三町。豊原に一里一七町。河畔肥沃の地は針葉樹に富み、農牧に適する地多し。舊名バリシヤエラニ。●(北海)渡島國松前郡の村。福山町の東一里なる海村にして、東北に松倉嶺あり。住古は此山中より砂金を出せりといふ。合三三。●(神奈川)相模國高座郡の村。合三三。●(兵庫)攝津國有馬郡の村。合三三。●(新潟)越後國刈羽郡に在りし村。明治三十四年南越後石村に入る。●(埼玉)武藏國南埼玉郡の町。元荒川の北岸に居り、一橋を以て越ヶ谷町と相連る。往時は二町を合して、奥州街道の一宿とせり。此地の久伊豆神社は大澤越ヶ谷二町の鎮守なり。合三三。

●(埼玉)武藏國兒玉郡の村。合三三。●(千葉)上總國夷隅郡清海村の大字。郡の極南なり。山背を以て安房の小湊と相隔つ。海岸は暗礁多く、船を近づけ難し。其著しきものを大澤根木化粧天根といふ。●(栃木)下野國河内郡の村。大字。大澤は日光街道の一小站なり。郵便局あり。宇都宮より五里七町。合三三。●(長野)信濃國南佐久郡の村。立科山の東北なる器野の端にして、幅廣き谷を成す。谷の兩側は凝灰岩層より成り、中間は削去られて火山灰泥土と混じて、富士岩の大塊

所々に散在す。是れ立科噴出の際、泥流の氾濫せし址なり。合三三。●(宮城)陸前國宮城郡の村。合三三。●(巖手)陸中國下閉伊郡の村。合三三。●(巖手)陸中國神宮郡湯田村の温泉場。豊澤川を挾みて家を構え、泉は四源あり、多くは単純泉なり。志月平温泉を距る二〇町。花燈停車場より三里一九町。●(山形)羽後國飽海郡の村。合三三。●(秋田)羽後國雄勝郡明治村の大字。横手本庄間の街道に當る。郵便局あり。松茸の名産あり。此地に天子屋敷といふ古址あり。規模廣大なれば、或は雄勝城址ならんといふ。

オウサワゴウ(大澤郷) 【秋田】羽後國仙北郡の村。合三三。

オウサワノ(大澤野) 【富山】越中國上新川郡の村。合三三。

オウサワノイケ(大澤池) 山城國葛野郡廣澤池の西北五町に在る池。もと嵯峨天皇離宮境内に屬し、中に菊島と稱する築石ありしが、後世閑院へ移されて、荒廢せり。古來和歌に詠ぜるもの少からず。

オウシ(生石) 【兵庫】播磨國印南郡阿彌陀村の大字。大石又は生石子に作る。伊保山の東北麓にして、龍山に石寶殿と稱する上代の遺蹟あり。石寶殿より南に當り、觀瀾處の三大字を刻せる天然の巨岩あり。姫路の儒者永峰文峰此地の眺望絶佳なるを賞し、之を刻せり。岩上遙に播磨灘を望み、遠く家島群島を見る。

オウシ(大石) 【福島】岩代國大沼郡の舊

オウシ

組名、今沼澤村本村川口村、耳、沼澤沼を繞りて、西北は越後國上蒲原郡に接せり。道路險惡にして馬を過せず常に牛を用ふ。耕地に乏しきを以て紙を製し、布を織りて米穀と交易す。大石は今大志に作り、沼澤村の大字に其名残る。

熊野神社の遙拜所あり。後鳥羽院行幸記に、此にて御禊ありし事見ゆ。【鳥取】伯耆國四伯郡の村、合二〇三。【和歌山】紀伊國那賀郡の村、合二二五。【オウシ(王子)】【奈良】大和國北葛城(舊葛下)郡の村、郡の西北隅に在る。一栗驛にして大和川に臨み、龜瀨越の東口なり。奈良・大阪間の鐵道此所にて分岐し、南は片岡山に在り。五社明神といふ、久度神社は大川端に在り。延喜式には平群郡に載す。達磨寺は聖德太子飢人に遇ひ、之に衣食を惠みしに、幾もなく死して身體なく、只衣服のみ残りしかば、其墓を築き、之を達磨塚といへり。後醍醐上人勝月上人墳上に三重塔を造る。興福寺衆徒之を惜み、嘉元三年之を焚けり。足利氏の時再建し、給田す。近代は南禪寺に屬し、寺中に中興碑及松久秀墓あり。孝靈天皇陵は馬背坂に在り、合二〇三。

Table with columns: 地名, 現在地名, 距離. Lists various locations like 千住, 草加, 越谷, etc.

オウシ

オウシ

Table with columns: 地名, 距離, 同縣同郡. Lists locations like 油井, 二本柳, 八町目, etc.

Table with columns: 地名, 距離, 同縣同郡. Lists locations like 吉岡, 三本木, 古川, etc.

Table with columns: 地名, 距離, 同縣同郡. Lists locations like 金田市, 三三, 三三, etc.

奥州街道名所記、二冊壽鶴齋(通志) 東奥志寫本、一冊。オウシ(大鹿) 【兵庫】播磨國印南郡の村、一に邊崎といふ。東播第一の鹽業地にして、隣村北濱の産を合せ、一年二五萬石價格三三萬圓に達す。鹽干湯數百町に連る。郵便局あり、白七色、小鯛、ひくあみのうけ繩よりくり、うきしわさきあり。

奥州街道名所記、二冊壽鶴齋(通志) 東奥志寫本、一冊。オウシ(大鹿) 【新潟】越後國中頸城郡の村、斑尾山の北荒川の東岸なり。此邊盛に煙草を栽培す。専賣法實施前は新井

オウシ

オウシ

オウシ

オウシ

町に出して之を驚き大鹿煙草と稱せり。合三〇。

オウシカワ(王寺川) 【新潟】越後國三島郡の村。合三六。

オウシ(押手) 【和歌山】紀伊國有田郡安請村の大字。郵便局あり。是より四里にして高野山に至る。押手を土俗大志傳と呼ぶ。志傳と呼ぶ大木あるによると、名所圖會に記す。

オウシ(大篠) 【高知】土佐國長岡郡の村。徳島南街道に當り、土地肥沃なり。大字大埔に郡役所を置く。合三六。

オウシ(大篠津) 【鳥取】伯耆國西伯郡の村。弓ヶ濱の稍北部に在り。往時此所に切戸ありて、中ノ海の海外海に通せりといふ。今の夜見、富登、和田の諸村は其切戸の址なり。鐵道山陰線の車驛あり。境驛より三哩四。合三六。

オウシ(大志生木) 【大分】豊後國北海部郡に在りし村。明治四十年神崎村に入る。

オウシ(大島) 【東京】武蔵國南葛飾郡の町。明治三十三年町制を施し、東京市深川區の東に續ける地にして、北は南豊川、西は天神川、南は小名木川を以て限られ、東は中川に至る。主要の町家は小名木川筋に在り。もと豊川通五丁目、羅漢寺あり。五百羅漢を安置せしが、大破して本所跡町に移り、今亦退轉すといふ。合三六。

【長崎】肥前國北松浦郡の村。大島(肥前國)を以て合三六。

【新潟】越後國東頸城郡の村。合三六。

【新潟】越後國南蒲原郡の村。合三六。

【群馬】上野國邑樂郡の村。合三六。

【群馬】上野國新田郡鳥之郷村の大字。金山の南麓とす。里見義成の二男伊賀藏入義繼此所に居り、大島を氏とし、子孫永く此地に住居す。其址は今の東楊寺の邊なりといふ。

【静岡】遠江國磐田郡豊濱村の字。昔は太田川と原野谷川との間に介在せる斥鹵の一洲なりしが、慶長年中二川の水路變ぜしより、開墾に就き今は人家相望むに至れり。

【山梨】甲斐國四八代郡大河内村の大字。富士川の東岸に在り。郵便局あり。

【長野】信濃國下伊那郡の村。合三六。

【宮城】陸前國本吉郡の村。合三六。

【福井】若狭國大飯郡の村。小濱灣の西側なる半島地にして、細頸地を以て和田山と相連る。南角を赤崎岬、北角を鋸崎といふ。鋸崎は小濱灣の四角とす。島内に犬見山あり。多く枇杷を産す。合三六。

【富山】越中國射水郡の村。合三六。

【岡山】備中國淺口郡の村。明治三十八年西大島、大島中の二村を合せて新稱。合三六。

【和歌山】紀伊國東牟婁郡の村。合三六。

【愛媛】伊豫國新居郡の村。合三六。

【福岡】筑前國宗像郡の村。合三六。

【熊本】肥後國上益城郡の村。明治三十八年上島大川の二村を合せて新稱。合三六。

【北海】渡島國松前郡に屬する火山島。江真町村の正西一二里の海上に在り。周圍三里一九町。島中河流なく、又薪材に乏しく、移住すべきなし。

【水陸】大島は幾んど楕圓形の死火山にして、東西の長二哩、島岸風曲なく、四週陸界にして離險なし。島上は西部を除く外概ね雜草を以て蔽はれ、島頂は少しく東方に偏し、北西の一峯に噴火口あり。夏時噴火口の岩隙より白煙の少しく漏出するを見る。島周は距岸三哩乃至一哩にして、水深百尋より深し。北東方及南方五哩半の所は千尋より深し。島の南端大難波岬の東側なるアイ泊、島の西側ヤマモ泊及島の北東側日方泊は夏期平穩の時小艇を着け得べし。

【伊豆】七島の一。東京府に屬す。伊豆下田を距る東南海路約一八里に在り。七島中最も陸地に近し。東西二里一八町。南北五里餘。周圍一〇里。二六町。元々木地野増、阿田泉津、波浮港の六村あり。元村に島廟を置きて之を管す。合三六。

【全島】大島燔岩より成り、其中央に三原山あり。海拔二五五〇尺。絶頂に噴火口あり。白煙常に上騰す。殊に夜間は火口より發する火著しく輝き、著明の目標となる。村落は山麓を繞りて散在す。海岸は岩石時々巖礁海中に點在し、波浪急激にして船舶を寄すべきは唯一の

國北蒲原郡に在りし村。明治三十四年紫雲寺村に入る。

【新潟】越後國三島郡に在りし村。明治三十四年深才村に入る。

【新潟】越後國東頸城郡の村。合三六。

【新潟】越後國南蒲原郡の村。合三六。

【群馬】上野國邑樂郡の村。合三六。

【群馬】上野國新田郡鳥之郷村の大字。金山の南麓とす。里見義成の二男伊賀藏入義繼此所に居り、大島を氏とし、子孫永く此地に住居す。其址は今の東楊寺の邊なりといふ。

【静岡】遠江國磐田郡豊濱村の字。昔は太田川と原野谷川との間に介在せる斥鹵の一洲なりしが、慶長年中二川の水路變ぜしより、開墾に就き今は人家相望むに至れり。

【山梨】甲斐國四八代郡大河内村の大字。富士川の東岸に在り。郵便局あり。

【長野】信濃國下伊那郡の村。合三六。

【宮城】陸前國本吉郡の村。合三六。

【福井】若狭國大飯郡の村。小濱灣の西側なる半島地にして、細頸地を以て和田山と相連る。南角を赤崎岬、北角を鋸崎といふ。鋸崎は小濱灣の四角とす。島内に犬見山あり。多く枇杷を産す。合三六。

【富山】越中國射水郡の村。合三六。

【岡山】備中國淺口郡の村。明治三十八年西大島、大島中の二村を合せて新稱。合三六。

【和歌山】紀伊國東牟婁郡の村。合三六。

【愛媛】伊豫國新居郡の村。合三六。

【福岡】筑前國宗像郡の村。合三六。

【熊本】肥後國上益城郡の村。明治三十八年上島大川の二村を合せて新稱。合三六。

【北海】渡島國松前郡に屬する火山島。江真町村の正西一二里の海上に在り。周圍三里一九町。島中河流なく、又薪材に乏しく、移住すべきなし。

【水陸】大島は幾んど楕圓形の死火山にして、東西の長二哩、島岸風曲なく、四週陸界にして離險なし。島上は西部を除く外概ね雜草を以て蔽はれ、島頂は少しく東方に偏し、北西の一峯に噴火口あり。夏時噴火口の岩隙より白煙の少しく漏出するを見る。島周は距岸三哩乃至一哩にして、水深百尋より深し。北東方及南方五哩半の所は千尋より深し。島の南端大難波岬の東側なるアイ泊、島の西側ヤマモ泊及島の北東側日方泊は夏期平穩の時小艇を着け得べし。

【伊豆】七島の一。東京府に屬す。伊豆下田を距る東南海路約一八里に在り。七島中最も陸地に近し。東西二里一八町。南北五里餘。周圍一〇里。二六町。元々木地野増、阿田泉津、波浮港の六村あり。元村に島廟を置きて之を管す。合三六。

【全島】大島燔岩より成り、其中央に三原山あり。海拔二五五〇尺。絶頂に噴火口あり。白煙常に上騰す。殊に夜間は火口より發する火著しく輝き、著明の目標となる。村落は山麓を繞りて散在す。海岸は岩石時々巖礁海中に點在し、波浪急激にして船舶を寄すべきは唯一の

の西側に浦あり。日本形船の假泊地なり。村名を大島と呼ぶ。

【周防】大島郡の首島。玖珂郡の東南。熊毛郡の東に横はる。北は安藝灘、西は大島瀬戸、南は伊豫灘。東は諸島海峡を以て伊豫の郡界とす。島と相隣つ。面積約七方里。此島西部に方二里半餘の島山を成し、其山頂を嘉納山といふ。久賀町及安下庄、蒲野、屋代、小松志佐、沖浦、日真居の六村其山麓を繞り、東端舟越の地に地頭あり。更に東方に狹長なる尾を延く。油田、和野、森野、家室四方の四村其沿海に在り。總稱して島末といふ。島の首尾を久賀町とす。大島郡役所警察署、郵便局あり。又小松志佐村には無立商船學校あり。島内平地少く、山岳起伏し、村落は概ね海濱に在るを以て、往來は舟楫の便を仰ぐ。物産は編木、綿、投網、絲、乾瀬戸貝等あり。大島は古事記に二尊生島の時大島亦名謂大多麻流別とありて、古來より知られたり。中世は屋代島の稱あり。將軍足利義滿殿島詣記、豫章記等に載せ、海賊衆の盛時には其根據地たり。慶應二年徳川幕府の長州を征するや、東兵先づ此島を奪はんと欲し、砲撃して村落を焼き、其兵を上陸せしむ。高杉晋作山縣狂介等警を得て、水軍を以て來り援け、終に大に幕軍を破る。幕軍航して安藝に逃る。

【長門】國阿武郡の海上に在る島。六島の一にして、六島村の内とす。大井村の西北二哩なり。東西一七町。南北二三町。長門六、合三六。

【紀伊】國東

の西側に浦あり。日本形船の假泊地なり。村名を大島と呼ぶ。

【周防】大島郡の首島。玖珂郡の東南。熊毛郡の東に横はる。北は安藝灘、西は大島瀬戸、南は伊豫灘。東は諸島海峡を以て伊豫の郡界とす。島と相隣つ。面積約七方里。此島西部に方二里半餘の島山を成し、其山頂を嘉納山といふ。久賀町及安下庄、蒲野、屋代、小松志佐、沖浦、日真居の六村其山麓を繞り、東端舟越の地に地頭あり。更に東方に狹長なる尾を延く。油田、和野、森野、家室四方の四村其沿海に在り。總稱して島末といふ。島の首尾を久賀町とす。大島郡役所警察署、郵便局あり。又小松志佐村には無立商船學校あり。島内平地少く、山岳起伏し、村落は概ね海濱に在るを以て、往來は舟楫の便を仰ぐ。物産は編木、綿、投網、絲、乾瀬戸貝等あり。大島は古事記に二尊生島の時大島亦名謂大多麻流別とありて、古來より知られたり。中世は屋代島の稱あり。將軍足利義滿殿島詣記、豫章記等に載せ、海賊衆の盛時には其根據地たり。慶應二年徳川幕府の長州を征するや、東兵先づ此島を奪はんと欲し、砲撃して村落を焼き、其兵を上陸せしむ。高杉晋作山縣狂介等警を得て、水軍を以て來り援け、終に大に幕軍を破る。幕軍航して安藝に逃る。

村。合三六。

【熊本】肥後國上益城郡の村。明治三十八年上島大川の二村を合せて新稱。合三六。

【北海】渡島國松前郡に屬する火山島。江真町村の正西一二里の海上に在り。周圍三里一九町。島中河流なく、又薪材に乏しく、移住すべきなし。

【水陸】大島は幾んど楕圓形の死火山にして、東西の長二哩、島岸風曲なく、四週陸界にして離險なし。島上は西部を除く外概ね雜草を以て蔽はれ、島頂は少しく東方に偏し、北西の一峯に噴火口あり。夏時噴火口の岩隙より白煙の少しく漏出するを見る。島周は距岸三哩乃至一哩にして、水深百尋より深し。北東方及南方五哩半の所は千尋より深し。島の南端大難波岬の東側なるアイ泊、島の西側ヤマモ泊及島の北東側日方泊は夏期平穩の時小艇を着け得べし。

【伊豆】七島の一。東京府に屬す。伊豆下田を距る東南海路約一八里に在り。七島中最も陸地に近し。東西二里一八町。南北五里餘。周圍一〇里。二六町。元々木地野増、阿田泉津、波浮港の六村あり。元村に島廟を置きて之を管す。合三六。

【全島】大島燔岩より成り、其中央に三原山あり。海拔二五五〇尺。絶頂に噴火口あり。白煙常に上騰す。殊に夜間は火口より發する火著しく輝き、著明の目標となる。村落は山麓を繞りて散在す。海岸は岩石時々巖礁海中に點在し、波浪急激にして船舶を寄すべきは唯一の

傾して噴煙を成す。是等諸山は花崗岩質にして樹木疎生す。北岸は刈瀬川の南側を成し、宮ノ浦といへる大沙洲あり。浦に沿ふを宮窪村といふ。島の首尾なり。宮ノ浦の東に津頭岬あり。其岬邊にカキ島、横島、ツクモ島等散在す。島の西側に津久瀨あり。瀨内水淺く、濤日に數尖岩あり。能島城址は宮窪に在り。中世河野氏の將村上氏の據れる所なり。村上氏後能島氏を稱し、水軍を以て名あり。毛利元就嚴島攻の時之に應じて兵を出す。慶長五年毛利氏削封の時、幕府防の屋代島に移り、三田尻の船廠を管理せりといふ。毛利氏船手三組の内、兩村上は實に能島氏の裔なり。誕生石は泊の海濱に在り。石面に胞衣の形見ゆ。俗に三島明神誕生の遺跡といふ。安政年間碑を建つ。

【伊豫】國新居郡多喜濱村の海上に在る島。周圍一里二六町。今大島村といふ。後宇多天皇御額目録に新居大島とあるもの是なり。中世村上氏此島に居り、舟師の將として武者あり。伊豫國四宇和郡の海上に在る島。眞穴村に屬す。周圍一里七町。人家在り。山は高五八尺。頂上に一本松あり。其南に地ノ大島あり。高四四三尺。雜木叢生す。此二島の間は一小海峡にして、春秋の大湖には干出して沙堆を露はすといふ。大島の北側に粟小島あり。土佐國幡多郡宿毛港の前に在る島。周圍一里人家あり。筑前國宗像郡神湊村の海上六里六町に在る島。周圍三里一二町。古の宗

波浮港あるのみ。但し港内狭くして、五百石以下の日本形船の外は、危險にして碇泊するを得ず。此港はもと寄生火山口なりしが、元祿十六年其唇邊缺け海に連りたるものといふ。島の東南岸は危崖聳立し、數十尺に達し、北岸は最も險峻なり。唯西岸には稍平斜の沙濱あり。全島淡水に乏しく、旱天には飲料水に苦しむこと屢なり。沿海の潮流は急激にして、風浪荒らぐ極めて渡航し易からず。因て古來罪人配謫の地とし、保元元年源爲朝之に流され、建久四年木桶太國景亦配流せられたり。徳川幕府も亦之に準じて、寛政以來改めて八丈御宅新島の三島を以て之に充てたり。島民一般に朴直にして、其婦女は姿勢正しく、色白くして、概ね秀麗なり。男子の言語風俗は内地と異ならず。未婚者は髪を島田髷に結び、養老の鉢巻をなす。必ず襟前掛を着け、物品を運搬するに悉く之を頭に戴く。生業は樵を主とし、漁業之に亞ぐ。又牧羊業にして、其數千二百頭に上る。農業は極めて幼稚にて、所謂切替畑の法を採り、十七八年乃至二十五年毎に雜木林を一次伐採、開墾して之に耕作し、三四年の後復た山林となすを例とし、作物は麥類、甘藷を主とし、其他は粟、穠、陸稻等少量の穀、及蘿蔔、胡蘿蔔、牛蒡等に過ぎず。山林は全島の大部分を占む。其大分は雜木林にして、薪として採伐輸出する

傾して噴煙を成す。是等諸山は花崗岩質にして樹木疎生す。北岸は刈瀬川の南側を成し、宮ノ浦といへる大沙洲あり。浦に沿ふを宮窪村といふ。島の首尾なり。宮ノ浦の東に津頭岬あり。其岬邊にカキ島、横島、ツクモ島等散在す。島の西側に津久瀨あり。瀨内水淺く、濤日に數尖岩あり。能島城址は宮窪に在り。中世河野氏の將村上氏の據れる所なり。村上氏後能島氏を稱し、水軍を以て名あり。毛利元就嚴島攻の時之に應じて兵を出す。慶長五年毛利氏削封の時、幕府防の屋代島に移り、三田尻の船廠を管理せりといふ。毛利氏船手三組の内、兩村上は實に能島氏の裔なり。誕生石は泊の海濱に在り。石面に胞衣の形見ゆ。俗に三島明神誕生の遺跡といふ。安政年間碑を建つ。

【伊豫】國新居郡多喜濱村の海上に在る島。周圍一里二六町。今大島村といふ。後宇多天皇御額目録に新居大島とあるもの是なり。中世村上氏此島に居り、舟師の將として武者あり。伊豫國四宇和郡の海上に在る島。眞穴村に屬す。周圍一里七町。人家在り。山は高五八尺。頂上に一本松あり。其南に地ノ大島あり。高四四三尺。雜木叢生す。此二島の間は一小海峡にして、春秋の大湖には干出して沙堆を露はすといふ。大島の北側に粟小島あり。土佐國幡多郡宿毛港の前に在る島。周圍一里人家あり。筑前國宗像郡神湊村の海上六里六町に在る島。周圍三里一二町。古の宗

の増幅を計りつゝあり。農産物の主なるものは米(四百石)、麥(二千石)、甘藷(三〇萬貫)等あり。林産物は用材(三千圓)、薪炭(五萬五千圓)、漁獲物は鰯、文魚、秋刀魚、鰈、海鰻等四萬圓。工業物は漆油、蠟、石油等約二〇萬圓。輸出は薪炭、牛糞、魚鱈節、海漆、漆油等二一萬圓あり。

【文籍】伊豆大島火山、一冊(東京地學協會、明治三六)。

【肥前】國西彼杵郡に屬する島。一に黒瀬島といふ。佐世保灣口の南西なる一大島にして、周圍七里九町。今、黒瀬村あり。島の東側は海岸線の凹凸甚だしく、附近には低潮に干出する石段及岩石數多あり。

の西側に浦あり。日本形船の假泊地なり。村名を大島と呼ぶ。

【周防】大島郡の首島。玖珂郡の東南。熊毛郡の東に横はる。北は安藝灘、西は大島瀬戸、南は伊豫灘。東は諸島海峡を以て伊豫の郡界とす。島と相隣つ。面積約七方里。此島西部に方二里半餘の島山を成し、其山頂を嘉納山といふ。久賀町及安下庄、蒲野、屋代、小松志佐、沖浦、日真居の六村其山麓を繞り、東端舟越の地に地頭あり。更に東方に狹長なる尾を延く。油田、和野、森野、家室四方の四村其沿海に在り。總稱して島末といふ。島の首尾を久賀町とす。大島郡役所警察署、郵便局あり。又小松志佐村には無立商船學校あり。島内平地少く、山岳起伏し、村落は概ね海濱に在るを以て、往來は舟楫の便を仰ぐ。物産は編木、綿、投網、絲、乾瀬戸貝等あり。大島は古事記に二尊生島の時大島亦名謂大多麻流別とありて、古來より知られたり。中世は屋代島の稱あり。將軍足利義滿殿島詣記、豫章記等に載せ、海賊衆の盛時には其根據地たり。慶應二年徳川幕府の長州を征するや、東兵先づ此島を奪はんと欲し、砲撃して村落を焼き、其兵を上陸せしむ。高杉晋作山縣狂介等警を得て、水軍を以て來り援け、終に大に幕軍を破る。幕軍航して安藝に逃る。

【長門】國阿武郡の海上に在る島。六島の一にして、六島村の内とす。大井村の西北二哩なり。東西一七町。南北二三町。長門六、合三六。

の西側に浦あり。日本形船の假泊地なり。村名を大島と呼ぶ。

【周防】大島郡の首島。玖珂郡の東南。熊毛郡の東に横はる。北は安藝灘、西は大島瀬戸、南は伊豫灘。東は諸島海峡を以て伊豫の郡界とす。島と相隣つ。面積約七方里。此島西部に方二里半餘の島山を成し、其山頂を嘉納山といふ。久賀町及安下庄、蒲野、屋代、小松志佐、沖浦、日真居の六村其山麓を繞り、東端舟越の地に地頭あり。更に東方に狹長なる尾を延く。油田、和野、森野、家室四方の四村其沿海に在り。總稱して島末といふ。島の首尾を久賀町とす。大島郡役所警察署、郵便局あり。又小松志佐村には無立商船學校あり。島内平地少く、山岳起伏し、村落は概ね海濱に在るを以て、往來は舟楫の便を仰ぐ。物産は編木、綿、投網、絲、乾瀬戸貝等あり。大島は古事記に二尊生島の時大島亦名謂大多麻流別とありて、古來より知られたり。中世は屋代島の稱あり。將軍足利義滿殿島詣記、豫章記等に載せ、海賊衆の盛時には其根據地たり。慶應二年徳川幕府の長州を征するや、東兵先づ此島を奪はんと欲し、砲撃して村落を焼き、其兵を上陸せしむ。高杉晋作山縣狂介等警を得て、水軍を以て來り援け、終に大に幕軍を破る。幕軍航して安藝に逃る。

【長門】國阿武郡の海上に在る島。六島の一にして、六島村の内とす。大井村の西北二哩なり。東西一七町。南北二三町。長門六、合三六。

の西側に浦あり。日本形船の假泊地なり。村名を大島と呼ぶ。

【周防】大島郡の首島。玖珂郡の東南。熊毛郡の東に横はる。北は安藝灘、西は大島瀬戸、南は伊豫灘。東は諸島海峡を以て伊豫の郡界とす。島と相隣つ。面積約七方里。此島西部に方二里半餘の島山を成し、其山頂を嘉納山といふ。久賀町及安下庄、蒲野、屋代、小松志佐、沖浦、日真居の六村其山麓を繞り、東端舟越の地に地頭あり。更に東方に狹長なる尾を延く。油田、和野、森野、家室四方の四村其沿海に在り。總稱して島末といふ。島の首尾を久賀町とす。大島郡役所警察署、郵便局あり。又小松志佐村には無立商船學校あり。島内平地少く、山岳起伏し、村落は概ね海濱に在るを以て、往來は舟楫の便を仰ぐ。物産は編木、綿、投網、絲、乾瀬戸貝等あり。大島は古事記に二尊生島の時大島亦名謂大多麻流別とありて、古來より知られたり。中世は屋代島の稱あり。將軍足利義滿殿島詣記、豫章記等に載せ、海賊衆の盛時には其根據地たり。慶應二年徳川幕府の長州を征するや、東兵先づ此島を奪はんと欲し、砲撃して村落を焼き、其兵を上陸せしむ。高杉晋作山縣狂介等警を得て、水軍を以て來り援け、終に大に幕軍を破る。幕軍航して安藝に逃る。

【長門】國阿武郡の海上に在る島。六島の一にして、六島村の内とす。大井村の西北二哩なり。東西一七町。南北二三町。長門六、合三六。

像の中津島なり、島の最高點は八五四尺にして上に顯著なる一叢林あり。晴天には三〇里外より認め得べし、下關海峡口に近くもの、好望標なり。島の東岸なる二岩角の間は小灣を成し、灣内に一大漁村あり。大島村といふ、島の東南に地ノ島あり、其間は暗礁多く、頗る危険なり。此島は官幣神社宗廟神社三座の一、中津宮の鎮座せる所なり。社前に天ノ川といふ小流あり、其左右に分れて、牽牛織女二星の祠あり。女を得んと欲する者は織女の宮に、男を得んと欲するものは牽牛の宮に參籠するの習慣ありといふ。島内に安倍宗任の墓といふあり。宗任伊豫に配流せられ、後此島に謫せられて死し、其子三人、長子は松浦に行き、松浦藩の祖となり、次は薩摩に行き、季は此島に留り、島三郎秀任と稱せりといふ。寛永二十年外國船一艘此島に来る。審問して葡葡人の天主教を弘めんと爲るを知り、之を長崎奉行に送る。船内の金銀は命ありて島民へ與へらる。船人も誰を戀ふとが大島のうら悲しげに聲のきこゆる。源氏物語玉葛巻「さりととも身の憂き事は大島の、神の心を頼むばかりそ」夫木抄、具氏。●豊後國佐伯藩の南入口に在る島南海郡郡東中浦村に屬し、同村の海上一里一〇町に在り、周圍二里居民概々漁業に従事す。●肥前國東松浦郡唐津村の海上六町に在る島、周圍一里一町。○肥後國天草郡島の一、天草下島の西南下須

島の西に在り、周圍二里九町半深町に屬す。●日向國南那珂郡南郷村に屬する島、油津港の南三里に横ばり、周圍二里四町、其東端なる鞍崎に燈臺あり。海拔二八丈七尺、燈は第一等回轉白色、晴天光達二四哩、北緯三一度三一分、東經一三一度二五分に在り。●大隅國大島郡の首島古奄美島と呼べるものなり。寶七島の南に横ばり、北東より南西に延び、長一五里、幅廣きは七里、狹きは二里、周圍五九里一〇町、群島中の最大なるものとす。鹿兒島を距る二百哩、南に徳之島、永良部島、與論島等相列り、沖繩群島に至る。本島の南に接して加計呂麻島あり。其間を大島海峡といふ。島内平坦の地に乏しく、南部に湯瀨岳あり、其脈東北に走りて喜界岳を起す。地勢北部に向て低下し、沿岸所々に平地を作る。耕作地村落多く、此所に在り、海岸は屈曲甚だしく、數灣あり。笠利灣名瀬灣内灣等、其主なるものなり。岸勢は大低高險崖にして、陸界なり。中部以北の海岸には、數多の石花盤ありて、或は牛湖に没し、或は低潮に顯る。島の西端曾津高岬に燈臺あり。第一等不動白色。晴天光達二〇哩。島内に名瀬笠利龍郷大和住用、東方、焼内、鎮西の八村あり。其首邑を名瀬とす。島廳警察署、區裁判所、縣立農學校、縣立病院、郵便局等あり。風俗概々沖繩に等し、氣候溫暖草木繁茂し、風俗教養なり。島民専ら甘蔗及甘藷を栽培し、甘蔗は黒糖に製し、之を輸出

す。●西國六人、此島は琉球國群島に屬する島と稱す。天武天皇十一年阿麻理人始めて入朝貢賦し、爾後往來絶えず。後琉球國に屬し、慶長十四年島津家久琉球を討ち、徳之島、沖永良部島、喜界島、與論島と共に之を割讓せしめ、永く薩摩の所管に歸せり。島内飯七島と呼ぶ毒蛇多し、南西諸島此蛇多けれど、本島と徳之島の産其毒最も甚だしといふ。五月より十月まで樹木及草叢中に出没し、人を齧る。●大島郡をも見よ。

ノ三島とは硫黃島、黒島、竹ノ島にして、寶七島とは口ノ島、中ノ島、平島、諏訪ノ瀨、臥蛇島、惡石島、寶島をいひ、此十島を總括して十島村とす。大島群島には大島、奄美大島とも呼ぶ。加計呂間島、徳之島、喜界島、沖永良部島、與論島あり。名瀬笠利龍郷大和住用、東方、焼内、鎮西以上大島、龜津、天城、島尻(以上徳之島)和泊、知名以上沖永良部島、與論島、喜界(喜界島の一五村に分ち、都合一六村、名瀬村に島廳を置く。●三島、合六八七七)瀨村に島廳を置く。大島は古の奄美島にして、琉球國王鑿基の地なりしが、慶長十四年島津家久琉球を伐て之を取り、喜界島、徳之島、沖永良部島、與論島の四島を併せて、永く薩摩の所管となせり。但し別に名稱を付せざりしかば、明治十二年初めて大島郡と名け、此を沖繩より區別せり。二十九年薩摩國川邊郡に屬せる硫黃島以下十島を本郡に併す。本郡は氣候溫暖にして、殆ど霜雪を知らず。暑氣は内地に殆ど倍せるを以て、動植物の發育頗る旺盛なり。但し暴風雨の襲來頻りにして、損害少からず。蓋し本郡及沖繩附近は低氣壓の中心と稱せられ、毎年七月以後五箇月間は概々暴風期にして、降雨は四時共に多く、就中大島の如きは一月月中二十五日は雨なりとの謠あるに至る。物産は砂糖を第一とし、主に大島群島より出し、牧畜業亦盛なり。漁獲物は鰹を主とし、織物は所謂大島袖を産し、其他芭蕉

布あり、寶七島より長表を出す。農産物は米(四萬三千石)、麥(一萬四千石)、大豆(三五九八萬貫)、甘藷(四三〇貫)、蘿蔔(廿萬貫)、果實(萬貫)、畜産物(生一、〇八〇七頭)、馬(六五一四頭)、山羊(六二九八頭)、豚(四、〇七八頭)、漁獲物(一九萬圓)、工業物(疊表(三萬七千圓)、味噌(二九萬圓)、燒酎(蠶絲織物(五萬圓)、砂糖(八四萬圓)等とす。【文藝】鹿兒島縣大島郡統計書。オウシマサキ(大島嶼) 肥後國天草郡天草下島の北角、北に瀨瀨瀨戸を隔て、肥前國島原半島に對し、潮流甚だ速し。オウシマナカ(大島中) 【岡山】備中國淺口郡に在りし村、明治三十八年大島村に入る。オウシマノツ(大島ノ津) 柳井津、町を見よ。オウシマノナルト(大島鳴門) 「大島瀨戸」を見よ。オウシマノ木(大島ノ嶺) 萬葉集に載せたる嶺、大和國生駒郡平嶋村、額田の丘を指せるものか、或は同郡龍田の島山をいふか詳ならず(吉田東伍氏の説)。オウシモチヨウ(天下條) 【長野】信濃國下伊那郡の村、合二四四。オウシヤクヤマ(大嶺山) 美作因幡二國に跨る山、吉田郡の東北に在り。オウシヤナ(大謝名) 【沖繩】琉球國中頭郡宜野灣村の字、地泊の南に隣る、金宮寄揚森は、藤原王の遺蹟と傳へ、金宮は王

の母、天女を祀ると傳ふ。オウシユク(齋宿) 【山梨】甲斐國東八代郡の村、合百五。●【巖手】陸中國巖手郡御所村の大字、那須火山脈に當るを以て、温泉湧出す。磐石川の一支源、南川の谷奥にして、土地僻遠なれば、來浴者は自炊の具を携ふべしといふ。オウシヨウ(大庄) 【兵庫】攝津國武庫郡の村、武庫川の河口、東岸の地に在り、近代大島嶼と稱せり。其海岸は所謂琴浦にして、歌の名所なり。白雲谷。●【富山】越中國上新川郡の村、合三二。オウシヨウイン(大生院) 【愛媛】伊豫國新居郡の村、合百三三。オウシヨウジ(王城寺) 【宮城】陸前國加美郡色麻村の大字、根白石岳なる休火山の裾野、王城寺原の傍なる一村なり。往生寺と呼ぶ禪刹あり。昔は淨土宗にして、法然上人が食夫の牛に化せしを解説せしめし古蹟と傳ふ。オウシヨウチ(大小路) 【鹿兒島】薩摩國薩摩郡東水引村の大字、肥後街道の一驛。オウシロカワ(大代川) 遠江國藤原郡に在る川、水源、八荒山、東南流して、金谷驛を貫き、大川井に入る。流程五里半、所謂志戸呂郷の地、此沿岸に在り。オウシロタンサン(王城炭山) 磐城國石城郡に在る炭山、内郷村大字白水に屬し、製糖工場を距る四二哩、六〇鐘湯ノ嶽の東麓に在り。明治四十一年、鑛區四六、八五七〇坪、使用鐵夫二四七人、女一七二

人産額六、九七九七佛囉、價格三〇萬圓(本邦産額一五)。オウジン(應神) 【徳島】阿波國板野郡の村、合百三三。オウシデン(大新田) 【愛媛】伊豫國周桑郡、壬生川、村を見よ。オウズ(大洲) 【新潟】越後國刈羽郡の村、合三二九。●【静岡】駿河國志多郡の村、合三二九。●【愛媛】伊豫國喜多郡の町、もと加藤氏六萬石の城下にして、郡中第一繁華の地なり。四圍皆山なれども、脇川市外を環り、四里にして長濱港に達し、舟楫の便あり。郡役所、警察署、區裁判所、稅務署、中學校、郡立高等女學校、郵便局等あり。紙及大豆を名産とす。東京を距る三三二里、新谷一里二八町、東、多田、郷へ三里九町。脇川の對岸を喜多村といひ、町の一部を成し、常磐町等の市街あり。其間を渡場といひ、もと小舟を以て行人を運ぶが、近世舟橋を架し、浮橋と稱す。大洲城址はもと大津に作り、天正の頃今の名に改む。二に龜城と呼び、鎌倉幕府の時宇都宮氏に賜はり、元弘元年宇都宮豊房入城す。豊綱に至り、永祿十一年河野氏の爲に逐はれ、舊領悉く河野氏に歸す。幾もなくして長曾我部氏之を奪ひしが、天正十五年戸田勝隆、文祿四年藤堂高虎、慶長十三年藤坂安治を経て、元和二年加藤貞泰、伯耆米子より移封せられ、喜多全部、早浮穴、伊豫三郡の内六萬石を領し、明治維新に至る。合三六六。●【愛媛】

伊豫國喜多郡の村、明治四十一年喜多、平二村を合せて、新稱合百五。オウズ(大須) 【岐阜】美濃國羽島郡小坂村の大字、舊中島郡の庄名にして、眞福寺ありしが、後名古屋に移り、寶生院と改む。●【福島】磐城國相馬郡の村、合百〇。オウズガ(大須賀) 【千葉】下總國香取郡の村、大須賀は舊保名にして、今の本大須賀及大須賀の諸村に互れり。千葉常胤の四男、四郎胤信城きて居り、大須賀氏を稱せしが、天正十八年北條氏と共に滅び、城廢す。合百五。●【茨城】常陸國稻敷郡の村、合百四。●【静岡】遠江國小笠郡の村、警察分署あり、合百四。オウズガカワ(大須賀川) 下總國香取郡に在る川、水源、大須賀村、北流して、本新島村に至り、利根川に入る。流程四里。オウズキ(大杉) 【青森】陸奥國南津輕郡の村、大釋迦停車場の所在地なり。合百五。●【石川】加賀國能美郡に在りし村。明治四十年大杉谷村に入る。オウズギカワ(大杉川) 加賀國能美郡に在る川、波佐谷の溪流なり。水源、鈴岳北流六里にして、尾小屋川、郷谷川と合し、梯川となる。安宅川の上流なり。オウズギタニ(大杉谷) 【三重】伊勢國多氣郡の村、合百七。●【石川】加賀國能美郡の村、明治四十年瀬谷大杉二村を合せて、新稱合百七。オウズギタニ(大杉谷) 伊勢國多氣郡の西南偏に在る大山谷、大懸ヶ原山の東麓

なり。宮川の水源地とす。今大杉谷領内、萩原の三村あり。其材に富むを以て、和歌山藩政の時特制を布き、山林を管せしめたり。地剛鮮にして、人跡到らざる所多し。溪間に大杉の叢木あり。圍四丈、高八五尋ありといふ。往時は神宮式年御造營の料材を此所に伐採せしが、運搬に不便なるを以て終に止めり。山中飛泉多し。

オウスゴ(大菓子) 【福島】岩代國北會津郡東山村の字。
オウスド(大須戸) 【新潟】越後國岩船郡に在りし村。明治廿四年、堀野町村に入る。
オウスナリ(大須成) 【山梨】甲斐國南巨摩郡の村。合(元)

オウスミ(大住) 【京都】山城國綴喜郡の村。古の大住郷にして、木津川に沿ひ、古代大隅國の軍人の留住せしよりの名なり。月讀神社は池ノ平に在り。御靈社と稱し、もと養福寺の奉祀する所なり。合(元)

オウスミカイキヨウ(大隅海峽) 大隅國肝屬郡の南端と種子島、竹島、硫黄島、黒島間の水路。峽内險峻なく、通航極めて安全なれども、時として佐多岬附近に暴風雨俄に起り、又天氣溼濛となることあり。舟子の恐るる所なり。且つ潮流甚だ急なり。之を大隅海峽の迅潮と名け、和船は潮の満干を待て通過するを常とす。

オウスミクン(大隅郡) 【鹿児島】大隅國に在りし郡。大隅建國以來の郡名にして、後世南北二郡に分ち、櫻島を北大隅郡とす。由上隅郡は櫻島の東對岸とす。佐多岬附

近の牛島とに、肝屬郡を介して離れてありしが、明治二十九年、北郡を薩摩國鹿児島郡に、南郡を肝屬郡に合す。和名抄は入野大隅、阿波、薩摩、日向、大河の七郷を統す。櫻島はもと阿波郡志摩郷の地なりしを何時の頃よりか大隅郡に入る。オウスミクン(大住郡) 【神奈川】相模國に在りし郡。大略、雨降山の南より東南に互り、相模川(馬入川)の西岸に至る地をいへり。和名抄は、於保須美と註し、中島、高來川、片岡、方見、和太、日田、大服、梅清邊、石見、石田の誤といふ。大上前取、三宅、餘戸の一五郷及隣家に分てり。足利氏の頃、海峽愛甲二郡を合せて中郡の稱ありしが、天文年中郡名復古し、其時海峽郡の金目、幡多の二郷を合せて益大郡となれり。明治二十九年廢して、海峽郡と合せ更に中郡の稱を建つ。

オウスミシマ(大隅島) 【大阪】攝津國西成郡中島村、大道村、新莊村、豊里村邊の舊稱。安閑天皇勅して牛を難波大隅島に放つとあるは此地なり。

オウスミノクニ(大隅國) 【鹿児島】九州島の南端に在る國。四境、西北は薩摩國、東北は日向國、南に向て一大半島を成し、其南洋には數多の島嶼あり。遙に沖繩群島に至る。東西約一五里、南北約二六里(島地を除く)、面積三二四万〇五、行政上、給長、肝屬、阿波、熊毛、大島の五郡に分ち、全國鹿児島縣の所管とす。合(元)二百

箇野の金嶺、岩川地方の馬赤著名なり。主なる農産物は、米五一萬石、麥一五萬石、大豆、蕎麥六萬五千石、甘藷(七一六五萬貫)、蘿蔔(七〇七萬貫)、桑種、楮實、糖甘(五〇八八萬貫)、七島蘭(四八萬貫)、煙草(三〇萬貫)、繭製茶、果實にして、米、麥、大豆、糖、煙草は給長郡、蘿蔔、楮實、果實は肝屬郡、甘藷、七島蘭は大島郡を第一とし、殊に給長郡の糖は縣下第一に居り、大島郡の甘蔗は縣下總額の五分の四を占む。畜産は牛(四九一三頭)、馬(六五二一頭)、豚(五四四八頭)にして、牛は大島、肝屬二郡各一萬頭以上、馬は給長、阿波の二郡各一萬七千頭以上を有し、豚は大島郡の四萬頭を第一とす。林産は用材、伐採高三七萬圓、薪炭材四八萬圓、用材は松、杉を主とし、熊毛郡を最とし、薪炭材は大島郡の二六萬圓を推す。礦産物は金一一五八七七匁、銀二六、九〇〇一匁、硫黄一三、七八、八九二斤を出し、山崎野鐵山の販賣高金五〇萬圓、銀三萬圓あり。漆、銅山之次に、金五萬圓、銀五千圓あり。硫黄は大島郡、熊毛郡、上屋久村より出づ。漁獲物七二萬圓、熊毛郡の三二萬圓を最とし、大島郡の一八萬圓に亞ぐ。熊毛郡の文魚(魚)一五萬圓、大島郡の鱈(魚)一六萬圓に其主なるものなり。別に食鹽(二一萬圓)あり。給長郡一四萬圓を占む。工産物は、蠶絲二〇萬圓、織物二四萬圓、砂糖一〇〇萬圓、蠟燭、和紙、樟腦等にして、織物、砂糖、蠟燭は給長、大島

地勢 自ら三區に分る。給長は霧島山西の原野にして、西は一帶の火山性山岳を以て薩摩と界し、南に鹿児島灣を擁し、河流概れ此に注ぐ。阿波は日向の都城より接續せる火山灰質の原野にして、南に有明灣を抱き、諸川皆之に入る。肝屬は一の半島地にして、北に高隈山脈、南に荒西山脈ありて、其中間に一の谷を作り、其水東流して有明灣に入る。半島の南端は佐多岬にして、九州の南極を成す。熊毛、大島二郡は海島より成り、北東より南西に延き起伏約三百哩、所謂霧島火山帯の餘脈にして、川邊十島の如きは各島皆噴火山なりとす。地質は概れ火山灰より成り、其他は肝屬半島の南邊及屋久島に花崗岩の露出するあると、高隈山脈の水成岩より成ると、種子島の第三紀層より成るとあり。大島は獨り古生紀層より成り、鬼界、徳之與論沖水長部は概れ第三紀層にして、徳之島には中央に花崗岩發達す。

山岳 地勢の最も秀拔せるは日向國境なる霧島火山帯とす。海拔四二九〇尺以上の高に達する頂峰多し。夫より薩摩の國境に至り、國見岳、安良岳、八ヶ岳、中ノ岳、黒岩、眞黒山、大平山、中岳となり、鹿児島灣に盡くる一帯の山岳は、皆火山岩より成り、海拔一三二〇尺乃至一九八〇尺に達す。是等の諸山は或は離れ、或は羅列することあるも、一定の山脈を成すものにあらず。蓋し日向國境に互る一帯の地は、もと地盤の振盪により、陥没せる

郡の舊名和紙、樟腦は給長郡を最とす。交通 陸路は鹿児島より來る國道、鹿児島灣に沿ひて東に向ひ、重富、加治木、濱之市、敷根の諸驛を過ぎ漸く内地に入り、通山驛より日向國に入り、都城に達するものを主線とし、加治木より北に向ひ、横川に至り二分し、一は眞幸街道となりて日向に入り、一は大口街道となりて薩摩を経て、肥後に入る。又横川より牧園を経て、濱之市に至るを通街道とし、敷根より鹿児島灣に沿ひ南佐多岬に至るを佐多街道とす。又佐多街道の古江より分れ、鹿屋、串良、大崎を経て、志布志に通ずるを鹿屋街道とし、其他岩川道、内ノ浦道、高隈道、末吉道あり。皆縣道とす。大島には名瀬より金久内間を経て、古仁屋に通ずる古仁屋街道、名瀬より大和濱を経て字檢に通ずる字檢街道あり。鐵道は鹿児島より起り、重富、加治木、國分、嘉例川、横川、栗野、吉松の七停車場を置き、是より北走して肥後の人吉に向ふ。

名所 鹿屋神社、吾平山上陵(肝屬郡給長村、鶴鳴草葺不合尊御陵、高屋山陵(給長郡渡邊村、彦火々出見尊御陵)、半人城址、給長郡國分村、奈牙木杜氣色杜、風杜(以上給長郡)等あり。神社は霧島山の麓に官幣大社霧島神社あり。霧島山の麓には温泉多く湧出す。其著名なるは安樂、鹽淺、平落、硫黄谷、榮之尾、明礬、湯砥、雷鳴山湯等とす。

沿革 此國は上古日向國の一部にして、

地體の一部に屬し、其後地盤の微弱なる所を貫き、地下餘岩を噴出して霧島、櫻島等幾多火山岩質の山塊を造り、其際吐出せる灰砂、塊礫は遠近に堆積して、丘陵原野を造りたるものにして、是れ國內丘陵原野に富み、而も廣狹不同の地多き所以なり。鹿児島灣の東岸に屹立し、コシヤコ岳、垂水岳、七ヶ岳等を起し、二三一〇尺乃至三三〇〇尺以下の高きを成し、是より北に連り、屢斷續するも、霧島山脈の近傍に至る一の山脈あり。之を高隈山脈といふ。全く水成岩より成り、南は鹿児島灣に沈みて、更に薩摩半島に現はれ、金峯山脈を成す。又大隅海峽の北に連り、山脚直に海に迫り、急峻の傾斜を成す一帯の山脈あり。北東より南西に走り、國見岳、尾岳、正月山、栗岳等連り、是等諸山は皆花崗岩より成る。高隈山脈及此山脈(假に荒西山脈と呼ぶ)は共に噴火以前に保る舊世界の遺跡なりとす。諸島は概れ島山にして、種子島の稍平夷なるの外皆高山峻嶺を成し、屋久島の如きは、六六〇〇尺に達するものあり。

水系 河流は皆短流なり。鹿児島灣に注ぐものを上別府川、網掛川、新川とし、有明灣に入るものを肝付川、葉田川、安樂川、志布志川とす。皆一〇里に滿たず。別に國の北隅に當り、日向より來りて斜に之を横きり、薩摩國に入るものを、重富川とす。即ち川内川の上流なり。島地は山脚

國と呼び、天孫降臨起業の地なりと稱す。其後半人種屬の占領する所となり、熊襲の稱あり。國郡制定の時、阿波、肝屬、大隅、給長、四郡とし、日向の隸屬たりしが、和銅六年割きて大隅の一國とす。後養和、桑原の二郡を増置し、天長元年多岐國を廢し、熊毛、取謨の二郡を大隅に屬せしめ、八郡となる。中世郡域紛亂し、給長郡は肝屬郡内に没入し、桑原郡の西に帖佐郡の私稱起り、終に帖佐を給長に改め、又養和の一半を割きて薩摩の伊佐郡に屬せしめたり。明治の初、給長を給長に改作したれども、地は給長の舊域にあらず。明治十二年大島群島を以て一郡とし、大隅に屬せしむ。二十九年大に郡の廢合を行ふ當時國內に給長、桑原、西郷、阿波、四郡、大隅、北、大隅、肝屬、熊毛、取謨、大島の一一郡あり。乃ち桑原、西郷、阿波の三郡を給長郡に、南大隅郡を肝屬郡に、取謨郡を熊毛郡に合せ、日向國南諸郡を廢し、東郷、阿波に合せて阿波郡とし、養和郡を薩摩の伊佐郡に合せ、北大隅郡を薩摩の鹿兒島郡に入る。此に於て五郡となる。此國は太古既に開けたるにも拘らず、文化は遠く木道に移り、王化の及ばざること久しかりしが、萬壽年中平季基日向國諸縣の曠野を開き、島津津と呼び、次第に諸方を開きて薩摩に及び、後之を薩摩原に獻じて、其莊園とし、自ら其管理を掌りしが、文治二年島津忠久終に薩摩の守護を以て本州を兼治す。時に豪族肝付氏あり、

直に海に迫り、河流と稱すべきものなし。海岸 鹿児島灣に沿ふ所重富以東濱町に至る間の海岸は沙濱相連り、濱町以南は峭岸屹立し、岸下直に深海を成し、佐多岬に至る。佐多岬より東北に向へる一帯の岸は荒西山脈の山脚直に海に迫り、斜傾急峻にして殆ど人家なく、火岬に至る。海岸はより北に折れ、有明灣を成す。有明灣の西岸は一帯の沙濱にして、南風を受け、投錨に便ならず、火岬の北に内ノ浦あり、港内淺くして大船を泊すべからず。諸島は洪濤の内に屹立し、崖下直に海に逼り、若くは礁岩散布して、良港に乏し、唯屋久島の一津及口ノ永良部島の口永良部灣のみ九州、大島間の避難所とすべし。燈臺は佐多岬、屋久島の永田崎及大島の曾津高岬に設く。佐多岬邊は天氣常に險惡にして、颶風風起り海上溼濛となることあり。且つ潮流極めて速く、時に猛烈の颶潮を生じ、航行甚だ危険なることあり。氣候 概して温暖にして、極南佐多岬附近には蘇鐵の繁茂せる山あるに至る。最高温度は垂水村に於て攝氏三七度五、最低温度以下五分、平均温度一九度二。(前記)三島地は内地に比すれば遙に温暖にして、大島に於ては最低度といへども、攝氏四度に下ることなし。

産業 生業の主なるものは農なり。但し島地の民は漁業に従事するもの多し。國分垂水の煙草、屋久島の鹽、大島の砂糖、蠟燭表は古來其品の名あり。其他山

産物 生業の主なるものは農なり。但し島地の民は漁業に従事するもの多し。國分垂水の煙草、屋久島の鹽、大島の砂糖、蠟燭表は古來其品の名あり。其他山

産物 生業の主なるものは農なり。但し島地の民は漁業に従事するもの多し。國分垂水の煙草、屋久島の鹽、大島の砂糖、蠟燭表は古來其品の名あり。其他山

オウツ

く田嶋のたつれればそ有とに聞く
【古今集忠房】とある、皆此地なりといふ
オウツボ(大坪) 【山梨】甲斐國北巨摩郡
葦崎町の字町の東北とす。武田晴信の取
訪頼茂を撃ちし所なり。【佐賀】肥前
國四松浦郡の村。【白雲】

オウツボ(大津保) 【巖手】陸中國東磐井
郡の村。【白雲】

オウツミ(大積) 【新潟】越後國三島郡の
村。【白雲】

オウツモカワ(天津茂川) 播磨國揖保郡
の東に在る川。水源、伊勢村。源流を伊勢
川といふ。大市太田旭陽諸村を過ぎ、網
干町に至り海に入る。流程五里。古は砂
川といひ、懸水害あり。慶長七年池田氏大
に之を修む。

オウツヤマ(大津山) 大津山城址。【山梨】
岳城址を見よ。

オウツヤマ(大津山) 大津山城址。【山梨】
岳城址を見よ。

オウツヤマ(大津山) 大津山城址。【山梨】
岳城址を見よ。

オウツヤマ(大津山) 大津山城址。【山梨】
岳城址を見よ。

オウツヤマ(大津山) 大津山城址。【山梨】
岳城址を見よ。

オウツヤマ(大津山) 大津山城址。【山梨】
岳城址を見よ。

オウテ

オウテグチ(大出口) 【新潟】越後國中頸
城郡に在りし村。明治三十四年吉川村に
入る。

オウテ(大寺) 【千葉】上總國君津(舊望
陀)郡中郷村の大字。小櫃川の北岸とす。
永祿年中眞里谷城主武田如閑、生賀友幸
と戦ひ勝ち、其死者追福の爲、一大寺を建
てしが、天正十七年焼失す。村名はより
起るといふ。【千葉】下總香取郡香取
村の大字。佐原町より西、郡八日市場に
出づる要路に當り、一小站を成す。【福
島】岩代國耶麻郡磐梯村の大字。岩越鐵
道の車驛なり。猪苗代驛より八哩。大寺は
舊郷名にして、惠日寺(磐梯山と號す)繁
昌の時、其境内なりしといふ。村名亦是よ
り出づ。舊寺領五十石。【山形】羽前
國東村山郡の村。【白雲】

オウテ(大寺) 【千葉】上總國君津(舊望
陀)郡中郷村の大字。小櫃川の北岸とす。
永祿年中眞里谷城主武田如閑、生賀友幸
と戦ひ勝ち、其死者追福の爲、一大寺を建
てしが、天正十七年焼失す。村名はより
起るといふ。【千葉】下總香取郡香取
村の大字。佐原町より西、郡八日市場に
出づる要路に當り、一小站を成す。【福
島】岩代國耶麻郡磐梯村の大字。岩越鐵
道の車驛なり。猪苗代驛より八哩。大寺は
舊郷名にして、惠日寺(磐梯山と號す)繁
昌の時、其境内なりしといふ。村名亦是よ
り出づ。舊寺領五十石。【山形】羽前
國東村山郡の村。【白雲】

オウテ(大寺) 【千葉】上總國君津(舊望
陀)郡中郷村の大字。小櫃川の北岸とす。
永祿年中眞里谷城主武田如閑、生賀友幸
と戦ひ勝ち、其死者追福の爲、一大寺を建
てしが、天正十七年焼失す。村名はより
起るといふ。【千葉】下總香取郡香取
村の大字。佐原町より西、郡八日市場に
出づる要路に當り、一小站を成す。【福
島】岩代國耶麻郡磐梯村の大字。岩越鐵
道の車驛なり。猪苗代驛より八哩。大寺は
舊郷名にして、惠日寺(磐梯山と號す)繁
昌の時、其境内なりしといふ。村名亦是よ
り出づ。舊寺領五十石。【山形】羽前
國東村山郡の村。【白雲】

オウテ(大寺) 【千葉】上總國君津(舊望
陀)郡中郷村の大字。小櫃川の北岸とす。
永祿年中眞里谷城主武田如閑、生賀友幸
と戦ひ勝ち、其死者追福の爲、一大寺を建
てしが、天正十七年焼失す。村名はより
起るといふ。【千葉】下總香取郡香取
村の大字。佐原町より西、郡八日市場に
出づる要路に當り、一小站を成す。【福
島】岩代國耶麻郡磐梯村の大字。岩越鐵
道の車驛なり。猪苗代驛より八哩。大寺は
舊郷名にして、惠日寺(磐梯山と號す)繁
昌の時、其境内なりしといふ。村名亦是よ
り出づ。舊寺領五十石。【山形】羽前
國東村山郡の村。【白雲】

オウテ(大寺) 【千葉】上總國君津(舊望
陀)郡中郷村の大字。小櫃川の北岸とす。
永祿年中眞里谷城主武田如閑、生賀友幸
と戦ひ勝ち、其死者追福の爲、一大寺を建
てしが、天正十七年焼失す。村名はより
起るといふ。【千葉】下總香取郡香取
村の大字。佐原町より西、郡八日市場に
出づる要路に當り、一小站を成す。【福
島】岩代國耶麻郡磐梯村の大字。岩越鐵
道の車驛なり。猪苗代驛より八哩。大寺は
舊郷名にして、惠日寺(磐梯山と號す)繁
昌の時、其境内なりしといふ。村名亦是よ
り出づ。舊寺領五十石。【山形】羽前
國東村山郡の村。【白雲】

オウテ(大寺) 【千葉】上總國君津(舊望
陀)郡中郷村の大字。小櫃川の北岸とす。
永祿年中眞里谷城主武田如閑、生賀友幸
と戦ひ勝ち、其死者追福の爲、一大寺を建
てしが、天正十七年焼失す。村名はより
起るといふ。【千葉】下總香取郡香取
村の大字。佐原町より西、郡八日市場に
出づる要路に當り、一小站を成す。【福
島】岩代國耶麻郡磐梯村の大字。岩越鐵
道の車驛なり。猪苗代驛より八哩。大寺は
舊郷名にして、惠日寺(磐梯山と號す)繁
昌の時、其境内なりしといふ。村名亦是よ
り出づ。舊寺領五十石。【山形】羽前
國東村山郡の村。【白雲】

オウテ(大寺) 【千葉】上總國君津(舊望
陀)郡中郷村の大字。小櫃川の北岸とす。
永祿年中眞里谷城主武田如閑、生賀友幸
と戦ひ勝ち、其死者追福の爲、一大寺を建
てしが、天正十七年焼失す。村名はより
起るといふ。【千葉】下總香取郡香取
村の大字。佐原町より西、郡八日市場に
出づる要路に當り、一小站を成す。【福
島】岩代國耶麻郡磐梯村の大字。岩越鐵
道の車驛なり。猪苗代驛より八哩。大寺は
舊郷名にして、惠日寺(磐梯山と號す)繁
昌の時、其境内なりしといふ。村名亦是よ
り出づ。舊寺領五十石。【山形】羽前
國東村山郡の村。【白雲】

オウテ(大寺) 【千葉】上總國君津(舊望
陀)郡中郷村の大字。小櫃川の北岸とす。
永祿年中眞里谷城主武田如閑、生賀友幸
と戦ひ勝ち、其死者追福の爲、一大寺を建
てしが、天正十七年焼失す。村名はより
起るといふ。【千葉】下總香取郡香取
村の大字。佐原町より西、郡八日市場に
出づる要路に當り、一小站を成す。【福
島】岩代國耶麻郡磐梯村の大字。岩越鐵
道の車驛なり。猪苗代驛より八哩。大寺は
舊郷名にして、惠日寺(磐梯山と號す)繁
昌の時、其境内なりしといふ。村名亦是よ
り出づ。舊寺領五十石。【山形】羽前
國東村山郡の村。【白雲】

オウテ(大寺) 【千葉】上總國君津(舊望
陀)郡中郷村の大字。小櫃川の北岸とす。
永祿年中眞里谷城主武田如閑、生賀友幸
と戦ひ勝ち、其死者追福の爲、一大寺を建
てしが、天正十七年焼失す。村名はより
起るといふ。【千葉】下總香取郡香取
村の大字。佐原町より西、郡八日市場に
出づる要路に當り、一小站を成す。【福
島】岩代國耶麻郡磐梯村の大字。岩越鐵
道の車驛なり。猪苗代驛より八哩。大寺は
舊郷名にして、惠日寺(磐梯山と號す)繁
昌の時、其境内なりしといふ。村名亦是よ
り出づ。舊寺領五十石。【山形】羽前
國東村山郡の村。【白雲】

オウト

あり、仙人の住みし所なりとも、千人を納
るゝといふ。深約二〇間。天正十四年眞
田氏の兵此窟に潜みて、大に北條氏の兵
を破れりと傳ふ。【千葉】下總國香取
郡の舊郷名。今の東大戸村。香取村邊と
す。大戸莊の事東鑑に見ゆ。縣社、大戸神
社あり。天鳥船命を祀り、香取第一の末
社とす。千葉系圖に、國分風通の子常義大
戸、矢作の領主と稱す。【茨城】常陸國
東茨城郡長岡村の大字。中世大塚氏の族
此所に居り、大戸氏となる。此地に色々、
天神といふ古社あり。昔葬送して歸るも
の此所にて服を脱ぎ替へたりと傳ふ。
【福島】岩代國北會津郡の村。【白雲】

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト

に跨り、西四町にして鐵道九州線川崎驛
あり。明治四十一年、礦區一三一、四六〇
五坪、使用礦夫九三九人、女工三五七人
産出額一七、四三〇〇佛頓、價格五六萬九
千圓(本邦礦業一斑)。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト(大塔) 【奈良】大和國吉野郡の
村。もと十二村莊と稱し、十津川郷に屬
せり。峻嶺を以て吉野の宗槍村と腹背相
接し、十津川の流に沿ふ。元弘年中大塔
宮護良親王の潜居し給へる地なるを以
て近年村名とす。

オウト

三〇八

オウト

小戸湖等の奇岩あり、風浪之に激し、景
色極めて壯快なり。鯉ヶ澤町を距る西四
里餘。【白雲】

オウト(大高) 越中國上野郡
に在る山。立山々葉の一峯にして、其北麓
は立山温泉の谷なり。熱泉所々に湧出す。
其西に連る小高山は、安政五年破毀飛散
して谷を填塞し、其水一時に決潰して、大
に水害を興へたりといふ。

在り、此地は港灣としての設備なく、千
噸以上の船舶は沿岸十數町を隔てざれ
ば投錨する能はざるが故に、將來商業は
舊コルサコフの方發達すべし。舊コル
サコフ部は其前名をクシヨコマンとい
へり。明治四十一年大泊と改稱し、舊大泊
と合併す。もとの大泊町の西に連り、戸數
約五百。駐屯軍司令部、陸軍倉庫、郵便局
及觀測所等の在る所なり。市中を分て、初
音町、梅ヶ枝町、通町、二條通、二條通
宮下町、谷町、黄金井町、山下町とす。通町
は大泊との間に架せる紀念橋(明治三十
九年工兵第二大隊の架設の北詰より、西
に赴く大道路にして、初音町は之と直角
を成し、歌舞伎場、飲食店等の多き所、梅
ヶ枝町は之に隣れる遊樂地なり。大通は
大泊より通町を経て、司令部橋に通ず
る主なる街路にして、大泊支廳、本願寺
郵便局、觀測所、植植銀行、郵船會社出張
所等皆此所に在り。灣内水深くして、優
に二三千噸の汽船數隻を碇繋するを得
べく、明治四十二年四月より開港場とな
る。即ち樺太の商埠なり。但し十二月よ
り風浪烈しく、一月以降海面全く氷結し、
厚一尺五寸より四、五尺に達し、馬糞其
上を通行す。水は一月より四月まで存す
れども、三月には汽船の出入妨なし。船舶
の出入最も頻繁なるは初夏漁業の盛な
る時とす。定期船は冬期の外小樽より毎
月一回乃至三回寄港す。此地より豊原舊
ウラサミロノカまで九里二四町名寄ま

オウト(大高) 越中國上野郡
に在る山。立山々葉の一峯にして、其北麓
は立山温泉の谷なり。熱泉所々に湧出す。
其西に連る小高山は、安政五年破毀飛散
して谷を填塞し、其水一時に決潰して、大
に水害を興へたりといふ。

オウト

で七九里八町遠瀆まで一三三二九町小
能登呂まで三九三三二町。【三重】紀
伊國南牟婁郡泊村の大字。海村にして木
本町の北に接す。清水寺と號する觀音堂
あり。正徳四年前門の再興、本堂は天保
十四年再建の假堂なり。もと京都音羽の
清水寺に擬したるものといふ。大泊灣は
南に開き、偏北風の避泊に適す。灣口の兩
角を猪ノ鼻イシマ鼻といふ。イシマ鼻よ
り熊野川に至る間は、七里を濱といふ。【鹿
兒島】天隅國肝屬郡佐多岬の東北に在る
泊舟地、大隅海峽に面す。

オウト(大高) 越中國上野郡
に在る山。立山々葉の一峯にして、其北麓
は立山温泉の谷なり。熱泉所々に湧出す。
其西に連る小高山は、安政五年破毀飛散
して谷を填塞し、其水一時に決潰して、大
に水害を興へたりといふ。

オウト

り、堺を距ること牛里和泉國の一ノ宮に
して、官幣大社に列す。日本武尊を祀る。
近年まで神風寺と稱する供僧坊ありし
が今廢す。社殿は慶長十九年大阪の役
兵燹に罹り、寛文年中堺奉行石川利政之
を修理し、石造鳥居を寄進せり。其神域を
千草森と呼ぶ。平治元年平清盛父子熊野
に詣て、途に京の兵亂を聞き、歸りて此社
に至り、重盛名馬を奉る。又清盛歌を詠進
す。「かひ子そよかへりはてなは飛かけ
り、はぐみかたて大鳥の神、合三三三」。

オウト(大高) 越中國上野郡
に在る山。立山々葉の一峯にして、其北麓
は立山温泉の谷なり。熱泉所々に湧出す。
其西に連る小高山は、安政五年破毀飛散
して谷を填塞し、其水一時に決潰して、大
に水害を興へたりといふ。

オウト

三〇九

淨鉢淨鏡澤と稱する三載あり。三種の神器に擬せしものと稱す。往時は中津侯奥平氏より社領百石を付せり。合三三〇。

オウハタ(大畑) 【青森】陸奥國下北郡の村津輕海峽の東門に向ひ、田名部町の西北四里恐山の東北麓なり。附近は村木に富み、此地より盛に輸出す。されど近年繁盛ならず。日用品も皆田名部より辨す。郵便局あり。大畑川恐山より發し、此地に至り、海に入る川口狭く、水淺けれど、河内は水稍深く、低潮にても常に三、四尺の水深あるを以て、小形の和船は河口外に假泊し、高潮時を俟ち或は荷物を卸して、河内に入るを常とす。合三三三。

オウバタケ(大島) 【山口】周防國玖珂郡鳴門村の大字。大島瀬戸の西岸なり。郵便局あり。鐵道山陽線の大島停車場は隣村神代村に在り。

オウバタケノセト(大島瀬戸) 周防國玖珂郡毛二郡の陸岸と大島との間なる海峡。長八裡。其最も狭き所を玖珂郡の石神崎と大島の小松崎との間とす。其間半裡に滿たず。笠佐島其中央に横はり、暗礁多く、海底險惡なり。漲潮は東に向ひ、落潮は西に向ひ、其潮勢甚だ急なるを以て、小舟は數分間の漲潮の時のみ通過す。所謂大島鳴門にして、阿波鳴門に亞ぐ海門なり。今其西岸の地を鳴門村といふは此に因る。これやこの名に負ふなるのうづしほに、玉藻列るとふあまおとめとも(魚雲集) 大島の瀬戸は、高潮の時に、

けふは鳴門に泊りぬるかな(夫木集)。

オウハタ(大畑) 【大分】豊前國下毛郡大幡村大字如來に在る城址。元暦の頃平家征討の爲、源義經の築けるものといふ。後緒方氏の一族加來惟興城主となり、二十二代統直に至り黒田氏に攻められて滅ぶ。東に黒水、西に三角池ありて要害よき地なり。

オウハタヤマ(大幡山) 甲斐國南都留郡に在る山。寶村に屬す。山中銅坑あり。

オウハチガ(大八賀) 【岐阜】飛騨國大野郡の村。舊郷名なり。高山市街の東北に當る。其溪流を大八賀川といふ。西流して高山町に至り宮川に入る。合三三六。

オウハナワ(大花羽) 【茨城】下總國結城郡の村。合三三六。

オウハマ(大濱) 【長崎】肥前國南松浦郡の村。合三三六。

オウハナ(大原) 【愛知】三河國碧海郡の村。衣ヶ浦の東岸に在りて、尾張の牛田町武豊町と相對す。運漕・漁業の利ありて、商業行はる。警察分署郵便局あり。大濱街道は刈谷町より新川を経て、此地に達す。町の西南端に、權現崎あり。岬邊暗礁多きを以て浮標の設あり。熊野權現社は天喜二年の創立。明治五年縣社に列す。本郡南部の大社なり。近世社領六十石。稱名寺は時宗の大刹にして、徳川氏の祖石親の遺蹟を傳へ、徳川幕府に縁故深かりしを以て、殿堂莊麗、什寶亦甚だ多し。境内眺望よし。近世寺領三十石。大員(鳥屋集) 石見國瀧津郡の村。合三三六。

オウハ(廣島) 備後國御調郡の村。合三三六。

オウハ(熊本) 肥後國玉名郡の町。菊池川の河口に在り。寛永頃までは一漁村なりしが、正徳頃より諸國の廻船出入し次第に繁昌に赴けり。合三三六。

オウハ(鹿兒島) 大隅國肝屬郡小根占村に屬する地名。南海諸島を経て臺灣に通ずる海底電信線の沈める所なり。

オウハ(沖繩) 琉球國八重山郡八山重村の大字。土人はウフハマと呼ぶ。舊三間切の一にして石垣島の南部を占め、波照間島之に屬す。大川登野城・眞榮里平得・大濱・上原西表崎山・波照間の九村ありしが、明治四十一年八重山村に合す。今八重山郡役所あり。

オウハヤシ(大林) 【廣島】安藝國安佐郡の村。可部町より根野峠を越えて高田郡吉田町に通ずる往還に當る。合三三三。

オウハラ(大原) 【京都】山城國愛宕郡の村。比叡山の西麓八瀬川の上流に沿へる一村。山間に僻在すれども、京都より近江及北河内に出る要路なるを以て、古來歌にも詠みて其名高く、勝地舊蹟多し。居民農樵を業とす。又此地及八瀬の婦女は風體異様にして、紺地の廣前垂を纏ひ同じ色の脚絆を穿ち、之を前面にて合せ、手甲を着け、通常髪は束れて後垂れ、新しき白絞の手拭を被り、物を運ぶに之を頭に載り、俗に大原女又は八瀬女と稱し、京都の一名物なり。惟、舊跡は宇上野の東方に在り。古來一本杉と稱し、親王閑居の地と言傳ふ。三千院は、一に

圓融院といふ。貞觀年中承雲和尚開基。後鳥羽天皇の時皇子尊法親王門主となりしより、爾來皇族世襲の門跡となり、中世梶井宮或は梨本宮と稱せり。殿宇は慶長年中紫宸殿の舊屋を以て造りたるものと云ふ。勝林院は三千院の北に在り。長和年間寂源法師開基。本尊の阿彌陀佛は長七尺許の坐像にして、佛工康成作。俗に證據の阿彌陀と稱す。法然上人天台の宗徒と宗論せしとき、此像光を放ちて上人を贊けたりといふ。寶光房は勝林寺門前に在り。境内に後鳥羽順德二帝の陵あり。共に遺詔により、隱岐・佐渡の行宮より御骨を茲に遷せるものといふ。往生極樂院は永觀三年花山天皇の詔により、惠心僧侶の開基にして、構造は當行念佛堂の古式により、奇巧を極む。内様には天井なく椽を延ばして之を覆ふ。天井は彩色を以て二十五菩薩の像を描き、佛背の板壁にも彩色を以て兩界曼陀羅を描く。共に惠心の筆なり。成壇は悉く螺鈿を以て飾る。本尊丈六の彌陀及左右の觀音勢至は惠心の作。藤を屈して坐し、稀なる式と稱せらる。來迎院は一に大原寺といふ。承徳年間眞忍上人開基。融通念佛堂の大本山となり。もと塔頭六坊ありしが、其後次第に頽廢し、今の本堂も眞の假屋なり。行基作の藥師釋迦彌陀の三尊を安置す。寂光院は文治年中建禮門院高倉安徳二帝の冥福を修め給ひし所なり。後白河安徳二帝の御影、建禮門院の木像及阿波内侍

の遺子の像あり。此遺子像は當時平家の一門より贈りたる書簡を以て造れるものにて、特に著名なり。合三三三。

オウハ(京都) 丹波國天田郡川合村の大字。村の臺地なり。大原大明神あり。之に詣づるを俗に大原詣といひ、先づ水門社に參り、齋齎して本社に向へば新願成就すと云傳ふ。郵便局あり。

オウハ(新潟) 越後國西蒲原郡の村。合三三六。

オウハ(千葉) 上總國夷隅郡の町。もと中魚落郷村の字にして、後、中魚沼村と稱せしが、房總鐵道の停車場(今最終點)を置きしより、股賑となり。明治三十二年町制を施す。勝浦及安房の小湊へ至る要地なり。千葉停車場より三五哩六二鎮警察分署郵便局等あり。町の東端八幡崎の上に城址あり。三方險崖絶壁。北方漁村に連る。里見氏の將鎗田(一に鎌田)美濃守の居りし所といふ。此地亦雜色館文塚臺白旗臺等上總介廣常の古蹟を傳ふ。廣常の墓といふもの金光院内に在り。町の東三里の海底二〇尋の所に、縦四里横三里に互る暗礁あり。石決明多く棲息す。因て、鮫磯の名あり。明治十八年の發見にして、石決明の産額甚だ多し。合三三三。

オウハ(奥州) 常陸國西茨城郡の村。合三三六。

オウハ(奈良) 大和國高市郡藤原(今鴨公村高殿)の別稱藤原鎌足の木居なり。今、大織冠宅址と稱する所あり。昔里に大雪ふれり大原の古にし里にふるまはくはのち(萬葉集)。

オウハ(山梨) 甲斐國北都留郡の村。合三三六。

オウハ(滋賀) 近江國甲賀郡の村。舊庄

を通過す。瀧川、益の産地といふ。合三三六。

オウハ(滋賀) 近江國坂田郡の村。合三三六。

オウハ(岐阜) 飛騨國大野郡清見村の大字。馬瀬川の水源にして、天正以來閘門を置きたり。美濃國郡上郡八幡町に出づる山路八里とす。

オウハ(宮城) 陸前國牡鹿郡の村。合三三六。

オウハ(福島) 岩代國南會津郡大川村の大字。若松より二里六町。會津風土記云、岩穴二あり。一は村西二〇町餘に在り、横に深く、金坑の如し、因て横穴と名く、日徑九尺餘下ること二十六丈にして十疊數計の平あり。中に六尺四方程の池あり。深測るべからず。一は横穴の西七町許の岩間に在り。日徑七尺餘といふ。旱歲に土人雨を祈る。此地何時の頃にか大原土佐といへるもの住みしといふ。

オウハ(嚴手) 陸中國東磐井郡の町。郡の東偏なる一小站にして、一嶺を越ゆれば、陸前國氣仙郡なり。戰國の頃は葛西の一族大原播磨の居りし所といふ。明治三十六年町制を施す。郵便局あり。合三三六。

オウハ(岡山) 美作國英田郡の村。因幡街道に當り、其驛を古町といふ。近年まで吉野郡役所を置けり。大原は近世小原に訛る。南北朝の頃小原孫次郎なるものあり。其城址は古町及下町に在り。合三三六。

オウハ(福岡) 筑後國に在る古戰場。正平十四年菊池・少貳二氏の戦ひし所なり。其地今三井郡三國村大字大保なり。雖も、戰場は山隈原に連れる一帯の平地。寶滿川・太刀洗川間

の遺子の像あり。此遺子像は當時平家の一門より贈りたる書簡を以て造れるものにて、特に著名なり。合三三三。

オウハ(京都) 丹波國天田郡川合村の大字。村の臺地なり。大原大明神あり。之に詣づるを俗に大原詣といひ、先づ水門社に參り、齋齎して本社に向へば新願成就すと云傳ふ。郵便局あり。

オウハ(新潟) 越後國西蒲原郡の村。合三三六。

オウハ(千葉) 上總國夷隅郡の町。もと中魚落郷村の字にして、後、中魚沼村と稱せしが、房總鐵道の停車場(今最終點)を置きしより、股賑となり。明治三十二年町制を施す。勝浦及安房の小湊へ至る要地なり。千葉停車場より三五哩六二鎮警察分署郵便局等あり。町の東端八幡崎の上に城址あり。三方險崖絶壁。北方漁村に連る。里見氏の將鎗田(一に鎌田)美濃守の居りし所といふ。此地亦雜色館文塚臺白旗臺等上總介廣常の古蹟を傳ふ。廣常の墓といふもの金光院内に在り。町の東三里の海底二〇尋の所に、縦四里横三里に互る暗礁あり。石決明多く棲息す。因て、鮫磯の名あり。明治十八年の發見にして、石決明の産額甚だ多し。合三三三。

を通過す。瀧川、益の産地といふ。合三三六。

オウハ(滋賀) 近江國坂田郡の村。合三三六。

オウハ(岐阜) 飛騨國大野郡清見村の大字。馬瀬川の水源にして、天正以來閘門を置きたり。美濃國郡上郡八幡町に出づる山路八里とす。

オウハ(宮城) 陸前國牡鹿郡の村。合三三六。

オウハ(福島) 岩代國南會津郡大川村の大字。若松より二里六町。會津風土記云、岩穴二あり。一は村西二〇町餘に在り、横に深く、金坑の如し、因て横穴と名く、日徑九尺餘下ること二十六丈にして十疊數計の平あり。中に六尺四方程の池あり。深測るべからず。一は横穴の西七町許の岩間に在り。日徑七尺餘といふ。旱歲に土人雨を祈る。此地何時の頃にか大原土佐といへるもの住みしといふ。

オウハ(嚴手) 陸中國東磐井郡の町。郡の東偏なる一小站にして、一嶺を越ゆれば、陸前國氣仙郡なり。戰國の頃は葛西の一族大原播磨の居りし所といふ。明治三十六年町制を施す。郵便局あり。合三三六。

オウハ(岡山) 美作國英田郡の村。因幡街道に當り、其驛を古町といふ。近年まで吉野郡役所を置けり。大原は近世小原に訛る。南北朝の頃小原孫次郎なるものあり。其城址は古町及下町に在り。合三三六。

オウハ(福岡) 筑後國に在る古戰場。正平十四年菊池・少貳二氏の戦ひし所なり。其地今三井郡三國村大字大保なり。雖も、戰場は山隈原に連れる一帯の平地。寶滿川・太刀洗川間

二・三里に互る邊なるが如し。

オウハ(熊本) 肥後國玉名郡の村。合三三六。

オウハ(鹿兒島) 大隅國肝屬郡小根占村に屬する地名。南海諸島を経て臺灣に通ずる海底電信線の沈める所なり。

オウハ(沖繩) 琉球國八重山郡八山重村の大字。土人はウフハマと呼ぶ。舊三間切の一にして石垣島の南部を占め、波照間島之に屬す。大川登野城・眞榮里平得・大濱・上原西表崎山・波照間の九村ありしが、明治四十一年八重山村に合す。今八重山郡役所あり。

オウハヤシ(大林) 【廣島】安藝國安佐郡の村。可部町より根野峠を越えて高田郡吉田町に通ずる往還に當る。合三三三。

オウハラ(大原) 【京都】山城國愛宕郡の村。比叡山の西麓八瀬川の上流に沿へる一村。山間に僻在すれども、京都より近江及北河内に出る要路なるを以て、古來歌にも詠みて其名高く、勝地舊蹟多し。居民農樵を業とす。又此地及八瀬の婦女は風體異様にして、紺地の廣前垂を纏ひ同じ色の脚絆を穿ち、之を前面にて合せ、手甲を着け、通常髪は束れて後垂れ、新しき白絞の手拭を被り、物を運ぶに之を頭に載り、俗に大原女又は八瀬女と稱し、京都の一名物なり。惟、舊跡は宇上野の東方に在り。古來一本杉と稱し、親王閑居の地と言傳ふ。三千院は、一に

圓融院といふ。貞觀年中承雲和尚開基。後鳥羽天皇の時皇子尊法親王門主となりしより、爾來皇族世襲の門跡となり、中世梶井宮或は梨本宮と稱せり。殿宇は慶長年中紫宸殿の舊屋を以て造りたるものと云ふ。勝林院は三千院の北に在り。長和年間寂源法師開基。本尊の阿彌陀佛は長七尺許の坐像にして、佛工康成作。俗に證據の阿彌陀と稱す。法然上人天台の宗徒と宗論せしとき、此像光を放ちて上人を贊けたりといふ。寶光房は勝林寺門前に在り。境内に後鳥羽順德二帝の陵あり。共に遺詔により、隱岐・佐渡の行宮より御骨を茲に遷せるものといふ。往生極樂院は永觀三年花山天皇の詔により、惠心僧侶の開基にして、構造は當行念佛堂の古式により、奇巧を極む。内様には天井なく椽を延ばして之を覆ふ。天井は彩色を以て二十五菩薩の像を描き、佛背の板壁にも彩色を以て兩界曼陀羅を描く。共に惠心の筆なり。成壇は悉く螺鈿を以て飾る。本尊丈六の彌陀及左右の觀音勢至は惠心の作。藤を屈して坐し、稀なる式と稱せらる。來迎院は一に大原寺といふ。承徳年間眞忍上人開基。融通念佛堂の大本山となり。もと塔頭六坊ありしが、其後次第に頽廢し、今の本堂も眞の假屋なり。行基作の藥師釋迦彌陀の三尊を安置す。寂光院は文治年中建禮門院高倉安徳二帝の冥福を修め給ひし所なり。後白河安徳二帝の御影、建禮門院の木像及阿波内侍

田郡豐原村大原に在る鎮山・鎮嶺を出す。

オウハラ(大原野) 【京都】山城國乙訓郡の村。古の石作郷にして、西に大原山(一名小磯山)を貫ひ、幾多の小村山野の間に散在す。大原野神社は、小磯山の麓に在り。桓武天皇遷都の時、春日神社の遠隔なるを以て、此所に勧請すと、藤原冬嗣上奏して、平安城守護の爲め勧請すと、言傳ふ。祭神は春日社と同じく武甕槌神。經津主神等の四座にして、中世は二十二社の第十に位し、明治四年官幣社に列す。勝持寺は大原野神社の西に在り。延暦年中僧澄澄創建。大原野寺といひしが、文德天皇佛陀上人をして中興せしめ、大原野神社の供僧寺となし、勝持寺と改む。足利尊氏大に歸依し、寺門盛大なりしが、應仁の兵燹に罹り、天正年中僅に佛殿を復し、本尊藥師を置く。但し仁王門は仁壽年中の舊構にして、仁王像は運慶流慶の作なりといふ。此寺古は櫻樹多く、世人花ノ寺と呼べり。又木下長嘯子老後閑居の址あり。又古歌に著明なる瀧ノ清水清和井の水も此寺の傍に在り。又寺の西嶺絶頂に大原山陵あり。淳和天皇の御陵なり。善峯寺は大字小磯に在り。寛弘二年僧源算創建。中世慈鎮和尚來住し、尋で諸親王の入室あり。西山御所と稱し、寺門隆盛。五十有餘の僧房内に在りしが、中世以降漸く衰頹せり。巡禮第二十番の札所なり。十輪寺は善峯寺の東南五町に在り。染殿

オウハ

皇后の勳建といへども詳ならず。観音堂の構造は奇古にして世に比なしといふ。外畑及出灰の二大字は大原山の西陰に在り。別境をなし、丹波國南桑田郡櫻田村と同一山中に在り。西岩倉(丹波國)をも見よ。白雲寺。

オウハラハマ(大原濱) 陸前國牡鹿郡に在る。大原村に屬し、牧ノ岬の北陰なる一澳なり。瀨後に入石山と呼ぶ高山あり。高一〇五〇尺。雜草叢生し、樹木なし。

オウハラヤマ(大原山) 山城國乙訓郡に在る。山一に小磯山と稱す。大原野村の西に在り。山上勝持寺及大原山陸淳和天皇御陵あり。木下長嘯子閑居して、此所に卒す。古來歌に詠みて名高し。大原野村をも見よ。

オウハリ(大張) 【宮城】磐城國伊具郡の村。白七七。

オウハリノ(大張野) 【秋田】羽後國河邊郡和田村の大字。明治十三年秋成社の金一萬五千圓を投じ、開墾に着手せし高原なるが、終に成功せざりき。

オウハル(大治) 【愛知】尾張國海東郡の村。白四七。

オウヒサ(大久) 【福島】磐城國雙葉郡の村。白三〇。

オウビシマ(大飛島) 備中國小田郡に屬する島。北木島の西南一里に在り。周圍一里二三町。白三〇。

オウヒト(大仁) 【静岡】伊豆國田方郡田中村の大字。下田街道に當り。豆田街道の

オウヒ

最終停車場あり。三島驛より一〇哩五一鎮修善寺温泉場へ。里餘。伊東へ五里。警察分署郵便局等あり。村の南端に狩野川橋あり。明治十三年の架設に係る。其傍に水晶山あり。嶽小なる石英を産す。

オウヒナタ(大日向) 【長野】信濃國南佐久郡の村。千曲川の一支溪を占め、上州に至る山路を通じ、其國界を十石峠といふ。磁鐵礦、寒水石、石膏等を産す。白三〇。

オウヒラ(大平) 【千葉】上總國山武郡の村。白三〇。【愛知】三河國額田郡男川村の大字。岡崎市の東南一里とす。永祿天正の頃は、本多作左衛門の居邑にして、近世大岡越前守忠相の領となり。封一萬石。傳へて明治維新に至る。【静岡】駿河國伊豆郡南山崎村の大字。字和街道の一驛なり。松山より此所に至る間は道路平坦なれども、其以南は道幅狭く、犬寄峠を越ゆれば山深く、谷幽なり。

オウヒラガワ(大平川) 三河國額田郡に在る。川一に男川と呼び、古名を大屋川又菅生川といへり。水源、本宮山の西北谷。西流して岡崎と明大寺との間を流れ、矢作川に入る。流程約九里。【越中】越後の境に在る。境川上流の稱。

オウヒラコウサン(太平礦山) 備中國後月郡共和村に在る。礦山。無煙石炭を出す。オウヒラジ 太平寺。【滋賀】近江國坂田

オウヒ

郡伊吹村の大字。伊吹山の西麓とす。伊吹山四院の一なる。太平寺あるより地名となる。佐々木氏信文永二年近江の守護となり。此所に城を築き、近江北部六郡を子孫に傳ふ。南北朝の頃、佐々木道譽頼の武者あり。其子高秀足利幕府の侍所司に任ぜらる。高秀の子高隆出雲隠岐二國を加賜せられ、之を弟尼子高久に傳ふ。文明年中高秀に至り、國務を其將上坂泰貞に譲り、上平城を築きて、移り城に遷す。

オウヒラヤマ(大平山) 相模國鎌倉郡に在る。山。鎌倉の東北麓にして、二階堂谷、颯川の谷及今泉谷の分水界を成す。標高五二八〇尺。【美作】備前國久米郡備前赤磐郡に跨る山。【備前】備前國御津郡備前赤上房郡に跨る。山脈西走して大藏山引立山となり、上房郡の中央に互る。【周防】周防國佐波郡神門村に在る。山。一に幸禮山といふ。高二八二一尺。

オウヒロ(大蔵) 【兵庫】播磨國佐用郡の村。白七五。

オウヒロコウサン(大弘鑛山) 美作國英田郡江見村に在る。鑛山。銅を出す。採鑛高二五〇七六貫。製鍊高五七五九斤。而豐三。

オウヒロタ(大廣田) 【富山】越中國上新川郡の村。白八七。

オウブ(大浦) 【茨城】常陸國東茨城郡飯富村大字飯富の舊稱。

オウブ(大府) 【愛知】尾張國知多郡の村。鐵道東海道線、武豐支線此地にて分岐する。其以て一驛となる。名古屋驛へ一哩。

オウフ

郵便局あり。白六三。オウフカタケ(大深懸) 羽後國仙北郡陸中國岩手郡の界に在る。消火山。駒ヶ岳火山。山麓と巖手火山。山麓との交叉點に當る。高四六二〇尺。東は連峯巖手火山に至り、西は玉川の溪流を隔て、森吉火山に對峙す。地險にして、探検未だ普からず。

オウフカナイ(大深内) 【青森】陸奥國上北郡の村。白四七。

オウフク(大福) 【岡山】備中國都窪郡に在りし村。明治三十五年山田村と合して福田村となる。

オウフクロ(大袋) 【埼玉】武藏國南埼玉郡の村。白三〇。【富山】越中國射水郡の舊庄名。小杉町の北。作道片口。堀岡諸村を總稱せる名なり。

オウブケ(大邊) 【新潟】越後國中頸城郡の村。白三〇。

オウブケ(大更) 【巖手】陸中國巖手郡の村。白三〇。

オウフサ(大總) 【千葉】上總國山武郡の村。白三〇。

オウフセ(大布施) 【富山】越中國下新川郡の村。白三九。

オウブセヤマ(大布施山) 山城國愛宕郡に在る。大悲山の一名。

オウフチ(大淵) 【新潟】越後國中蒲原郡に在りし村。明治三十四年大江山村に入る。【埼玉】武藏國秩父郡國神村の大字。荒川と大平川の合流する所とす。國神郵便局あり。大宮町の北三里。【静岡】

十二三。直径一尺乃至三尺。持水を湛へて、恰も瓶の如し。又石ノ列と稱し、幅一間餘の石に文字を彫付たるものあり。神作なりと言傳ふ。大字中興山には、追割とて、兩方より石突出て、小兒をも通じ難き所あり。又、視て深谷に臨める大岩あり。巨巖として、人頭に似たる奇岩あり。天河寺址は黒瀬山の南一里一八町。龍王山の中腹に在り。石植神社。森山の絶頂に在りし時の別當寺なり。もとは大寺にして、字本郷に東大門あり。字坂中に西大門ありしといふ。寺址の四、五町上は龍王山とて、乞雨所なり。白四三。

オウボケコボケ(大歩危小歩危) 阿波國三好郡山城谷村川口より三名村上名に至る間の峻路。大冒険。小冒険にも作る。古來有名の難所なり。吉野川此に至り、兩岸壁立し、其間極めて狭く、河流は非底を流る。の觀あり。川床は甚だ深く、大久保より川口に至る五里の間、二二〇尺の直立差あり。勾配甚だ急なるを以て、激流咆哮して、到る所に瀑布を成す。山徑は險崖に沿ふて通ず。白川口の南を小歩危といひ、藤川の北を大歩危といふ。近年新道を其下に開きたるを以て、今は唯舊名を存するのみ。

オウボトウケ(大朴峠) 丹波國船井郡檜山驛の西に在る。峠。但馬街道の險路なり。

オウボラヤマ(大洞山) 近江國犬上郡彦根町の東なる丘陵。琵琶湖の眺望最も佳なり。井伊氏の建てたる辨天堂あり。又山

オウフ

【遠江】遠江國小笠原郡の村。白五五。【静岡】駿河國富士郡の村。白三九。【福岡】筑後國八女郡の村。白三六。オウフヂ(大藤) 【愛知】尾張國海西郡に在りし村。明治三十九年鍋田村に入る。【静岡】遠江國磐田郡の村。白三六。【山梨】甲斐國東山梨郡の村。白三〇。オウブナ(大船) 【神奈川】相模國鎌倉郡小坂村の大字。古書に粟船又は青船に作る。鐵道東海道線の停車場を置き、尋で横須賀線の分岐點となりしより、其名大に知らる。停車場は民家の北約一〇町に在り。新橋驛より二九哩四四鎮。横濱驛より一一哩四四鎮。村の東に六國見山あり。高四六二尺の小丘なれど、眺望甚だ廣きを以て、八州見とも呼ぶ。其南麓は鎌倉圓覺寺の境内とす。常樂寺は粟船山に在り。東麓に山内粟船御堂とあるものにして、北條泰時墓あり。

オウフナコシ(大船越) 【長崎】對馬國下縣郡に在りし村。明治四十一年船越村に入る。オウフナコシノセト(大船越瀬戸) 對馬國上下二島間の水道と地峽にして、東西往來の船。此所にて、荷物を背負ひながら、空船を引きて、岡を越えしといふ。寛文十二年開墾して、淺茅の内海と東外海とを通ず。兩岸青山相對し、長約二四町。廣僅に八間。小蒸氣船又は和船を通ず。オウフナツ(大船津) 【茨城】常陸國鹿島郡豐津村の大字。北浦に瀕す。舟路鹿島大

オウフ

社へ詣る者の上陸する所なり。大社まで十餘町。水戸、鎌倉道此所を過ぐ。オウフナド(大舟渡) 【巖手】陸前國氣仙郡の村。も、鑛地の名なり。其周圍の山は高く水涯に至るまで樹木あり。村に近き所を好鑛地とす。是より一里に盛町あり。近年大船渡港の議あり。白五五。オウフネガワ(大舟川) 【北海】渡島國茅部郡に在る。川。水源、大舟山。東北流して太平洋に入る。上流に大舟ノ湯あり。更に湖ること十餘町にして、上ノ湯下ノ湯あり。又、澗間に大小瀑布七所あり。山岳圍繞して、極めて幽邃。一區の仙境を成す。オウフナトウケ(大舟峠) 【北海】渡島國龜田郡二郡に跨る山。オウフネヤマ(大舟山) 【兵庫】播磨國石馬郡に在る。山。高平村大字十倉片古に跨る。三峰列峙立し、樹木鬱蒼。古は山中に大舟寺あり。中世、菟原郡河原村に遷す。今廢絶せり。山麓より約二町に十二の古礎あり。即ち大舟寺の遺址といふ。オウフネヤマ(大船山) 出雲國簸川郡の半島地に在る。山。檜山村に屬す。高一四〇尺。古の神名火四山の一なり。大字多久谷の大慶寺内に大船明神あり。即ち延喜式の多久神社とす。オウブハラ(大生原) 【茨城】常陸國行方郡の村。白三三。オウフフロヤマ(大風呂山) 美作國善因眞庭久米三郡に跨る山。オウヘ(大戸) 【大阪】河内國中河内舊河

オウヘ

内郡の村。和名抄大戸郷の内にして、生駒山の西麓なり。白三三。オウベ(大部) 【兵庫】播磨國加東郡の村。白六四。【香川】讃岐國小豆郡の村。小豆島の北岸なり。播磨、備前に面す。但し大部の名はもと、福田、北浦及此村を總稱せるものにて、舊稱を尾美莊といへり。村に四門山及仙崖瀧の勝あり。又琴塚とて、神功皇后の海に投ぜられし琴の漂着せるを埋めしといふ地あり。白二四。オウベチ(大邊路) 紀伊國熊野街道二路の一。西牟婁郡田邊町より東南に向ひ、朝來十九洲。周參見田中串本以上四牟婁郡古座浦神那智三輪峠を経て、東牟婁郡新宮町に達する縣道なり。延長三〇里。二五町。中、三里は車を通ぜず。周參見の東に、女長柄坂等の峻路あり。オウボ(大歩) 【福岡】筑後國三井郡三國村の大字。オウボとも呼ぶ。古の大原にて、正平年中、池田少武二氏の戰場といふ。一に大原は山腹原を指すともいふ。蓋し此戦は、實滿川、太刀洗川の原野。二三里の間、に起れるものなり。大嶽石神社あり。オウボギ(大保木) 【愛媛】伊豫國新居郡の村。石植山の東北麓なる山谷にして、扇表三、四里に互り、茶の名所なり。谿水集りて、東川となり、加茂川の一支源を成す。此邊危岩怪石多く、風光奇絶なり。大字黒瀬山には不動瀧、瓶穴、魚ノ飛、滑石等あり。不動瀧は高二〇間餘。左右は數十丈の絶壁なり。瓶穴は石面に穴あり。其數

オウホ

三二九

村台三九
オウミツ(大三) 【三重】伊勢國一志郡の村台三九

オウミトウ(大御堂) 【埼玉】武藏國兒玉郡長幡村の大字、吉祥院と呼ぶ阿彌陀堂あり、古は大伽藍なりし故、此名起るといふ、寛永年中寺領三十石を付せらる。

オウミナト(大湊) 【三重】伊勢國度會郡の町宇治山田市の北一里餘宮川口の一埠頭に於て、古來航海と造船業とを以て知られたる地なり。今尙造船所及船用鐵器の製造所數あり、屈指の工業地とす。

オウミネ(大峰) 大和國吉野郡の中央に横はる大山脈吉野、金峰の南より玉置山に至るまで約一五里、小天井、大天井、山上(俗に大峰と呼ぶ事あり)國見山、山神、天狗岳、東屋嶽、玉置山等連互して、紀伊國熊野諸嶽に連る。國見山より東走る支脈は、伯母峠となりて大峯山原山に接す。其間には北山郷なり。支脈の西せるものは櫃岳となりて高野山脈に連り、十津川郷を包む。連山丁字形を成し、全部を三分す。大峰は往時修験者の登渉して修行せる靈地にして、其登山を峰入と名く、修験道に二派あり。一は天台宗聖護院に屬し、當山派と稱し、吉野より峰入をなす。一は眞言宗三寶院に屬し、本山派と稱し、金峯より峰入をなす。此峯入は後小角の創始に係り、近年まで底に行はれしが、山伏修験以來漸く衰へたり。吉野の東院より登れば小天井、大天井の二峯あり。山路險峻、踏に沿ふて中コバ守屋、足摺百丁、今宿、洞辻等の茶店あり。洞辻より鐘懸岩、日本見岩、西陰岩等の奇勝を経て直に山上岳の頂に達す。吉野より六里、山上に藏王堂あり。三面巨岩峙り、南面に湧出岩、東北に鐘ノ門、飛岩、東屋嶽、行者岩、平等岩、屏風岩等あり。西方稻村岳を望むべし。是より東行して小篠に至る。距離約一里、其間に行者堂、聖寶堂、薩摩石壇、大黒窟等あり。西南一里にして、膳宿南一里にして、膳宿岳に到る。尙南すること一里を兒宿とし、又南一里を行者歸といふ。其南二里八町にして彌山に入り、南五里を釋迦岳とす。其山下を神仙ノ窟、深山にも作るといふ。南一〇町にして大日岳、南一里にして小池宿、南三里にして平地宿、又南約二〇町にして轉法輪岳に達す。夫より二里一六町、佐陀辻、行者宿等を経て天狗岳、南一里餘にして地蔵岳、南二七町にして東屋嶽、東南一八町にして仙ヶ岳、西三里二〇町にして古屋宿、南一里四町にして花折嶽、西南二五町にして土室岳、西南五町にして玉置山に至る。凡て北金峯吉野より南玉置に至る間を峯中と稱し、行者往還の驛場となし、小篠に於て潔斎して入る。山中岩窟多し、其數三百八十餘、其大なるものを蟻螂ヶ窟(洞川の東方に在り、深百二〇間、闊約四尺、内に龍沙川、彌勒湖の二泉ありて、釋迦窟(二)に水晶窟といふ)、石乳窟結して、珠玉

にして速力一節四分三に達す。朔望高潮四時二六分、大潮升二呎半、小潮升一呎半。此地より東一里に田名部町あり、百貨の供給地にして、郵便局あり。台三九、オウミネ(大嶺) 【山口】長門國美禰郡の村台三九。●(沖繩)琉球國島尻郡小嶽村の字、其南東に大嶺山あり。海岸に近く時ち、高二〇尺、山頂に松樹繁茂し、舟人の目標となる。居民海事に長じ、古那郡龍船の水主を貫せりといふ。海中約六町に砂嶽あり、鐘乳石の如き奇岩ありて、其下に百餘人を容るべしといふ。

オウミネ(大峰) 大和國吉野郡の中央に横はる大山脈吉野、金峰の南より玉置山に至るまで約一五里、小天井、大天井、山上(俗に大峰と呼ぶ事あり)國見山、山神、天狗岳、東屋嶽、玉置山等連互して、紀伊國熊野諸嶽に連る。國見山より東走る支脈は、伯母峠となりて大峯山原山に接す。其間には北山郷なり。支脈の西せるものは櫃岳となりて高野山脈に連り、十津川郷を包む。連山丁字形を成し、全部を三分す。大峰は往時修験者の登渉して修行せる靈地にして、其登山を峰入と名く、修験道に二派あり。一は天台宗聖護院に屬し、當山派と稱し、吉野より峰入をなす。一は眞言宗三寶院に屬し、本山派と稱し、金峯より峰入をなす。此峯入は後小角の創始に係り、近年まで底に行はれしが、山伏修験以來漸く衰へたり。吉野の東院より登れば小天井、大天井の二峯あり。山路險峻、踏に沿ふて中コバ守屋、足摺百丁、今宿、洞辻等の茶店あり。洞辻より鐘懸岩、日本見岩、西陰岩等の奇勝を経て直に山上岳の頂に達す。吉野より六里、山上に藏王堂あり。三面巨岩峙り、南面に湧出岩、東北に鐘ノ門、飛岩、東屋嶽、行者岩、平等岩、屏風岩等あり。西方稻村岳を望むべし。是より東行して小篠に至る。距離約一里、其間に行者堂、聖寶堂、薩摩石壇、大黒窟等あり。西南一里にして、膳宿南一里にして、膳宿岳に到る。尙南すること一里を兒宿とし、又南一里を行者歸といふ。其南二里八町にして彌山に入り、南五里を釋迦岳とす。其山下を神仙ノ窟、深山にも作るといふ。南一〇町にして大日岳、南一里にして小池宿、南三里にして平地宿、又南約二〇町にして轉法輪岳に達す。夫より二里一六町、佐陀辻、行者宿等を経て天狗岳、南一里餘にして地蔵岳、南二七町にして東屋嶽、東南一八町にして仙ヶ岳、西三里二〇町にして古屋宿、南一里四町にして花折嶽、西南二五町にして土室岳、西南五町にして玉置山に至る。凡て北金峯吉野より南玉置に至る間を峯中と稱し、行者往還の驛場となし、小篠に於て潔斎して入る。山中岩窟多し、其數三百八十餘、其大なるものを蟻螂ヶ窟(洞川の東方に在り、深百二〇間、闊約四尺、内に龍沙川、彌勒湖の二泉ありて、釋迦窟(二)に水晶窟といふ)、石乳窟結して、珠玉

ば小天井、大天井の二峯あり。山路險峻、踏に沿ふて中コバ守屋、足摺百丁、今宿、洞辻等の茶店あり。洞辻より鐘懸岩、日本見岩、西陰岩等の奇勝を経て直に山上岳の頂に達す。吉野より六里、山上に藏王堂あり。三面巨岩峙り、南面に湧出岩、東北に鐘ノ門、飛岩、東屋嶽、行者岩、平等岩、屏風岩等あり。西方稻村岳を望むべし。是より東行して小篠に至る。距離約一里、其間に行者堂、聖寶堂、薩摩石壇、大黒窟等あり。西南一里にして、膳宿南一里にして、膳宿岳に到る。尙南すること一里を兒宿とし、又南一里を行者歸といふ。其南二里八町にして彌山に入り、南五里を釋迦岳とす。其山下を神仙ノ窟、深山にも作るといふ。南一〇町にして大日岳、南一里にして小池宿、南三里にして平地宿、又南約二〇町にして轉法輪岳に達す。夫より二里一六町、佐陀辻、行者宿等を経て天狗岳、南一里餘にして地蔵岳、南二七町にして東屋嶽、東南一八町にして仙ヶ岳、西三里二〇町にして古屋宿、南一里四町にして花折嶽、西南二五町にして土室岳、西南五町にして玉置山に至る。凡て北金峯吉野より南玉置に至る間を峯中と稱し、行者往還の驛場となし、小篠に於て潔斎して入る。山中岩窟多し、其數三百八十餘、其大なるものを蟻螂ヶ窟(洞川の東方に在り、深百二〇間、闊約四尺、内に龍沙川、彌勒湖の二泉ありて、釋迦窟(二)に水晶窟といふ)、石乳窟結して、珠玉

漸く低く、琵琶湖も亦北より南に向ふに九州筑紫海に達する地溝帯、即ち一大裂嶽の一部にして、琵琶湖は之に水の滯溜せるものなりとす。

水系 國內河流多く、八百八水の稱あれども流域狭く、大川、巨流なし。其稍大なるを湖東の野洲川(流程八里二〇町)仁保川(又日野川、一〇里)愛知川(九里)大上川(六里)姉川(三里)湖西の安曇川(二里)とす。皆琵琶湖に注ぐ。概し平時は水少なく、霖雨に忽ち暴漲して堤防を破り、湖面の氾濫を來す。野洲川、姉川及安曇川は河口に近く、從ひ平坦にして、高度の生産力ある耕地を構成す。

湖沼 琵琶湖は國內の諸水を集め、南に至り緊束せられ、勢多川となり、山壁を破りて山城國に決す。日本第一の大湖にして、面積四四方里五、船舶來往、交通至便、且つ魚介の利あり。風景亦絶佳にして、八景の名人口に膾炙す。湖中に沖島、多景島、竹生島等あり、其勢多川となりて山城に至る約三里間は、無數の岩石河底に起伏し、湖水の疏通を妨ぐる、こと少なからず。琵琶湖の北東に一嶺を隔て、余吾湖あり、餘流は琵琶湖に入る。

氣候 概して湖北は沍寒、積雪多し、湖南は稍緩なりとす。明治四十一年産根測候所の観測に據れば、氣温は一年平均攝氏一三度にして、夏季(八月)は平均二五度、冬季(二月)は平均二度八、最高三四

環珞の狀を成す。深五六〇間。川上村大字北和田の東に在り。菊ノ窟(同村大字柏木の東に在り、深二四間内部の岩石菊花の紋を成すといふ) 蠟蝠窟(室宮國見山に在り、日藏上人、行慶僧正の栖止せる所といふ)とす。

オウミネ(大嶺) 【大嶺山】 伊豫國四字郡和郡川ノ石村に在る嶺山、八幡濱まで陸路一里三〇町、川ノ石灣は水深くして海運の便大なり。明治四十一年、嶺區四二、一九五坪、使用鐵夫一〇〇人、女工一〇人、採鐵高五三、九九八四貫、銅鐵販賣高五三、〇〇八六貫、價格三萬二千元(本邦鐵業一斑)。

オウミネ(大嶺山) 長門國美禰郡大嶺村及豐浦郡豐田前村に跨る炭山鐵道山陽線厚狹驛より支線を通ず。其間一二哩半。此炭礦は明治十年頃の發見といふ。三十七年日露戰爭起るや、海軍省之を買収し、煉炭製造所採炭部を置き、以て今日に至る。炭質は脆弱、概し粉炭なれども、發煙少しといふ。四十一年、礦區六六八、三九二〇坪、使用鐵夫六九三人、女工二四〇人、産額九、八四四一佛噸。價格一九萬圓(本邦鐵業一斑)。

オウミネ(大嶺山) 隱岐國島後の北に時つ山西、嶺山に連る。山中其材多し。●安藝國佐伯郡の北部に在る山。巨嶽にして、山頂老樹怪岩あり。高三四五二尺。オウミノクニ(近江國) 【滋賀】 東山道の西南隅に位置する國、四境東に美濃伊

度、最低者以下六度四、雨は六、七月の頃最も多く、雪は一月を多とす。霜は十一月中旬に始まり、四月中旬に終る。風は冬季は西、夏季は北西の方向多し。

産業 民俗産業を尙ぎ、勤儉の風あり。殊に商業に長じ、富家多し、近江商人の稱人の知る所なり。蓋し封建の頃寄附に苦しみ、郷里を去り、他國に至り交易せるが爲ならんといふ。農業は最も汎く行はれ、米一三五萬石を産す。其最多額は蒲生郡にして、二三萬石、其他栗本、野洲、甲賀、愛知、坂田、高島の諸郡、皆一〇萬石以上の收穫あり。近江米と稱し、其特質はよく保存に耐へ、且つ皮薄して美味なるにあり。酒造の原料として聲價あり。其他麥(二三萬石)、粟(七萬五千石)、大豆、甘藷、蕎麥、蘿蔔、胡蘿蔔、牛蒡、實結大麻、藍葉等あり。葉煙草(八萬貫)は蒲生、神崎、愛知、野洲四郡より出で、中野煙草といひ、享保の頃より其名著はる。其他水日の干瓢産根の紅蕪菁あり。茶業は信樂、土山、水口、今津に盛にして、製品四一萬五千圓に上る。殊に信樂の産は品位宇治に匹敵し、頗る聲價あり。養蠶は東淺井郡最も盛にして、坂田郡之に亞ぐ、但し東淺井は存蠶を、坂田は夏蠶を主とす。繭價格二六六萬圓、蠶業は琵琶湖に於て行はれ、鯉、鮭、鱒、水魚、鮎の如きは、價各一萬圓に上る。其他鱈、鯉、鯉、ウケヒ、ハ、ヌ、カ、ハ、エ、イ、サ、蝦等の産あり。價格合計二八萬圓、鮎は源五郎船とて、殊に著名なり。工業品甚だ多し。長

勢、國南は伊賀山城、國西は山城、丹波、二國、北は若狹、越前、二國、東四、五里、二二町、南北二五里、三三町、面積三〇五方里八九(此中琵琶湖四方里五、北緯三四度四五分、一三五度四分、東經一三五度四五分、一七秒一三六度四分、一七秒)行政上、大津市及滋賀、栗本、野洲、甲賀、蒲生、神崎、愛知、犬上、坂田、東淺井、伊香、高島の一二郡に分ち、全國滋賀縣所管とす。面積三三、六六六、三三〇。

【地勢】 國の四面高峻なる山脈圍繞し、中央に琵琶湖と呼ぶ一大湖あり。南北に横はり、全國面積六分の一を占む。河流は皆四圍の連山に發し、湖水に注入す。湖東は土地平坦にして、高度の生産力有する。廣野連り、湖西は大概西より東に傾斜し、耕地面積狭小なり。西北及東北は一般に山岳起伏し、平野稀なり。國內有名名の養蠶地なり。又國の西南隅は伊賀山城に接續し、所謂信樂谷にして、茶及陶器の産地とす。國內花崗岩、秩父古生層、侏羅紀層第三紀層、第四紀古層、第四紀新層、石炭岩の七種より成る。秩父古生層は最大なる面積を占め、四圍の連山中南の一部花崗岩及第三紀層より成るの外皆之より成り、其山脚に分布するを第四紀古層とし、蟹庭野、泰産寺野、蒲生野等の原野あり。之より湖邊に至る耕地の大部分は、第四紀新層に屬し、湖水の作用に因り、漂流堆積生成せしものにて、面積廣大國內主なる米産地は皆此に屬す。侏羅

紀層は中尾嶺、金龜嶺等伊香郡の越前美濃に連互する所に限られ、石炭岩は東北の山脈に極少の露出あり。

【山系】 山岳は東西の二派に分る。國の左右に對峙し、共に南北に走り、合して四境を圍繞す。東派は飛騨山系の餘勢を承け、美濃國境に於て大尾山、金龜嶺、國見嶺(二六八三尺)となり、伊吹山に至て最も高く、海拔四五二四尺に達す。伊吹山の南側は急に傾斜して、更に南に龜嶽(三六八〇尺)を起し、此二山の間に東山道(中山道)を通ず。龜嶽の脈は更に南走して、三國ヶ岳(近江、美濃、伊勢三國の交界)、烏帽子岳、御池岳、藤原嶽、鍋笠嶽(三三〇〇尺)、釋迦岳(三六四六尺)、龍ヶ岳(三九〇〇尺)、御在所嶽(三八〇五尺)、鎌ヶ岳(四一三八尺)となり、少しく西南に屈して入道ヶ岳、難足山(三六〇七尺)となり、伊勢の國境を限り、伊賀の境に近く鈴鹿峠(二二二尺)を成す。即ち舊東海道の山路なり。伊賀國境には龍王山、笠ヶ岳、御齋嶽あれども皆低くして、高きも一六五〇尺内外なり。西派は中國山系の餘波にして、丹波高原の東側をなし、急に湖水に向て傾斜し、其若狹國境に在るを木地山(二九七〇尺)、大御影山(三三五〇尺)とし、山城に接して、武安岳、比良嶽(四〇六五尺)、比叡山(二七一六尺)あり。漸く低下して伊賀國境に至り、東派に合す。此二山脈は共に中部に於て最も高く、其相合する所、北は越前、南は山城、伊賀の邊に

にして速力一節四分三に達す。朔望高潮四時二六分、大潮升二呎半、小潮升一呎半。此地より東一里に田名部町あり、百貨の供給地にして、郵便局あり。台三九、オウミネ(大嶺) 【山口】長門國美禰郡の村台三九。●(沖繩)琉球國島尻郡小嶽村の字、其南東に大嶺山あり。海岸に近く時ち、高二〇尺、山頂に松樹繁茂し、舟人の目標となる。居民海事に長じ、古那郡龍船の水主を貫せりといふ。海中約六町に砂嶽あり、鐘乳石の如き奇岩ありて、其下に百餘人を容るべしといふ。

オウミネ(大峰) 大和國吉野郡の中央に横はる大山脈吉野、金峰の南より玉置山に至るまで約一五里、小天井、大天井、山上(俗に大峰と呼ぶ事あり)國見山、山神、天狗岳、東屋嶽、玉置山等連互して、紀伊國熊野諸嶽に連る。國見山より東走る支脈は、伯母峠となりて大峯山原山に接す。其間には北山郷なり。支脈の西せるものは櫃岳となりて高野山脈に連り、十津川郷を包む。連山丁字形を成し、全部を三分す。大峰は往時修験者の登渉して修行せる靈地にして、其登山を峰入と名く、修験道に二派あり。一は天台宗聖護院に屬し、當山派と稱し、吉野より峰入をなす。一は眞言宗三寶院に屬し、本山派と稱し、金峯より峰入をなす。此峯入は後小角の創始に係り、近年まで底に行はれしが、山伏修験以來漸く衰へたり。吉野の東院より登れば小天井、大天井の二峯あり。山路險峻、踏に沿ふて中コバ守屋、足摺百丁、今宿、洞辻等の茶店あり。洞辻より鐘懸岩、日本見岩、西陰岩等の奇勝を経て直に山上岳の頂に達す。吉野より六里、山上に藏王堂あり。三面巨岩峙り、南面に湧出岩、東北に鐘ノ門、飛岩、東屋嶽、行者岩、平等岩、屏風岩等あり。西方稻村岳を望むべし。是より東行して小篠に至る。距離約一里、其間に行者堂、聖寶堂、薩摩石壇、大黒窟等あり。西南一里にして、膳宿南一里にして、膳宿岳に到る。尙南すること一里を兒宿とし、又南一里を行者歸といふ。其南二里八町にして彌山に入り、南五里を釋迦岳とす。其山下を神仙ノ窟、深山にも作るといふ。南一〇町にして大日岳、南一里にして小池宿、南三里にして平地宿、又南約二〇町にして轉法輪岳に達す。夫より二里一六町、佐陀辻、行者宿等を経て天狗岳、南一里餘にして地蔵岳、南二七町にして東屋嶽、東南一八町にして仙ヶ岳、西三里二〇町にして古屋宿、南一里四町にして花折嶽、西南二五町にして土室岳、西南五町にして玉置山に至る。凡て北金峯吉野より南玉置に至る間を峯中と稱し、行者往還の驛場となし、小篠に於て潔斎して入る。山中岩窟多し、其數三百八十餘、其大なるものを蟻螂ヶ窟(洞川の東方に在り、深百二〇間、闊約四尺、内に龍沙川、彌勒湖の二泉ありて、釋迦窟(二)に水晶窟といふ)、石乳窟結して、珠玉

漸く低く、琵琶湖も亦北より南に向ふに九州筑紫海に達する地溝帯、即ち一大裂嶽の一部にして、琵琶湖は之に水の滯溜せるものなりとす。

度、最低者以下六度四、雨は六、七月の頃最も多く、雪は一月を多とす。霜は十一月中旬に始まり、四月中旬に終る。風は冬季は西、夏季は北西の方向多し。

産業 民俗産業を尙ぎ、勤儉の風あり。殊に商業に長じ、富家多し、近江商人の稱人の知る所なり。蓋し封建の頃寄附に苦しみ、郷里を去り、他國に至り交易せるが爲ならんといふ。農業は最も汎く行はれ、米一三五萬石を産す。其最多額は蒲生郡にして、二三萬石、其他栗本、野洲、甲賀、愛知、坂田、高島の諸郡、皆一〇萬石以上の收穫あり。近江米と稱し、其特質はよく保存に耐へ、且つ皮薄して美味なるにあり。酒造の原料として聲價あり。其他麥(二三萬石)、粟(七萬五千石)、大豆、甘藷、蕎麥、蘿蔔、胡蘿蔔、牛蒡、實結大麻、藍葉等あり。葉煙草(八萬貫)は蒲生、神崎、愛知、野洲四郡より出で、中野煙草といひ、享保の頃より其名著はる。其他水日の干瓢産根の紅蕪菁あり。茶業は信樂、土山、水口、今津に盛にして、製品四一萬五千圓に上る。殊に信樂の産は品位宇治に匹敵し、頗る聲價あり。養蠶は東淺井郡最も盛にして、坂田郡之に亞ぐ、但し東淺井は存蠶を、坂田は夏蠶を主とす。繭價格二六六萬圓、蠶業は琵琶湖に於て行はれ、鯉、鮭、鱒、水魚、鮎の如きは、價各一萬圓に上る。其他鱈、鯉、鯉、ウケヒ、ハ、ヌ、カ、ハ、エ、イ、サ、蝦等の産あり。價格合計二八萬圓、鮎は源五郎船とて、殊に著名なり。工業品甚だ多し。長

濱縮は坂田郡を根拠とし、東邊井犬上二郡に互り、機業者約千戸、産額九萬反、價格一五七萬圓に上る。概ね京都に輸出す。蚊帳地は縮緬に亞ぎ有名の産物にして、もと蒲生郡八幡町を主とせしが、今は多く坂田郡にて製出す。又麻布は近江麻布と稱し、神崎愛知犬上三郡にて産出し、主に朝鮮に向け輸出す。價格九九萬圓。高島縮は近年盛なり、織物總額三七一萬圓。陶磁器は甲賀郡信樂を主産地とし、茶器を以て名あり。其他勢多焼、伴谷焼(甲賀郡)あり。合計二三萬圓。漆器は産根長濱の物最も名あり。價格二四萬圓。其他漆器真田大津地方の漆種油島島の疊表、産根の縮緬日野の物産、水口の笠、大津の算盤池川の針栗太郎の烏子及雁皮紙等産額多からざれども其名聞ゆ。

原の諸郡ありて美濃界の膠針嶺に至る。北國街道は中山道の鳥居本驛より分れ、湖東を北走して越前に入る。里程一三三二町。米原長濱木之本、柳ヶ瀬中河内の諸驛あり。其越前境を榎ノ木峠とす。北國脇街道は北國街道の木之本驛より分れ、美濃にて中山道に合するものにて、伊那春照の二驛あり。里程七里一四町。西近江路は湖西に沿ひて、越前敦賀に通じ、里程一九里。大津に起り、木戸、勝野、今津、海津の四驛あり。其越前境を七里半越といふ。古愛媛のありし地なり。此主線の外若狭道、朝鮮人街道、御代参街道等あり。鐵道東海道線は美濃より來り、湖東を中山道と離合して大津に近づき、山城に入る。其間相原長岡、藤井、米原、産根、河瀬、能登川、八幡野、洲草津、馬場、大谷の一二驛あり。北陸線は米原にて分れ、湖東を北に長濱、高月、水之本、中ノ郷、柳ヶ瀬の五驛を経て越前に入る。別に馬場驛より大津に至る支線と、長濱より長岡に至る貨物線とあり。延長合せて七〇哩六二鎮。關西線は伊勢より來り、深川、貴生川、三雲、石部を経て草津に至り、東海道線に連絡す。延長二一哩六〇鎮。近江鐵道は東海道線の産根驛より分れ、新町、高宮、豐郷、愛知川、小幡八日市、櫻川、朝日野、水口の一〇驛を経て、美濃川にて關西線に連絡す。延長二六哩。近江麻布蚊帳地の輸送は主に此線に依る。

二六高等八。就學歩合、百人中、男九八人、三四、女九四人、四六。中學校二。産根驛所、師範學校一。膳所、女子師範學校一。大津、高等女學校二。産根、大津、商業學校一。蒲生郡宇津呂村、農學校一。長濱、農林學校一(水口)。其他郡立農學校、農林學校、商業學校、實業學校各一あり。

寺、石山寺(甲賀郡石山村。義仲寺。大津市。蓮華寺。坂田郡忠郷村)。

を賜ふ。信長試せられ、翻業挫折し、豊臣氏に至り八幡山に築きしが久しからず。石田三成佐和山に封ぜられ、二十三萬石を食む。關ヶ原役後石田氏敗滅、徳川氏其功臣井伊氏を産根に置き、以て京畿を控制せしめ、累増して三十五萬石を與ふ。其他國內には膳所、末多氏、六萬石、水口鳥居氏、二萬五千石、西大路市橋氏、二萬石、山上稻垣氏、一萬三千石、宮川細田氏、二萬石、大溝(分部)氏、二萬石、三上遠藤氏、一萬石の諸藩ありて、別に大津に代官所を置き、明治維新遠藤氏を和泉の吉見に移し、水野氏を羽前山形より封じて、朝日山藩を建てしが、幾くもなくして皆之を廢し、大津、長濱二縣を置き、尋で長濱を廢して大津に改め、又合して滋賀縣とし、全國を管せしめて今日に至れり。

眞砂は雪かと思へて、江天の暮雪に異ならず、あちおもしろやと見る程に、いとど心の澄渡る、壁田の浦の釣舟の沖より家路に急ぐをば、遠浦の歸帆と打ながめ、雪の一むら残れるは夜の雨の名残か、扱比叡山の鐘の聲を遠寺の晚鐘かと打き、それ幸時に異をなす。沙鷗平沙の落雁に之をなそらへ、洞庭の秋の月には、鏡の山をたへたり、誰を漁村の夕照につりたる、者とと思ふべきとあり。七景は霧にかくれて三井の鐘(芭蕉)。

原藩城の時父子共に討死し、留守の家人北澤宮内力及げず、民間に隠れしを、徳川氏慰撫して大宮町を開かしめ、其功によつて城址を宮内に賜ひしといふ。合二宮。●(埼玉)武蔵國秩父郡の町。郡の中央、武甲山の北麓に在り。郡中第一繁華の地にして、郡役所、區裁判所、郡立農林學校、警察署、郵便局等あり。居民多く、紡織を業とし、秩父絹の名高し。東京より二四里一七町。浦和町より二〇里三二町。大宮の稱は此地に秩父神社ありより出づ。近代は忍城主阿部氏陣屋を置き、毎月一六の市を開きなどせしり。山間に稀なる繁華の地となれり。殊に毎年十二月三日は秩父神社の祭禮にて、甚だ賑ふ。合九七。●秩父神社、秩父郡の古社にして、俗に秩父妙見と呼び、大己貴命、知々夫産命、八意思兼命を合祀す。實は武甲山の靈を祀れるなるべし。崇神天皇の時の創建と傳ふ。其妙見社といふは天慶年中平(村岡)五郎、其文、將門征討の時奇瑞ありしに因り、上野國花園より勧請せしに、終に其名盛に行はれ、本社を舊蹟を失ひしならんといふ。近世社領五十七石。●(茨城)常陸國那珂郡の町。久慈川の西岸に沿ひ、水戸、白川街道に當る。警察分署、郵便局等あり。此邊精茶業頗る盛なり。此地舊名を部垂(邊垂にも作る)といふ。天文年中佐竹四郎義光此所に居り、子孫終に部垂となる。其城址今もあり。天保年中今の名に改む。地に部重大宮、大明

●(茨城)常陸國稻敷郡の村。合三三。●(栃木)下野國鹽谷郡の村。合三三。●(栃木)下野國下都賀郡の村。合三六。●(靜岡)駿河國富士郡の町。富士山の東南麓なる一市街にして、此所に富士淺間の大社ありより出でし名とす。東海道の吉原驛より北へ二里二三町。東海道線、鈴川驛より馬車鐵道を通ず。舊甲州街道に當り。古は駿河より甲斐地方へ輸送する魚鹽等皆此地を經由し、甲斐の物産亦此地にて賣捌きしを以て、商業頗る繁昌なりしが、慶長年中富士川通船の便開きしより、商業全く衰へたり。然れども富士登山の表口に當り、關西よりの登山者は多く、途を此に採るにより、夏季は旅客の往來多し。富士農林學校、警察分署、郵便局等あり。官幣大社淺間神社は木花咲姫命を祀り、遍々杵命、大山祇命を合祀す。詞林采葉抄には、信濃淺間大神と一體兩座の垂迹にして、兩山共に淺間大菩薩といふと記す。蓋し富士淺間は古言同義にて、火山の謂ならんといふ。古來武將の尊崇厚く、徳川家康神領千二百石を附し、大に社殿を修め、殿堂莊麗を極めしが、寛永四年の山火、安政六年の地震に甚だしく損破して、今存するものは樓門拜殿、本社三ノ御前社七ノ御前社等に過ぎず。毎年十一月四日大祭を行ふ。宮司は富士氏と稱し、戦國の時兵仗を取り、神田曲輪といへる城塞を起したり。別當は寶幢院とい

オウミ、ハツケイ(近江八景) 【滋賀】近江國琵琶湖の八時、明應九年近衛關白江州に滞留の時、瀟湘八景に擬して命名せしものといふ。八景とは三井、晚鐘、石山、秋月、堅田、落雁、粟津、晴嵐、矢橋、歸帆、比良、暮雪、唐崎、夜雨、勢田、夕照とす。但し其以前に在つて、歸帆に其勝を叙するものあり、稍趣を異にし、あれに見えたる比良の山、小松か原に吹く嵐は、山市の晴嵐もかくやらんと思はれ、眞野の入江の洲崎の

オウミ、ハツケイ(近江八景) 【滋賀】近江國琵琶湖の八時、明應九年近衛關白江州に滞留の時、瀟湘八景に擬して命名せしものといふ。八景とは三井、晚鐘、石山、秋月、堅田、落雁、粟津、晴嵐、矢橋、歸帆、比良、暮雪、唐崎、夜雨、勢田、夕照とす。但し其以前に在つて、歸帆に其勝を叙するものあり、稍趣を異にし、あれに見えたる比良の山、小松か原に吹く嵐は、山市の晴嵐もかくやらんと思はれ、眞野の入江の洲崎の

オウミ、ハツケイ(近江八景) 【滋賀】近江國琵琶湖の八時、明應九年近衛關白江州に滞留の時、瀟湘八景に擬して命名せしものといふ。八景とは三井、晚鐘、石山、秋月、堅田、落雁、粟津、晴嵐、矢橋、歸帆、比良、暮雪、唐崎、夜雨、勢田、夕照とす。但し其以前に在つて、歸帆に其勝を叙するものあり、稍趣を異にし、あれに見えたる比良の山、小松か原に吹く嵐は、山市の晴嵐もかくやらんと思はれ、眞野の入江の洲崎の

オウミ、ハツケイ(近江八景) 【滋賀】近江國琵琶湖の八時、明應九年近衛關白江州に滞留の時、瀟湘八景に擬して命名せしものといふ。八景とは三井、晚鐘、石山、秋月、堅田、落雁、粟津、晴嵐、矢橋、歸帆、比良、暮雪、唐崎、夜雨、勢田、夕照とす。但し其以前に在つて、歸帆に其勝を叙するものあり、稍趣を異にし、あれに見えたる比良の山、小松か原に吹く嵐は、山市の晴嵐もかくやらんと思はれ、眞野の入江の洲崎の

へる眞言の寺ありしが、近年廢せらる。本社に湧玉池あり、俗に御壺と呼び、登拜者の水垢離する所なり。未は神田川となり、澗川に入る。合三三六。●【山梨】甲斐國山梨郡の村。合三三六。●【福島】岩代國南會津郡の村。合三三六。●【福井】越前國大野郡羽生村の大字。大野町より福井市に出づる街道に當る。福井へ六里大野より二里、八幡宮あるに因り、大宮宿の名あり、郵便局あり。●【岡山】備前國邑久郡の村。此地に安仁神社あるを以て町名起る。社は俗に二宮といひ、近時國幣中社に列す。當國の名社なり。祭神詳ならず。社傳には神武天皇の皇兄五瀨命なりといへど、一説に、孝靈天皇の長子五十狹彦命なりといふ。弘法寺は大字千手に在り。一に興法寺に作る。千手觀音を安置す。報恩大師四十八所の隨一にして、弘法大師の重興といひ、藩より寺領六十石。鎮守山王社の神田百石を給せり。入日三〇。●【宮崎】日向國宮崎郡の村。宮崎町の北に接し、宮崎神社あり。村名起る。大字下北方に宮崎神社あり。官幣大社に列し、神武天皇を祀る。往古阿蘇國造の祖健甕龍命が神武天皇の皇居地に就き、社殿を營めるものと傳へ、もと神武宮といひ、歴代の領主崇敬淺からず。建久年中に地頭土持信綱宮殿を造營し、文明年中に伊東持國封戸を附し、寛永年中延岡城主有馬氏宮殿を重修し、文化十年内藤氏更に之を修めたり。明治三十三年

は天皇降誕の二千六百二十年に相當するを以て記念大祭の執行ありたり。宮の西北を古市といふ。一説に天皇の宮址なりといふ。此近傍には上古の陵墓各所に散在し、又往々古代の器具を掘出すことあり。合三三三。●【オウミヤマ】(大海山) 周防國吉敷郡の南海に突出せる半島地。其東を大海灣といひ、佐波川之に注ぎ、其西を小郡灣といふ。樺野川之に入る。山麓は秋穂、秋穂二島の二村とす。●【オウミワ】(天三輪) 【福岡】筑前國朝倉郡に在りし村。明治四十一年三輪村に入る。甘木町の西隣にして、豊後街道に當る。宇彌永に大三輪神社あり。一に於保奈牟智神社と呼ぶ。延喜式内の古社なり。神功皇后征韓の時、募集せる軍士の逃亡するもの多きは、此神の崇なりとて、此社を建て、祭り終に新羅を平定し給ふといふ。●【オウミカワ】(大武川) 甲斐國北巨摩郡に在る川。水源、地蔵岳、御座石岳の間。牧原の北に至り、釜無川に入る。流程約五里。●【オウミシ】(天虫) 【福井】越前國丹生郡の村。南條郡武生村に接せる地にして、上大虫に延喜式の大虫神社あり。彦火大出見尊を祀る。又下大虫に小虫神社あり。延喜式内の小社なり。白雲寺。●【オウミシノメ】(大蟲峰) 山城國愛宕郡の中央に在る山。一に靜原山といふ。靜野村に屬す。●【オウムタ】(大平田) 【福岡】筑後國三池郡

の町郡の西南に在り。三池町を距る四一里。三池採炭業の盛になりしより興れる市街にして、筑紫海に臨み、長崎、上海等に定期航海あり。又鐵道九州線の停車場ありて九州の南北に通じ、交通至便なり。三井工業學校、警察署、郵便局等あり。港内は水淺くして、大船の出入に通せず。石炭は小船に搭載して、肥前口ノ津に至り更に本船に積移すの不便を免れざるに、三井鐵山會社に於て築港の計畫あり。三笠神社は大字稻荷に在り。高橋紹運(立花氏の祖夫妻及立花直次を祀る。藩主が陸奥より此地に復封せる時移せるものといふ。合四四〇。●【オウムタイケ】(大平田池) 筑前國筑紫郡に在る池。周圍一里七町。●【オウムラ】(大村) 【長崎】肥前國東彼杵郡の町。大村氏の舊城下にして、郡の首邑なり。大村灣被杵灣頭に位し、長崎佐世保佐賀間の鐵道之を通じ、大村車驛ありて交通の便多し。市街は東西三町南北一二町。郡役所、警察署、區裁判所、監獄、支署、郵便局、中學、政學館、病院等あり。步兵第二十三旅團司令部及步兵第四十六聯隊の兵營は四大村に在り。長崎を距る九里一〇町。物産に眞珠貝、海參、細工、鰻魚あり。大村城址は玖島城とも呼べり。町の南端なる半島形の地に在り。慶長年中大村喜前の子孫といふ。大村氏は藤原純友の後と傳ふ。忠澄の時藤原被杵二郡を領し、久原城に在り、其孫澄宗元寇を防ぎて

功あり。其孫純與南朝に屬し、桓良親王に従ひ軍功あり。五世を経て純前に至り、此地に移る。封二萬八千石なれども、實は十二三萬石の實收ありしといふ。合四四四。●【オウムライワン】(大村灣) 肥前國東彼杵西彼杵二郡の包める大灣。一に鯛之浦又彼杵灣といふ。連山環繞して、一大湖の如く、針尾島其灣口を扼して、二條の狹水路を存し、僅に潮信を通ず。南を伊ノ浦、浦戸、北を針尾灣戸といふ。灣は東西約三里、南北約六里半、水深一、二尋乃至一五尋。其東南隅は諫早地頭を以て筑紫海と稱す。其間僅に二里に足らず。古來屢開鑿の議あり。灣の周圍には名邑少からず。時津は大村早岐地方より長崎に出づる要津にして、灣の西南隅に在り。灣の東岸に大村町あり。此より北岸に沿ふて千綿、被杵川、早岐の諸邑あり。又灣の南岸より東に沿ひ、長崎、佐世保間を連絡する鐵道あり。灣内は古來眞珠貝の産を以て名高し。●【オウムレイヤマ】(大群山) 甲斐國南都留郡相模國足柄上郡の界嶺。東に丹澤山、西南に三國山より龍坂嶺に至る。武藏の平野より望めば富士の前面に當るを以て、富士隱シの稱あり。●【オウムロ】(大室) 【新潟】越後國北蒲原郡に在りし村。明治三十四年笹岡村に入る。●【群馬】上野國勢多郡荒砥村の大字。赤城山の南麓に在り。戰國の頃長尾の家臣牧野正之に居り、後反志あり。天正年中長尾氏の爲に燒ばるるといふ。

●【オウムロイヤマ】(大室山) 相模國津久井郡星柄上郡及甲斐國南都留郡に跨る山。海抜四七四二尺。二に權現山といふ。●【伊豆】國田方郡に在る山。伊東地方に於ける舟子の望標とす。高一九一〇尺。圓蓋形にして、樹木なく、全面茅を生ず。此山裏面より望むときは頂上に大なる洞穴あり。是れ即ち噴火口にして、深二〇〇尺。山上に淺間神を祀る。故に亦淺間山と稱す。●【オウメ】(青梅) 【東京】武藏國西多摩郡の町。郡中第一繁華の地にして、西武藏に於て八王子川越に亞げる大邑なり。多摩川の上流に沿ひ、甲州裏路に當る。今東京より鐵道を通ず。相距る三二哩。郡役所、警察署、農林學校、郵便局等あり。絹布、棉布、石灰、石材、木材等の産物多く、毎月二七の市を開きて賣買す。又綿は青梅綿とて東京の需要多し。眞言宗金剛寺は無量壽院と稱し、舊寺領二十石。末寺二十五を總べたり。承平年中平將門の草創と傳ふ。寺中に老梅樹あり。花白く、實小く、味苦く、色常に青し。冬季蕾を催す頃始めて標落するを以て、青梅の地名起るといへど、附會の説なるべし。合三三六。●【オウメ】(大目) 【山梨】甲斐國北都留郡の村。合三三六。●【オウメイ】(鳴鳴) 【千葉】下總國海上郡の村。合三三六。●【オウモ】(大面) 【新潟】越後國南蒲原郡の村。舊庄名にて、廣く見附附近を指し、大茂に作れり。合三三六。

●【オウモトヤマ】(大元山) 豐前國に在る、馬城山を見よ。●【オウモモ】(大桃) 【福島】岩代國南會津郡大川村の大字。伊南川の上流なる谷間とす。伊南川の上流此所此邊にて内川といふに至り、高二丈餘の飛瀑を成す。大桃瀧と呼ぶ。夏秋之際、多し此瀧を登り、勢盡きて跳下するを、憂にて造れる網を瀧の中間に懸けて之を捕ふ。瀧の鈎網と呼ぶ。村南約一里一〇町に温泉あり。温度攝氏四三度。地僻にして、往來便ならず。若松より二里餘。●【オウモリ】(大森) 【東京】武藏國在野郡の町。品川町の南、蒲田村の北なる一市街にて、東京灣に臨み、鐵道東海道線の通ずる所とす。郵便局あり。鐵道停車場は町の西北なる入不斗と新井宿との間なる八景坂の下に在り。八景園は八景坂を開きて遊園とせしものにして、園内多く梅樹を植ふ。且つ海上の眺望あり。大森の名産を淺草海苔とす。享保の頃産菜を積みたる筈に海苔の附着せしを見て、ヒビを立つる事を知り、爾來東海の名品となる。又大森細工とて、漆器の作物を出だせしが、近年は多く夏帽子の材料に供せらる。又昔は和中散とて頗る著名の賣藥ありたり。大森の介嶋は停車場の傍の木原山に在り。明治十三年東京大學教師米人モリス氏の發見に係り、多く土偶、土器、石斧、石皿、骨角器、人骨等を出だせり。今人類學の盛に興れるは實に此發見に基くと

いふ。合三三六。●【京都】山城國島野郡小野郡村の大字。東河内の長福寺に惟喬親王の墓と稱するものあり。十二層の石塔を立つ。又氏家の南に惟喬社あり。●【愛知】尾張國東春日井郡に在りし村。明治三十九年守山町に入る。庄内川と其支流矢田川との間に在る大邑にして、郵便局あり。●【福島】岩代國信夫郡の村。福島町の西南に當る。四方に城山屹峙す。天文の頃伊達晴宗の築きし城址あり。蒲生氏は其將木村重次、上杉氏は幸川正親を置いて之を守らしめしが、寛文以後廢墟となる。合四四六。●【青森】陸奥國中津輕郡野村の大字。岩木山の北麓に在り。弘前より陸奥平野に出づる道に當る。郵便局あり。●【秋田】羽後國平鹿郡の町。明治三十四年町制を施す。横手町より由利郡に至る道に當り、郵便局あり。横手町より三里一五町城址あり。戰國の頃小野寺氏の族之に居りしといふ。合三三六。●【福井】越前國丹生郡志津村の大字。和名抄賀茂郷の地とす。福井より日本海岸に出づる道路に當り、郵便局あり。又此地に鴨神社あり。●【富山】越中國中新川郡の村。常願寺川に沿ふ。もと入部郷と呼ばる地なり。合四四六。●【島根】石見國隠岐郡の町。郡の中央に在り。山陰道の驛次なり。明治三十六年町制を施す。郡役所、警察署、區裁判所、農學校、郵便局等あり。松江市を距る二〇里二一町。濱田町より一三三三町。合三三六。大森はもと當所

の銀山の名にして、村名を在傳すといへり。明治二十二年改稱す。徳川幕府の頃は代官所を置き、銀山を經理せしめ、又石見備後の幕領を支配せしめし所なり。銀山は大永六年の開掘に係る。當時三島清右衛門、神谷眞直を主宰とす。吉田與三右衛門等採掘に従事せりといふ。天文二年博多より宗丹及禪門慶壽なる者來り、銀を製鍊し給ふ。慶長六年幕府石州を毛利氏より收むるに及び、大久保長安をして之を支配せしめ、盛に採掘す。當時此に従事するもの二十萬人。一日費す所の米穀千五百石に上れりといふ。今大阪藤田組の所有に歸し、宏大なる蒸氣機械を備へ、銀銅を製鍊す。明治四十一年、使用鐵夫四八三人、女工一六一人、採掘高六〇七、一〇二五貫製出高、金銀銅製出高五五、一五七二斤。價格三二萬圓。城址あり。山吹城といへり。大内氏の築造に係る。天文六年尼子勢銀山に亂入し、大内氏の奉行を殺し、之を横領す。八年大内氏之を復す。十一年毛利大内二氏同盟成るに及び、小笠原長隆をして銀山を守らしめ、其子長徳在城す。後毛利氏に屬し、永祿年中一度尼子氏に奪はれ、數年の後毛利氏之を復せり。大森、明神は俗に山ノ神といふ。開掘の初坑中にて殺されたる坑夫於紅孫右衛門の靈を祭るといふ。近世之を以て延喜式城上神社に擬する者あり。清水寺は石見巡拜第一番の觀音堂なり。大安寺は淨土宗にして、大久保長安の香華

なり。大淀八景の目あり。倭姫命海上甚だ
輝なるを見て、淀みに淀むとて、大興度社
を祀定め給ひしより大淀の名起るとい
へり。此地烟火術の巧妙を以て聞ゆ。舊曆
六月十四日八雲神社の祭禮に打上るし
のは南勢の盛観と稱せらる。大淀城址は
國司北高具教が隠居所として築けるも
のなり。永祿十二年九鬼嘉隆織田氏の命
により、水軍を以て此城を攻めし事あり
後廢墟となり、天保年中激浪の爲に破壊
せらるといふ。白濁三。●宮崎日向國
宮崎郡の村六六七。

オウヨドカワ(大淀川) 大淀川を見よ。
オウヨリ(大寄) 武藏國大里郡の
村深谷町の北に接す。大寄は舊藤澤郡の
庄名なり。白濁三。

オウヨリヤマ(大寄山) 近江國東淺井郡
に在る山湯田村大字大依の北嶺なり。小
谷城の東屏障にして姉川に臨み、江北合
戦の争點なり。大永元年六角定頼の江
北を侵すや、美濃の齋藤秀龍の援を乞ふ
淺井亮政秀龍を大寄山に拒ぎ之を破れ
り。又元龜元年淺井朝倉二氏の兵此地に
屯す。織田信長望み見て、敵の曉に襲來せ
んとするを知り、兵を引て西向し、姉川に
激討ち之を破る。

オウラ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。
オウラ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

郡の一國の東南隅に在り、下野武藏の
間に斗入す。四境東は下野國下都賀郡北
は下野國安蘇足利二郡、西は山田、新田
二郡、南は武藏國大里、北埼玉二郡、東四
六里一七町南北二里一九町面積一一方
里九九行政上、館林、小泉の二町及郷谷
四谷田、大筒野、伊奈、赤羽、千江田、梅島
佐貫、六郷、三野谷、宮水、永樂、大川、長柄、
中野、高島、多々、真渡、瀨、大島、海老瀬の二
〇村に分ち、郡役所を館林町に置く。最
二三六二台、三三九、地勢、本郡は渡良瀨利
根二川の間に介在せる低平の地にして、
近藤沼、多々、真沼、板倉沼等池沼多し。地
質は殆ど第四紀古層より成り、唯二川の
沿岸第四紀新層を見る。國內屈指の農業
地にして、織物の産多きのみならず、米穀
の産豐なるを以て知らる。就中茶葉は國
内第一に位す。道路は日光別街道館林を
貫きて南北に通じ、鐵道は東武鐵道館林
を經、東京、足利間を連絡す。且つ二川の
水便大なり。物産は米、五萬七千石、麥、大
豆、一万五千石、粟、蕎麥、甘藷、青芋、蘿蔔、
果實、製茶、繭、二九萬圓、織物(一二五萬
圓)、五機織製粉、六四萬圓等あり。邑
樂は和名抄波良岐と註し、池田、正田、
八田、長柄の四郷を載す。蓋し當時は巨流
の滯溜し、池澤地たりしなるべし。享保以
後オウラと訓じ、今に至るも之に従ふ。
【文籍】群馬縣邑樂郡町村誌材料同郡
役所所蔵。群馬縣邑樂郡案内誌群馬
縣土産協會共進會同郡協賛會所蔵。

オウラシマ(大真島) 伊豫國北宇和郡奥
南村に屬する島周圍一里三三町其西南
岬を大真島といふ。
オウラ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウラシマ(大真島) 伊豫國北宇和郡奥
南村に屬する島周圍一里三三町其西南
岬を大真島といふ。
オウラ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウラシマ(大真島) 伊豫國北宇和郡奥
南村に屬する島周圍一里三三町其西南
岬を大真島といふ。
オウラ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウラシマ(大真島) 伊豫國北宇和郡奥
南村に屬する島周圍一里三三町其西南
岬を大真島といふ。
オウラ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウラシマ(大真島) 伊豫國北宇和郡奥
南村に屬する島周圍一里三三町其西南
岬を大真島といふ。
オウラ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウラシマ(大真島) 伊豫國北宇和郡奥
南村に屬する島周圍一里三三町其西南
岬を大真島といふ。
オウラ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウラシマ(大真島) 伊豫國北宇和郡奥
南村に屬する島周圍一里三三町其西南
岬を大真島といふ。
オウラ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウラシマ(大真島) 伊豫國北宇和郡奥
南村に屬する島周圍一里三三町其西南
岬を大真島といふ。
オウラ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウラシマ(大真島) 伊豫國北宇和郡奥
南村に屬する島周圍一里三三町其西南
岬を大真島といふ。
オウラ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウラシマ(大真島) 伊豫國北宇和郡奥
南村に屬する島周圍一里三三町其西南
岬を大真島といふ。
オウラ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウラシマ(大真島) 伊豫國北宇和郡奥
南村に屬する島周圍一里三三町其西南
岬を大真島といふ。
オウラ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。
オウ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。
オウ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。
オウ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

オウ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。
オウ(尾浦) 長時 對馬國下縣郡に在
りし村明治四十一年與良村に入る。●
【山形】羽前國西田川郡大山町の舊稱。又
大浦に作る。

隔つ相距離僅に四、五町、東西一里九町、南北一里、周囲四里三町、面積四八四町歩、四面絶壁にして、樹木少く、水に乏しがらざれども、泊舟の地なきを以て人栖息せず。洋人はホツ島と呼ぶ。弟島は兄島の北に在り。東西二〇町、南北一里九町、周囲四里三町、面積四八四町歩、土地肥沃にして平地多く、樹木茂り、溪流あり。耕地六九町歩に上る。甘蔗、里芋、甘藷、香蕉、鳳梨、檸檬を産す。...

肥沃なれども好泊舟地少く、住民も父島列島に及ばず。母島は列島中の最北に在り。東西一里二六町、南北三里、周囲一四里一九町、面積二四一町一反、地味肥沃、樹木繁茂す。唯真港に乏しきを以て、父島の如く盛なるに至らず。島の東岸に在る最高山を乳房山といひ、形乳房に似たり。高一四七尺、島の東側は總べて断崖にして、野芭蕉、棕櫚等叢生す。西側に沖港、北に北港、東に東港あれども、皆安全ならず。島内に沖村、北村二村あり。...

す。合三三三。●滋賀 近江國栗太郡津村大字岡本の古名勢多の古驛路に沿ひ、歌の名所なり。あつま路に春やきぬらん近江なる、岡田が原に若菜つむなり。●續拾遺集 見波せば尾花かたよりさざなみや、岡田が原に秋風そふく。●天木集 ●長野 信濃國東筑摩郡の村、松本市街の北一里なる山村なり。式内岡田神社あり。合三三三。●岡山 備中國吉備郡の村川邊驛に接せる地にして、もと下道郡役所を置きたり。警察分署あり。此地は舊伊東氏一萬三百石の治所なり。慶長五年伊東(丹後守)長實此所に封ぜらる。長實は豊臣氏黄旗七隊長の一人なり。大坂冬・夏二役に従ひ、後高野に墮る。徳川氏赦して此所に置く、子孫相承して明治維新に至る。合三三三。●香川 讃岐國綾歌郡の村、合三三三。●愛媛 伊豫國伊豫郡の村、合三三三。●廣島 安藝國佐伯郡の村、合三三三。●大分 豊後國大野郡の村、合三三三。●大野川 支流緒方川に沿ひ、中古緒方氏本據の地なり。緒方氏の祖を大神良臣といふ。豊後介に任ぜられ、頗る治績あり。子孫此所に居り、二門齋與諸郡に布き、...

く、合三三三。●滋賀 近江國栗太郡津村大字岡本の古名勢多の古驛路に沿ひ、歌の名所なり。あつま路に春やきぬらん近江なる、岡田が原に若菜つむなり。●續拾遺集 見波せば尾花かたよりさざなみや、岡田が原に秋風そふく。●天木集 ●長野 信濃國東筑摩郡の村、松本市街の北一里なる山村なり。式内岡田神社あり。合三三三。●岡山 備中國吉備郡の村川邊驛に接せる地にして、もと下道郡役所を置きたり。警察分署あり。此地は舊伊東氏一萬三百石の治所なり。慶長五年伊東(丹後守)長實此所に封ぜらる。長實は豊臣氏黄旗七隊長の一人なり。大坂冬・夏二役に従ひ、後高野に墮る。徳川氏赦して此所に置く、子孫相承して明治維新に至る。合三三三。●香川 讃岐國綾歌郡の村、合三三三。●愛媛 伊豫國伊豫郡の村、合三三三。●廣島 安藝國佐伯郡の村、合三三三。●大分 豊後國大野郡の村、合三三三。●大野川 支流緒方川に沿ひ、中古緒方氏本據の地なり。緒方氏の祖を大神良臣といふ。豊後介に任ぜられ、頗る治績あり。子孫此所に居り、二門齋與諸郡に布き、...

時強盛なり。大友氏入國以來漸く衰ふ。合三三三。●南緒方 村を見よ。●長崎 對馬國下縣郡に在りし村、明治四十一年船越村に入る。●兵庫 播磨國神崎郡川邊村の大字、一小驛を成し、船居村の停車場に接す。郵便局あり。●京都 丹後國加佐郡の村、合三三三。●和泉國泉南郡に在る大井川下流の稱。●オカタカワ(緒方川) 豊後國に在る川、水源、祖母岳の北麓、源流を門田川といふ。東北流して倉木川を合せ、沈瀝瀧に至り、大野川に入る。流程六里二一町。●オカタダン(岡田郡) 茨城 下總國に在りし郡、鬼怒川西岸の産地にして、舊豊田・北相馬・猿島・結城四郡に圍繞せられたる狭長の地なり。面積約七方里、安靜、大形岡田飯沼菅原大花羽、豊岡の七村ありしが、明治二十九年廢して結城郡に合す。岡田の郡名は古し。但し和名抄民部省式及伊呂波字類抄に豊田ありて岡田なく、神名式には岡田ありて豊田なし。民部省式頭註には、延喜四年十二月十日下總國岡田郡を改めて豊田郡とすと記す。爾來久しく岡田の郡名を缺きしが、貞享三年豊田郡を割きて岡田郡を置き、爾來二郡併立せり。而して岡田は和名抄豊田郡岡田飯沼大方三郷に當るが如し。●オカタシモ(岡田下) 京都 丹後國加佐郡の村、合三三三。

那の村、由長川に跨る。大字大川に式内の古社大川神社あり。保食神を祀る。顯宗天皇元年の創建といふ。境内幽靜、合三三三。●オカタナカ(岡田中) 京都 丹後國加佐郡の村、合三三三。●オカタマ(岡田山) 備後國豐三郡川西村に在る山、登路二五町。●オカタチン(雄勝郡) 秋田 羽後國九郡の一、四境、北は平鹿郡、西は由利郡、南は羽前國最上郡、東は陸前國栗原郡及陸前國西磐井郡、和賀三郡、東西一八里、南北八里、面積五七方里三九行政上、湯澤岩崎稲庭横堀院内、西馬音内の六町及辨天・幡野・東成瀬・西成瀬・駒形川・連三梨・皆瀬・三關・須川・小野・秋ノ宮・山田三輪・元西馬音内、新成、明治田代、仙道の一九村に分ち、郡役所を湯澤町に置く。合三三三。●地勢、本郡は駒ヶ嶽火山の西北陸、御物川上流の地にして、東南西三方は山岳峙てども、北の一方は平鹿仙北に互れる。御物川平原の一部を成し、地味栽桑に適し、國內第一の養蠶地たり。郡内温泉多く、小安湯ノ湯、湯ノ湯、大湯、湯ノ川、原毛、泥湯の諸泉あり。有名なる院内銀山は郡の南西隅に在り。道路は國道郡の中央を貫き、南北

に通じ、湯ノ湯、院内二驛を置き、鐵道亦之に沿ひて走り、湯ノ湯、横堀、院内三驛を置き、其他横堀より陸前國に入る鬼首街道、由利郡本庄に通ずる本庄街道あり。農産物の主なるものは米(八萬石)大豆、粟、馬鈴薯、葉菜、漆汁、柿、葉煙草(二萬七千圓)、繭(二五萬圓)、蠶絲(三六萬圓)にして、葉煙草は縣下産する所本縣のみ、繭は産額多きこと縣下第一なり。畜産は陣馬、養蚕、桑ノ澤、新田山湯尻村下等の牧場あり。牛七三頭、馬三三三四頭を飼養す。林産物二萬一千圓、鐵産は院内田子内等の鐵山より出づるもの、製鍊高金四〇〇〇〇〇、その他湯尻澤より出づる硫黄六萬斤あり。工産物は織物、漆器(四萬圓)あり。雄勝は古男勝又小勝に作り、歴史上に見ゆ、建て、郡となし、は天平五年に在りすとす。中世平鹿山本と合して山北郡の稱あり。寛文年中復舊す。和名抄乎加知と註し、雄勝、大津中村、餘戸の四郷を載す。●オカトマ(岡田) 宮城 陸前國桃生郡十五濱村の大字、雄勝濱頭に在り。鹽田あり。又芝石と呼ぶ硯材を出す。此は石盤石又は石瓦にも用ひ、世に雄勝石と呼ぶ。中世代の粘板岩なり。郵便局あり。●オカトミ(岡田) 宮崎 日向國東臼杵郡の村、延岡町の西に接し、東海灣に臨む。郡役所所在地とす。阿賀多神社あり。舊英田郷の遺稱とす。神利齋、雲寺あり。元和二年南林寺の改稱といふ。合七三三。

オカタナカ(岡中) 大阪 和泉國泉南郡北信達村の大字、此地に瀧岡あり、丘上悉く鰐淵にして、花時來遊者多し。●オカタナカ(男鹿中) 秋田 羽後國南秋田郡の村、合三三三。●オカタナカ(岡波太) 千葉 安房國安房郡長狭郡太海村の大字、曾呂川の外洋に注ぐ所に在り。其東を波太岬といふ。岬邊に仁右衛門島(波太島)あり。是より以東島嶼散布し、慈濟岩石を嘯む。●オカニシ(陸西) 奈良 大和國北葛城郡の村、合三三三。●オカノ(岡野) 兵庫 丹波國多紀郡の村、合三三三。●オカノ(小野) 埼玉 武藏國秩父郡の町、大宮町に亞げる秩父の大字にして、荒川の支流赤平川に沿ひ、警察分署郵便局等あり。大宮町を距る四二里。中世丹黨の一派小野野氏居り。合三三三。●オカノマチ(岡野町) 新潟 越後國羽後郡高柳村の大字、黒姫山の東麓、石川の支流に沿ひ、一小市街を成し、警察分署郵便局あり。柏崎町を距る六里。東頸城郡松之山地方に至る要路なり。此地に黒姫明神の祠あり。又如意輪觀音堂あり。當國九番の札所にして、俗に黒姫明神の本地佛と稱す。●オカノミナト(岡水門) 筑前國遠賀郡芦屋浦の舊名、神武天皇東征の時、筑紫岡

文籍 岡山縣地理一冊(山本頼輔)岡山縣統計書 岡山縣名所案内 一冊(香澤共進會)岡山縣管内全圖(岡山縣)美作備前備中土性圖(農商務省)地質調査所

オカヤマシ(岡山市) 備前國の市。山陽道第二の都會にして、もと池田氏三十萬石の城下なり。東は上道郡南西北の三方は御津郡に接し、旭川其東部を貫流す。東西二〇町南北一里町數八四。最

備前美作四十七萬石を食み三位中納言に至れり。關ヶ原役大に敗れ、薩摩に走り、後八丈島に流竄せられて死す。小早川秀秋徳川氏の封を受けて此に治し、備前備中五十一萬石を領し、慶長七年病死。嗣なきを以て除封。八年經路城主池田輝政に備前三十一萬石を加封せらる。十八年輝政卒し、二子忠繼に岡山城三十一萬石を賜ふ。忠繼卒し、弟忠雄之を承け、其子光仲に至り因幡に移封せられ、輝政の孫先政利隆の子岡山に入る。寛永九年なり、爾來子孫相承け明治維新に至り廢城となり、今僅に天主閣を存す。城内に歩兵第十七師團司令部第三十三旅團司令部、歩兵第五十四聯隊騎兵第二十一聯隊野砲兵第二十三聯隊山砲兵第二大隊工兵第十七大隊輜重第十七大隊を置く。遊園一、公園二あり。遊園を後樂園公園を亞公園遊樂園といふ。後樂園は朝日川を隔て、市の東北に位し、古京町に屬す。面積三萬二千五百四十四坪、朝日川の水を引き、樹石を排置し、風致を極む。貞享年間池田綱政の創設せる別墅にして、明治十七年四月二十二日縣有に歸し、縣廳附屬地とす。水戸の借樂園金澤の銀六園と並稱せられ、海内屈指の名園とす。亞公園は弓ノ町天神山に在り、明治十五年の新設にして、面積千五百坪中に集成園と稱する七層園あり。高八十尺。全市の勝概を望むべし。備前國は東郡三權村に在り、一雄の丘陵三權山といふ園林を成し、眺望

に富む。東照宮、玉井宮、三動神社、和氣清磨兒島高徳楠木正行を祀る。招魂社、明治十年西南役戦死者を祀る等あり。縣社酒折神社は石關町に在り。又岡山神社といふ。舊城山に在りて岡山大明神といへり。天正元年宇喜多直家築城の際今の地に移す。秀家の時寶殿を造り、小早川秀秋拜殿を造り、池田家の時社領三百石を附す。貞觀年中甲斐國酒折宮より勸請せるものにて、日本武尊を祭るといふ。伊勢神社は小畑町に在り。延喜式の古社なれども祭神等詳ならず。禪宗、國清寺は小畑町に在り。池田氏の廟寺なり。慶長年中池田利隆創建、光政再修。舊寺領二百石。日蓮宗、昌寺は東町に在り。正平年中松田元實法號蓮昌創建、四日蓮宗最初の道場と稱す。舊寺領六十石。宇喜多氏は五百石を附せる巨利なり。岡山寺は磨屋町に二利並存す。舊城山に在りしを宇喜多氏築城の際移轉し、慶安五年寺僧爭論ありて兩分せり。報恩大師四十八所の一なり。日蓮宗本行院の寺内に小早川秀秋の墓あり。眞言宗、師院は磨屋町に在り。宇喜多秀家の建立に係る。物産は紡績絹絲及綿絲若干、花簾、疊表、織物、四二萬圓、内縮フナネ一〇萬圓、足袋一八萬圓、油類和紙(四五萬五千圓)、糠詰瓦、清酒(二八萬圓)、醬油(一萬圓)、其他把製製品、貝類、石鹼、玻璃製品、煉瓦、陶磁器、乾餾純等あり。又熊野、野、黄、鐵、手、金、影、彫、刺、等も名あり。商業は勿論第一にして、管外

輸出一〇八九萬圓、輸入一五六〇萬圓あり。輸出は米、綿織物、線、銅、花簾、疊表、洋紙、煙草、材木を主とし、輸入は米、魚、食糧、酒、砂糖、絹織物、綿織物、疊表、石油、石炭、肥料、洋小間物、洋紙、藥、種、草、材木等とす。岡山の名は由来甚だ久し。今の城山の山麓に坂折酒折と稱する小祠あり。此を岡山殿といへり。又城内二ノ丸に金光山岡山寺といふ古刹あり。又此邊岡山、石山、天神山の三丘あり。北陸に出石郷あるの外は三面皆海、水噴野なりしもの、如し。宇喜多直家石山を經營して居城となすに及び、民家次第に四市、二日市、七日市、四日市、大炊、取、市、今川崎町等に立ち、遂に都會を成せり。オカヤマシ(小川原) 陸奥國上北郡に在る湖、海岸湖にして、東西一里半、南北四里半、周圍一里、其東端は外洋に通ず。沼中鯉、サカ、鯉、蝦、イト等を出し、殊に鯉は名産にして、北海道に輸出するもの甚だ多し。冬季は又遊獵に適す。オカワ(小川) 【東京】武藏國北多摩郡小平村の大字。田無、青梅間及府中川越間の街道の交叉する所なり。鐵道中央東線川越支線の停車場あり。國分寺驛より三哩一九鎮此邊は武藏平野の中にして、滿目陸田なり。鎌倉より陸奥への古街道は府中より之を経て久米川に通じり。【兵庫】丹波國水上郡の村。もと庄名なりしを傳じて村名とす。眞言宗、石龍寺は大字井原に在り。土俗名屋と稱す。本陣は親

世昔天正の兵亂、後寛永年中再興す。奥院を毘沙門洞といひ、秘密の靈廟とす。觀應年間足利尊氏都を落ち、嫡子義隆は仁木兄弟を従へ、此所に籠る。衆徒無二の志を存せる上に、萩野波々伯部久下、長澤等皆隨參じければ、小川庄三百町を寺領に寄せし事、大平記に見ゆ。合三三三。【埼玉】武藏國北金郡の町。郡の西隅、槻川の峡谷に居り、秩父郡への要路に當る。警察分署郵便局等あり。居民多く抄紙を業とし、又素麵を出す。山間の名邑なり。八百三三三。【群馬】上野國利根郡榎野村の大字。利根川に臨む。城址あり。戰國の頃は沼田の支城なりしが、武田勝頼上州侵略の時落城すといふ。【茨城】常陸國東茨城郡の町。關郡川の霞浦に注がんとする所に在りて、新治郡界に接する一市街なり。霞浦の水利ありて運漕業行はる。警察分署郵便局等あり。小川城址あり。建久年中下河邊政平の築く所にして、二子政義初めて小川氏を稱し、地頭たり。戰國の頃は關部兼泰此所に居る。天文年中宮内大輔(名缺)大棟及小田氏と隣あり。屢相戦ふ。關部狀と稱するものあり。此家の事を傳ふ。合三三三。【栃木】下野國那須郡那珂村の大字。那珂川の岸に沿ひ、郵便局あり。那須氏の居城ありし所に、同氏の祈願所、泉神社あり。【奈良】大和國吉野郡の村。合三三三。【愛知】三河國碧海郡に在りし村。明治三十九年櫻井村に合す。矢作川の北岸に沿ふ。此地に

石川水多兩氏の城址あり。水多は後佐渡守正信となり。石川は日向守家成となる。共に徳川氏の功臣たり。【滋賀】近江國高島郡青柳村の地名。今上下二大字に分る。中江藤樹の講堂なりし藤樹書院あり。書院は四間に八間、茅葺の一字なり。傍に小祠あり。藤樹の神主を置く。【長野】信濃國舊水内郡の舊庄名。今南北二村に分れ、上水内郡に屬す。龜山山の南麓、小川瀬戸川といふ、犀川支流の岸に沿ふ。【福島】岩代國耶麻郡の村。合三三三。【巖手】陸奥國下閉伊郡の村。合三三三。【山口】長門國阿武郡の村。石見國に接する山村にして、田萬川に沿ふ。郵便局あり。此地は延喜式の山陰道の終驛にして、當時は宅佐より小川に出で、石見に出でたり。合三三三。【和歌山】紀伊國那賀郡の村。郡の南端にして、有田郡に接する山村なり。天野川、野上川此所にて會流す。南嶺は即ち生石峯なり。合三三三。【高知】土佐國吾川郡の村。合三三三。【熊本】肥後國下益城郡の町。砂川を隔て、八代郡吉本に接す。熊本鹿兒島間の國道に當る一驛にして、熊本を距る南八里。鐵道九州線の車驛は河江村に在り。又郵便局あり。驛の東南なる山頭に、小川城址あり。征西將軍榎本親王守山御所に、座し、名和願興守護し奉るといふ。此城の事ならんとの説あり。天正年中島津氏の臣松浦久次此城を以て豊臣秀吉に降り、先鋒となり、附近五百町を賜はり、舊城に居る。合三三三。

一三三。【福岡】筑後國山門郡に在りし村。明治四十年瀬高町に合す。オカワ(緒川) 【愛知】尾張國知多郡に在りし村。又小川に作る。明治三十九年東浦村に入る。堺川を隔て、三河の刈谷吉田に對す。治承以來水野氏の居りし所なり。下野守元信は織田松平二氏に對立せしが、天正三年信元横死し、其弟忠守等は松平氏に仕へ、子孫譜侯となる。信元の妹は即ち徳川家康の生母なり。此村に文明年中水野貞守の建てし乾塔院といふ大刹あり。此地一に卯ノ花ノ里と呼ぶ。後徳大寺左大臣の歌に、「白浪のかゝる汀と見えつるは緒川の里にさける卯の花」と詠めるに因るなるべし。オカワ(尾川) 【高知】土佐國高岡郡の村。合三三三。オカワ(小川) 大和國吉野郡に在る川水。源、高見山。源流を高見川といふ。西流して、鷲家川等を容れ、國標村に至り、川上川と合して吉野川となる。【大和國吉野郡】十津川村に在る川。一に旭川といふ。水源、禪迦岳。西流して、大字旭村を過ぎ、十津川に入る。【越中】越中下新川郡に在る川。水源、横山峠。西流して、諸溪水を集め、北折して舟川を合せ、日本海に入る。舟楫の便なし。年魚、鮭、鱒を産す。流程四里。オカワ(雄川) 大隅國肝屬郡に在る花瀬川の一。オカワ(オンセン) 小川温泉。【富山】越中下新川郡山崎村の山中に在る温泉。上

湯下ノ湯の二泉あり。一は炭酸泉にして、一は鹽類泉なり。宿舎十三。毎年三月浴場を開き、十二月閉つ。近年浴客頗る増加し、一年一萬五千人に及ぶ。秋季を最も多しとす。舟見町より東南三里。オカワ(小川) 【三重】伊勢國度會郡の村。合三三七。オカワ(小川島) 肥前國東松浦郡に屬する島。呼子村の海上六里。唐津灣の西角、禿毛岬の北々三里に在り。一低島にして、周圍一里一町。其東部最も高く、圓山を成し、急に四方に垂下して、平坡となる。此島は國內屈指の捕鯨地にして、初春に始め仲春に終る。捕獲の數一年平均二十餘頭。價格六萬圓に及ぶといふ。オカワ(小川里) 【兵庫】播磨國に在る舊蹟。播磨國風土記に出づ。其地今飾磨郡花田谷外谷内の三村に當る。花田の大字に小川の名存す。本名を私里といへり。私部之弓束等の祖田久利君居りしを以てなり。オカワ(小川濱) 【石川】加賀國石川郡宮保村の大字。松任町の西なる海岸とす。壽永二年源平の戰に平氏大敗して此地に走り、暗夜暴風雨に會し、溺死するもの多かりしといふ。オカワ(小川町) 【東京】武藏國東京市を見よ。オキ(沖) 【北海】後志國余市郡余市町の字。郡の北西端にして、古平郡沖(古平町)と相隣す。【北海】後志國古平郡古平

伊平屋島の北端 東經一二二度四五分 一八度一分 北緯二四度六分 二七度四分 沖繩群島は島の北部にして、十

Table with 12 columns: 月次氣壓, 風向, 雨量, 産物, etc. It lists monthly weather data and agricultural products for Okinawa.

なしたるにより、舊琉球藩は他の食料作物の缺乏を来さんことを虞れ、甘蔗栽培に制限を附せり。明治二十年其制限を廢せしより、水田の蔗園となるもの漸く多

けれども、漁撈の法宜しからざると暴風 屢起り海上危險多きを以て發達せず。 明治三十八年の漁獲物二一萬圓にして、

は伊平屋島の北端 東經一二二度四五分 一八度一分 北緯二四度六分 二七度四分 沖繩群島は島の北部にして、十

如く緩く結び、戒用又は木製の太き替な 倒に挿し(土族の女は銀簪を用ふ、替の

ば、或は彼に朝貢し、或は我に附庸し、半 ば獨立國の體面を維持し來り、支那は日

冊封を受く、山南山北の二王亦明に入貢 す。元中七年先島列島初めて中山に内附

勢險峻にして高峯あり、深谷あり、樹林多
く、河流に富む。然れども山急にして、耕
地少く、交通極めて不便なるを以て、人口
稀少、住民は半ば農に、半ば林業に従事
す。故に一に山原の稱あり、蓋し山家の義
なり。山脈は島の中央より稍西に偏し、東
北より南西に走り、恩那名護久志伊部
與那覇西銘の高峯を連ね、其西北側は急
斜して海に入り、麗絶大の断崖を成す。東
南側は傾斜愈ならず、其北半は臺地状を
成し、一百尺乃至三百尺の絶壁を成して
海に臨み、南半は緩斜面を成し、沿岸に平
地を存す。而して單調なる西海岸を破り
て西に突出する本部半島あり、中に嘉津
字岳(二五七尺)の高峯あり、石灰石よ
り成る。而して國頭主部の古生層は粘板
岩、砂岩、輝片岩、角閃片岩及チャールス
インより成り、是等の岩層を被ふて本部
半島を成せる石灰岩の厚層あり、西
岸の低地には第三紀層及隆起珊瑚礁あり
り所々に發達す。中頭、島尻地方は全島
殘三分一を占め、地勢大に國頭と異り、波
狀の起伏を成せる第三紀の小丘及隆起
珊瑚礁より成る。而して珊瑚礁は必ず臺
地を成し、其縁邊は急壁を成して、岩骨露
出し、沖繩松及蘇鐵の外他の樹木の繁生
することなし、臺土は土層厚からず、且つ
脊せたりと雖も、蔗園、諸園相連る。河流
は水に乏しく、水あるも濁水、足をたも洗
ふに勝へず。此地方の第三紀層は第一青
砂岩、輝片岩、角閃片岩、砂岩、粘板岩

板泥岩と青色マール質板泥岩との細き
互層、第三、細粒赤褐色の砂岩より成る。
最後の砂岩中には麗青色石灰質の堅き
砂岩塊を包む土俗之をウジマと稱す。此
第三紀層は斷層褶曲を成し、成層後
に造山的變動を受けたる明證あり。走向
は大體首里を中心とし、一大彎曲を成す
もの、如く、傾斜は稍緩なりとす。此第三
紀層の分布より見るに、中城灣の沿岸よ
り島尻の中部に至る間は、第三紀地盤の
最も隆起せし部分にして、隆起珊瑚礁は
此隆起部を中心として四方に發達せり。
前記臺地を成せる珊瑚礁の厚は約三〇
尺を出でず、其基盤たる第三紀丘陵の大
部分、尙未だ水面上に出でざりし洪積期
に當り、其海岸に縁礁或は堡礁となりて
發達せしものにして、其後地盤の一般隆
起作用起り、終に辨々嶽の如く約六〇〇
尺の高さまで隆起するに至れるなり、而
して其幅員の大なるものは殆ど水平な
る臺地を成し、上表面は厚數尺に達す
る特有の風化した土のマーザにて被はれ、
甘露の栽培地として耕作せらるるれども、
臺地の縁邊は概し數十尺の断崖を成し、
一段低き臺地に終る。而して幅員の大
ならざるものは、第三紀丘陵の山側を縁付
けたる縁礁の如き状を成し、臺地を作ら
ずして他の部分より突出し、小山脈の形
を成す。次に珊瑚礁臺地に特有なる石
灰洞と槽穴とにして、沖繩島に最も名
高き普天間の岩窟の如きは其特例なり。

標鉢穴の著しきものは、島尻南部の玉城
村具志頭村の臺地に多く、玉城城址の西
麓及具志頭のカラカラ穴の如きは最も
著名なり。此の如く珊瑚臺上には所々溝
鉢穴あり、又隙隙ありて、地上の水は常
に地下に滲入し去るを以て、臺土にては一
滴の井水だも得ざることを多し。然れども
臺地の崖壁には珊瑚礁と第三紀地盤と
の間に水の湧出すること少からず。有名
なる首里城内の龍徳瑞水及那覇市外の
落平徳の如き此例なり。

にして、最も珊瑚の生長に適す。但し其よ
り北なる島陰は然らず。此珊瑚礁の發達
は大に本島の港灣に利害あり。現に那覇
港の如き、其港口に珊瑚礁の繁生甚だし
く、終に汽船の出入には唐船口と呼ぶ一
條の水路のみとなれり。

地にして、夏秋の交には麗大颶風に襲は
るゝことあり、又近海には麗龍巻を起し、
疾風驟雨を伴ひ、農作物に大害を及ぼす
ことあり。故に土人は之を恐るゝこと甚
だしく、家を繞らすに高き石牆を以てし、
苦熱を忍びて風害に備ふ。

す。農作物中産額最も多きは特産の琉球餅
(通常薩摩餅と稱す)にして、那覇を主要
の産地として、四、五年前までは其總價額二
〇萬圓に上りしが、三十八年に於ては九
萬圓に過ぎず。餅に次ぎ盛なるは琉球袖
にして、産地により首里袖久米島袖等の
別あり。三十八年の産額一萬圓なり。酒類
として沖繩特有の泡盛及諸焼酎あり。
泡盛は五萬石(價格一〇萬圓)にして、釀
造家の最も多きは首里なり。又餅の染料
泥藍は國頭地方に於て製す。特産の漆器
は専ら那覇にて製し、價格一萬七千圓に
上る。又近年阿貝の葉を晒して夏帽子を
製するの業大に起れり。

は飯七蛇餅を備ふて之を捕獲しつゝ、あ
れども、彼等は概し石牆内に匿れ、日中
外に出づること稀なるを以て、容易に之
を驅除するを得ず。長く琉球に在るも飯
七蛇を見ざる者多し。人往々琉球には該
蛇到る所に匍匐して、人畜を害する如く
傳ふは事實にあらず。又室内には蓋蟻及
赤蟻多く前者の害は殊に甚しく、如何な
るものをも咬傷し、就寝後食物の附着せ
る指頭を咬まるゝことありといふ。

オキネツツ(沖根邊) 【北海】根室國花咲
郡の村。原名オキネツツ(大川尻の義)の
訛なり。白三三。

に黒砂糖あり、全島糖業(三六三三)。
オキノオウアカリシマ(沖大東島) 琉球
 國琉球列島大東群島の一。南大東島の南
 方約九〇哩。周圍一里餘。住民なし。明治
 卅三年沖繩縣所管となり、島尻郡に屬す。
オキノカミシマ(沖ノ神島) 琉球國八重
 山列島中の一島。ナカノオガミ又單にオ
 カミ島ともいふ。西表島(八重山列島)の
 西角、八重目岬の南西南八哩半に在る岩
 嶼にして、東西に長く高三〇〇尺あり。青
 草繁茂し、四側險崖、陡界にして、水深直
 に十餘尋あり。唯西角に於ては水稍淺し。
 此島には海鳥群集し、毎年六、七月の頃西
 表島の人民渡來し、海鳥の卵を拾集し、食
 料に供すといふ。

大日海峽の三口を以て外海に通じ、内海
 には浦郷、別府、釜浦の如き良港あり。
山系 内海の中央部に焼火山峙つ、而し
 て島前諸島の地は、大部輝石富士岩より
 成り、唯焼火山の南半は流紋岩より成り、
 又中ノ島には、諸所に玄武岩の小露出あ
 り、是等諸島の地形を觀るに、焼火山を中
 心とし、北に向へる側は急峻にして、外側
 は緩斜し、裾野状を呈せるを見る。即ち此
 三大島は、一の二重式火山の殘片にして、
 焼火山は、火口丘、三島は外輪山たるを察
 するを得。但し、歲月久しく、風水の作用を
 受け、甚しく侵蝕せられ、火山たるの特相
 を缺けり。島後は島前諸島の東北に在り、
 數多の峯巒群起し、其最高峰を島の北部
 なる大峰山(二二〇〇尺)とす。此より山
 脈南に延び、西に屈して、横尾山(二八九
 六尺)となり、更に南に延びて、境鏡山(一
 六二〇尺)となり、次第に陸奥して、南海
 岸に終る。又大峯の東南にて分る、ものは
 尾尾山(二七三二尺)鷲ヶ岳(二八三八
 尺)大嶽寺峯(二二三二尺)となり、此より
 山勢次第に低く、西郷海に終る。本島の地
 盤は片麻岩及第三紀層を基礎とす。これ
 も、後富士岩流紋岩及玄武岩迸發して、基
 盤を破り、大嶽寺峯の如き、最後に噴出
 したる玄武岩より成り、其岩層は遙に流
 れて、西郷町後背の臺地を作れり。

著しき港灣は、西北の福浦灣、西南の都萬
 灣、東南の西郷灣とす。西郷灣は最も安全
 なる錨地にして、北海要港の一たり。海岸
 は概して險崖を以て水に接し、數多の岩
 礁岸に近く散在す。
氣候 北海中に在れども、其北方に對馬
 暖流を受け、氣候却て溫暖なり。明治四十
 一年周吉郡八田に於て、極暑攝氏三五度
 五、極寒零下三度五、而して氣温の氷點
 以下に下りし初は十一月十六日、終は四
 月二十九日なり。
都會 周吉郡西郷町(六四六〇)の外記す
 べきものなし。
産業 居民多く漁業に従事し、就中烏賊
 漁は有名にして、隠岐島の名遠く海外に
 聞ゆ。又椎茸馬及杉樅の良材あり。農産
 物は甚だ僅少なり。米(二萬石)麥(二萬
 石)大豆(二萬石)、油、鹽、物(二三萬石)内
 柔魚(一三萬石)、其他は、鯛、鱈を主とす。林
 産物(二〇萬石)内、椎茸一萬六千圓、又馬
 現在數一〇二頭なりとす。
沿革 神代紀に倭使洲に作り、古事記に
 は、次生隱岐之三子島亦名天之忍許呂別
 と見ゆ。後、國府を周吉郡に置く。建久四
 年源賴朝全島を佐々木定綱に授け、次で
 其弟義清をして、出雲の守護を以て兼領
 せしむ。承久三年後鳥羽法皇北條氏を討
 て克たす。義時法皇を海士郡に遷す。後十
 八年を經て、元弘二年北條高時後醍
 醐天皇を知夫郡別府村に遷す。明年天皇
 伯耆に遷幸あり。王師起り、北條氏滅
 るものと傳ふ。

出雲守護鹽治高貞之を兼領す。高貞
 死の後、足利尊氏全島を佐々木高氏に加
 賜す。正平年中山名時氏全島を略取し、其
 孫氏之に傳ふ。元中七年足利義滿氏之の
 封を收め、高氏の孫高詮に賜ふ。高詮乃ち
 島の豪族隱岐氏を以て守護代とし、周吉
 郡宮田に居らしむ。大永天文之際、同族相
 争ひ、戦止まず、隱岐清政を尾手經久に
 乞ひて、島内を平定し、終に尾手氏に屬す。
 孫爲清に至り、尾手氏滅び、毛利氏に附す。
 永祿の末、尾手氏復を圖り、故黨を慕
 る。爲清之に應じ、戰敗れて自殺し、其弟
 清家代り、天正十年從子經清に試せらる。
 毛利氏の兵經清を誅し、成を八尾に置き、
 後吉川廣家を分封す。關ヶ原役後、徳川氏
 廣家の封を收め、堀尾吉晴に加賜す。孫忠
 晴に至り、肥後守。京極忠高之に代り、嗣
 なくして、除封。爾後出雲領主松平氏島事
 を管攝し、明治維新に至る。王政革新後、島
 取藩をして之を管せしめ、尋で隱岐縣を
 置き、縣にして廢して、大森縣に合せ、後更
 に島根縣より兼治す。
文籍 隱岐觀禮合記、寫本二冊。隱
 岐誌、一冊(小泉憲實、明書堂)。
オキノコシマ(沖小島) 大隅國始良郡
 分村の南十餘町の海上に在る岩礁。三嶼
 あり。其二是高三三〇間。周圍六十間許。
 一は低平にして、稍大なり。宮ノ洲と呼
 ぶ。もと大穴持神社ありしより、此名あり。
 共に天平寶字八年櫻島噴火の時現出せ
 るものと傳ふ。

オキノシマ(沖島) 近江國琵琶湖の
 島奥ノ島の北に横はり、東西三町、南北
 十四町、漁夫多く住居す。蒲生郡島村に
 屬す。延喜式、津島神社あり。

主典の一人、使部一人、加子五人を派し
 て定番せしめ、百日毎に交替す。藩政の頃
 は足輕三人、船手四人をして守らしめ、百
 日交替とせりといふ。島に登れば、崖際
 り峻坂あり。石階二百三十級、其左右に
 蘇鐵繁茂す。社の左右には高三丈許の大
 磐石數箇聳立し、其間に喬木鬱生す。左の
 大岩の下に空洞あり、古來の神器祭器を
 藏む。たつ波に鼓の音を打そへて、から
 人よせの澳の島守(夫木集、顯仲)。

りて、外客の應接に供せり。弘安の役に太
 宰少貳景資、此所を堅めて、一同に合戦す
 べしと相觸云々と、竹崎五郎繪調に見ゆ。

頭、取置價格一萬六千圓に上る。水路誌
 云、荻伏鼻はシリト鼻の南東約三哩に
 在る草生角にして、鼻頂高二六八呎、遠望
 顯著なり。鼻の北西一哩餘に干出一呎の
 岩灘あり。又鼻の南方三哩半に崎あり。
オキベ(意岐部) 【大阪】河内國中河内舊
 若江郡の村、和名抄川俣郷の一部にし
 て、延喜式内意岐部神社あり。合志〇。

オキノシマ(沖ノ島) 丹後國香島の一
 名。●紀伊國「友ヶ島」を見よ。●土佐
 國幡多郡の西南海上に在る島。古の妹兒
 島なりといふ。姫島周圍一里、鶴來島周
 圍二里三町を合せて、今沖之島村を成
 す。此島は押目崎を距る西南三哩、南北に
 長く、島峯高一三〇六尺、其南角を柳ヶ鼻
 といひ、北角を赤崎と呼ぶ。海岸は四個
 一、二の磯濱の外は險峻にして登るべか
 らず。島内水田に乏しく、多く甘藷を作
 り、居民之を常食とす。蘿蔔よく地味に適
 し、果樹は梅及橙あり。此島は黒潮流の激
 衝し來る所にして、第一帶植物林を成し、
 榕樹最も多く、所により蒲葵亦繁茂す。海
 中には土佐海特産の珊瑚あり。然れども、
 珊瑚礁を見ず。又此島は廣瀬母島の二部
 落より成り、もと廣瀬は土佐に、母島は伊
 豫に屬せしを以て、兩地言語風俗を異に
 す。●筑前國宗像郡に屬する島。澳津
 島ともいふ。鐘岬の西北約四〇哩。對馬
 と馬關海峽との間に位し、長門國神田崎
 の西約四二哩に當る。晴天の時、壹岐、
 對馬及陸岸より望み得べし。周圍一里
 島の中央は高八〇〇尺の一峯を成し、北
 東に低下して、高石屋に盡く、島内人家
 なく、國幣中社宗像神社三座の一瀧津宮
 あり、今、田島村の宗像宮々司より福宜

オキノシマ(沖島) 【新瀉】越後國羽
 郡に在りし村、明治卅四年高柳村に入る。
オキノス沖洲 【徳島】阿波國名東郡の
 村。徳島市の東に接し、別宮川(吉野川)
 本流の河口なる洲嶼とす。鹽田多し。所
 謂新鹽田の一部なり。合志五五。
オキノセン(沖山) 美作國英田郡四幡
 國八頭郡に跨る山高三三六六尺、其脈西
 に赴き、人坂志月坂にも作る。嶽となる。
オキノハシマ(沖羽島) 薩摩國日置郡羽
 島岬の南西一里に在る島、高三〇〇尺、島
 上樹木多し。

オキノハマ(沖濱) 【宮城】陸前國牡鹿
 郡の村、半島の中央西側に在り、海水桃浦
 の山腹に灣入すること一哩半。錨地は水
 深三尋半より六尋にして、泥底なり。澳水
 平穩にして、風波の憂なきを以て、横濱商
 館間往復汽船の定期寄航地なり。但し規
 模頗る狭く、海岸も殆ど市街を成すの餘
 地なし。石巻鹽釜等は、小蒸氣船を以て
 旅客貨物を送る。郵便局あり。横濱へ三八
 六哩、函館へ五二九哩、八四五哩。

オキミツ(沖水) 【宮崎】日向國北諸縣郡
 の村。合志六九。
オキミツガワ(沖水川) 日向國北諸縣郡
 の川、瀨瀬川の支流、流程六里三〇町。
オキヤマ(秋山) 【京羅】木山を見よ。
オキワラ(秋原) 【千葉】上總國夷隅郡千
 町村の大字、刈谷の北なる山村とす。古刹
 行元寺あり。僧圓仁が大多喜の東に創建
 せしを、冷泉行元の館址に移せしなりと
 傳ふ。行元の墓といふあり。舊寺領三十
 石圓仁所持の龍鈴と稱するものを傳ふ。
●【三重】伊勢國多氣郡の村。合志四〇。
**●【愛知】三河國幡豆郡に在りし村。明治三
 十九年横須賀町に入る。**
オク(邑久) 【岡山】備前國邑久郡の村。古
 の尾張郷の地にして、今大字に尾張の名
 存す。郡役所、郵便局あり。合志三三。
オク(奥) 【愛知】尾張國中島郡の町。郡の
 極北にして、木曾川に沿ひ、粟栗郡に接
 す。機業の盛なる地にして、もと織城、
 棧留等の木綿織に名あり。近年瓦斯絲織

に黒砂糖あり、全島糖業(三六三三)。
オキノオウアカリシマ(沖大東島) 琉球
 國琉球列島大東群島の一。南大東島の南
 方約九〇哩。周圍一里餘。住民なし。明治
 卅三年沖繩縣所管となり、島尻郡に屬す。
オキノカミシマ(沖ノ神島) 琉球國八重
 山列島中の一島。ナカノオガミ又單にオ
 カミ島ともいふ。西表島(八重山列島)の
 西角、八重目岬の南西南八哩半に在る岩
 嶼にして、東西に長く高三〇〇尺あり。青
 草繁茂し、四側險崖、陡界にして、水深直
 に十餘尋あり。唯西角に於ては水稍淺し。
 此島には海鳥群集し、毎年六、七月の頃西
 表島の人民渡來し、海鳥の卵を拾集し、食
 料に供すといふ。

大日海峽の三口を以て外海に通じ、内海
 には浦郷、別府、釜浦の如き良港あり。
山系 内海の中央部に焼火山峙つ、而し
 て島前諸島の地は、大部輝石富士岩より
 成り、唯焼火山の南半は流紋岩より成り、
 又中ノ島には、諸所に玄武岩の小露出あ
 り、是等諸島の地形を觀るに、焼火山を中
 心とし、北に向へる側は急峻にして、外側
 は緩斜し、裾野状を呈せるを見る。即ち此
 三大島は、一の二重式火山の殘片にして、
 焼火山は、火口丘、三島は外輪山たるを察
 するを得。但し、歲月久しく、風水の作用を
 受け、甚しく侵蝕せられ、火山たるの特相
 を缺けり。島後は島前諸島の東北に在り、
 數多の峯巒群起し、其最高峰を島の北部
 なる大峰山(二二〇〇尺)とす。此より山
 脈南に延び、西に屈して、横尾山(二八九
 六尺)となり、更に南に延びて、境鏡山(一
 六二〇尺)となり、次第に陸奥して、南海
 岸に終る。又大峯の東南にて分る、ものは
 尾尾山(二七三二尺)鷲ヶ岳(二八三八
 尺)大嶽寺峯(二二三二尺)となり、此より
 山勢次第に低く、西郷海に終る。本島の地
 盤は片麻岩及第三紀層を基礎とす。これ
 も、後富士岩流紋岩及玄武岩迸發して、基
 盤を破り、大嶽寺峯の如き、最後に噴出
 したる玄武岩より成り、其岩層は遙に流
 れて、西郷町後背の臺地を作れり。

著しき港灣は、西北の福浦灣、西南の都萬
 灣、東南の西郷灣とす。西郷灣は最も安全
 なる錨地にして、北海要港の一たり。海岸
 は概して險崖を以て水に接し、數多の岩
 礁岸に近く散在す。
氣候 北海中に在れども、其北方に對馬
 暖流を受け、氣候却て溫暖なり。明治四十
 一年周吉郡八田に於て、極暑攝氏三五度
 五、極寒零下三度五、而して氣温の氷點
 以下に下りし初は十一月十六日、終は四
 月二十九日なり。
都會 周吉郡西郷町(六四六〇)の外記す
 べきものなし。
産業 居民多く漁業に従事し、就中烏賊
 漁は有名にして、隠岐島の名遠く海外に
 聞ゆ。又椎茸馬及杉樅の良材あり。農産
 物は甚だ僅少なり。米(二萬石)麥(二萬
 石)大豆(二萬石)、油、鹽、物(二三萬石)内
 柔魚(一三萬石)、其他は、鯛、鱈を主とす。林
 産物(二〇萬石)内、椎茸一萬六千圓、又馬
 現在數一〇二頭なりとす。
沿革 神代紀に倭使洲に作り、古事記に
 は、次生隱岐之三子島亦名天之忍許呂別
 と見ゆ。後、國府を周吉郡に置く。建久四
 年源賴朝全島を佐々木定綱に授け、次で
 其弟義清をして、出雲の守護を以て兼領
 せしむ。承久三年後鳥羽法皇北條氏を討
 て克たす。義時法皇を海士郡に遷す。後十
 八年を經て、元弘二年北條高時後醍
 醐天皇を知夫郡別府村に遷す。明年天皇
 伯耆に遷幸あり。王師起り、北條氏滅
 るものと傳ふ。

出雲守護鹽治高貞之を兼領す。高貞
 死の後、足利尊氏全島を佐々木高氏に加
 賜す。正平年中山名時氏全島を略取し、其
 孫氏之に傳ふ。元中七年足利義滿氏之の
 封を收め、高氏の孫高詮に賜ふ。高詮乃ち
 島の豪族隱岐氏を以て守護代とし、周吉
 郡宮田に居らしむ。大永天文之際、同族相
 争ひ、戦止まず、隱岐清政を尾手經久に
 乞ひて、島内を平定し、終に尾手氏に屬す。
 孫爲清に至り、尾手氏滅び、毛利氏に附す。
 永祿の末、尾手氏復を圖り、故黨を慕
 る。爲清之に應じ、戰敗れて自殺し、其弟
 清家代り、天正十年從子經清に試せらる。
 毛利氏の兵經清を誅し、成を八尾に置き、
 後吉川廣家を分封す。關ヶ原役後、徳川氏
 廣家の封を收め、堀尾吉晴に加賜す。孫忠
 晴に至り、肥後守。京極忠高之に代り、嗣
 なくして、除封。爾後出雲領主松平氏島事
 を管攝し、明治維新に至る。王政革新後、島
 取藩をして之を管せしめ、尋で隱岐縣を
 置き、縣にして廢して、大森縣に合せ、後更
 に島根縣より兼治す。
文籍 隱岐觀禮合記、寫本二冊。隱
 岐誌、一冊(小泉憲實、明書堂)。
オキノコシマ(沖小島) 大隅國始良郡
 分村の南十餘町の海上に在る岩礁。三嶼
 あり。其二是高三三〇間。周圍六十間許。
 一は低平にして、稍大なり。宮ノ洲と呼
 ぶ。もと大穴持神社ありしより、此名あり。
 共に天平寶字八年櫻島噴火の時現出せ
 るものと傳ふ。

オク

綿一葉等を製出す。郵便局あり。白雲(三)
【廣島】備後國御調郡の村。白雲(三)
【沖繩】琉球國頭郡國頭村の大字。邊戸
岬の四側の一小港にして、灣入三礎石花
礁港口を擁し、西に偏して僅に小船を通
すべき水道あり。土俗ウツといふ。

オクカ

オクカン(奥上林) 【京都】丹波國
何鹿郡の村。白雲(三)
オクキトワ(奥木頭) 【徳島】阿波國海部
郡の村。白雲(三)
オククン(邑久郡) 【岡山】備前國六郡の
一。四境、東南一帯海、西は東大川を限り
て上道郡、北は和氣郡、東西四里三三町、
南北四里一町、周囲二六里三町、面積一
方里二四、行政上、牛窓町及邑久郡、今
城、豊原、豊太郎、幸島、朝日、大宮、鹿忍、長
濱、本庄、玉津、豊掛、鶴山、美和、國府、行幸
笠加の一九村に分ち、郡役所を邑久村に
置く。面積二〇六、白雲(三)
地勢、郡の西
部、東大川に接する地は平野低濕にして、
水田連り、山岳は東部に起伏す。海岸は出
入多く、無岬岬に斗出して長濱灣を擁し、
無崎の南に牛窓岬あり。牛窓の南に前島
あり。其東に長濱あり。河流は東大川和氣
赤磐二郡界より来り、上道郡との間を過
ぎ、兒島灣に入る。生業は農業を第一とし、
工業之に亞ぎ、漁業又之に次ぐ。主なる産
物は米(一〇萬石)、麥(四萬四千石)、大豆
甘藷、馬鈴薯、青芋、蘿蔔、南瓜、繭、林産物
(一萬圓)、流産物(二九萬圓)、鹽(八萬六千
圓)、花、織物(二萬圓)、足袋、瓦、清酒(三
三萬圓)、醬油(二萬圓)、其他種油、麥、眞
田なり。邑久古は大伯に作る。和名抄は
於保久と註し、邑久親實、土師、須長、長沼、
尾沼、尾張、柘梨、林梨に誤る。石上、服部の
一〇郷に分ち、今オクと呼ぶ。

オクサ

オクサカ(奥阪) 【岡山】備中國吉備郡阿
曾村の大字。奥ノ釜といふものあり。其よ
り二〇町にして、鬼ノ雪隠、一に鬼ノ岩屋
といふものあり。土俗之を鬼ノ城と呼ぶ。
オクサツ(奥佐津) 【兵庫】但馬國城崎郡
の村。白雲(三)
オクサヤマ(御草山) 山城國紀伊郡深草
村に在る山。古柏原野といへり。
オクサワ(奥澤) 【東京】武藏國荏原郡玉
川村の大字。目黒、祐天寺より西一里餘、淨
土宗の名刹、淨心寺あり。延寶九年、珂碩上
人開基本堂十一間四面、左に上品中品、
下品の三堂あり。一堂毎に三體の如來を
置く。因て俗に奥澤の九品佛と稱す。毎年
四月、不斷念佛修行の日、賽者群集す。
オクサンボ(奥三山) 加賀國石
川郡に在る山。越中國界の奈良岳に連り、
西に大原山あり。高四九六三、山頂へ二
里三町と稱す。火山岩より成る。
オクシ(小串) 【岡山】備前國兒島郡の村。
兒島水道の東口にして、小繁華の地なり。
石炭貯蔵所ありて、兒島灣出入の汽船常
に寄港す。其岬角を米崎といふ。上道郡の
外波鼻と相對す。郵便局あり。小串港の
輸出は二三萬圓、輸入は九二萬圓、輸出は人
造肥料、銅及藥種、輸入は石炭を主とす。
輸出は主に大阪に向け、石炭は若松より
輸入す。白雲(三)

オクシ

後志國久遠郡太田岬と奥尻島東岸との
間の水路。函館小樽間の常航路なり。水
路誌云、其最狭約九哩半、中央に於ける
水深は三百尋より深く、此海峡の峽部に
於ける海流は、其方向甚だ不規則なり。
オクシリ(奥尻郡) 【北海】後志國一
七郡の一。奥尻島を見よ。
オクジリ(奥島) 【北海】後志國久
遠郡の海上、一六哩に在る島。周囲二一里
一六町、面積九方里六二、地積一四九六
二町。行政上、奥尻郡を成し、奥尻の一村
を置き、釣懸、赤石、藥師、青苗の四大字
あり。檜山支廳の所管とす。戸數六、白雲(三)
地勢、島形南北に長く、豐富なる山
毛、樺林之を擁し、北より西は斷崖を以て
海に臨み、東は段丘を以て緩斜し、漸次
南に開けて青苗平野となる。地質は北半
は第三紀層、南半は花崗岩等の古火成
岩より成り、樹木の八分は山毛、樺なり。
山岳、最高峰を神威山(二〇七八尺)とし、
釣懸山(二二五三尺)に次ぎ、其他諸山、
球島の諸山あり。河流は、内川、西に注ぎ、
釣懸川東に流る。此島は函館小樽間航路
唯一の避難地にして、島の北端、樺岬に
燈臺あり。生業は従來漁業を主とせし
も、近年農及農産物増加す。産物は農
産物三萬圓内外、水産物二萬圓内外、柔
魚、大帆立貝、鰻、鮭あり。近年硫磺を
發見し、今採掘中なり。明治四十一年の輸
出總額二〇六〇圓、内、農産物五七〇
圓、水産物一四九〇圓、薪炭、

オクス

○圖に達し、新築は久草、熊、其他は江
差、函館に輸送す。氣候は溫和にして、一
年平均氣温攝氏九度内外、積雪量少く、海
濱は四、五寸、山間は三尺内外なり。此
島は享德三年武田信廣が蝦夷を侵略せ
る時初めて着したる地にして、松前氏累
世の封地なり。安政六年徳川幕府箱館奉
行を置くに及び、此島を徒刑の地とし、明
治三年之を廢す。奥尻一にオコシリとも
呼ぶ。然れども其原名はイクシユンシリ
にして、向島の義なりといふ。
オクス(小楠) 【大分】豊前國下毛郡の村。
白雲(三)
オクダ(奥田) 【愛知】尾張國中島郡に在
りし村。明治三十九年大里村に入る。起街
道の南に沿ひ、稻澤町の東南に在り。此附
近は水田數里に亘り、目に遮るものなき
を以て、俗に奥田の千町田面といふ。戦國
の頃奥田直政居り、堀秀政の女を娶り、遂
に堀姓を冒し、駿物と稱す。【愛知】尾
張國知多郡に在りし村。明治三十九年野
間村に合す。【富山】越中國上新川郡
の村。白雲(三)
オクダイラ(奥平) 【群馬】上野國北甘樂
郡岩平村の地名。今上下に分れ、共に其
大字なり。中世赤松氏の裔此に居り、奥平
氏を稱し、後三河に移り、徳川氏に従ひ功
あり、子孫列侯となる。
オクメカノ(奥竹野) 【兵庫】但馬國城崎
郡の村。竹野川上流の地なり。首邑を蘇木
市場といふ。郵便局あり。白雲(三)

オクダ

オクダニ(奥谷) 【兵庫】播磨國美作郡の
村。四谷の奥にして、美作川の水源なり。
西北北倉崎を踰れば、因幡國八頭郡に
出で、東北富士野崎を踰れば、但馬國養
父郡大屋村に至る。白雲(三)
【鳥取】因
幡國若美郡國府村の大字。舊國主池田氏
代々の墳墓あり。もと清源寺といへる香
華院ありしが、今廢す。
オクダマ(奥玉) 【嚴手】陸中國東磐井郡
の村。白雲(三)
オクダリ(奥下) 【鹿兒島】薩摩國日置郡
田布施村の大字。枕崎街道の一驛にして、
伊作驛を距る一里餘。
オクチ(小口) 【愛知】尾張國丹羽郡に在
りし村。明治三十九年大口村に入る。
オクチ(尾口) 【石川】加賀國能美郡の村。
白雲(三)
オクツ(奥津) 【岡山】美作國善田郡の村。
齋原川の上流に沿へる僻村にして、津山
を距る約七里、郵便局あり。鑛泉あり。炭
鑛泉にして、二所より湧出す。上湯下湯
(鑛湯)といふ。温度一〇七度、一〇九度と
す。浴室一月、元祿年間の修築といふ。客
舎四戸あり。又大釣湯あり。温度一〇二
度。炭酸泉なり。此地は川の左岸に在り、
幾多の水灘相連り、頗る奇觀なり。詰問流
の如きは最も著名なり。西岸は石南花を
生じ、春時の景絶佳と稱す。白雲(三)
オクド(奥戸) 【東京】武藏國南葛飾郡の
村。中川の東岸に緣り、小岩村の西に接
す。往古は隅田村より此を経て、中小岩に

オクト

至り、上總の國府に達する道を通じ、奥
戸の名は奥水御厨註文、永祿役帳等に見
ゆ。白雲(三)
オクトノ(奥野) 【愛知】三河國額田郡に
在りし村。明治三十九年岩津村に入る。加
茂郡に接し、徳川幕府の頃は、大給松平氏
の陣屋ありて、附近四千石を治めたり。
オクトミ(奥宮) 【埼玉】武藏國入間郡の
村。白雲(三)
オクナイ(奥内) 【青森】陸奥國津輕郡
の村。白雲(三)
オクナダ(奥名田) 【福井】若狹國遠敷郡
の村。白雲(三)
オクナミ(奥南) 【愛媛】伊豫國北宇和郡
の村。白雲(三)
オクニ(小國) 【福島】岩代國伊達郡の村。
白雲(三)
【嚴手】陸中國下閉伊郡の村。
白雲(三)
【山形】羽前國最上郡東南隅
の山村の總稱。今、東小國、西小國の二村
とす。陸前屋前越の街道を通じ、向町瀨見
等の驛あり。工匠多く、俗に小國大工と呼
び、其名高し。東小國村本城に城址あり。
最上義光の臣小國勝頼之を守り、後、戸澤
氏に屬せり。【熊本】備後國世羅郡の舊
村。白雲(三)
【熊本】備後國阿蘇郡の舊
村。白雲(三)
【阿蘇】備後國阿蘇郡の舊
村。白雲(三)
【阿蘇】備後國阿蘇郡の舊
村。白雲(三)
田川の上流に沿ひ、地勢全く豊後國日田
郡に屬す。今南小國、北小國の二村に分
る。延文年間阿蘇大宮司武に黨し、小國
郷に九寨を結び、菊池武光の通路を塞ぐ。

オクニ

オクニ(奥國) 【福島】岩代國耶麻郡熊倉
村の大字。萬治年中、小沼組の郷長大鹽平
左衛門開墾せし地といふ。
オクニカワ(小國川) 羽前國最上郡に在
る川。最上川の支流なり。水源、陸前國界
の山中、西流して舟形町を過ぎ、合流す。
其上流を明神川下流を瀨見川といふ。舟
形より陸前國に出づる道此川に瀕る。瀨
見向町、埴田の諸驛あり。流程一三里。
オクニタニ(小國谷) 越後國刈羽郡に在
る谷。澁海川の谷にして、今千谷澤、武
石、七日町、横澤、山、横澤、中里、上小國の七
村あり。西に八石連山ありて、鑛石川と分
つ。中世此谷に小國と稱する名家あり。源
賴行賴政の弟の孫賴繼の裔にして、上
杉氏の時に直江山城の弟を養子とし、大
國但馬守と號す。
オクニヌマ(雄國沼) 岩代國耶麻郡に在
る沼。磐梯山の西なる猶覺火山の火口湖
にして、周一里四町。其水は火口壁の北を
決して、檜原湖に注ぐ。
オクニマチ(小國町) 【山形】羽前國西置
賜郡小國本村の大字。米澤より越後國岩
船郡に出づる街道の一驛とす。米澤より
一三、一四町、此より一里二四町にして
越後國界に至る。警察分署郵便局あり。
オクニモト(小國本) 【山形】羽前國西置
賜郡の村。白雲(三)
オクノ(奥野) 【茨城】常陸國稻敷郡の村。
白雲(三)
オクノシマ(奥島) 近江國琵琶湖中第一

オクノ

の大島藩生郡に属し、今、島村と呼ぶ。白三...

オクノシマ(大久野島) 安藝國豊田郡の...

オクノフジ(奥富士) 陸奥國に在る岩手...

オクマ

陶像を祀り、室内農具を飾る。村民はトウ...

オクモ(大草) 兵庫丹波國多紀郡の村...

オクモカワ(大雲川) 丹波國多紀郡に在...

オクヤ

川氏の爲に滅ぼさるるといふ。方廣寺は元...

オクヤマ(奥山) 山城國紀伊郡の東部に...

オクヤカワ(奥吉川) 兵庫播磨國美...

オクラ

オクラタニ(小椋谷) 近江國愛知川の水...

オクラノイケ(巨椋池) 山城國紀伊久世...

オクラノミネ(小鞍嶺) 大和國に在る山...

オクス

オクス(小栗栖) 山城國宇治郡...

オクル

オクルマトナイ(尾車首内) 北海天鹽...

オコウ

オコウ(阿幸) 樺太真岡支廳本斗出...

オコウ

オコウ(小越) 北海日高國幌泉郡...

オコシ

とす。機業盛なり。昔八丈絹を製出し、朝貢とし、又諸國へも出し、尾張八丈の稱あり。近年は絹織交織物を出す。合三三三。

オコシ(御越) 【大分】豊後國遠見郡の町。明治三十四年町制を施す。別府海に沿へる海濱にて、豊前街道に當る。大字野田に柴、石炭、血、池、地獄、赤湯、大字龜川に龜川、温泉あり。皆鹽類泉なり。合三三三。

オコセ(越生) 【埼玉】武蔵國入間郡の町。郡の西北隅に在り。地勢はより西に隆起して、秩父の山に連る。大字越生はもと今市と呼び、越生郷十六村の本村たりき。警察分署、郵便局等あり。絹を産す。中世兒玉黨越生氏の水く住し所に、其氏寺を法恩寺とす。此寺は行基開創。建久元年再建。近世寺領二十石。合三三三。

オコツ

オコツベ(ガワ) 【興部川】 【北海】北見國紋別郡に在る川。水源、天鹽國上川郡界なるウエシシロ岳。北流して、北東折し、興部郡に至り海に入る。沿岸には植民區劃地あり。名寄、興部間の鐵道は此川に沿ふて通ずる。豫定なり。

オコト(雄琴) 【滋賀】近江國滋賀郡の村。雄琴は舊庄名なり。坂本村の北にして、比叡山、横川嶺の東麓に在り。琵琶湖に沿ふ。和野、秀純の城址あり。合三三三。

オコバ(大畑) 【熊本】鐵道九州線人吉吉松間の一驛。人吉驛より六哩四〇鎮。地名、同名の川あり。此地は近世高島嶺と小樽内領との界なり。アイヌ語オロアツ、鮮群の義なりといふ。小樽岳をオコバ岳ともいふ。

オコロ

オコロ(小来川) 【栃木】下野國上郡賀那の村。今市町の西に當り、日光の山麓に近き。鮮色なり。土地廣けれど山も多く、居民は樵獵養蠶を事とす。唯、桑崎と字せる所に、旅舎茶亭數戸あり。合三三三。

オコブン(黄金峯) 【北海】膽振國有珠郡伊達村の大字。室蘭郡界に接せる海村なり。伊達氏近年開墾を試みしが、春土なるを以て主として牛馬の牧場とせり。オサ(表佐) 【岐阜】美濃國不破郡の村。合三三三。

オサ(長) 【長野】信濃國小縣郡の村。神川の上游なる山谷にして、四阿山の麓なり。舊稱を眞田といふ。高井郡須坂地方より上野國吾妻郡に至る山徑を通ず。郵便局あり。此地は海野の黨眞田氏の居りし所。

オサ

オサ(白佐) 【福岡】筑前國筑紫郡の村。合三三三。

オサ(小坂) 【兵庫】但馬國出石郡の村。出石町の西北にして、城崎郡に接す。古の小坂郷の地なり。小坂神社は、大字森井に在り。延喜式内の古社とす。但馬考は村の大字伊豆及島の地を以て、天日槍の故宅とす。又此兩地の間に、大字福居あり。此地に昔伊豆國三島嶺を動請して、村名をも權現といへり。近年今の名に改む。此は伊豆の名に因みて、好事者のなせしものならんといふ。合三三三。

オサ(小) 【山口】周防國吉敷郡の村。山口町の東南にして、宮市三田尻に通ずる街道に當る。其間を崎山峠といふ。大字下小崎に曹洞宗の名刹、龍昌寺あり。應永三年、大内義弘創建。定紹禪師開基。當時は堂宇七十三、僧侶七百三十名あり。俗に四國の高野山と稱し、頗る盛大なりしも、後漸く衰頹し、維新後僅に一寺を存す。境内十勝あり。村に鳴流あり。合三三三。

オサ

オサ(長) 【愛知】三河國八名郡に在りし村。明治三十九年八名村に入る。

オサ(長) 【北海】膽振國千歳郡の村。村の北に在り。噴火湖に臨み、長萬部川の河口に跨る。流村にして、鱈の漁獲甚だ多し。此地又東海岸街道の要地にして、黒松内盛を経て、西海岸に出づる街道の岐る、所なり。郵便局、警察分署あり。合三三三。

オサ(小) 【山口】周防國吉敷郡の村。山口町の東南にして、宮市三田尻に通ずる街道に當る。其間を崎山峠といふ。大字下小崎に曹洞宗の名刹、龍昌寺あり。應永三年、大内義弘創建。定紹禪師開基。當時は堂宇七十三、僧侶七百三十名あり。俗に四國の高野山と稱し、頗る盛大なりしも、後漸く衰頹し、維新後僅に一寺を存す。境内十勝あり。村に鳴流あり。合三三三。

オサカ

オサカ(尾崎) 【大阪】和泉國泉南舊日根郡の村。古の鳴鹿郷の一部にして、男里川の河口なり。孝子越街道に當り、今南海鐵道の停車場あり。和泉最南貨物の集散地にして、商賈、船戶多し。貝塚町より約四里。合三三三。

オサキ

オサキ(御崎) 【長門】觀音崎の一名。野の加蘇山社に天照大神外三座を祀るといふ。恐らく同社なるべし。

オサタ

オサタ(譯語田) 【奈良】大和國磯城郡磯田の村。大字太田辻の邊の古名。一他田に作る。敏達天皇の皇居譯語田幸玉宮のありし地なり。古語譯語(通事)をササといへり。因りて此字を借り用ひしといふ。

オサテ

オサテ(小崎) 【山口】周防國吉敷郡の村。山口町の東南にして、宮市三田尻に通ずる街道に當る。其間を崎山峠といふ。大字下小崎に曹洞宗の名刹、龍昌寺あり。應永三年、大内義弘創建。定紹禪師開基。當時は堂宇七十三、僧侶七百三十名あり。俗に四國の高野山と稱し、頗る盛大なりしも、後漸く衰頹し、維新後僅に一寺を存す。境内十勝あり。村に鳴流あり。合三三三。

オサマ

學校等あり。アイヌ語オシヤマンベといふ。北目魚の在る所の義なり。昔時神あり。大比目魚を得、土人に教へて之を祭らしめ、山上の殘雪比目魚の形をなす時出漁せよと示せる古蹟なりと言傳ふ。又松前領の頃徳川幕府へ献上せし盟約歌は、重に此地に於て獲たるものなりしといふ。百四十八。

オサマンベ(長萬部嶽) 【北海】膽振國山越郡後志國瀨川郡に跨る山高二六四〇尺或二四八〇尺。

オサラツベ(長真別川) 【北海】石狩國上川郡に在る川。水源天鹽國上川郡界の神威山イラチ岳等の巒間瀧村の中央を流れ、南流五里にして石狩川に入る。

オサリザワ(尾去澤) 【秋田】陸奥國鹿角郡の村。有名の尾去澤山あり。百四十四。

オサリザワ(尾去澤) 【尾去澤】陸奥國鹿角郡鹿角郡尾去澤村に在る嶺。山花輪町を距る四三〇町。其の起原は和銅年間在りといへど、慶長の頃より金を、寛文年中より銅を採掘し始めしといふこと信に近し。爾來採行絶えず。明治二十二年より三菱會社の手に歸せり。地質は第三紀の泥板岩及凝灰岩より成り、西方下澤の溪谷、田郡水遺坑の邊には緑色の輝石富士岩、東方赤澤には灰緑色の流紋岩噴出す。嶺區は西道、田郡、赤澤、元山の四郡に分れ、嶺脈は元山及田郡の一部は南北、又は北々東に走り、赤澤は東南に、西道及田郡の一部は東北、西道に

オサリザワ(尾去澤) 【尾去澤】陸奥國鹿角郡鹿角郡尾去澤村に在る嶺。山花輪町を距る四三〇町。其の起原は和銅年間在りといへど、慶長の頃より金を、寛文年中より銅を採掘し始めしといふこと信に近し。爾來採行絶えず。明治二十二年より三菱會社の手に歸せり。地質は第三紀の泥板岩及凝灰岩より成り、西方下澤の溪谷、田郡水遺坑の邊には緑色の輝石富士岩、東方赤澤には灰緑色の流紋岩噴出す。嶺區は西道、田郡、赤澤、元山の四郡に分れ、嶺脈は元山及田郡の一部は南北、又は北々東に走り、赤澤は東南に、西道及田郡の一部は東北、西道に

オサリザワ(尾去澤) 【尾去澤】陸奥國鹿角郡鹿角郡尾去澤村に在る嶺。山花輪町を距る四三〇町。其の起原は和銅年間在りといへど、慶長の頃より金を、寛文年中より銅を採掘し始めしといふこと信に近し。爾來採行絶えず。明治二十二年より三菱會社の手に歸せり。地質は第三紀の泥板岩及凝灰岩より成り、西方下澤の溪谷、田郡水遺坑の邊には緑色の輝石富士岩、東方赤澤には灰緑色の流紋岩噴出す。嶺區は西道、田郡、赤澤、元山の四郡に分れ、嶺脈は元山及田郡の一部は南北、又は北々東に走り、赤澤は東南に、西道及田郡の一部は東北、西道に

オサル

走り、孰れも四〇度内至九〇度を以て西北に急斜し、其幅五、六寸より三、四尺に及び、稀に三〇尺に達するものあり。嶺石は主として黄銅礦及斑銅礦にして、多少の黄鐵礦、閃亜鉛礦、赤鐵礦を交へ、往々自然銅、輝銀、輝鋅等を産す。脈石は重に母岩の分解せるものにて、石英及少量の重晶石を混す。自然金は銅礦に混合し、或は石英脈中の脈肌に沿ひ、之を發見す。元山及田郡には金を出すこと多し。嶺石運搬川の索道は元山より獅子澤嶺所に至る三千七百餘尺の間に架設せられ、本山より南四里の宮川村に於て、熊野川を利し電氣を起し、之を諸種原動力に用ふ。明治四十一年、嶺區面積一、九一、四〇〇坪使用鐵夫一〇四三人、女工四五九人、探礦高四七〇、二九二九貫、製品金三四三九匁、銀二、〇一五八匁、電氣銅二、三〇、〇六五九斤、價格合計八四萬圓(本邦銀幣一匁)。

オサル(長流) 【北海】膽振國有珠郡伊達村の大字。長流川の河口なる海村とす。舊名オサルベト。

オサルカワ(長流川) 【北海】膽振國有珠郡に在る川。水源白老岳郡中の水を集め、南流し、有珠岳の麓より四紋嶺村の農場を貫き、噴火灣に入る。流程一七里。沿岸肥沃地多し。支流に壯誓川あり。アイヌ語オサレベツ、投げる川の義、急流をいふ。

オサワ(小澤) 【東京】神奈川【武藏國】舊郡名。今種樹郡稲田、同郡、生田の諸村及

オサワ(小澤) 【東京】神奈川【武藏國】舊郡名。今種樹郡稲田、同郡、生田の諸村及

オサワ(小澤) 【東京】神奈川【武藏國】舊郡名。今種樹郡稲田、同郡、生田の諸村及

オサワ

南多摩郡稲城村邊に當る。多摩川の岸なり。享祿三年上杉朝興河越より出陣すと聞き、北條氏綱子新九郎氏康をして迎撃せしむ。上杉勢大敗、氏康時に歳十六。オサワ(尾澤) 【群馬】上野國北甘樂郡の村。百三十一。

オシ(忍) 【埼玉】武藏國北埼玉郡の町。郡の首邑にして、三面大澤を挟み、東を行田町といひ、南工多、西を成田町といひ、もと士族の宅地なり。郡役所、警察署、郵便局等あり。中山道吹上停車場より約一里、熊谷驛へ一里半。産物は行田足袋あり。又附近より良米を出す。忍米と稱し聲價あり。忍城址は平地に在れども、池沼若くは深田を以て圍まれ、要害よく、古來關東七名城の一に數へられたり。初は兒玉氏此所に居り、忍兵を稱せしが、文明年中成田下總守泰親、忍重行を欺き殺して之を奪ひ、四代傳へて兵長に至る。天正十八年小田原陣の時兵長北條氏に屬し、此城には兵二千を籠め置きしが、石田三成の爲に攻められて降る。同年松平主殿助家城主となる。采地一萬石。文祿元年徳川忠吉に賜はる。慶長五年忠吉尾張に移り、寛永十年松平信綱の居城となり、十六年阿部豊後守忠秋に賜はる。封九萬石。城郭の擴張、市街の經營、多く忠秋の手に成るといふ傳へて九代正權に至り、文政六年奥州白河へ移封。松平(奥平)下總守忠義之に代り、封十萬石傳へて明治維新に至る。公園に東照宮あり。園内櫻

オシカク(押角) 【鹿兒島】大隅國大島郡(大島嶺)西村の大字。郵便局あり。

オシカク(押角) 【鹿兒島】大隅國大島郡(大島嶺)西村の大字。郵便局あり。

オシカク(押角) 【鹿兒島】大隅國大島郡(大島嶺)西村の大字。郵便局あり。

オシカク(押角) 【鹿兒島】大隅國大島郡(大島嶺)西村の大字。郵便局あり。

オシア

樹楓樹多し。行田に長久寺あり、古來城主の祈願所なり。百六十五。

オシイレ(押入) 【岡山】美作國吉田郡高野村の大字。炭酸、冷泉出づ。火力を加へて入浴に供す。津山町を距ること遠からざるを以て浴客多し。

オシウミケン(忍海郡) 【奈良】大和國に在りし郡。東は高市郡南葛上、今南葛城郡北葛上、今北葛城郡西は葛城山脈によつて河内國石川(今南河内郡)に接す。東西二里二町、南北僅に一九町。面積半方里に過ぎず。往時は十五村ありしが、町村制制定の際合せ一村とし、忍海村といふ。明治二十九年廢郡葛上郡と合して南葛城郡となる。

オシオ(置鹽) 【兵庫】播磨國飾磨郡の村。書寫山の東北、夢前川の谷に在り。赤松氏の據れる小鹽城のありし地なり。小鹽城址は夢前川の東畔なる峻嶺に在り、原立一、五五尺、頂上左右に張り、自然に要害をなす。赤松滿祐の據りし所とす。滿祐敗死して山名持豊之を領す。赤松政則之を復するに及び、修めて居り、藤ノ丸と稱す。則房に至り、羽柴秀吉之を收め、則房の弟龍真に阿州一萬石を與ふ。元弘二年滿祐占據より二百四十七年なり。大字鹽田に鹽泉あり。炭酸泉にして、溫度華氏六〇度。火力を加へて浴用とす。此所を距る約一町、小鹽谷に又一泉あり。溫度華

オシオ(置鹽) 【兵庫】播磨國飾磨郡の村。書寫山の東北、夢前川の谷に在り。赤松氏の據れる小鹽城のありし地なり。小鹽城址は夢前川の東畔なる峻嶺に在り、原立一、五五尺、頂上左右に張り、自然に要害をなす。赤松滿祐の據りし所とす。滿祐敗死して山名持豊之を領す。赤松政則之を復するに及び、修めて居り、藤ノ丸と稱す。則房に至り、羽柴秀吉之を收め、則房の弟龍真に阿州一萬石を與ふ。元弘二年滿祐占據より二百四十七年なり。大字鹽田に鹽泉あり。炭酸泉にして、溫度華氏六〇度。火力を加へて浴用とす。此所を距る約一町、小鹽谷に又一泉あり。溫度華

オシオ(置鹽) 【兵庫】播磨國飾磨郡の村。書寫山の東北、夢前川の谷に在り。赤松氏の據れる小鹽城のありし地なり。小鹽城址は夢前川の東畔なる峻嶺に在り、原立一、五五尺、頂上左右に張り、自然に要害をなす。赤松滿祐の據りし所とす。滿祐敗死して山名持豊之を領す。赤松政則之を復するに及び、修めて居り、藤ノ丸と稱す。則房に至り、羽柴秀吉之を收め、則房の弟龍真に阿州一萬石を與ふ。元弘二年滿祐占據より二百四十七年なり。大字鹽田に鹽泉あり。炭酸泉にして、溫度華氏六〇度。火力を加へて浴用とす。此所を距る約一町、小鹽谷に又一泉あり。溫度華

低し。鐵路近傍唯一の溫泉なるを以、夏日浴客群集す。鐵路へ北三里半、百三十四。

オシオ(忍保) 【埼玉】武藏國児玉郡神保原村の大字。元禄年中金久保より割きし地なれど、一時庄名と呼ばれたり。式内金城青飯稻實池上神社及善養寺あり。

オシオ(小鹽) 【石川】加賀國江沼郡橋立村の大字。漁業地なり。源義經奥州に赴きし頃は街道夫婦岩の邊を通ざりといふ。其海岸は和歌の名所にして、藻蘆草に、隆頼加賀に下りし時此所にて、「おもひきや小鹽の鹽の苦屋にて、寢覺に秋の月を見んとは」と詠みし事を記す。

オシオヤマ(小鹽山) 山城國乙訓郡に在る大原山の一名。

オシオ(押野) 【北海】十勝國中川郡の村。利別川の沿岸に在り。百三十一。

オシカ(小鹿) 【長崎】對馬國上縣郡に在りし村。明治四十一年琴村に入る。

【静岡】駿河國安倍郡豊田村の大字。静岡市の東に當り、有渡山の尾とす。一に男鹿に作り、名所なり。「時しもあれおしかの原を秋ゆけば、東男さへぞこひ渡るへき」。(源順家集)「行人も袖やわらさん妻戀ふる、小鹿の原の秋の白露」(秋風集)此地の蘆薈は當國第一の名産と稱す。

【鳥取】伯耆國東伯耆郡の村。百三十二。

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

オシカ(イケ) (大鹿池) 攝津國河邊郡稻野村に在る池。周圍一九町。面積二三町歩。佳良の蘆葉を産す。攝津志は荒府池に作る。白浪のあらふの池の浮草、ひく根に

中瀬の里。中瀬は此邊の舊郡名とす。
オシマ(尾島) 【兵庫】播磨國明石郡の村。石川水源の地に在り。郡の東北隅に在り。播磨の丹生谷と連る。大字高和に眞言宗性海寺あり。行基開基。本尊阿彌陀如来及觀世音。往古は勅願の巨利にして、中興を如幻といふ。山奥に其堂あり。同宗近江寺は性海寺より北一里に在り。法道上八開基。本尊觀世音。白元寺。
オシマ(尾島) 【福岡】筑後國八女郡水田村の大字。久留米市瀬高町間の一小島なり。舊名を市ノ塚と呼べり。壽永年間平兵衛長門軍浦に滅びし時、殘黨走りて此所に至り、斬首せらるる者多く、其塚といへるもの數箇あり。炭酸冷泉を出す。船小屋。續泉と呼び客舎數戸あり。
オシマ(小島) 【熊本】肥後國肥前郡の町。高橋川(坪井川)の河口にして、熊本を距る四三里。其港を百貫石といひ、俗に百貫港と呼ぶ。熊本出入の海運は皆船船を此所に繋留す。但し港内水淺くして巨船を容れ難し。此より島原まで一四哩。口ノ津まで三〇哩。長崎まで七五哩。其海面を小島沖といふ。郵便局あり。百三三三。
オシマ(尾島) 【群馬】上野國新田郡の町。利根川に接する低平の地なり。郵便局あり。百三三三。
オシマ(小島) 【静岡】駿河國庵原郡の村。興津川の岸に在り。興津より甲州身延に至る街道に當り、元祿以後世貞田松平氏。萬石の陣屋ありし所なり。興津より

一里六町とす。此より二里にして富士見峠を下り、奥原より二里にして甲州萬澤に出づ。奥原に郵便局あり。百三三三。
オシマ(尾島) 【福井】越前國坂井郡の村。三國町の西北なる海村にして、地勢一帯に高く、陣ヶ岡野と呼ぶ曠原を成す。西に出づる一角を安東崎といひ、岬端に雄島あり。岬端は断崖絶壁を成し、東尋坊と呼ぶ勝地あり。百三三三。
オシマ(尾島) 【越前】越前國坂井郡安東崎の端に在る一樹島。周圍一八町。安島岬の條を見よ。
オシマ(尾島) 【長門】長門國阿武郡の海上に在る島。六島の一にして、六島村の内とす。東西六町。南北七町。百三三三。
オシマ(小島) 【北海道】渡島支庁渡島郡の村。七島山脈の東南に在る山脈。遊樂部岳の支脈にして、墓山に至る。横津岳嶺腰岳は此山脈中の高峯なり。
オシマ(小島) 【長野】信濃國更級郡の村。七島山脈。
オシマ(小島) 【小島】阿波國美馬郡に在る一宇山の峯。一宇村。祖谷間に在り。
オシマ(小島) 【北海道】北海道的の極南に在る半島。四境南は津輕海峡を隔て、陸奥國北は山岳を以て、陸奥後志二國に接し、東西南の三方は海。廣二七里。一町二里三三三三。面積二八三三方里。海岸線一〇三三三〇町。行政上、函館區及龜田上磯松前、檜山、南志、茅部の六郡に分ち、内龜田上磯松前、茅部の四

郡は函館支廳、檜山、南志の二郡は檜山支廳の所管とす。百三三三。百三三三。
地勢 國內山岳多く、唯龜田・上磯二郡に互りて稍大なる平地あり。地味肥沃。國內第一の農業地なり。地勢自ら東南西三部に分れ、西部の南志、檜山及松前一部は津輕海峡に、東部の茅部郡は勝振海に面す。沿海は漁業盛にして、海産に依りて生を營む者多し。此國は本道中最も内地に近く、氣候温暖なるを以て最も早く開け人口の多きこと、全道に冠たり。大部は第三紀層にして、第四紀層は少し。東部には浮石堆積す。土地概して豊饒ならず。
山脈 後志、勝振の境を成せる山脈は、國南に入りて東南走し、狗神岳の南に於て二分れ、一は東南に向ひ、一度低下して更に横津岳三八〇六尺、袴腰山(三五五〇尺)を起し、龜田・茅部の界を成し、尙東南行して、龜田岬に盡く、一は西南に向ひ、檜山上磯の郡界を成し、松前郡に入り、白神岬に盡く、勝振海頭には有名な火山駒ヶ岳あり。
水系 河、流、東南西の三方に放流されども、地域狭小、大河なく、南志郡の厚澤部川、龜田上磯郡界の有用川大なり。
氣候 一般に温暖なり。東部南部は太平洋より吹き送る東風の爲め、夏期氣温低く、往々凶歉を招く。西部は風害少し。
物産 農業、南部及函館附近は盛に蔬菜を栽培し、函館、青森、小樽に出す。大野川流域の大野七重上磯の諸村には、維新

前より水田三七〇町歩あり。知内未古内は大夏馬鈴薯玉蜀黍、亞麻を出す。東部は大沼湖畔の外、農耕に適せず。西部の厚澤部川、天ノ川、堀川の沿岸は主要の農産地にして、米大豆小豆を産す。産物は米を第一とし、産額三萬一千石、其他大豆二萬八千石、小豆、菜豆、粟、稗(二萬四千石)、玉蜀黍、蕎麥、燕麥、馬鈴薯(二萬五千石)を第一とし、東海岸は、茅部郡、勝振、尾白内に至る間、西海岸は、洲根子岬より南志郡全體、殊に上國、江差、乙部、熊石等を好漁場とす。鱈七萬五千圓は内浦、函館灣を始として、福島、根法華、砂原等に、鱈(一萬九千圓)は、茅部郡及函館近海に産す。烏賊七萬圓は、全海岸殆ど産せざるなく、殊に沙首、矢越、岬間の産多し。昆布は砂原根法華間、尾札部に元昆布、龜田郡志苔、石崎邊に志苔、昆布、松前郡に細昆布を産す。其他章魚、海胆、鮭、鰯、海鰻等總計一二二萬圓あり。牧畜は現在牛二、三六七頭、馬一、二四四〇頭あり。龜田郡最も盛なり。林産は木材四萬圓、木炭(一一萬圓)、檜山・茅部二郡四萬圓以上を占む。礦産は硫黃を第一とし、龜山及古武井に産す。砂金は知内川筋に、砂鐵は内浦の西岸及古武井の海岸に在り。工業は清酒(四〇萬圓)、醬油(九萬圓)、味噌(八萬圓)、馬鈴薯澱粉(七萬五千圓)、刺昆布(四萬圓)、雄詰(五萬圓)、燐寸綿線(二七萬圓)、農具(六三萬圓)、人造肥料(一萬圓)等

工業十分九は函館區の産とす。
商業 函館を第一とし、江差之に次ぐ。函館の管外輸出額一六六四萬圓輸入二六五四萬圓。江差の輸出八〇萬圓。輸入一八萬圓。輸出は米大豆小豆雜穀、鱈、鮮魚、乾魚、鹽魚、肥料、鹽、絹、布、澱粉、燐寸、軸木、瀉網、硫黃、繩、漆等。輸入は米、麥、果實、鹽魚、乾魚、鹽魚、魚粉、食鹽、小麥粉、乾物、砂糖、煙草、清酒、藥、服、太物、綿類、紙類、瀉網、金物類、石油、繩、漆等とす。
交通 陸路は函館を起點とし、北向するものは札幌街道(七飯森、落部等を経て勝振國山越郡に入る)、西北向するものは江差、熊石街道(大野、中山、俄龜を経て日本海岸に出づ)、西向するものは福山街道、海岸に沿ひ、茂部、地木、古内、福島を経て福山に出づ。鐵道は函館に起り、札幌街道に沿ひ、龜田、七飯、森野、野田等の諸驛を経て勝振國に入る。
沿革 此國は往古渡島蝦夷中の一部落にして、渡黨の割據する所なり。松前氏威望盛なるに及んで、東は龜田を限り、西は熊石を界し、廣袤約六十里。其村落七十七之を松前領と名け、關を龜田、熊石に置き、以て華夷往來を護す。寛政十一年知内川より以東を七年間假に徳川幕府に收め、享和二年東蝦夷地を永く官に收め、三年函館に奉行所を置き、後松前に移して松前奉行所となす。文化の初小安戸井等の六所邦人雜居するを以て内地に屬し、村名を付し、山越内以北を以て蝦夷地と

す。龜田の關を移す蓋し、此時に在り、函館、木古内の九村に申明亭を設け、正徳の禁令を掲げ、落部、尻岸内、小安、當別、札別、釜谷、三石、茂邊地、富川、三谷、下湯川、錢龜澤、石崎の十三村に濱浦の禁令を掛く。安政二年幕府再び蝦夷地を收むる時、東は木古内、西は乙部を限り、松前藩に屬し、之を松前領と呼ぶ。明治二年八月舊松前領及戸井より野田道に至るの地を併せて渡島國となし、龜田、茅部、上磯、福島、津輕、檜山、南志の七郡(後、福島、津輕を合して松前郡と改む)を置け、而して福島、津輕、檜山、南志の四郡は尙松前領たり。是より先き松前氏城を館村に築き、移り居る。館藩といふ。四年七月館藩を廢して縣治となし、其所轄四郡を弘前縣に屬し、十一月改めて青森縣に屬せしめしが、五年九月全道開拓使の管掌に歸せり。北海道志、十五年開拓使を廢し、函館、札幌、根室三縣を置き、此國函館縣に屬せしが、十九年一月三縣を廢し、北海道廳を札幌に置き、全道の政治開拓を掌らしむ。
オシマ(尾島) 【北海道】渡島國に在る駒ヶ岳の一名。
オシマ(小島) 【新潟】越後國三島郡島田村の大字。小島谷千石は元祿年中高田城主稻葉正通が、其弟通周に分與せしものにて、高田轉封の後も此のみは舊に傳へて明治維新に至れり。

オシマ(小島) 【青森】若狹國内海灣の東口角半出する。約三〇町。岬端断崖、洞窟あり。俗に弘法大師洞と呼ぶ。
オシマ(尾島) 【奈良】大和國南葛城郡忍海郡の村。古の葛城國の一部にして、忍海郡の邑たり。後一郡に立て、四郡に分たれ。明治二十二年新町村制定の際に、十五村を合して忍海村とし、一郡一村たり。二十九年南葛城郡に入る。角刺宮址は顯宗天皇登極の際、飯豐皇女權りに朝政を聽き給へる所にして、大字忍海に在る小祠は是なりといふ。百三三三。
オシマ(大宜味) 【大宜味】を見よ。
オシマ(忍海郡) 【忍海郡】を見よ。
オシマ(サキ) 【サキ】土佐國幡多郡の南西端。岬端に顯著なる白崖を成す。其傍に柏島あり。又海上三津を隔て沖之島あり。此岬と沖之島との間の水道は漲落共に潮流強く、且つ激浪あり。落潮には岬端近傍最も急激にて、北西颶來る時は殊に其勢を増す。又南風には大濤を起す。
オシマ(積占山) 【信濃國小縣郡】諏訪東筑摩三郡の交會に在る山。和田嶺の西に連る圓錐形の一峯にして、絶頂に噴火口址と覺しき穴あり。火山岩の礫砂を以て填たされ、草木生ぜず。此山に往々栢榴石を得、其光澤の美、我國産中第一と稱す。古來オシマ石と呼び、其名著る。
オシマ(長島) 【長島郡】を見よ。
オシマ(和尙洲) 【奉天】奉天廳管下芝蘭二堡に屬し、淡水河の南岸に在る

數庄の總稱。淡水河の沙洲より成り、清の雍正年中より開けし地なり。當時は河上洲の稱ありしが、乾隆年中竹塹城陷廟の僧梅福、官に請ひ、此地の收納を以て、渡媽祖宮の香油料に充つるの許可を得、毎年來りて今の水滿庄に居り、租穀を徵收せるより里人和尙僧と呼びしが、河上洲と其音相似たるを以て、終に混同して和尙洲と呼ぶに至れりといふ。
オシマ(和尙山) 【常陸國多賀郡】北隅に在る山。磐城の國界に連る。一に佛護山といふ。
オシマ(和尙山) 【豊前國宇佐郡】に在る山。豊川村に屬す。山上に法蓮和尙の座禪石といふあり。法蓮は養老年間の人。醫術に精しく、善く民の疾苦を救へるを以て、田四十町を賜ひし事蹟に見ゆ。
オシマ(湖) 【北海】北見國網走郡網走町の南郊。藤野牧場あり。盛に牛馬を飼養す。
オシマ(湖) 【湖路】を見よ。
オシマ(湖路) 後志國忍路郡鹽谷村の大字。湖路にも作る。番部岬の東一八町、一小地峽に沿ふ。戸長役場、警察署、郵便局、學校等あり。港は南東に灣入すること約半里。幅僅に一鏈餘。水深三尋乃至八尋。底質沙泥なり。よく風波を防げども小舟の外入ることを得ず。
オシマ(忍路郡) 【北海】後志國十七郡の一。四境、西南は余市郡、東南は高島郡、北は海、廣二里一八町。表二里一〇町。面積三方里半。もと鹽谷忍路、桃内、龜

島の四村ありしが、合せて鹽谷の一村とす。後志支廳の所管とす。...

オシロコツ 【北海】押琴を見よ。市瀨の東角、高二尺四寸、矮樹雜草叢生。...

オシラナイ(尾白内) 【北海】渡島國茅部郡森村の大字駒ヶ嶽の裾野に在り。...

俗に小代谷と呼ぶ。和名抄七美郡小代郷の遺稱とす。大字城山に郵便局あり。...

オスエウ(尾末) 日向國東臼杵郡の東側に在る。海邊見岬と細島港の北側を成せる陸舌との間に在り。...

オセ(小瀬) 【茨城】常陸國那珂郡の村合蓋。...

源、安藝國佐伯郡津田村、南流して安藝、周防の國界を限り、大竹村に至り海に入る。...

オセキ(尾瀬) 【愛知】尾張國栗栗郡淺井村の大字。...

オソ(於曾) 【山梨】甲斐國東山梨郡七里村の地名。...

御用を勤めたり。合三三三。オソクマ(小十九間城址) 【香川】...

オソツベツ(小曾木) 【大阪】攝津國豐能郡の村。...

オソケウ(小曾木) 【東京】武藏國四多摩郡の村。...

岩石を今も分解せられ、白色の泥土狀を呈す。俗に云ふ血ノ池、極楽瀆、飯ノ山、畜生道、大地獄等皆此所に在り。...

陸奥に至らんとし、常陸に接するや、小田治久、伊佐眞壁、中郡諸城主と之を迎へて、關城に納る。...

立古田、驛の間に在り、山を隔て、備後國三郡板木村と相接す。...

オタ(織田) 【奈良】大和國磯城(舊式上郡)の村。...

オタカ

しが、永祿五年毛利氏の力によりて此城に復歸し、死後毛利氏の將杉原守重其子元盛嗣で之に居り、因幡口を扼せり。毛利羽柴和睦の後吉川氏の領となり、關ヶ原役の後中村氏米子入城の時破却す。大神山神社の事は大高村の下に收む。
オタカ(小高) 【福島】磐城國相馬郡の町。濱街道の一驛にして、鐵道常磐線の車驛あり。東京上野驛より一七四哩七四釐。郵便局あり。此地は相馬家の祖胤胤が建武年中城を築きし地なり。傳へて慶長十六年に至り廢す。其址城に妙見祠あり。同慶寺は小高山と稱し、明應五年遠山和尚開基相馬家累代の香華院なり。
オタカヤマ(尾高山) 【伊勢國三重郡朝上村】の西嶺。釋迦岳の東峰とす。小野菟歌と傳ふる。分のほる尾高山の峯に雲はれて、むかふ朝明の影そさやけきの詠あり。山中にもと大引、接寺ありしといふ。
オタカワ(小田川) 【備中國の西部に在る川】水源、備後國神石郡山野川といふ。東流六里、備中國後月郡に入り三原川を容れ、東南流して江原を過ぎ、江原川といふ。船木川、尾阪川、小林川を合せ、吉備郡の南部を貫き高梁川に入る。流程一八里。
伊豫國に在る川一に奈其野川といふ。水源、上浮穴郡參川村喜多郡宇和川村に至り、脈川に入る。流程一三二〇町。
オタギ(愛宕) 【巖手】陸中國江刺郡の村。
オタキ(愛宕) 【京都】山城國八

オタキ

郡の一國の北隅に在り、四境、東は近江國滋賀郡北は丹波國北桑田郡、西は葛野郡、南は京都市、面積一九方里六八。行政上、田中、下鴨松ヶ崎上賀茂、大宮、鷹峰、雲ヶ畑鞍馬口、白川、修學院、岩倉大原八瀬、靜野、鞍馬、花春久多野口の八村に分ち、郡役所を田中村に置く。
地勢、東は近江國境に比叡山脈あり、北は丹波國境に翠巒、鞍馬二山あり、西は葛野郡界に鷹峰嶺あり。賀茂高野の二水郡内の諸水を集め、田中村の西に至り相合す。翠巒鞍馬の脊には大悲山あり。山西の水は丹波國北桑田郡山國谷に入り、山東の水は近江國高島郡安曇川の水源となる。此邊地勢懸絶し、久多花脊の二村あり。居民多く農業及植業に従事す。主なる物産は米二萬七千石、麥一萬三千石、粟、菘子、製茶木材(六萬圓)、木炭石類雜物四一萬圓等なり。
愛宕は和名抄多岐と註し、鷹野、栗野、上栗田下栗田大野小野、錦部、八坂、島月、愛宕出雲(上下)賀茂の一三郷を載す。愛宕は郷名より出でならんといふ。此郡往時は今の京都市手本通以東、東山以西、南は東寺の南方、紀伊郡境に至るまでの總稱たりしが、郡區設置の際京都市を劃きて上京下京の二區とし、其後又淨土寺鹿ヶ谷岡崎吉田聖護院粟田口南禪寺等の諸村を分ちて上京區に屬せしめ、今は大に狭小となれり。
オタキ(小田川) 【長野】信濃國上水内

オタカ

郡の村(白土) 【宮城】陸前國に在りし郡。舊陸奥五十四郡の一にして、天平勝寶紀に、陸奥少田郡初めて黄金を買す。因て勝寶と改元せる事見ゆ。其地今の遠田郡南部に當るが如し、戦國の時なるべし。郡名亡ぶ。和名抄は小田牛甘石毛賀美餘戸の五郷を載す。一説、小田遠田は一郡なるを誤て重出せしならん。
【岡山】備中國八郡の一、四境、東は吉備郡、西は後月郡及備後國深安郡、北は川上郡、南は一部海、一部淡路郡、東西五里一〇町、南北六里三二町、周圍三〇里三二町、面積一五方里二二行政上、笠岡金浦、矢掛の三町及城見、陶山、大江、稻倉、大井、吉田、新山、北川、小田、堺、美山、宇戸、美川、三谷、山田、川面、中川、今井、神島、外、神島、内、北木島、真鍋島の二三村に分ち、郡役所を笠岡町に置く。
オタカ(小田川) 【北海】釧路國白糠郡に在る。又笠岡より北向

オタカ

し、小田驛に連る鐵道あり、鐵道山陽線は淺口郡より來り笠岡に停車場を置き、備後の深安郡に走る。農産物は甘藷四二一萬貫、除虫菊(三千貫)、薄荷、九萬貫、共に縣下第一に居り、甘藷は全額の四分の一を占む。工産物は、麥稈、真田(二五萬圓)及木綿織物(二〇萬圓)を第一とす。其他主要なるものは米六萬石、麥(五萬七千石)、大豆、粟、蕪、葉、蕪(二萬圓)、林産物五萬圓、漁獲物(二萬圓)、食鹽、花、蠶、蠶、粉、酒(二七萬圓)、醬油(五萬圓)等あり。本郡は上古、下道國の一部なり。靈異記に上少田郡、節用集に小田郡、東西と記す。蓋し地勢前記の如く二分するを以てなり。和名抄乎太と註し、實成、拜、慈、草、壁、小田、甲、勢、魚、緒、出、部、の、七、郷、及、驛、家、に、分、つ、オタケクラ(御竹倉) 【東京】武藏國、東京市を見。
オタサム(小田寒) 【樺太】豊原支廳、濱出所管内の驛。且つ植民據地。東海岸に在り、アイヌ多く住す。部落に沿ひて小田寒川流る。此川、鱒魚に富み、土人は漁獵を以て生業とす。舊名オタサン。
オタサム(小田寒川) 【樺太】豊原支廳、濱出所管内に在る川。水源、野田寒岳の西北北流して、オコクク海に注ぐ。流大ならざれども、鱒の湖上多し。舊名オタサン川。
オタシナイ 【北海】石狩國空知郡砂川村の舊稱。

オタシマ(小田島) 【山形】羽前國北村山郡の村(白土)
オタシユツ 【北海】歌臺を見。
オタツキ(小田付) 【福島】岩代國耶麻郡の舊組名。十六村を統べたり。喜多方町の北より田代川の上流なる山谷を占め、今の加納熱鹽の諸村に當る。
オタトコ(小田床) 【熊本】肥後國天草郡の村(白土)
オタトミ(小田宮) 【北海】千島國國後島西岸の一漁村。根室海峽に面す。
オタナイ(小田内川) 【北海】後志國小樽郡と石狩國札幌郡との分界を成す川。流程約三里。
オタニ(小谷) 【北海】石狩國厚田郡厚田村の大字。
【滋賀】近江國東淺井郡の村。北國路街道に當り、伊部郡上等の町家あり。其北嶺を小谷山といふ。小谷城址及小谷寺あり。城は淺井亮政、久政、長政三代の居城なり。永正十三年亮政の築く所にして、東山、北陸の要路を扼し、北は山岳連りて美濃越前に至る山徑あり。極めて要害の地なり。元龜年中織田氏來り攻む。四年八月長政城を出で、戦ひ死し。淺井氏滅ぶ(白土)。
オタニシ(小谷石) 【北海】渡島國上磯郡知内村の大字。小田四にも作る。狐越嶮と矢越嶮との間なる海村とす。小港あれども、岩礁多く、漁舟を容るゝに過ぎず。
オタヌブリ(歌登) 【北海】歌臺を見。
オタネコロ 【北海】天鹽國留萌郡鬼鹿村

の字、昔前郡に接す。民家は海岸及河岸に在り。
オタノ(小田野) 【茨城】常陸國那珂郡那珂村の大字。下野國境に近き山村なり。中世佐竹氏の族。此所に住して小田野氏となる。館址は今山林となる。
オタノシケ(大葉毛) 【北海】釧路國白糠郡に在る。鐵道車驛海岸に在り。釧路驛へ六哩半。又同名の川あり。此所にて海に入る。其沿岸に植民地あり。
オタマ(小田) 【東京】武藏國秩父郡國、東京市を見。
オタマキ(尾田時) 【埼玉】武藏國秩父郡の村(白土)
オタマチ(小田町) 【愛媛】伊豫國上浮穴郡の村(白土)
オタリ(小谷) 【長野】信濃國北安曇郡の北部。姫川の上流なる山谷。地勢、嶽る越後國に屬し、藩政の頃は松本領と糸魚川領と相交錯し、元禄年中公裁を経て境界を定めし事あり。南北約一〇里に亘り、今神城、北城、南小谷、北小谷、中土の五村あり。犀川谷、松本地方より越後の糸魚川町に出づる街道を道し、貨物は多く糸魚川より輸入す。北城に警察分署及雨中南小谷村に馬場、北小谷村に郵便局あり。郡中多く麻を産す。此地は東鑑に千國庄とある所なり。戦國の頃は仁科黨の土家あり。武田氏に附從し、小谷七騎と呼ばれり。又藩政の時、千國南小谷村に關寨を設け、口留關と呼ばれり。千國は姫川の岸なる

要害にして、冬季は往々雪崩の爲め大馬路に閉ざらる。小谷温泉、泉は中土村に在り。糸魚川街道下り、約四里の山間に於て、雨節、天狗原、藥師岳等の火山脈三方を圍繞し、地勢西南に向つて開く。泉質は炭酸泉にして、熱湯、新湯、完湯、眼ノ湯、奉納湯等あり。温度は熱湯最も高く、華氏百二三度、眼ノ湯最も低く、九一度なり。氣候は暑中約八一度、寒中約二〇度なり。食料品は多く糸魚川に仰ぎ、其他は多く大町より來り、糸魚川まで八里、大町より一三里、又長野戸隠に達する間道あり。
オタル(小樽) 【北海】後志國の區、小樽高島二郡に跨り、北西南の三方は山岳丘陵を貫き、東方一帯小樽灣に枕み、石狩國と相望む。此地石狩大原野の埠頭として、札幌及産地に通ずるのみならず、函館、苫部、江差、増毛、稚内等に定期の航海あり。北海道西北部沿岸一帯の貨物旅客を集散し、近年は樺太交通の要地、對露貿易の中心なれば、商業活潑にして、其繁盛遙に函館を凌ぐ。市街は岸に沿ひ、丘陵を貫ひ、長一里餘。町數四一。其最も繁盛なるを色内町通とし、堺町、港町、入舟町、花園町、砂見町、船越町等に在り。小樽支廳、區役所、區裁判所、税關支署、海防中等學校、水産學校、高等女學校、郵便局、電信電話局、稅務署、警察署等市中に散在す。市街の北方を手宮といふ。此所に停車場及棧橋ありて、汽車より直に貨物を揚卸す。舊炭礦鐵道の工場亦此所に在り。市内工場多し。工業の主なるものは製油、製材(浮式の器械を用ふ)、精米、製氷、製紙及醸造なり。殊に製油(三〇萬圓)、種油のみならず、薄荷油、魚油に及び、其規模本邦第二と稱せらる。其他清涼飲料、二萬圓、農具一〇萬圓、石蠟、鐘錶、磁器、石鹼等少許あり。此地明治以前はアイヌ語オタルナイと呼ばれり。砂川の義にして、石狩、小樽の郡界を成せる川の名より出でたり。當時松前氏の臣氏家氏の支配場にして、微々たる一漁村に過ぎざりしが、明治年間札幌の發達と移住者の増加するに伴ひ、船舶の往來漸く繁く、十三年炭礦鐵道の開通以來、俄然として繁盛を來たし、二十二年特別輸出港となり、三十二年一般開港場となる。小樽港に於ける最近五年間の外國貿易表次の如し。

Table with 4 columns: Year (1911, 1920, 1921, 1922), Category (Sea products, Agriculture, Forestry, etc.), and Value. The table shows a significant increase in trade volume over the five-year period.

オタシ

オタノ

オタル

オタル

オチク

魚なり。其他は用材薪炭材合計七萬圓あり、農産物は米(七千石)・蕎麥・甘藷あり。種地は越前に作り、和名抄は隱地に作り、武良河内郡麻の三郷を載す。明治三十七年郡小路、那久路、山田、北方、南方、代田、久見津、戸部、萬那久、油井、蝦木の十四村を合せて二村とす。

オチク(越前郡)【愛媛】伊豫國十二郡の一、四境南は周桑郡、西は温泉郡、東及北の二面は海、廣五里三町、表七里、面積一九方里一〇。行政上、今治波止濱菊間の三町及櫻井、上朝倉、下朝倉、富田、立花、清水、鶴岡、龍岡、九和、日高、日吉、近見、波方、乃萬、大井、小西、龜岡、歌仙、浦島、山津、倉山、宮窪、弓削、生名、魚島、岩城、東伯方、四伯方、瀬戸崎、盛口、鏡宮、浦島山、藤前(満浦以下は島地とす)の三七村に分ち、郡役所を今治町に置く。戸數六萬九千五百八十二。地勢、本郡は國の北端に位置し、左右は海に瀕し、中間の地長く海中に突出して半島を成し、大角、宮崎鼻の二角あり。海上島嶼甚だ多く、三島群島と稱し、安藝、備後の諸島と交錯す。陸地と島地との間は有名なる米島海峡にして、其他諸島間に花栗瀬戸、伯方瀬戸、大瀬戸等あり。郡の南部は山岳重疊し、三方森、五葉、檜原の高山あり。河川は山中の水相集りて、若社川、頼田川となり、濠洋に注ぐ。西邊には菊間川の細流あり。産物中産額多きは食鹽四一萬圓及木綿二六萬圓、内白木綿一三三萬圓。

オチタ

綿フランネル二四萬圓なり。又大島の甘藷、今治の海參は有名なり。其他主要産物は米(九萬五千石)・蕎麥(七萬八千石)・甘藷(九八三萬貫)・大豆(小豆)・蕎麥・蘿蔔・木村木炭・漁獲物(二九萬圓)・鯛・鮭・鰻・鮪を主とす。漆器一六萬圓、傘五萬圓、石灰九萬圓(五二六萬圓)とす。本郡今の境域は明治二十九年野間郡を併せたるものなり。越前は日本紀に乎知に作り、上古は小市國と稱せり。古來越智氏本據の地にして、中世國府を置けり。和名抄は乎知と訓じ、朝倉高市新屋拜志給理高橋鴨部自吉立花櫻井の一〇郷を載す。

オチタ(越知谷)【兵庫】播磨國神崎郡の村。八三三。オチホ(落帆)【樺太】豊原支廳榮濱出張所管内東海岸のアイヌ部落。落帆川の左岸に在り。大泊より富内を経て此に至る間道通じ、交通の便あり。舊稱オチホカ。オチホカ(落帆川)【樺太】豊原支廳榮濱出張所管内に在る川。セルドワイノラ灣の南西に注ぐ。流域小なれど鱒の湖ること甚だ多く、島内峴内川に亞き、内淵川と伯仲し、第二に位す。河畔に石炭廢坑あり。西紀一八六九年以前に露人の發見せり。近年邦人調査に據るも薄層にして、炭質不良なり。舊名オチホカ川。オチヤ(小千谷)【新潟】越後國北魚沼郡の町。魚沼三郡の首邑にして、舊會津藩魚沼領の治所を置きし所なり。信濃川の四

オチヤ

岸に沿ふ。明治四十四年鐵道北越線來迎寺驛より分岐せる魚沼線開通す。其間約八哩郡役所、警察署、區裁判所、中學校、工兵第十三大隊の兵營及郵便局等あり。小千谷縮布の名は古來有名なり。されど縮布は魚沼三郡内の産にして、小千谷は單に其市場たり。但し近年絹織物を製出し、一の機業地ならんとす。町に明石堂あり。縮布の元祖明石氏を祭る。此地にて飛白縮布を出せしは寛文年中播磨明石の人堀次郎、將後小千谷に流寓し、從來の白織布を改良し、シボを加へ、紋様を顯はせしに起るといふ。爾來近郷の婦女就いて習得する者漸く多く、終に一名産となる郡中出す所皆其品を異にす。貿易備考に據れば、白縮布は堀之内浦佐小出の鹽澤組、藍縮布は六日町組、紅結縷縮の類は小千谷組、淺葱縮の類は十日町組、紺の辨度縮は高柳郷よりす。其絶品を上布といふ。近世織法大に進み、巧に花紋、柳條、飛白等を織出し、花機に劣らずと。明治四十一年の産額一〇萬圓に達す。船岡山は町の南に在り、極めて眺望に富む。山上に觀音堂及茂辰の役職死せし者の墓あり。六百六。

オチヤ(小千谷)【御茶ノ水】(東京)武蔵國に在る大山、其山脚に斗出、越前驛に在る。山中に越知神社あり。俗に越智の一海を成す。西より北を経て東に至る諸風を屏障す。濱邊は遠淺なれども、假泊し得べし。海首に落石村あり。オツツミ(小堤)【茨城】常陸國鹿島郡沼前村の大字。東茨城郡に斗入せる地なり。小堤越後守の館址あり。オツトマイ(一海)【北海】千島國波羅羅茂知島の北岸に在る。錨地。オツトモ(乙供)【青森】陸奥國上北郡甲地村の字。鐵道東北本線の車驛なり。東京上野驛より四二哩四四鎮。オツパ(追波川)【陸奥】桃生郡に在る川。北上川の分流にして、鹿又にて本流に分れ、東北に流れて追波海に入る。其海口に小砂嘴あり。川幅廣く、流緩にして舟楫の利甚だ大なり。流程約五里。オツパ(追波海)【陸奥】陸奥國に在る海。本吉橋生の郡界に彎入し、大須崎と十三濱崎との間に在り。海角を丸島北角を大指崎といふ。北上川の分流追波川の注ぐ所にして、海の南濱に名振灣、西濱に長西澳あり。オツベ(越邊川)【武蔵】國に在る川。水源入間郡の西偏東北流して高麗川を合せ、曲折して比企郡の都幾及櫻二川の合流を容れ、比企及入間二郡の界を成し、入間川と合して荒川に入る。流程約八里なり。オテ(小手)【福島】岩代國伊達郡の村。合谷谷。オテガワ(小手川)【福島】岩代國伊達

オチヨ

姫大己實命、明星太子の三座を祀り、其神體は奉澄法師の作なりと言傳ふ。オチヨウモン(越前川)【土佐】國高岡郡に在る川。水源、四津野村、南流して幡多郡に入り、田野々に至り、仁井田川と合して四万十川となる。オチルミツ(落城址)【新潟】越後國西頸城郡勝山城址の一名。オチンダ(落平)【沖繩】琉球國島尻郡小嶽村の地名。二流の飛泉懸崖より海に落つ。水質甘美なるを以て石を疊みて樋を作り、舟其下に至りて水を取り、那覇區民の飲料に充つ。オツ(尾津)【三重】伊勢國に在る古蹟。日本武尊尾張より伊勢に移り、此地に至りしに、先に東向の時置忘れ給ひし劍の尙松下に在るを見て、和歌を詠じ給ひしといふ地なり。其地今桑名郡多度村、戸津にして、其隣村古濱村、御衣野の八咫社は其劍を祀れるなりといふ。オツ(小津)【滋賀】近江國野洲郡の村。栗太郡に接し、琵琶湖に沿ふ。もと湯生庄及玉津庄の一部なり。小津神社あり。允恭天皇の時の創建といふ。古は太社にて、近村の總鎮守たりしといふ。小津君の祖是鏡別王を祀る。六百六。

オツ(小津)【愛知】尾張國知多郡に在りし村。明治三十九年龜崎町に入る。オツキ(小槻)【滋賀】近江國の舊地名。栗太郡志津村大字部田に小槻神社あり。治田村大字下戸山に小槻大社あり。古事記に落

オツキ

月王者小月之山君之祖也とあるに當る。オツキ(小月)【山口】長門國豐浦郡の村。山陽道の驛市にして、吉田川の口に接す。地勢三面山を繞らし、唯南面の一方開けたり。運漕頗る便にして、水に吉田川、濱田川あり。陸に鐵道山陽線の車驛あり。厚狹美禰、大津三郡の道路此所に相會し、長府下關に向ふ。市街亦成れて三となる。戸數多からざれども、旅客常に多く、市街繁昌なり。郵便局あり。八百五。

オツキ(御月山)【越後】國南魚沼北魚沼二郡の境に在る山。海拔二一〇〇尺。其西に八海山、北に駒ヶ嶽並峙す。海上より之を望みて三本岳と呼ぶ。山中の水は幣ノ流をなし、下流水無川となりて魚野川に入る。オツキライ(越喜來)【嚴手】陸前國氣仙郡の村。百三九。オツツツ(乙骨)【長野】信濃國諏訪郡本郷村の大字。乙事にも作る。八ヶ岳の西岳の直下なり。天正十年北條氏の大軍甲州を攻取らんとて、楓ヶ原に來り、追る。徳川氏の將酒井忠次、大久保忠世等衆寡數せざるを以て此所に退却し、衣類を解きて旗の如くなし、伏あるが如くに裝ひ退陣し、一兵をも失はず。オツツノ(乙字瀧)【磐城】國石川郡泉村大字瀧崎に在る瀧。阿武隈川の上流此所に至り大瀧を成す。其幅二百餘間、高一丈、風曲して乙字形を成すを以て此名あり。兩岸は懸崖にして、南、瀑布に臨み

オツタ

て登葦の不効あり。邊邊に二三の碑あり。其一に芭蕉の「五月雨の瀧ふりうづむ水蓋かな」の句を刻す。オツタチ(乙立)【島根】出雲國簸川郡の村。神門川西岸の山村なり。風土記に餘戸里大門立とあるもの是なり。合百三。オツタテ(追立)【越後】國中頸城郡、石間川を見よ。オツチシ(落石)【北海】根室國根室郡和田村の大字。落石海に臨める村落にして、驛通あり。根室町へ六里。アイヌ語オツチシ、岬の險ゆる所ある義なり。落石岬を越ゆる道あるより名く、厚岸より此所を過ぎて根室に至る道は、文化五年の開通にて、落石驛を置きしは明治十二年なり。オツチシ(サキ)【北海】根室國花咲郡南東に在る半島狀の岬角。幅三哩半の頭地を以て本陸と連る。形銀杏の葉の如く、頂は稍平坦にして、中央に根、蝦夷松の類繁茂す。南西端に燈台あり。北緯四三度一〇分、東經一四五度三一分、第二等回轉紅白色、毎三〇秒に一光輝を發す。晴天光達一八哩、又無線電信落石局あり。明治四十一年十二月開局。上海北米間及附近航海中の船舶との通信を掌る。四十二年八月中の經由通數一、一五あり。オツチシ(ベツ)【北海】北見國枝幸郡に在る細流。今下流沿岸に植民地あり。禮文驛は川口に在り。オツチシ(ワン)【北海】根室國落石半島の西側に在る灣。西に開き、鈎形

の一海を成す。西より北を経て東に至る諸風を屏障す。濱邊は遠淺なれども、假泊し得べし。海首に落石村あり。オツツミ(小堤)【茨城】常陸國鹿島郡沼前村の大字。東茨城郡に斗入せる地なり。小堤越後守の館址あり。オツトマイ(一海)【北海】千島國波羅羅茂知島の北岸に在る。錨地。オツトモ(乙供)【青森】陸奥國上北郡甲地村の字。鐵道東北本線の車驛なり。東京上野驛より四二哩四四鎮。オツパ(追波川)【陸奥】桃生郡に在る川。北上川の分流にして、鹿又にて本流に分れ、東北に流れて追波海に入る。其海口に小砂嘴あり。川幅廣く、流緩にして舟楫の利甚だ大なり。流程約五里。オツパ(追波海)【陸奥】陸奥國に在る海。本吉橋生の郡界に彎入し、大須崎と十三濱崎との間に在り。海角を丸島北角を大指崎といふ。北上川の分流追波川の注ぐ所にして、海の南濱に名振灣、西濱に長西澳あり。オツベ(越邊川)【武蔵】國に在る川。水源入間郡の西偏東北流して高麗川を合せ、曲折して比企郡の都幾及櫻二川の合流を容れ、比企及入間二郡の界を成し、入間川と合して荒川に入る。流程約八里なり。オテ(小手)【福島】岩代國伊達郡の村。合谷谷。オテガワ(小手川)【福島】岩代國伊達

オト

部の村。合百五九。オト(小月)【大阪】攝津國河邊郡川西村の大字。古の雄家郷の一部にして、舊訓オベなり。式内小月神社、今小月天神あり。荒木村重の父義村嘗て居りしことあり。オトイ(乙井)【香川】讃岐國大川郡造田村の大字。城址あり。四宮光利の居りし所なり。光利は四宮右近の裔なり。仙石氏に従ひ軍功あり。後此地を領せり。オトイ(マウシ)【今半】【北海】千島國樺太島業取郡の村。西は海に面す。アイヌ語オツイマウシ、遠くある所の義、八四八。

オト(小月)【大阪】攝津國河邊郡川西村の大字。古の雄家郷の一部にして、舊訓オベなり。式内小月神社、今小月天神あり。荒木村重の父義村嘗て居りしことあり。オトイ(乙井)【香川】讃岐國大川郡造田村の大字。城址あり。四宮光利の居りし所なり。光利は四宮右近の裔なり。仙石氏に従ひ軍功あり。後此地を領せり。オトイ(マウシ)【今半】【北海】千島國樺太島業取郡の村。西は海に面す。アイヌ語オツイマウシ、遠くある所の義、八四八。オトエ(音江)【北海】石狩國空知郡の村。石狩川の左岸に沿ひ、空知太旭川間の街道に當る。アイヌ語オトイエボク、川尻の濱の山下の義、合百三三。●【北海】日高國靜内郡の村。布注川に沿ひ、春立村の北に接す。原名オトイウシ、合百五。オトガワ(男川)【愛知】三河國額田郡の村。合百七。オトガワ(音川)【富山】越中國婦負郡の村。合百五。オトガワ(男川)【三河】國に在る大平川の一名。乙川又は夫川に作る。オトキキ(音聞山)【尾張】國愛知郡の名所。彌富村八事山の中とす。南、熱田の海を望み、絶景の地なり。今俗に八幡山と呼ぶ。聲ばかり音き、山のほととぎす、すがたゆかしきものにぞありける。夫木集、中宮上總。

オトクニ

【京都】山城國乙訓郡の

【京都】山城國乙訓郡の

村オトクとも呼ぶ。乙訓川の西、向日岡の南にして、古の第國郡なり。延暦再都の時も京城に入れり。乙訓神社乙訓寺今に存す。乙訓神社は井ノ内に在り。式内の古社にして、火雷神を祀る。角宮と稱す。遷都の際に松尾神社と相比びたる大社なりしといふ。乙訓寺は今里に在り。推古天皇勅願所。聖德太子開基。延暦四年廢太子早良親王此所に幽閉せられし事あり。其後宇多法皇の行宮となりしより法皇寺といふ。もと眞言宗なりしが中古寺僧争論あり。南禪寺に隷し、一度禪宗となりしが、江戸護持院管轄し、眞言宗に改め、再興す。光明寺は六字粟生に在り。念佛三昧院と號す。淨土宗西山派の一本寺にして、建久年中蓮生法師(熊谷直實)創建。其師法然上人を開山とす。上人滅後十六年、叡山の衆徒念佛宗を憎み、大谷なる上人の墓を開かんとす。徒弟等竊に骨を收め此所に移す。四條天皇の時光明寺の號を賜ふ。爾後一宗の祖廟として重んぜらる。境内山吹風多く、風景清絶なり。又蓮生の墓あり。長法寺は大字長法寺に在り。創造年代詳ならず。もと古刹なり。寺寶釋迦牟尼佛再生説法の畫幅は千二百年以上のものでして、稀代の作品なりといふ。百三三番。

オトクニガワ(乙訓川) 山城國に在る長瀬川上流の稱。

オトクニクン(乙訓郡) 【京都】山城國八咫の郡。東に桂川、南に丹波川を以て、紀伊

郡西は山脈を以て丹波國南桑田郡南は亦山脈を以て攝津國三島郡及綴喜郡の西端、北は葛野郡、面積五方里一四、行政上、向日町及久我羽束師、淀新神足大山崎海印寺乙訓大原野、大枝の二〇村に分ち、郡役所を向日町に置く。戸數一六三三九。地勢、國の西北に餘在し。丹波及攝津の境は險峻にして人口稀に、東部は平坦、水田多く、中部は乙訓川に沿ひ丘陵起伏す。郡内人口の過半は全く東南部に在り。河流は郡境に桂川淀川あり。又乙訓川大原野を貫流して長瀬川となり。淀川に入る。道路は山陰道(大枝坂より丹波に入る)西國路(山崎より北上し桂川を渡り、京都に通ず)あり。又鐵道東海道線の一端、郡の東北より斜に貫通して山崎に至り、攝津に入る。向日、山崎の二停車場あり。生業は農を主とし、山地の民は樵業を營む。主要産物は米、四萬六千石、麥一萬四千石、蕎麥六萬圓、製茶用材、薪炭材等とす。乙訓は和名抄於止久邇と註し、山崎、鞍馬、長井、大江、物集、榎本、羽束師、石作の九郷を載す。此中、大江は今の大枝村、石作は今の大原野、長井は向日町邊ならんといへど詳ならず。物集は今向日町に入る。訓世は今の久世村、羽束は羽束師村、榎本は不詳、鞍馬は新神足村邊なり。友岡の大字存す。山崎は今の大山崎村に當る。

オトクニノキウト(弟國舊郡) 【京都】山城國の古蹟。體大皇の都址に當り、乙

訓郡大原野村大字上羽より乙訓村大字井之内に互りたる邊なるべしともいふ。村今里の東、明星野なるべしともいふ。

オトクマ(乙訓) 【福岡】筑後國三井郡立石村の大字。筑前國界に在り。明治十年鹿兒島暴徒の起るや、福岡の士族越智彦四郎等約四百名此地に據り、福岡熊本間の路を扼し、官軍輸送の彈藥を奪はんとす。官軍討て五十餘人を斃す。餘衆潰散す。

オトクシマ(男島) 肥前國南松浦郡「男島」を以て、地名とす。

オトゴシヨウシ(乙子城址) 【岡山】備前國邑久郡「大伯」を見よ。

オトコヤマ(男山) 【京都】丹後國與謝郡岩瀧村の大字。舊名を板列といふ。延喜式板列神社あり。男山八幡を勧請せるものにて、終には地名となる。

オトコヤマ(男山) 山城國綴喜郡に在る山。雄徳山又は丈夫山に作り、八幡宮の鎮座あるを以て八幡山ともいふ。山脈南に走りて洞ヶ嶺、甘南備山となり。大和國生駒山に連り、北は斷絶し、淀川を隔て、天王山と相對し、京都の關門を成す。麓より頂上まで約一五町。京攝の諸山、淀、木津、宇治、桂の四川、巨椋池等悉く目睫に集る。此地南北朝の時、應永中、就中正平七年後村上天皇親率兵を率ゐて男山に臨み、足利義隆と戦ひ、利あらず。大和に走り給ひし事あり。山上に有名な官幣大社八幡宮あり。石清水八幡宮とも呼び、應仁天皇神功皇后玉依姫を祀る。清和天皇

皇貞觀元年宇佐神宮に準じ創建あり。爾後即位には必ず奉幣し、早災兵亂夷狄侵寇には必ず使を遣はし祈禱あり。歴朝の崇敬甚だ厚く、第二の宗廟と稱せらる。殊に弘安元寇の時、龜山天皇本社に幸し祈禱ありし事、人の知る所なり。源賴義、義家又大に尊信し、賴朝政權を執るに及び、諸國に別宮を建て、源姓の武士皆氏神となすに至り。徳川綱吉亦大に崇敬し、本社を再營し、神封を増加せり。神殿は内外二字に分ち、其前に幣殿、舞殿相連る。亦其前に樓門あり。其南を拜所とす。皆聳くに檜皮を以てし、塗るに丹靑を用ひ、五彩繪、壯麗美觀を極む。内外殿の間に架する鍍金の雨樋は、黄金の外樋と稱し、世に名高し。豐臣氏の寄進なり。境内約二萬三千坪。石清水景清塚御前橋上、高良社等の名蹟、武内社水若宮若宮若宮若宮等の攝社あり。又舊時は八幡宮奉仕の僧は護國寺寶塔院、神宮寺等數十區に在り。香烟甚だ盛なりしが、明治維新の際皆撤せしめ、今山下に數寺存す。

オトシベ(落部) 【北海】渡島國茅部郡の村。北は噴火灣に面し、西は膽振國山越内に接す。東海岸道及鐵道此所を過ぎて野田追驛に至る。アイヌ語オトシベの有る所の義なり。百三三番。

オトシベガワ(落部川) 【北海】渡島國茅部郡に在る河水源二あり。一は狗神岳に發して、釜淵川といひ、一は乙部山に發して、二股川といひ、二川相會し、落部村に至

リ噴火灣に注ぐ。流域八里。

オトシマ(乙島) 【岡山】備前國淺口郡に在りし村。明治三十五年玉島町に合す。

オトシツシヨウシ(鑿水城址) 【新潟】越後國西頸城郡に在る勝山城址の一名。

オトスキ(音杉) 【富山】越中國中新川郡の村。百三三番。

オトツカワ(乙津川) 豐後國に在る大野川の一名。

オトツマヤマ(乙妻山) 信濃國「戸隠山」を見よ。

オトツレヤマ(音信山) 上總國君津市原二郡に跨る山。俗に茅積嶺といひ、高瀬村大字山口より眞里谷に至る途中とす。杜鵑の名所なり。「時鳥尋ね來れば今こそ、音信山のかひになくなれ」夫木集重保。此地又片葉の薄を生ずといふ。

オトナシガワ(音無川) 大和國吉野郡に在る川。水源、小天平岳の北陰、川上村大字西河に至り、吉野川の支流に入る。●若狹國遠敷郡に在る川。一に遠敷川といふ。水源、與塚嶺。北流して遠敷村に至り、北川に入る。流域三里二三町。俗に此川の水は南都東大寺二月堂の關御井に通ずといふ。●紀伊國に在る。熊野川の一名。●豐前國築上郡築城村邊の小流。能因法師の歌枕に出づ。わくらばになど夜は人の間はさらん、音無川に住身なりとも。又應永戦亂記に音無川合戦の事見ゆ。

オトナシタキ(音無瀧) 山城國愛宕郡大原村に在る瀧。來迎寺より呂川を溯るこ

と二三町にして、遠す。高六丈、幅二間五尺。水流巨岩に觸りて、徐に下り、鑿々の聲なきを以て音無瀧といふ。下流分れて呂川、津川の二川となる。

オトナシヤマ(音無山) 伊勢國度會郡二見村の南なる一嶺。古來勝地を以て知らる。鴨長明の伊勢記に出づ。

オトナセガワ(音無瀧川) 丹波國に在る川。和知川、六人部川、天田郡福知山町の東に合し、市街の東北を過ぎ、又屈折して東西に向ひ、一〇里にして丹後國由良港に注ぐ。福知川、大雲川等の稱あり。又下流は由良川といふ。福知山より下流は小舟を通じ、且つ河口深廣なるを以て、運漕の便甚だ大なり。又瀧漕及漁業の利あり。殊に鮎は頗る名品と稱す。

オトノコ(乙之子) 【愛知】尾張國海東郡美和村の大字。豐臣秀吉の姉婿彌助の居りし所と傳ふ。秀吉未だ藤吉郎たりし時、美濃堂洞合戦に乙子村彌助の飼養せる牝馬に乗り、鎧片々、薬香片々にて、彌助の彌助を口取にして行きしといふ。彌助秀吉榮達の時三位法印吉房と呼ぶ。

オトブケ(音更) 【北海】十勝國河東郡の村。音更川の支流に發達せる農村なり。帯廣市街の北一里半。十勝川を挾みて、帯廣植民地と相對す。百三三番。

オトブケガワ(音更川) 【北海】十勝國河東郡に在る川。水源、ニベツ山中、東南流して十勝川に入る。流域二七里三〇町。沿岸肥沃にして、新開地多し。

オトベ(乙部) 【北海】渡島國留志郡の村。郡の南端なる海岸にして、小茂内、突符、三ツ谷、蚊柱等の諸部落あり。村の南西端は乙部鼻といふ。斷崖にして、其前面には噴泉起伏す。明治維新の際、大島榎本等徳川幕府の遺士兩館五樓廓に據り、官軍に抗す。明治二年四月征討軍此地に上陸し、討て幕兵を走らし、終に江差を取る。百三三番。

●【三重】伊勢國安濃郡建部村の大字。津市の東に接す。神宮領にて、乙部御厨の稱あり。中世長野氏の黨乙部藤政居る。藤堂氏の菩提所願王寺あり。●【嚴手】陸中國紫波郡の村。北上川の東岸なる一部落にして、釜石街道の一小站とす。郵便局あり。百三三番。

オトベヤマ(乙部山) 【北海】渡島國留志、檜山二郡に跨る山。膽振の國境に接す。高三〇二〇尺。

オトミ(乙見) 【愛知】三河國額田郡に在りし村。明治三十九年分れて、常磐村岡崎町に入る。

オトメ(乙女) 【熊本】肥後國上益城郡の村。百三三番。

オトメトウケ(乙女峠) 相模、駿河の界に在る峠。箱根の早川を溯り、仙石原より此峠を踰れば、駿河の御殿場に出づ。箱根、足柄二道の間なる間道にして、徳川幕府の時、小田原藩仙石原に番所を置き、警固せるに因り、御殿場と呼ぶといふ。

オトモ(小友) 【嚴手】陸中國上閉伊郡の村。百三三番。●【嚴手】陸中國氣仙郡の

村。百三三番。●【秋田】羽後國由利郡の村。百三三番。

オドリ(踊) 【鹿兒島】大隅國始良郡牧園村の舊稱。

オトリガワ(小鳥川) 飛騨國に在る川。水源、龍ヶ峰、吉城郡河合村に至り、宮川に入る。流域一里一町。峽谷は人烟稀少。

オトルマ(男沼) 【埼玉】武藏國大里郡の村。利根川の岸にして、水流の爲め、屢變遷を受けし地なり。百三三番。

オドロ(小土呂) 【千葉】上總國夷隅郡上深村の大字。大多喜町より、長生郡に出づる路を通じ、小土呂坂といへり。難路なりしが、今は開墾せらる。

オドロヤシ(行行林) 【千葉】下總國千葉郡豐富村の大字。

オトワ(音羽) 【東京】武藏國「東京市」を見よ。●【奈良】大和國磯城郡多武峯村の地名。今は南北に分れ、共に其大字たり。古は音石に作り、音石寺あり。此寺一に善法寺といひ、千手觀音靈應の地にして、坊舎數多ありたり。

オトワガワ(音羽川) 山城國宇治郡に在る川。水源、音羽山。北流して、牛尾、嚴法寺を過ぎ、四宮川(横川)に入る。

オトワタキ(音羽瀧) 山城國愛宕郡修學院村の東方、音羽谷に在る瀧。高一丈五尺、幅六尺。地幽邃にして、翠岩蒼樹之を圍む。古今集、八雲御抄等に載せられ、古來著名なり。但し清水寺にも同名の瀧あるを以て、天保年中加茂季鷹碑を建て、此

瀧の真なる由を記せり。昔は岩壁三段に分れ、頗る壯觀なりといふ。

オトワヤマ(音羽山) 山城國宇治郡近江國滋賀郡に跨る山。笠取山に連接す。延長一里。其一峰を牛尾山といふ。●大和國磯城・宇陀二郡に跨る山。山中瀑布あり。音羽瀧といふ。山麓多武峯村北音羽に響石と稱する奇石あり。

オナガワ(女川) 【宮城】陸前國牡鹿郡の村(百五十六)。

オナガワハマ(女川濱) 【宮城】陸前國牡鹿郡女川村の大字。女川灣頭牡鹿半島の頭部に在り。女川灣は金華山の北約七哩半。早崎と出島とを以て灣門を成し、其幅約二哩。灣入四瀝餘。灣頭二支に分れ、北西を女川港、南西に在るを野々濱といふ。女川港は北西に灣入し、能く風波を避く。且つ港の中央に樞樞と呼ぶ險礁あり。

オナギカワ(小名木川) 武藏國東京市深川區を東西に横斷し、隅田川と中川とを通ずる渠水。本所の壑川と並行す。大川の口なる萬年橋より南葛飾郡大島村平方まで約一里一〇町。下總諸郡より都下に達する運河の第一にして、行船との往復多きを以て、行徳川の稱あり。昔は宇奈岐澤と呼べり。

オナバケ(女化原) 常陸國稻敷郡に在る原濱街道牛久驛の東南に亙り、東西四里、南北三里。近年漸く開墾に就けり。事蹟詳墓石十浦の邊に粟山村にあり。

オニキ魚貫 【熊本】肥後國天草郡の村。天草下島の西南角にして、其端を魚貫岬といふ。此地無煙炭を出し、浦越山ノ鼻浦底、念ヶ原の四坑あり。其中、浦越坑は日本煉炭會社製品の原料を出す。より稍盛にして、一月約五百萬斤を出す。此地の海シロ(鱈方言マンピキ)を産し、其乾物は俗に「オニキ」と稱し、廣く珍重せらる。八百元云々。

オニコボ(鬼窟) 【埼玉】武藏國南埼玉郡中世の郷名。岩槻町の北に當り、今、篠津村邊とす。篠津村、白岡八幡宮を鬼窟八幡といへり。

オニコウベ(鬼首) 【宮城】陸前國玉造郡の村。郡の北極にして、禿ヶ岳荒雄山須金岳等に圍まれたる谷間なり。古來駿馬を産するを以て著はる。今上天皇の御料に召されし金華山・宮城野の名馬も此地より出でたり。此地温泉多し、其著名なるを寒風澤・神瀧・轟吹・荒雄とす。村内三里の間に散在す。五湯の中、最も奇なるを吹上温泉とす。弘法孔不動孔と呼ぶ二孔より一晝夜七回、約三時四分毎に一回づつ、交代して熱泉を噴出す。其高さ四季によりて異り、夏季最も著し、近年大孔の噴泉止み、小孔のみ毎二時間に噴泉す。鬼首間歇泉として名高し。此地仙臺を距る西北二里。山水の景絶佳なれども、山岳圍繞し、唯一の通路なる温泉村間にも小豆坂の險あり。辛ふじて牛馬を通ずるを以て、浴客多からず。温泉村の鳴子温泉

る。靈龜元年の創建といふ。延喜式の若狭比古神なり。下宮は大字遠敷に在り、上宮と相距る一五町。豐玉姬命を祀り、養老五年の勸請といふ。即ち若狭比賣神なり。當國に於ける大和氏が其祖神を祀れるならんといふ。神宮寺は大字神宮寺に在り。舊時遠敷神社の供僧坊にして、元亨釋書に神願寺とあるものなりといふ。藥師如来を安置す。六百元云々。

オニウケン(遠敷郡) 【福井】若狭國三郡の一。四境、東は三方郡、南は近江國高島郡及丹波國北桑田何鹿二郡、西北は大飯郡、北は海東四二里、九町、南北八里二八町、面積約二三方里。行政上、小濱町及雲濱、西津内、外海島、羽生、熊川、三宅、松永、野木、宮川、國富、遠敷、今富、口名田、中名田、知三、奥名田の一七村に分ち、郡役所を雲濱村に置く。百六十六、百六十七、地勢、山岳郡境に連亘し、三方郡界には加賀見山、鈴ヶ峰あり。近江、丹波の界には木地山、三國岳、八峰、頭巾山等時ち、大飯郡界に飯盛山の山脈あり。又郡の中央に多太ヶ岳、登野河、流、郡中の水西なるは南川に集り、東なるは北川となり、小濱町に至り相會して小濱灣に入る。其沿岸は肥沃にして、村落も概ね此水支流に沿ふ。海岸は屈曲甚だしく、久須夜ヶ岳の半島北に斗出して、東に矢代灣、西に小濱灣を擁す。小濱灣頭に小濱町あり、若狭の首邑とす。道路は丹波街道三方郡より來り、安賀里、日笠、小濱を経て大飯郡に入る。又日

笠より分れ、熊川を経て近江に通ずるものあり。南川に沿ひ丹波に入る山徑あり。農産物總計一〇七萬圓、米(五萬六千石)、麥大豆、蘿蔔、大麻(四萬五千圓)、桐實(二萬五千圓)、桑葉(四萬五千圓)、蘭(一萬圓)、林産物は木材(四萬圓)、木炭(一〇萬圓)、水産物(一萬圓)、鯖、鯛を主とす。工業物は蠶絲(六九萬圓)、織物、和紙(六萬圓)、油漆器、若狭塗、五萬圓、瓦、磁器、物(七萬圓)あり。遠敷は和名抄平、爾布と註し、遠敷丹生、神戶、玉置、野里、瓜生、安賀志、摩餘、戸佐、文、阿桑、木津の一三郷を載す。但し佐文以下三郷は大飯郡の分を重出せるなり。天長二年郡の西部を割きて大飯郡を置き、本郡は三方大飯の中間に在るを以て中郡とも稱し、近世上中下中に分ちて呼びし事あり。

【文籍】遠敷郡案内(同編纂會編纂)。

オニウシ 【北海】渡島國茅部郡蘇村の舊稱。●北海【日高國】秋伏を見よ。

オニガウラ(鬼ヶ浦) 安房國平沙浦の一。名。

オニガサキ(鬼ヶ崎) 安房國西北なる一岬角。東海灣に斗出し、其南北に各一小灣を擁す。北は勝山にて、南を岩井嶽とす。

オニガジヨウ(鬼ヶ城) 【熊本】肥後國上益城郡、白糸村を見よ。

オニガジヨウヤマ(鬼ヶ城山) 丹波國何鹿郡の西北端に在る山。天田郡及丹波國に跨り、音無瀧川を隔て、福知山町に對す。山上より若狭丹波の海を望むべし。

當村に覺左衛門と云男、一日山に入りしに、かほよき女にあへり、乃ち携て家に歸る。其女出所も定かならざりしかど、心地感ひけるに、や終にかたひて妻となしぬ。其妻いくはとなく子を産す。其子長じて五六歳の時、母のうたい、ぬし居るなふと見れば下裾のみまより狐の尾生出たり、あはやとちさばけげ女驚き、忽ち老狐となりて失せぬ。其翌日覺左衛門、懐つらに立出見れば、何やらん書きたるものあり、讀て見れば、歌なり、「みどり子の母はと問は、おなげの、原になく、伏す」と答へよ、「おなげの原は其邊に在り、昔より其原に祠をたて、其狐をまつる。女化稻荷是なり」と。此覺左の事を利根川圖誌には、栗原下總守義長の事とす。

オナハマ(小名濱) 【福島】磐城國石城郡の町。福島縣下第一の漁場にして、海水浴場の設あり。灣は淺くして、碇泊に便ならず。郵便局あり。鐵道常磐線、泉、停車場より約一里。平町の東南三里餘。湯水驛より輕便鐵道の設あり。磐城炭輸出の便に供す。六百元云々。

オナブチ(女淵) 【群馬】上野國勢多郡粕川村の大字。城址あり。天文年中上杉謙信之を陥れ、長尾願長に與ふといふ。

オニウ(遠敷) 【福井】若狭國遠敷郡の村。小濱町の東南にして、多太ヶ岳の東北麓とす。音無川此所に至り北川に會す。國幣中社若狭遠敷神社は上下二宮に分れ、上宮は大字龍前に在り、産火々出見尊を祀

る。靈龜元年の創建といふ。延喜式の若狭比古神なり。下宮は大字遠敷に在り、上宮と相距る一五町。豐玉姬命を祀り、養老五年の勸請といふ。即ち若狭比賣神なり。當國に於ける大和氏が其祖神を祀れるならんといふ。神宮寺は大字神宮寺に在り。舊時遠敷神社の供僧坊にして、元亨釋書に神願寺とあるものなりといふ。藥師如来を安置す。六百元云々。

オニウケン(遠敷郡) 【福井】若狭國三郡の一。四境、東は三方郡、南は近江國高島郡及丹波國北桑田何鹿二郡、西北は大飯郡、北は海東四二里、九町、南北八里二八町、面積約二三方里。行政上、小濱町及雲濱、西津内、外海島、羽生、熊川、三宅、松永、野木、宮川、國富、遠敷、今富、口名田、中名田、知三、奥名田の一七村に分ち、郡役所を雲濱村に置く。百六十六、百六十七、地勢、山岳郡境に連亘し、三方郡界には加賀見山、鈴ヶ峰あり。近江、丹波の界には木地山、三國岳、八峰、頭巾山等時ち、大飯郡界に飯盛山の山脈あり。又郡の中央に多太ヶ岳、登野河、流、郡中の水西なるは南川に集り、東なるは北川となり、小濱町に至り相會して小濱灣に入る。其沿岸は肥沃にして、村落も概ね此水支流に沿ふ。海岸は屈曲甚だしく、久須夜ヶ岳の半島北に斗出して、東に矢代灣、西に小濱灣を擁す。小濱灣頭に小濱町あり、若狭の首邑とす。道路は丹波街道三方郡より來り、安賀里、日笠、小濱を経て大飯郡に入る。又日

笠より分れ、熊川を経て近江に通ずるものあり。南川に沿ひ丹波に入る山徑あり。農産物總計一〇七萬圓、米(五萬六千石)、麥大豆、蘿蔔、大麻(四萬五千圓)、桐實(二萬五千圓)、桑葉(四萬五千圓)、蘭(一萬圓)、林産物は木材(四萬圓)、木炭(一〇萬圓)、水産物(一萬圓)、鯖、鯛を主とす。工業物は蠶絲(六九萬圓)、織物、和紙(六萬圓)、油漆器、若狭塗、五萬圓、瓦、磁器、物(七萬圓)あり。遠敷は和名抄平、爾布と註し、遠敷丹生、神戶、玉置、野里、瓜生、安賀志、摩餘、戸佐、文、阿桑、木津の一三郷を載す。但し佐文以下三郷は大飯郡の分を重出せるなり。天長二年郡の西部を割きて大飯郡を置き、本郡は三方大飯の中間に在るを以て中郡とも稱し、近世上中下中に分ちて呼びし事あり。

【文籍】遠敷郡案内(同編纂會編纂)。

オニウシ 【北海】渡島國茅部郡蘇村の舊稱。●北海【日高國】秋伏を見よ。

オニガウラ(鬼ヶ浦) 安房國平沙浦の一。名。

オニガサキ(鬼ヶ崎) 安房國西北なる一岬角。東海灣に斗出し、其南北に各一小灣を擁す。北は勝山にて、南を岩井嶽とす。

オニガジヨウ(鬼ヶ城) 【熊本】肥後國上益城郡、白糸村を見よ。

オニガジヨウヤマ(鬼ヶ城山) 丹波國何鹿郡の西北端に在る山。天田郡及丹波國に跨り、音無瀧川を隔て、福知山町に對す。山上より若狭丹波の海を望むべし。

オニキ魚貫 【熊本】肥後國天草郡の村。天草下島の西南角にして、其端を魚貫岬といふ。此地無煙炭を出し、浦越山ノ鼻浦底、念ヶ原の四坑あり。其中、浦越坑は日本煉炭會社製品の原料を出す。より稍盛にして、一月約五百萬斤を出す。此地の海シロ(鱈方言マンピキ)を産し、其乾物は俗に「オニキ」と稱し、廣く珍重せらる。八百元云々。

オニコボ(鬼窟) 【埼玉】武藏國南埼玉郡中世の郷名。岩槻町の北に當り、今、篠津村邊とす。篠津村、白岡八幡宮を鬼窟八幡といへり。

オニコウベ(鬼首) 【宮城】陸前國玉造郡の村。郡の北極にして、禿ヶ岳荒雄山須金岳等に圍まれたる谷間なり。古來駿馬を産するを以て著はる。今上天皇の御料に召されし金華山・宮城野の名馬も此地より出でたり。此地温泉多し、其著名なるを寒風澤・神瀧・轟吹・荒雄とす。村内三里の間に散在す。五湯の中、最も奇なるを吹上温泉とす。弘法孔不動孔と呼ぶ二孔より一晝夜七回、約三時四分毎に一回づつ、交代して熱泉を噴出す。其高さ四季によりて異り、夏季最も著し、近年大孔の噴泉止み、小孔のみ毎二時間に噴泉す。鬼首間歇泉として名高し。此地仙臺を距る西北二里。山水の景絶佳なれども、山岳圍繞し、唯一の通路なる温泉村間にも小豆坂の險あり。辛ふじて牛馬を通ずるを以て、浴客多からず。温泉村の鳴子温泉

る。靈龜元年の創建といふ。延喜式の若狭比古神なり。下宮は大字遠敷に在り、上宮と相距る一五町。豐玉姬命を祀り、養老五年の勸請といふ。即ち若狭比賣神なり。當國に於ける大和氏が其祖神を祀れるならんといふ。神宮寺は大字神宮寺に在り。舊時遠敷神社の供僧坊にして、元亨釋書に神願寺とあるものなりといふ。藥師如来を安置す。六百元云々。

オニウケン(遠敷郡) 【福井】若狭國三郡の一。四境、東は三方郡、南は近江國高島郡及丹波國北桑田何鹿二郡、西北は大飯郡、北は海東四二里、九町、南北八里二八町、面積約二三方里。行政上、小濱町及雲濱、西津内、外海島、羽生、熊川、三宅、松永、野木、宮川、國富、遠敷、今富、口名田、中名田、知三、奥名田の一七村に分ち、郡役所を雲濱村に置く。百六十六、百六十七、地勢、山岳郡境に連亘し、三方郡界には加賀見山、鈴ヶ峰あり。近江、丹波の界には木地山、三國岳、八峰、頭巾山等時ち、大飯郡界に飯盛山の山脈あり。又郡の中央に多太ヶ岳、登野河、流、郡中の水西なるは南川に集り、東なるは北川となり、小濱町に至り相會して小濱灣に入る。其沿岸は肥沃にして、村落も概ね此水支流に沿ふ。海岸は屈曲甚だしく、久須夜ヶ岳の半島北に斗出して、東に矢代灣、西に小濱灣を擁す。小濱灣頭に小濱町あり、若狭の首邑とす。道路は丹波街道三方郡より來り、安賀里、日笠、小濱を経て大飯郡に入る。又日

笠より分れ、熊川を経て近江に通ずるものあり。南川に沿ひ丹波に入る山徑あり。農産物總計一〇七萬圓、米(五萬六千石)、麥大豆、蘿蔔、大麻(四萬五千圓)、桐實(二萬五千圓)、桑葉(四萬五千圓)、蘭(一萬圓)、林産物は木材(四萬圓)、木炭(一〇萬圓)、水産物(一萬圓)、鯖、鯛を主とす。工業物は蠶絲(六九萬圓)、織物、和紙(六萬圓)、油漆器、若狭塗、五萬圓、瓦、磁器、物(七萬圓)あり。遠敷は和名抄平、爾布と註し、遠敷丹生、神戶、玉置、野里、瓜生、安賀志、摩餘、戸佐、文、阿桑、木津の一三郷を載す。但し佐文以下三郷は大飯郡の分を重出せるなり。天長二年郡の西部を割きて大飯郡を置き、本郡は三方大飯の中間に在るを以て中郡とも稱し、近世上中下中に分ちて呼びし事あり。

【文籍】遠敷郡案内(同編纂會編纂)。

オニウシ 【北海】渡島國茅部郡蘇村の舊稱。●北海【日高國】秋伏を見よ。

オニガウラ(鬼ヶ浦) 安房國平沙浦の一。名。

オニガサキ(鬼ヶ崎) 安房國西北なる一岬角。東海灣に斗出し、其南北に各一小灣を擁す。北は勝山にて、南を岩井嶽とす。

オニガジヨウ(鬼ヶ城) 【熊本】肥後國上益城郡、白糸村を見よ。

オニガジヨウヤマ(鬼ヶ城山) 丹波國何鹿郡の西北端に在る山。天田郡及丹波國に跨り、音無瀧川を隔て、福知山町に對す。山上より若狭丹波の海を望むべし。

オニキ魚貫 【熊本】肥後國天草郡の村。天草下島の西南角にして、其端を魚貫岬といふ。此地無煙炭を出し、浦越山ノ鼻浦底、念ヶ原の四坑あり。其中、浦越坑は日本煉炭會社製品の原料を出す。より稍盛にして、一月約五百萬斤を出す。此地の海シロ(鱈方言マンピキ)を産し、其乾物は俗に「オニキ」と稱し、廣く珍重せらる。八百元云々。

オニコボ(鬼窟) 【埼玉】武藏國南埼玉郡中世の郷名。岩槻町の北に當り、今、篠津村邊とす。篠津村、白岡八幡宮を鬼窟八幡といへり。

オニコウベ(鬼首) 【宮城】陸前國玉造郡の村。郡の北極にして、禿ヶ岳荒雄山須金岳等に圍まれたる谷間なり。古來駿馬を産するを以て著はる。今上天皇の御料に召されし金華山・宮城野の名馬も此地より出でたり。此地温泉多し、其著名なるを寒風澤・神瀧・轟吹・荒雄とす。村内三里の間に散在す。五湯の中、最も奇なるを吹上温泉とす。弘法孔不動孔と呼ぶ二孔より一晝夜七回、約三時四分毎に一回づつ、交代して熱泉を噴出す。其高さ四季によりて異り、夏季最も著し、近年大孔の噴泉止み、小孔のみ毎二時間に噴泉す。鬼首間歇泉として名高し。此地仙臺を距る西北二里。山水の景絶佳なれども、山岳圍繞し、唯一の通路なる温泉村間にも小豆坂の險あり。辛ふじて牛馬を通ずるを以て、浴客多からず。温泉村の鳴子温泉

る。靈龜元年の創建といふ。延喜式の若狭比古神なり。下宮は大字遠敷に在り、上宮と相距る一五町。豐玉姬命を祀り、養老五年の勸請といふ。即ち若狭比賣神なり。當國に於ける大和氏が其祖神を祀れるならんといふ。神宮寺は大字神宮寺に在り。舊時遠敷神社の供僧坊にして、元亨釋書に神願寺とあるものなりといふ。藥師如来を安置す。六百元云々。

オニウケン(遠敷郡) 【福井】若狭國三郡の一。四境、東は三方郡、南は近江國高島郡及丹波國北桑田何鹿二郡、西北は大飯郡、北は海東四二里、九町、南北八里二八町、面積約二三方里。行政上、小濱町及雲濱、西津内、外海島、羽生、熊川、三宅、松永、野木、宮川、國富、遠敷、今富、口名田、中名田、知三、奥名田の一七村に分ち、郡役所を雲濱村に置く。百六十六、百六十七、地勢、山岳郡境に連亘し、三方郡界には加賀見山、鈴ヶ峰あり。近江、丹波の界には木地山、三國岳、八峰、頭巾山等時ち、大飯郡界に飯盛山の山脈あり。又郡の中央に多太ヶ岳、登野河、流、郡中の水西なるは南川に集り、東なるは北川となり、小濱町に至り相會して小濱灣に入る。其沿岸は肥沃にして、村落も概ね此水支流に沿ふ。海岸は屈曲甚だしく、久須夜ヶ岳の半島北に斗出して、東に矢代灣、西に小濱灣を擁す。小濱灣頭に小濱町あり、若狭の首邑とす。道路は丹波街道三方郡より來り、安賀里、日笠、小濱を経て大飯郡に入る。又日

笠より分れ、熊川を経て近江に通ずるものあり。南川に沿ひ丹波に入る山徑あり。農産物總計一〇七萬圓、米(五萬六千石)、麥大豆、蘿蔔、大麻(四萬五千圓)、桐實(二萬五千圓)、桑葉(四萬五千圓)、蘭(一萬圓)、林産物は木材(四萬圓)、木炭(一〇萬圓)、水産物(一萬圓)、鯖、鯛を主とす。工業物は蠶絲(六九萬圓)、織物、和紙(六萬圓)、油漆器、若狭塗、五萬圓、瓦、磁器、物(七萬圓)あり。遠敷は和名抄平、爾布と註し、遠敷丹生、神戶、玉置、野里、瓜生、安賀志、摩餘、戸佐、文、阿桑、木津の一三郷を載す。但し佐文以下三郷は大飯郡の分を重出せるなり。天長二年郡の西部を割きて大飯郡を置き、本郡は三方大飯の中間に在るを以て中郡とも稱し、近世上中下中に分ちて呼びし事あり。

【文籍】遠敷郡案内(同編纂會編纂)。

オニウシ 【北海】渡島國茅部郡蘇村の舊稱。●北海【日高國】秋伏を見よ。

オニガウラ(鬼ヶ浦) 安房國平沙浦の一。名。

オニガサキ(鬼ヶ崎) 安房國西北なる一岬角。東海灣に斗出し、其南北に各一小灣を擁す。北は勝山にて、南を岩井嶽とす。

オニガジヨウ(鬼ヶ城) 【熊本】肥後國上益城郡、白糸村を見よ。

オニガジヨウヤマ(鬼ヶ城山) 丹波國何鹿郡の西北端に在る山。天田郡及丹波國に跨り、音無瀧川を隔て、福知山町に對す。山上より若狭丹波の海を望むべし。

オニキ魚貫 【熊本】肥後國天草郡の村。天草下島の西南角にして、其端を魚貫岬といふ。此地無煙炭を出し、浦越山ノ鼻浦底、念ヶ原の四坑あり。其中、浦越坑は日本煉炭會社製品の原料を出す。より稍盛にして、一月約五百萬斤を出す。此地の海シロ(鱈方言マンピキ)を産し、其乾物は俗に「オニキ」と稱し、廣く珍重せらる。八百元云々。

オニコボ(鬼窟) 【埼玉】武藏國南埼玉郡中世の郷名。岩槻町の北に當り、今、篠津村邊とす。篠津村、白岡八幡宮を鬼窟八幡といへり。

オニコウベ(鬼首) 【宮城】陸前國玉造郡の村。郡の北極にして、禿ヶ岳荒雄山須金岳等に圍まれたる谷間なり。古來駿馬を産するを以て著はる。今上天皇の御料に召されし金華山・宮城野の名馬も此地より出でたり。此地温泉多し、其著名なるを寒風澤・神瀧・轟吹・荒雄とす。村内三里の間に散在す。五湯の中、最も奇なるを吹上温泉とす。弘法孔不動孔と呼ぶ二孔より一晝夜七回、約三時四分毎に一回づつ、交代して熱泉を噴出す。其高さ四季によりて異り、夏季最も著し、近年大孔の噴泉止み、小孔のみ毎二時間に噴泉す。鬼首間歇泉として名高し。此地仙臺を距る西北二里。山水の景絶佳なれども、山岳圍繞し、唯一の通路なる温泉村間にも小豆坂の險あり。辛ふじて牛馬を通ずるを以て、浴客多からず。温泉村の鳴子温泉

る。靈龜元年の創建といふ。延喜式の若狭比古神なり。下宮は大字遠敷に在り、上宮と相距る一五町。豐玉姬命を祀り、養老五年の勸請といふ。即ち若狭比賣神なり。當國に於ける大和氏が其祖神を祀れるならんといふ。神宮寺は大字神宮寺に在り。舊時遠敷神社の供僧坊にして、元亨釋書に神願寺とあるものなりといふ。藥師如来を安置す。六百元云々。

オニウケン(遠敷郡) 【福井】若狭國三郡の一。四境、東は三方郡、南は近江國高島郡及丹波國北桑田何鹿二郡、西北は大飯郡、北は海東四二里、九町、南北八里二八町、面積約二三方里。行政上、小濱町及雲濱、西津内、外海島、羽生、熊川、三宅、松永、野木、宮川、國富、遠敷、今富、口名田、中名田、知三、奥名田の一七村に分ち、郡役所を雲濱村に置く。百六十六、百六十七、地勢、山岳郡境に連亘し、三方郡界には加賀見山、鈴ヶ峰あり。近江、丹波の界には木地山、三國岳、八峰、頭巾山等時ち、大飯郡界に飯盛山の山脈あり。又郡の中央に多太ヶ岳、登野河、流、郡中の水西なるは南川に集り、東なるは北川となり、小濱町に至り相會して小濱灣に入る。其沿岸は肥沃にして、村落も概ね此水支流に沿ふ。海岸は屈曲甚だしく、久須夜ヶ岳の半島北に斗出して、東に矢代灣、西に小濱灣を擁す。小濱灣頭に小濱町あり、若狭の首邑とす。道路は丹波街道三方郡より來り、安賀里、日笠、小濱を経て大飯郡に入る。又日

笠より分れ、熊川を経て近江に通ずるものあり。南川に沿ひ丹波に入る山徑あり。農産物總計一〇七萬圓、米(五萬六千石)、麥大豆、蘿蔔、大麻(四萬五千圓)、桐實(二萬五千圓)、桑葉(四萬五千圓)、蘭(一萬圓)、林産物は木材(四萬圓)、木炭(一〇萬圓)、水産物(一萬圓)、鯖、鯛を主とす。工業物は蠶絲(六九萬圓)、織物、和紙(六萬圓)、油漆器、若狭塗、五萬圓、瓦、磁器、物(七萬圓)あり。遠敷は和名抄平、爾布と註し、遠敷丹生、神戶、玉置、野里、瓜生、安賀志、摩餘、戸佐、文、阿桑、木津の一三郷を載す。但し佐文以下三郷は大飯郡の分を重出せるなり。天長二年郡の西部を割きて大飯郡を置き、本郡は三方大飯の中間に在るを以て中郡とも稱し、近世上中下中に分ちて呼びし事あり。

【文籍】遠敷郡案内(同編纂會編纂)。

オニウシ 【北海】渡島國茅部郡蘇村の舊稱。●北海【日高國】秋伏を見よ。

オニガウラ(鬼ヶ浦) 安房國平沙浦の一。名。

オニガサキ(鬼ヶ崎) 安房國西北なる一岬角。東海灣に斗出し、其南北に各一小灣を擁す。北は勝山にて、南を岩井嶽とす。

オニガジヨウ(鬼ヶ城) 【熊本】肥後國上益城郡、白糸村を見よ。

オニガジヨウヤマ(鬼ヶ城山) 丹波國何鹿郡の西北端に在る山。天田郡及丹波國に跨り、音無瀧川を隔て、福知山町に對す。山上より若狭丹波の海を望むべし。

オニキ魚貫 【熊本】肥後國天草郡の村。天草下島の西南角にして、其端を魚貫岬といふ。此地無煙炭を出し、浦越山ノ鼻浦底、念ヶ原の四坑あり。其中、浦越坑は日本煉炭會社製品の原料を出す。より稍盛にして、一月約五百萬斤を出す。此地の海シロ(鱈方言マンピキ)を産し、其乾物は俗に「オニキ」と稱し、廣く珍重せらる。八百元云々。

オニコボ(鬼窟) 【埼玉】武藏國南埼玉郡中世の郷名。岩槻町の北に當り、今、篠津村邊とす。篠津村、白岡八幡宮を鬼窟八幡といへり。

オニコウベ(鬼首) 【宮城】陸前國玉造郡の村。郡の北極にして、禿ヶ岳荒雄山須金岳等に圍まれたる谷間なり。古來駿馬を産するを以て著はる。今上天皇の御料に召されし金華山・宮城野の名馬も此地より出でたり。此地温泉多し、其著名なるを寒風澤・神瀧・轟吹・荒雄とす。村内三里の間に散在す。五湯の中、最も奇なるを吹上温泉とす。弘法孔不動孔と呼ぶ二孔より一晝夜七回、約三時四分毎に一回づつ、交代して熱泉を噴出す。其高さ四季によりて異り、夏季最も著し、近年大孔の噴泉止み、小孔のみ毎二時間に噴泉す。鬼首間歇泉として名高し。此地仙臺を距る西北二里。山水の景絶佳なれども、山岳圍繞し、唯一の通路なる温泉村間にも小豆坂の險あり。辛ふじて牛馬を通ずるを以て、浴客多からず。温泉村の鳴子温泉

る。靈龜元年の創建といふ。延喜式の若狭比古神なり。下宮は大字遠敷に在り、上宮と相距る一五町。豐玉姬命を祀り、養老五年の勸請といふ。即ち若狭比賣神なり。當國に於ける大和氏が其祖神を祀れるならんといふ。神宮寺は大字神宮寺に在り。舊時遠敷神社の供僧坊にして、元亨釋書に神願寺とあるものなりといふ。藥師如来を安置す。六百元云々。

オニウケン(遠敷郡) 【福井】若狭國三郡の一。四境、東は三方郡、南は近江國高島郡及丹波國北桑田何鹿二郡、西北は大飯郡、北は海東四二里、九町、南北八里二八町、面積約二三方里。行政上、小濱町及雲濱、西津内、外海島、羽生、熊川、三宅、松永、野木、宮川、國富、遠敷、今富、口名田、中名田、知三、奥名田の一七村に分ち、郡役所を雲濱村に置く。百六十六、百六十七、地勢、山岳郡境に連亘し、三方郡界には加賀見山、鈴ヶ峰あり。近江、丹波の界には木地山、三國岳、八峰、頭巾山等時ち、大飯郡界に飯盛山の山脈あり。又郡の中央に多太ヶ岳、登野河、流、郡中の水西なるは南川に集り、東なるは北川となり、小濱町に至り相會して小濱灣に入る。其沿岸は肥沃にして、村落も概ね此水支流に沿ふ。海岸は屈曲甚だしく、久須夜ヶ岳の半島北に斗出して、東に矢代灣、西に小濱灣を擁す。小濱灣頭に小濱町あり、若狭の首邑とす。道路は丹波街道三方郡より來り、安賀里、日笠、小濱を経て大飯郡に入る。又日

笠より分れ、熊川を経て近江に通ずるものあり。南川に沿ひ丹波に入る山徑あり。農産物總計一〇七萬圓、米(五萬六千石)、麥大豆、蘿蔔、大麻(四萬五千圓)、桐實(二萬五千圓)、桑葉(四萬五千圓)、蘭(一萬圓)、林産物は木材(四萬圓)、木炭(一〇萬圓)、水産物(一萬圓)、鯖、鯛を主とす。工業物は蠶絲(六九萬圓)、織物、和紙(六萬圓)、油漆器、若狭塗、五萬圓、瓦、磁器、物(七萬圓)あり。遠敷は和名抄平、爾布と註し、遠敷丹生、神戶、玉置、野里、瓜生、安賀志、摩餘、戸佐、文、阿桑、木津の一三郷を載す。但し佐文以下三郷は大飯郡の分を重出せるなり。天長二年郡の西部を割きて大飯郡を置き、本郡は三方大飯の中間に在るを以て中郡とも稱し、近世上中下中に分ちて呼びし事あり。

【文籍】遠敷郡案内(同編纂會編纂)。

オニウシ 【北海】渡島國茅部郡蘇村の舊稱。●北海【日高國】秋伏を見よ。

オノシ

達村大字男里に至り大阪灣に入る。流程三三三町。

オノシナダチ(雄信達) 【大阪】和泉國泉南舊日根郡の村。古の鳴瀬郡の一部にして、男里川の東岸に在り。大字男里に縣社、男神あり。式内の古社にして、二社あり。男森明神、神武天皇を祀る。濱ノ天神(五瀬命を祀るといふ。八二五五五)。

オノセウラ(魚瀬浦) 出雲國八束郡惠曇村の西より、鏡川(舊橋)郡佐香浦に至る一帯の海岸の稱。約二里半の間、屈曲なく、人烟稀なり。其間に魚瀬といふ小里あり。犬野村に屬す。

オノタ

近年附近に石炭の採掘せらるるより、船舶の出入漸く多しと雖も、港内遠淺にして、汽船の出入便ならず、且つ四風の時は荷役不可能なり。停車場より一里半。

オノタキ(小野瀧) 信濃國四筑摩郡駒ヶ根村に在る瀧。木曾街道上、松原より須原驛に至る道の左側に懸る。高一〇〇尺。輕覺床の南半里、木曾八景の一なり。細川幽齋此地を過ぎて、此瀧は布引箕尾にも劣らざるに如何にして、歌枕に洩れしやといへり。傳ふ。鳥丸光榮の歌に、「つま木こる小野の名しるき瀧なれや、山かすかなる中に音して」。鐵道中央西線は東に此瀧を越下して走る。

オノタタンザン(小野田炭山) 磐城國石城郡磐崎村外一村に互れる炭山。平町の北二里餘、湯本停車場より西北三〇町。磐城鐵道會社の經營に係る。明治四十一年、鑛區一〇二、五八三六坪、使用鐵夫九三七人、女工二、五二一人、産額一九、三六二、二佛噸、價格八九萬圓(本邦鑛業一産)。

オノニ

寺澤師入道義寛、源為義に従ひ武功あり。小野寺莊を領し、其子通綱承久の亂に戦死すといふ。大慈寺は天平九年、行基開創の古刹と傳へ、日本七佛の一なる薬師像を置く。もとは寺領七百貫、門末三百餘坊ありしが、戰國以降衰へたり。村、神社は式内の古社にして、藤原秀郷の深く尊崇せし所なりといふ。八五五六。

オノニイ(小野新) 【福島】磐城國田村郡の町。郡の東南、山間の一市場にして、警察分署、郵便局、製絲場等あり。此地は延喜式の唯雄の誤野郎家のありし地といふ。中世田村氏の族之に居り、小野氏を稱し、岩城相馬兩氏と相抗せり。八五五六。

オノハヤシヨウ(小野原庄) 【兵庫】丹波國多紀郡今田を見よ。

オノハ

を領せしが、大前氏猶此地を去らず、因て戦争止まず。東郷氏重の時終に此を一統し、勢頗る盛なり。渡谷黨といふ。元龜年中島津氏に屬し、猶此地に居りしが、後島津氏の直轄となる。

オノベタ(小野部田) 【熊本】肥後國下益城郡の村。八三五六。

オノミチシ(尾道市) 【廣島】備後國の市。南海岸なる一都會にして、千光寺山の麓に在り。市街は東西一町、南北五町。市役所、御調所、警察署、水上警察署、區裁判所、監獄支署、郵便局、税務署、商業學校、市立高等女學校等あり。廣島市へ二二里一三町、福山町(深安郡)へ八里二八町、三原町へ三里一六町、甲山町(世羅郡)へ六里三三町、因島なる中ノ庄へ八里五五里、八三五六。此地背後は大寶山(即ち千光寺山)愛宕山あり。前は瀬戸を隔て、向島あり。自ら其港を成す港は東西九〇〇間、南北二〇〇間、水深千潮二〇尺。港内波靜にして、船舶の碇泊に便し、且つ鐵道山陽線の停車場ありて、海陸の運輸極めて便なれば、近國の旅客貨物概ね此地を経て出入し、商業の盛なること、廣島縣下第一と稱す。輸出二五二萬圓、生絲、織布、鹽、麥、英、産、食、鹽を主とし、輸入一七九萬圓、砂糖、雜糧、羽織、荒布を主とし、海外輸出は殆ど滿州、朝鮮地方に限られ、輸入二六萬圓、大豆、大豆粕、支那綿を主とし、西國産此地古來の商業地にして、通

オノミ

船業頗る發達するを以、瀬邊野侯領有の頃、特に町奉行を置きて之を治めたり。又當時は其種を以て名あり。支那沿岸航行の船舶は必ず此地に就いて酒を求めしといふ。古義眞言宗、光寺は大寶山の半腹に在り。多田滿仲の再興と稱す。堂宇雅麗、眺望絶佳。市中第一の勝區とす。境内に烏帽子岩あり。高四二尺、幅三〇尺。昔時、岩上に夜光玉ありしを以て、當時此海濱を玉ノ浦といへりといふ。頼山陽此寺に遊べり。詩に、「崖腹嵌僧寺、林頭露海門、波光分五色、梵唄壓人喧、鳥遊岸無影、舟過潮有痕、題名尚怪石、幾日又東歸」。西國寺は總持院と號し、天平年中行基の開創といふ。治暦年間焼失し、永保辛酉僧慶に勅して再建せしめらる。後又焼失し、僧有尊足利義教に請ふて重修し、永享年間成る。福島氏の時寺領を失ひ、後復た南大門、總門、仁王門等焼失せしが、今尙巨利たり。淨土寺は市の東山腹に在り。往時此地高野山の寺領たりし時の興立にして、邑務を執れる所なりしといふ。今泉涌寺に屬す。建武三年足利尊氏の九州に走れる時、此寺に宿し、後北上するに及び、再び此を訪ひ、將士と歌を詠じ手書して佛前に供せる事あり。應安七年義満復た此寺に到り、將軍敗走在何年、古寺籠紗護遺篇、伯仲森雄、青史跡雲仍、鶴山櫻山撰、劍戟南條、近江浸星辰北極懸、想見當時狼狽際、猶揮吟筆此開筵(菅茶山)。天神祠は今大

オノモ

山寺に在り。菅原相模館の古跡と傳ふ。オノミチノセト(尾道瀧) 備後國鞆津より阿武尊戸崎の二海峽を経て三原に通ずる狭水道。其東口は低潮一尋の淵、西口を以て近年其兩側に堤防を築き、幅約一鏈を存し、大低潮に二尋の深さまで、淺瀬するの工事を施せり。北岸は尾道市にして、商業繁盛なり。市の西に接して吉和村あり。魚鹽に富む。潮流は漲潮は東流し、速き大約二節半、落潮は西流し、速き二節四分一なり。

オノヤ

鳥、關址も亦此所に在り。

オハセ

今鹽崎村に長谷神社、長谷寺あり。其山を小長谷山と呼ぶ。又鹽崎山と更科山とは同一にあらずともいふ。「月見れば衣手さむし更級や、鹽崎山の峯の秋風」。鎌倉右大臣「佛や姨一人泣く月の友(芭蕉)」。姨子て山の訴人か杜宇(三千風)。

筑波山の東麓なる一小市街とす。三方山
 續きにて、唯東に向て開き、要害の地な
 り。元龜四年眞壁城主道無と小田天養と
 此地にて戦ひし事、常陽四載記に見ゆ。入
 三三六。●【茨城】常陸國東茨城郡上野
 合村の大字。陸前濱街道の一小站なり。中
 世八田知重の子光重此所に居り、小幡
 氏となる。其城址今に存す。●【愛知】尾
 張國東春日井郡に在りし村。明治三十九
 年守山町に入る。矢田川内川の間なる
 平地とす。城址あり。徳川家康の祖父清康
 の居りし所なり。天正十二年家康小牧に
 陣し、羽柴方なる池田勝入が、羽に參州を
 襲はんとするを窺ひ、尾して長久手に至
 りて激戦あり。羽柴勢大敗。家康軍を収め
 て小幡城に入り、俄に小牧に歸る。明和
 吉小幡を襲はんとするに、城内寂として
 人なし。乃ち軍を収めて樂田に歸る。●
 【滋賀】近江國神崎郡北五箇庄村の大字。
 愛知川の南岸にして、中山道に當り、小市
 街を成す。近江鐵道の車驛を置き、八日市
 へ二哩七五鎮。
 ●【京郡】丹波國何鹿郡の村。
 合二六六。●【岐阜】美濃國養老郡の村。不
 破郡に接し、段海川の西とす。小畑は此地
 の溝渠より出でし名といふ。合二六六。●
 【鳥取】因幡國八頭郡の村。若櫻驛の東北
 に當る。南北朝の頃小幡出羽守の居りし
 所といふ。山中に眞言宗濟徳寺あり。堂宇
 は三間四面飛驒工匠の作る所と傳へ、天
 井に組入蛇腹格天井の作と異なり。●
 本尊は彌陀三尊。境内五輪の古石塔數十
 基あり。邊野城の小松氏代々の墓といふ。
 合二六六。●【山口】長門國阿武郡樺郷東
 分村の字。萩町東北の海岸なり。もと塩田
 といひ、瓜を名産とす。又古來陶器を出
 す。其山を天長山(俗に茶碗山)といふ。
 ●【奈良】大和國高市郡の
 地名。一に小治田に作る。飛鳥と異名同
 地にして、今飛鳥村高市村の地なり。
 ●【三重】伊勢國度會郡の村。
 宮川の西岸にて、宇治山田市と一橋を以
 て通す。鐵道參宮線宮川驛あり。合三六六。
 ●【三重】伊勢國三重郡河
 原田村の大字。一に小幡に作る。二條院
 岐の知行たりし時、富田基度の爲に押領
 されしかば、鎌倉に懇訴し、之を復せる事
 東鑑に見ゆ。其時、霞岐の歌に、「朽ちぬへ
 き板田のはしの橋つくりおもふまゝに
 もわたしけるかな」
 ●【山形】山形國に在る。長瀬
 川上流の稱。
 ●【大和】大和國吉野郡の東
 津川村に在る。川、野川上流の稱なり。
 ●【大和】大和國吉野郡川上村に在る。川、水原大
 字伯母谷東北流して、川上川吉野川の上
 流に入る。
 ●【大和】大和國吉野郡の東
 川上村上北山村間に在る山路。吉野郷と
 北山郷との分水嶺を成す。山頂の薪茶屋
 といふ。所に人家あり。
 ●【大和】大和國吉野郡の東
 山の中半島ありて、東西を屏障し、海日は
 北に面し、東角を松ヶ崎、西角を餅崎とい
 ふ。其間一窪餘。灣内は東西約九里、深入
 四里にして、更に東西二灣に分る。東を
 小濱内港、西を青戸入江といふ。小濱内港
 は其東側沙濱にして、小濱町列り、北川
 南川湊合して注ぎ、其河口の西角に防波
 堤あり、北西の強風に際し、小船の碇泊に
 便なり。青戸入江は南西に彎入り、水深十
 二、三尋乃至四五尋。海底概ね泥土にし
 て、錨置き善く、小濱港よりも好錨地な
 り。殊に青戸鼻以内は幅狭く、水深からざ
 るも、小船には無比の安全なる泊地なり。
 ●【兵庫】播磨國武庫郡長
 元村の大字。伊子志の南に接す。古は小林
 莊といへり。藤原光經集に、小林温泉の事
 見ゆ。今の温泉の事なるべし。●【埼玉】
 武藏國南埼玉郡の村。合三三三。
 ●【神奈川】相模國津久井郡
 の町。甲州街道の一驛にして、小幡より一
 里一九町。其山路を小幡嶺といひ、甲州街
 道中の一險路とす。嶺より下ること三里
 にして、八王子町に至る。合三三三。●【埼
 玉】武藏國大里郡の村。合三三三。●【愛
 知】三河國西加茂郡の村。明治三十九年
 豊原福原清原本城四村の合稱。合三三三。
 ●【山梨】甲斐國東山梨郡、日下部村を
 見よ。●【滋賀】近江國甲賀郡の村。合三
 三三。●【宮城】磐城國刈田郡の村。桂澤山
 麓白石川の上流に在る温泉場なり。白石
 町より西南二里。南羽前街道山中七ッ宿

の一にして、餘の地なり。温泉は無色澄
 明の鹽泉にして、温度攝氏四八度。新
 湯及古湯の二泉あり。遊樂に適す。葛粉を
 名産とす。下戸津に郵便局あり。合三三三。
 ●【鳥取】因幡國氣高郡明治村の字。大字
 河内横原間に在り。備後國大國寺の舊
 蹟あり。●【廣島】備後國御調郡原田村
 の大字。もと菅原に作る。水利の便なし。
 ●【徳島】徳島國徳島郡一色村の一名。
 ●【大和】大和國山邊郡に在
 る川。水源、東里村大字小原。下笠間の山
 中。一、二の溪水を合せ、東北流して名張
 川に入る。一に笠間川ともいふ。●【大和
 國】吉野郡に在る川。一に舟川といふ。水
 源、七面山、朝鮮岳の間。西南流して、大塔
 村大字篠原總谷中井修示等を過ぎ、宇
 井に至り、津川に入る。
 ●【千葉】上總國山武舊
 武射郡千代田村の大字。
 ●【岡山】美作
 國吉野郡西田村に在る温泉。亞兒加里
 冷泉なり。
 ●【石川】加賀國河北
 郡に在りし村。明治四十年三谷村に入る。
 ●【愛知】尾張國西春日井郡
 尾張村の大字。尾張の國號の出でし所に
 て、式内尾張神社あり。俗に山王と呼ぶ。
 ●【茨城】常陸國筑波郡の村
 谷田部町の西南約一里とす。大字小幡に
 郵便局あり。小幡城址は城山の地に在り。
 天正年中小幡氏の臣只越全久此所に居
 り、多賀谷重經の爲に攻取せらる。後松平
 重綱之を領し、元和年中下野島山に移る
 に及び、廢城となる。合三三三。
 ●【福
 井】若狹國遠敷郡の町。國中第一の都會
 にして、酒井氏十一萬三千五百石の舊城
 下なり。市街は小濱港に臨み、南に後瀬山
 を負ひ、北は南川を隔て、雲濱村の竹原
 四津と人家相列り、始と一市街を成す。東

オビオ

五、九四三四貫、製品銅一二四、六九八五斤、價格三九萬圓(本邦銀業一斑)
オビオリ(帯織) 【新潟】越後南蒲原郡大面村の大字、鐵道北越線の車庫あり、三條停車場へ三哩六四鎧
オビツ(小櫃) 【千葉】上總國君津郡の村、合五三

オビツ(小櫃) 上總國君津郡に在る川、水源、安房國界の清澄山、舊望陀郡の主流にして、小町峯嶺、石尊山等の谿水を合せて北流し、久留里町を過ぎ、漸く巨流となり、愛宕山の東北に至り、稍開けたる低地に就き、西北折して眞里谷より來る谿水を合せて横田村附近を灌漑し、木更津の北畔に至り、東京灣に入る。流程約一八里、舟楫の利あり、其河口は洲渚遠く横はり、遂に武藏多摩川の河口と對す。川の兩岸を小櫃谷といひ、もと七十餘の村落あり、其上流の地は往古別に一郡を成し、畔森郡と呼べり。
オビトケ(帯解) 【奈良】大和國添上郡の村、古の山村郷なり、新町村制定の時、寺號により、村名を立つ。帶解寺は大字今市に在り、本尊地藏菩薩、染殿皇后懷胎の時、御祈ありしに、清和天皇の安産ありしより建立せられしものにして、今に賽者甚だ多し、圓照寺は山村御所と稱す。後水尾上皇の女深如海法尼の開基にして、爾後四世相繼ぎ皇女入室あり、合五三。
オビトリノイケ(帯採池) 山城國葛野郡總持村に在る池、廣澤池の東に在り。

オビナ

オビナ(帯那) 【山梨】甲斐國西山梨郡千代田村の地名、今上下に分れ、共に其大字たり。荒川の谷を占む。帶那山は金峯山の支脈にして、甲府の西北を屏障す。
オビヒコ(帯廣) 【北海】十勝國河内郡の町、十勝幸内二川の會流點に在る一市街にして、明治三十五年下帶廣郡を合して、新稱なり。十勝平野の中央に位し、河流縱横し、釧路旭川を連絡する鐵道此所を經由し、水陸運輸の便あるを以て近年の發達著し、河西支廳區裁判所警察署監獄署、測候所、郵便局、農事試験場等あり。釧路町まで鐵道八〇哩、旭川町まで一〇二哩。帶廣の開けしは明治十六年、耕夫十三戸を移住せしめしを創始とす。爾後開墾を企つる者漸く多く、明治二十四年帶廣を起點として、四方の原野を區劃し、同時に帶廣大津間の道路を開く。是に於て運輸交通の便開け、住民漸く多く、今は十勝第一の都會たるに至れり。帶廣は原名オハレベレケ(小女破瓜したる所の義)といひ、川の名より出づ。合五三。
オビヒコ(帯廣) 【北海】十勝國河内郡に在る川、水源、郡西の山脈、帶廣原野を過ぎて十勝川に入る。流程一六里二〇町、一にオハレベレケ川といふ。

オビラスガワ(帯良白川) 【北海】天鹽國留萌郡に在る川、水源、帶良白嶽、郡の北部を環流し、小平峯に至り海に入る。因て小平峯川ともいふ。流程一八里、其沿岸に中流以下開墾の計畫あり、水路誌云、河

オビラ

口の位置水深共に不定なるも、概して水深は二呎乃至六呎ありて、海波平穩の時、は小船常に出入す。河口を入れれば水の稍深き所十餘呎ありて、上流十數哩まで小船を通じ、又内部より木材類を下す。河口の上流約十三四哩附近の地に眞實の炭坑あり。
オビラスタケ(帯良白嶽) 【北海】天鹽國留萌郡石狩國兩郡に跨る山。一に小平峯嶽ともいふ。高二九七〇尺、或は三二七〇尺。
オビラオ(小平尾) 【新潟】越後國北魚沼郡に在りし村、明治卅四年廣瀬村に入る。
オビラ(大平川) 【北海】後志國島牧郡に在る川、黒松内、長萬部、大平諸山の溪水を合せて西北流して永豊輕白の間に至り海に入る。流程五里。

オビラ(大平川) 【北海】後志國島牧郡に在る川、黒松内、長萬部、大平諸山の溪水を合せて西北流して永豊輕白の間に至り海に入る。流程五里。
オビラ(尾平嶺) 豐後國大野郡長谷川村に在る嶺、古祖母山の北麓とす。昔時は盛に銀銅錫鉛を出せしといふ。但し錫の採掘は天文十八年、銀は天正年間開始、寛永の頃最も盛なり。開墾の頃は奉行を置き、藩の事業として採掘し、専ら錫を採集せしが、維新後銅鐵を發見し、現時は主として銅を採掘すれども、殆ど廢坑の様なり。
オビラシベ(小平峯) 【北海】天鹽國留萌郡留萌村の字、西海岸通の一驛なり。帶良白川の口に在り。留萌へ二里半、鬼鹿へ三里半。
オビラシベ(小平峯) 【北海】天鹽國留萌郡留萌村の字、西海岸通の一驛なり。帶良白川の口に在り。留萌へ二里半、鬼鹿へ三里半。

オビラ

白川の一名。
オビラシベ(小平峯) 【北海】帶良白嶽の一名。
オビラヤマ(大平山) 【北海】後志國島牧郡瀨棚二郡に跨る山、高三八九四尺、長萬部嶽の北に連る。
オフ(於賦) 【千葉】延喜式下總の古驛名。古の意部郷なりといふ。其地今詳ならず。北相馬郡山王村邊とも、東葛飾郡我孫子驛ともいへど、確證なし。
オブ(飯富) 【山梨】甲斐國南巨摩郡の村、「飯富」村を見よ。
オフイ(雄冬) 【北海】天鹽國増毛郡増毛町大字岩尾の地名、雄冬嶽北側の部落なり。是より石狩國に臨ゆる所に有名なる雄冬嶽の嶺なり。

オフイ(雄冬) 【北海】天鹽國増毛郡増毛町大字岩尾の地名、雄冬嶽北側の部落なり。是より石狩國に臨ゆる所に有名なる雄冬嶽の嶺なり。
オフイ(雄冬) 【北海】天鹽國増毛郡増毛町大字岩尾の地名、雄冬嶽北側の部落なり。是より石狩國に臨ゆる所に有名なる雄冬嶽の嶺なり。
オフイ(雄冬) 【北海】天鹽國増毛郡増毛町大字岩尾の地名、雄冬嶽北側の部落なり。是より石狩國に臨ゆる所に有名なる雄冬嶽の嶺なり。

オホ(於保) 【靜岡】遠江國磐田郡の村、八里五町、舊稱サウイナバト。
オホエトマリ(雄吹泊) 【樺太】大泊遠瀨街道の一村落、亞庭灣に瀕す。大泊より二里五町、舊稱サウイナバト。
オホコ(雄冬) 【北海】膽振國山越郡渡島國爾志郡に跨る山、高二九一〇尺、東麓より鉛及銀を出す。溪流は鉛川となりて遊樂部川に入る。
オホナイ(生保内) 【秋田】羽後國仙北郡の村、大字生保内は盛岡街道の一村落とす。秋田より二三里三三町、是より二里二八町、仙岩峠を越れば陸中中國界石に出づ。郵便局あり。合五三。
オホブ(覺生) 【北海】膽振國勇拂郡苦小牧村の大字、海村にして、錦多峰の西に連る。蝦夷語地名解はオホブは川尻に水湧き出づる所の義なりと記す。
オボロ(御世衣) 【岐阜】飛騨國大野郡白川村の大字、白山白瀧の水、此所にて白川に入る。郵便局あり。

オホコ(雄冬) 【北海】膽振國山越郡渡島國爾志郡に跨る山、高二九一〇尺、東麓より鉛及銀を出す。溪流は鉛川となりて遊樂部川に入る。
オホナイ(生保内) 【秋田】羽後國仙北郡の村、大字生保内は盛岡街道の一村落とす。秋田より二三里三三町、是より二里二八町、仙岩峠を越れば陸中中國界石に出づ。郵便局あり。合五三。
オホブ(覺生) 【北海】膽振國勇拂郡苦小牧村の大字、海村にして、錦多峰の西に連る。蝦夷語地名解はオホブは川尻に水湧き出づる所の義なりと記す。
オボロ(御世衣) 【岐阜】飛騨國大野郡白川村の大字、白山白瀧の水、此所にて白川に入る。郵便局あり。

オホコ(雄冬) 【北海】膽振國山越郡渡島國爾志郡に跨る山、高二九一〇尺、東麓より鉛及銀を出す。溪流は鉛川となりて遊樂部川に入る。
オホナイ(生保内) 【秋田】羽後國仙北郡の村、大字生保内は盛岡街道の一村落とす。秋田より二三里三三町、是より二里二八町、仙岩峠を越れば陸中中國界石に出づ。郵便局あり。合五三。
オホブ(覺生) 【北海】膽振國勇拂郡苦小牧村の大字、海村にして、錦多峰の西に連る。蝦夷語地名解はオホブは川尻に水湧き出づる所の義なりと記す。
オボロ(御世衣) 【岐阜】飛騨國大野郡白川村の大字、白山白瀧の水、此所にて白川に入る。郵便局あり。

オホコ(雄冬) 【北海】膽振國山越郡渡島國爾志郡に跨る山、高二九一〇尺、東麓より鉛及銀を出す。溪流は鉛川となりて遊樂部川に入る。
オホナイ(生保内) 【秋田】羽後國仙北郡の村、大字生保内は盛岡街道の一村落とす。秋田より二三里三三町、是より二里二八町、仙岩峠を越れば陸中中國界石に出づ。郵便局あり。合五三。
オホブ(覺生) 【北海】膽振國勇拂郡苦小牧村の大字、海村にして、錦多峰の西に連る。蝦夷語地名解はオホブは川尻に水湧き出づる所の義なりと記す。
オボロ(御世衣) 【岐阜】飛騨國大野郡白川村の大字、白山白瀧の水、此所にて白川に入る。郵便局あり。

オファイ

オファイ(雄冬岳) 【北海】天鹽國増毛郡と石狩國濱益郡とに跨る山、山腹直に海面に迫りて、有名なる雄冬嶽となる。
●【北海】北見根室の國界に時つ火山海抜一九八〇尺、知床岬端より奥一里に在り。一に知床岳とも呼ぶ。麓にカモイエバと呼ぶ怪岩あり、形狀蝮蛇の頭に似たり。昔大蛇あり、辨慶の妹を追ひ來りしを、辨慶踏潰したるが、化して岩となりしと言傳ふ。アイヌ語ツフヒは燒焚の義なり。義經軍勢を集むる時、烽火を立てしより名くといへど、恐らく噴火の義より出でしなるべし。
オプカルシベ(大狩部) 【北海】日高國新冠郡の村、東海岸路に當り、原別川の口に在り。新冠驛へ東二里半、アイヌ語オプンカウシベ、ヤチカンバの木多き所の義なり。人家なし(前同)。
オプク(於福) 【山口】長門國美禰郡の村、厚狹川の水源なる山村なり。延喜式に意福驛馬三疋と記せる地なりといふ。地學

オプケ

オプケ(小向) 【三重】伊勢國三重郡朝日村の大字、有名なる萬古燒は、元文中此地にて沼浪弄山の創製せしものなるが、今は多く四日市にて製出す。萬古燒の事は四日市の條に記す。
オプケ(小向) 【三重】伊勢國三重郡朝日村の大字、有名なる萬古燒は、元文中此地にて沼浪弄山の創製せしものなるが、今は多く四日市にて製出す。萬古燒の事は四日市の條に記す。
オプケ(小向) 【三重】伊勢國三重郡朝日村の大字、有名なる萬古燒は、元文中此地にて沼浪弄山の創製せしものなるが、今は多く四日市にて製出す。萬古燒の事は四日市の條に記す。
オプケ(小向) 【三重】伊勢國三重郡朝日村の大字、有名なる萬古燒は、元文中此地にて沼浪弄山の創製せしものなるが、今は多く四日市にて製出す。萬古燒の事は四日市の條に記す。

オプセ

オプセ(小布勢) 【新潟】佐渡國佐渡郡四三川村の字、古の越伏郷の遺稱といふ。此地に小布勢明神あり。
オプセ(小布勢) 【新潟】佐渡國佐渡郡四三川村の字、古の越伏郷の遺稱といふ。此地に小布勢明神あり。
オプセ(小布勢) 【新潟】佐渡國佐渡郡四三川村の字、古の越伏郷の遺稱といふ。此地に小布勢明神あり。
オプセ(小布勢) 【新潟】佐渡國佐渡郡四三川村の字、古の越伏郷の遺稱といふ。此地に小布勢明神あり。

オホコ

オホコ(雄冬) 【北海】膽振國山越郡渡島國爾志郡に跨る山、高二九一〇尺、東麓より鉛及銀を出す。溪流は鉛川となりて遊樂部川に入る。
オホナイ(生保内) 【秋田】羽後國仙北郡の村、大字生保内は盛岡街道の一村落とす。秋田より二三里三三町、是より二里二八町、仙岩峠を越れば陸中中國界石に出づ。郵便局あり。合五三。
オホブ(覺生) 【北海】膽振國勇拂郡苦小牧村の大字、海村にして、錦多峰の西に連る。蝦夷語地名解はオホブは川尻に水湧き出づる所の義なりと記す。
オボロ(御世衣) 【岐阜】飛騨國大野郡白川村の大字、白山白瀧の水、此所にて白川に入る。郵便局あり。

オホロ

名高し。又乙訓郡大原野村持寺の傍にあり。前者を正しとす。

オホロベツカワ(一川) 【北海】釧路國厚岸郡に在る川。水源、郡の西南東流して厚岸沼に入る。

オマエサキ(御前崎) 【静岡】遠江國藤原郡の村。郵便局あり。人口三七九。

オマエサキ(御前崎) 遠江國の東南角藤原郡御前崎村に屬し、駿河灣の四角を成す。海中に斗出ること二里餘。岬端は高一五〇尺の臺形地にして、綠樹鬱茂し、漸く北に向て隆起す。岬の南東兩側は急傾して、瀨さ約二鏈の白沙濱之を圍繞し、遠望する時は上青下白の二帯の如し。沙濱より約三鏈間、岩隙擴張し、低潮に在ては高潮界線を距る二鏈の所まで露出。燈臺は岬の南端に在り。東經一三八度一三分、北緯三四度三五分。高海面上一七三呎。第一等旋轉白色。晴天光達一九哩半。燈臺の東一哩八鏈に御前岩あり。干出二尺の一岩にして、其南北合せて二鏈間は水淺く、大漲起る時は白波飛散すれど、平波の時は高潮時に於て頗る危險なり。此岩に觸れて難破せる船舶甚だ多し。又燈臺より一哩にト、根(俗稱沖ノ前)と呼ぶ一大暗礁あり。志留波磯をも見よ。

オマエサキワン(御前崎灣) 遠江國御前崎の北側、御前崎と新庄(地頭方村)との間なる一小灣。元島より東へト、根及び御前岩擴張して波濤を防止するを以て、西より北西の風に假泊し得れども、北及東

常寺に入り、御室を此に替ふ任務の御所となし給ふ。御室の稱此に起る。朱雀天皇又讓位の後此に宸居あり。爾來世々法親王の寺務を執る所となり、以て維新前に及ぶ。往時は甚だ盛大なりしが、應仁文明の兵燹に罹り、堂宇悉く烏有に歸せし。寛永年間徳川氏之を再興し、壯觀舊に復せしが、明治二十年復た火災に罹り、廢殿念誦堂靈明殿等二十二舎灰燼となれり。境内宇多光孝二帝の御陵あり。

オムロ(小室) 【静岡】伊豆國田方郡の村。人口三七九。

オムロノハマ(小室濱) 土佐國高岡郡に在る海濱郡の南西端にして、奥津崎の西に在り。總貝の名産あり。

オモイカワ(思川) 下野國下都賀郡に在る川。水源、壬生町黒川小倉川、奈川等を合せて巴波川に入り、末は渡良瀬川に會す。

オモイソメカワ(思初川) 筑前國、築川を流す。

オモエ(重茂) 【巖手】陸中國下閉伊郡の村。人口二七。

オモカゲ(面影) 【鳥取】因幡國岩美郡の村。鳥取市の南郊にして、津井村の北に接す。舊山名にして、今轉じて村名となる。次第を見よ。人口二七。

オモカゲヤマ(面影山) 因幡國岩美郡面影村に在る山。一に正蓮寺山と稱し、往時正蓮寺といへる寺院ありしといふ。歌の名所なり。因幡と問ましもの戀し

大に之を破る。天正十八年小田原と共に滅ぶ。鶴足寺は大同年の創建と傳へ、平將門追討の時、調伏祈禱を以て名高く、不動軍荼利、降三世、大威徳金剛夜叉の五大尊を安置す。初天台宗なりしが、後宥快上人に歸し、眞言宗の本山となり、中世大寺なりし。戦國の時衰へ、徳川氏に至り寺領十石を附せらる。人口三〇。

オマンベツ(小瀧別) 【樺太】大泊支廳長濱出張所管内の村落。知床半島の西海岸、亞麻灣に臨む。大泊定期汽船の寄泊あり。附近に小瀧別川あり。舊名オマンベツ。

オミ(小見) 【埼玉】武藏國北埼玉郡荒木村の大字。笠原村に接せるを以て、武藏國造笠原使主の遺稱ならんとの説あり。近年此地にて古墳を發掘し、其中より銅器、陶器、武器等數多を獲たり。大化以前のものならんといふ。●【千葉】下總國香取郡八都村の大字。此地の徳聖寺の庭上に銀杏の老樹あり。周圍二丈餘。樟松、楓、南天、燭竹、鼠李の六種寄生す。七本樹といひ其名高し。●【栃木】下野國安蘇郡田沼町の大字。和名抄麻績郷の遺稱なりといふ。永平年中佐野越前守盛綱の次男是綱之に居り、小見を氏とせり。

オミ(麻績) 【長野】信濃國東筑摩郡の村。猿ヶ馬場嶺の南麓にして、鐵道中央東線の停車場及警察署郵便局等あり。一に尾見又は小味に作り。戦國の頃は尾見氏居り。上杉氏に從ひ、天正十二年小笠原氏に

オモカダ(面湯) 【秋田】羽後國南秋田郡の村。人口三三。

オモカワ(面川) 【福島】岩代國北會津郡の村。人口三三。

オモカワ(重川) 甲斐國東山梨郡に在る川。一に面瀧川に作る。水源、石樋山の南麓、西南流して、久万川、黒川を合せ、土佐國に入る。即ち仁淀川の上流なり。水源より一二里一九町。土佐を流ること一五里にして海に入る。

オモゴヤマ(面河山) 伊豫國に在る石樋山の一名。

オモス(重須) 【静岡】伊豆國田方郡内浦村の大字。内浦に臨める一小港を擁す。港は淡島の南端と長井崎とを以て口とし、北西に面し、水深五六尋乃至三二尋。北西風の外は泊舟に適す。戦國の頃は北條氏の兵船を繋ぎし所とす。

オモスガワ(重瀬川) 隱岐國隱岐郡に在る川。郡川ともいふ。郡の中部の谿水を集め、西北流して、福浦灣に入る。流程二里弱。末は潮汐を通じて江灣となる。

オモダカ(面高) 【長崎】肥前國西彼杵郡の村。佐世保灣口に近く、外洋に面し、高瀬を擁す。南に大多和灣あり。人口三三。

オモダニ(コウザン) (面谷嶺山) 越前國大野郡上穴村大字面谷に在る嶺。山荷暮嶺の北麓にして、銀銅を出し、風指の嶺山なり。明治四十一年、採鐵高三九一、六〇四六貫、製鍊元高一〇五二七六二貫、製品金六〇〇、銀二、三、九〇七、六、銅三〇、九六五四斤。價格合計一四萬圓。

オモテタテ(表館) 【青森】陸奥國上北郡六ヶ所村に屬する牧場。明治十一年の創立にして、牛八九頭を飼養す。人口三三。

オモト(小木) 【巖手】陸中國下閉伊郡の村。濱街道の一市街にして、小本川の河口とす。此所より小本川に沿ひ、盛岡市に至る山路を小本街道といひ、概險路なり。郵便局あり。人口三三。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オマエ

風には危險なり。冬期東方より來る船強西風に會し、遠州灘を航し難きときは、一時此に寄泊す。水路誌。

オマエダ(小前田) 【埼玉】武藏國大里郡花園村の大字。古書に御前田に作る。櫛引野の南端にして、荒川を南に控ふ。寄居町の東一里。昔は鎌倉街道此所を経て上州に赴きしといひ、今も尚中山道の別路となりて存す。上武鐵道熊谷波久禮間の停車場あり。熊谷驛より九哩五八鎮。

オマエノハマ(御前濱) 攝津國武庫郡四ノ宮町の南濱。御前沖及御前灘の稱あり。神功皇后三韓より凱旋して着し給へる古跡とす。古に此邊總て廣田郷に屬せるを以て、廣田濱とも稱す。和歌の名所なり。散木集、御前と云所にならんと申もの立と聞て、「さのみやは人の歎をしら波の、たつばおまへのしわざとぞ見る」。

オマキ(尾間木) 【埼玉】武藏國北足立郡の村。人口三三。

オマタ(尾枝) 【福島】岩代國大沼郡の村。人口三三。

オマタ(小俣) 【栃木】下野國足利郡の村。鐵道兩毛線の車驛あり。足利桐生間の一市街とす。桐生驛へ三哩四〇鎮。小俣城址は足利泰氏の六男民部卿法印賢賢居り。小俣氏と稱し、子孫相襲す。天文年中北條氏の將遠川相模守義勝城主となる。元龜三年上杉謙信の將田代備後守善備中守等來攻む。時に義勝小田原に在り、守將石井尊空等之を首吹取、島山に退撃し、

たひ、忘れ難きは面影の山、しるしらの御法にこれの教に、跡したはる、御の山、或は今の御本陣山又は鳥取の城山のこともいふ。

オモカダ(面湯) 【秋田】羽後國南秋田郡の村。人口三三。

オモカワ(面川) 【福島】岩代國北會津郡の村。人口三三。

オモカワ(重川) 甲斐國東山梨郡に在る川。一に面瀧川に作る。水源、石樋山の南麓、西南流して、久万川、黒川を合せ、土佐國に入る。即ち仁淀川の上流なり。水源より一二里一九町。土佐を流ること一五里にして海に入る。

オモゴヤマ(面河山) 伊豫國に在る石樋山の一名。

オモス(重須) 【静岡】伊豆國田方郡内浦村の大字。内浦に臨める一小港を擁す。港は淡島の南端と長井崎とを以て口とし、北西に面し、水深五六尋乃至三二尋。北西風の外は泊舟に適す。戦國の頃は北條氏の兵船を繋ぎし所とす。

オモスガワ(重瀬川) 隱岐國隱岐郡に在る川。郡川ともいふ。郡の中部の谿水を集め、西北流して、福浦灣に入る。流程二里弱。末は潮汐を通じて江灣となる。

オモダカ(面高) 【長崎】肥前國西彼杵郡の村。佐世保灣口に近く、外洋に面し、高瀬を擁す。南に大多和灣あり。人口三三。

オモダニ(コウザン) (面谷嶺山) 越前國大野郡上穴村大字面谷に在る嶺。山荷暮嶺の北麓にして、銀銅を出し、風指の嶺山なり。明治四十一年、採鐵高三九一、六〇四六貫、製鍊元高一〇五二七六二貫、製品金六〇〇、銀二、三、九〇七、六、銅三〇、九六五四斤。價格合計一四萬圓。

オモテタテ(表館) 【青森】陸奥國上北郡六ヶ所村に屬する牧場。明治十一年の創立にして、牛八九頭を飼養す。人口三三。

オモト(小木) 【巖手】陸中國下閉伊郡の村。濱街道の一市街にして、小本川の河口とす。此所より小本川に沿ひ、盛岡市に至る山路を小本街道といひ、概險路なり。郵便局あり。人口三三。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オマン

従ふと聞えたるを以て、景勝の爲に滅さるといへり。人口三三。

オミカワ(小見川) 【千葉】下總國香取郡の町。利根川の西岸に瀕し、黒部川町を貫流して利根川に入る。舊内田氏陣屋の在りし所なり。銚子街道の一驛にして、郡内佐原に亞げる地なり。千葉縣廳より一九里九町。佐倉町より一四里一二町。佐原町より二里五町。銚子町より七里一〇町。警察分署郵便局等あり。小見川陣屋址は天正十八年松平主殿頭家忠初めて封せらる。前の小見川は今の豊浦村分郷村山の地なり。家忠、鳥居元忠と伏見を守り戦死す。慶長八年土井大炊頭勝頼、二十一年安藤對馬守重信、元和元年復た土井利勝、寛永十年石川主殿頭忠綱、十二年三浦志摩守安治を経て、十六年内田信濃守正信封せらる。食邑一萬石。傳へて明治維新に至る。人口三三。

オミネ(小峰) 【熊本】肥後國阿蘇郡の村。人口三三。

オミノ(小見野) 【埼玉】武藏國比企郡の村。市ノ川の荒川に入る所とす。中世武藏七黨の兒玉黨淺羽氏の庶流小見野氏の居りし所といふ。近世は郷名に呼び、加胡松永等を小見野十村といへり。即ち今の小見野村なり。人口三三。

オミヨウジン(御明神) 【巖手】陸中國殿手郡の村。人口三三。

オムイ(雄武) 【北海】北見國紋別郡の村。郡の西部を占む。トウワク、オトイネ、ト

オモダカ(面高) 【長崎】肥前國西彼杵郡の村。佐世保灣口に近く、外洋に面し、高瀬を擁す。南に大多和灣あり。人口三三。

オモダニ(コウザン) (面谷嶺山) 越前國大野郡上穴村大字面谷に在る嶺。山荷暮嶺の北麓にして、銀銅を出し、風指の嶺山なり。明治四十一年、採鐵高三九一、六〇四六貫、製鍊元高一〇五二七六二貫、製品金六〇〇、銀二、三、九〇七、六、銅三〇、九六五四斤。價格合計一四萬圓。

オモテタテ(表館) 【青森】陸奥國上北郡六ヶ所村に屬する牧場。明治十一年の創立にして、牛八九頭を飼養す。人口三三。

オモト(小木) 【巖手】陸中國下閉伊郡の村。濱街道の一市街にして、小本川の河口とす。此所より小本川に沿ひ、盛岡市に至る山路を小本街道といひ、概險路なり。郵便局あり。人口三三。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オミカ

従ふと聞えたるを以て、景勝の爲に滅さるといへり。人口三三。

オミカワ(小見川) 【千葉】下總國香取郡の町。利根川の西岸に瀕し、黒部川町を貫流して利根川に入る。舊内田氏陣屋の在りし所なり。銚子街道の一驛にして、郡内佐原に亞げる地なり。千葉縣廳より一九里九町。佐倉町より一四里一二町。佐原町より二里五町。銚子町より七里一〇町。警察分署郵便局等あり。小見川陣屋址は天正十八年松平主殿頭家忠初めて封せらる。前の小見川は今の豊浦村分郷村山の地なり。家忠、鳥居元忠と伏見を守り戦死す。慶長八年土井大炊頭勝頼、二十一年安藤對馬守重信、元和元年復た土井利勝、寛永十年石川主殿頭忠綱、十二年三浦志摩守安治を経て、十六年内田信濃守正信封せらる。食邑一萬石。傳へて明治維新に至る。人口三三。

オミネ(小峰) 【熊本】肥後國阿蘇郡の村。人口三三。

オミノ(小見野) 【埼玉】武藏國比企郡の村。市ノ川の荒川に入る所とす。中世武藏七黨の兒玉黨淺羽氏の庶流小見野氏の居りし所といふ。近世は郷名に呼び、加胡松永等を小見野十村といへり。即ち今の小見野村なり。人口三三。

オミヨウジン(御明神) 【巖手】陸中國殿手郡の村。人口三三。

オムイ(雄武) 【北海】北見國紋別郡の村。郡の西部を占む。トウワク、オトイネ、ト

オモダカ(面高) 【長崎】肥前國西彼杵郡の村。佐世保灣口に近く、外洋に面し、高瀬を擁す。南に大多和灣あり。人口三三。

オモダニ(コウザン) (面谷嶺山) 越前國大野郡上穴村大字面谷に在る嶺。山荷暮嶺の北麓にして、銀銅を出し、風指の嶺山なり。明治四十一年、採鐵高三九一、六〇四六貫、製鍊元高一〇五二七六二貫、製品金六〇〇、銀二、三、九〇七、六、銅三〇、九六五四斤。價格合計一四萬圓。

オモテタテ(表館) 【青森】陸奥國上北郡六ヶ所村に屬する牧場。明治十一年の創立にして、牛八九頭を飼養す。人口三三。

オモト(小木) 【巖手】陸中國下閉伊郡の村。濱街道の一市街にして、小本川の河口とす。此所より小本川に沿ひ、盛岡市に至る山路を小本街道といひ、概險路なり。郵便局あり。人口三三。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。

オモトカワ(小木川) 陸中國に在る川。五大堂山に發する大川及國界嶺附近に發する溪流の合せるものにて、東流して岩泉を過ぎ、小木に至り外洋に入る。其過ぐる所多くは古生層にして、間々第三紀層、閃綠岩、花崗岩等あり。兩岸直に山に接し、殆ど平地なし。流程一九里。

オモトタケ(於茂登岳) 琉球國八重山郡石垣島の中央北岸に在る山。島中第一の高山にして、南する支脈はパンナ岳となり、北走するものは野底岳となり、西出するものはヤラア川平の二半島に至る。海拔一六八〇尺。山中良材を出す。